

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

## 2012年度 全統センター試験プレテスト

### 学習の手引き【解答・解説集】

# 国語・地理歴史・公民

【2012年11月実施】

• 国 語 .....	1
• 地理歴史	
世界史A .....	27
世界史B .....	34
日本史A .....	43
日本史B .....	51
地 理A .....	60
地 理B .....	72
• 公 民	
現代社会 .....	83
倫 理 .....	94
政治・経済 .....	109
倫理、政治・経済 .....	120

本冊子の解答・採点基準をもとに自己採点を行ってください。「自己採点シート」は学習の手引き {英語} 編冊子の巻末にありますのでご利用ください。

河合塾



【国語】

【解答・採点基準】

(200  
点満点)

第3問	第3問						第2問	第2問						第1問	第1問						番号題								
	問6	問5	問4	問3	問2	問1		(ウ)	(イ)	(ア)	問6	問5	問4	問3	問2	問1	(ウ)	(イ)	(ア)	問6	問5	問4	問3	問2	問1				
自己採点小計	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番解号答	
	③	②	⑤	①	④	⑤	④	②	⑤	④	①	②	③	④	①	④	④	③	⑤	③	⑤	④	⑤	③	①	④	②	正解	
(50)	8	7	8	7	5	5	5	5	(50)	5	5	8	7	8	8	3	3	3	(50)	8	8	8	8	8	2	2	2	2	配点
																											自己採点		

第4問	自己採点合計	第4問						番号題	
		問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1 (2) (1)	
	35	34	33	32	31	30	29	28	番解号答
	②	⑤	①	①	③	④	①	④	正解
(200)	(50)	9	7	5	8	7	6	4	配点
									自己採点

※の正解は順序を問わない。



である。こうした面のみを重視すると、子どもの存在全体が親に与えられたものだという考え方も出てくる。事実、今日の心理学や教育学においては、乳幼児期における親の影響が人格形成にきわめて重要であることが強調されている。あたかも、子どもにとって親は、全能の創造主に等しいものであることが期待されているかのよう。こうした親子観から見れば、被創造者（＝子ども）が創造者（＝親）の期待を裏切ってしまうことが、親子における不幸の原因となってしまふ（第七段落）。

しかし物語はこんなことを伝えているのではない。男爵の誤りは、人間が、他の人間の創造主であろうとしたこと、そのものにあったのである。親はたしかに子どもの心身の形成過程に大きな影響を及ぼす。しかし、子どもは最初から、その子ども自身として存在しているのであって、決して親の思いどおりにはならない。ハイデガーの言う、非人称的な（＝誰がというふうに特定できない）何かから与えられたとしか言いようがない存在が子どもである。たしかに親子の関係は特別な関係である。超越的な存在や、主従関係が重視されていた時代が終わり、近代的な社会になつて以降、家族感情はより大切なものになつている。しかし、親子といえども別々の人格であるという点において「絶対的な他者関係」でしかないのである。

小説中の怪物の悲哀は、彼が最後まで、創造者たる男爵から存在を与えられた被創造者でしかありえなかつた、という両者の関係に由来している。彼は、自分が男爵の思いどおりにはならない独自の存在であることを確信できなかつた。だからこそ、執拗に男爵による愛と承認を求め続けたのである。こうした怪物のあり方は、人造人間を、科学者である自分が創り出した成果としか捉えられず、独立した他者として見ようとはしない、男爵のあり方と対応している。男爵は、たとえ外見において納得できる人造人間を創つたとしても、さらなる完全さを求め、その人造人間に満足することはないだろう。創造者にすれば、目の前の「作品」よりもっと優れた、自分の思いどおりとなる「作品」に仕上げようとするはずだから。しかもこうしたことは、小説中の男爵だけに該当するのではない。子どもを独自の存在として見ることなく、自分が創造した存在だから思いどおりにしたいと考えるならば、世間一般的の親もまた、男爵が人造人間に對してそうしたよう、わが子を失敗作か成功作かという評価で見ることに陥つてしまふのである（以上、第八段落）。

### III 「散種の子ども」としてわが子を引き受ける親（第九段落～最終段落）

ここでは、デリダの「散種の子ども」という言葉をヒントに、子どもを自分の創造した存在と見るのでなく、親から独立し離れていく他者として受け入れることが親になることだと述べられている。

デリダには、「散種の子ども」という言葉がある。「散種」とは、種をまき散らすという意味である。風に乗つて吹き飛ばされた植物の種が、木のある場所からは予測できないようなどこかに着地しそこで芽を出す。こうした木と種との関係は、ずいぶんとふつきれたりやかなものである。人間は、こうした植物ほど、さわやかな親子関係をもつことはできない。しかし、このような「散種」のイメージをヒントに、親が子どもを持つということは「他者としてのわが子」を引き受けるということだと、意識して思い描くことはできるはずだ（第九段落）。

デリダは散種という言葉を、親子関係に限定せず、むしろ、ものを書く人とその書かれたもの（テクスト）との関係で用いている。ひとたび書かれたテクストは、書き手の意図や思想に規制されることなく、さまざまなところでさまざま�新しい意味を生みだしていく。テクストを生みだされたもの一般に拡大して考えれば、あらゆるものとその作り手との関係に適用できる。このように、テクストであれ子どもであれ、生みだされたものは、いすれば生みだしたものとの似姿ではなく、自分が生みだしたことと確認できないものにまでなつてしまふ。このようなものを、デリダは「散種の子ども」と呼ぶのである。彼は次のように言つてゐる。誰かが自分の子どもたちを愛するのは、自身の似姿としてだけではない。子どもが、自分とは異なる存在であり、いづれは親から立ち去る、だからこそ愛するのだと（第十段落）。

わが子を「散種の子ども」として受け入れること。そして、わが子が親にとって完全に理解することなどできない「絶対的な他者」であるがゆえに、親は、子どもがどれほど特別な存在だとしても、その子どもを他者として愛さなければならぬ。つまり親になるということは、子どもという自分にとって特別な他者を受け入れることを学ぶということに他ならないのである（最終段落）。

#### 【設問解説】

##### 問1 漢字の書き取り問題

- (ア)は、「筋道・道理・とるべき道」という意味で、「途方」。なお、「途方もない」は、道理に外れるほどの程度だということで、「とんでもない」という

意味になる。①は、「無駄な骨折り」という意味で、「徒労」。②は「帰途」で、これが正解。③は、「意見・気持ちなどを隠さず述べること」という意味で、「吐露」。④は「塗炭」で、「塗炭の苦しみ」は、「泥にまみれ、火に焼かれるような苦しみ」という意味。⑤は、「過渡」。

(1)は、「深く自分を省みる」という意味で、「内省」。①は、「清算」。②は、「文章・態度などが、未熟でぎこちない」という意味で、「生硬」。③は、「世間」という意味で、「市井」。④は、「故郷に帰ること」という意味の「帰省」で、これが正解。⑤は、「盛況」。

(2)は、「荒れ果ててもの寂しい様子」という意味で、「荒涼(寥)」。①は、「荒れて廃れること」という意味の「荒廃」で、これが正解。②は、「武装」という意味で、「装甲」。③は、「光沢」。④は、「攻略」。⑤は、「更新」。

(3)は、「へしるしを刻みつける」という意味で、「刻印」。①は、「宣告」。②は、「克服」。③は、「刻限」で、これが正解。④は、「ひどく似ている」という意味で、「酷似」。⑤は、「米の量によって表示される生産高」あるいは「武士に与えられた米による給料」の意味で、「石高」。

(4)は、「受けける・負う」という意味で、「被る」。①は、「皮肉」。②は、「披露」。③は、「非礼」。④は、「肥大」。⑤は、「被告」で、これが正解。

## 問2 子どものあり方を否定しようとする親に関する

### 内容を説明する問題

傍線部が子どもの扱いに困り果てて、つい激してしまうことのある親の発言だということは容易に理解できるはずだ。ただ、ここで注意しなければならないのは、こうした発言をしてしまう「親」と、フランケンシュタイン男爵とが「似ていい」ということである。傍線部の直前で、男爵は「怪物」を「自分の創造物」とみなしているからこそ「自分の思惑」と異なるものであることがわかつた時、何のためらいもなく、その存在を取り消そうとする」と述べられている。すなわち、男爵と「時として叫んでしまう親」の共通点として、

- a 子どもは親の創造物と思っている
  - b 子どもが自分の思惑通りでない
  - c その存在を見捨てようとする
- というポイントが得られる。ただし、傍線部はあくまで世間一般にありがちな親の発言であって、男爵と共通性があるからといって、小説のように悲劇的

な結末に直結するわけではないことにも注意しておこう。以上から、「bならば、aだからcであつても構わない」となつていて④が正解。

①は、後半の「ためらうことなく子どもの存在を消去しようと身構えている」が間違い。「消去しようと準備する」という表現が、まるで抹殺するような印象を与えててしまうことも問題だが、「身構えている」が明らかに間違い。これでは、いつもしようと準備しているという意味になり、傍線部の「時として」という表現と矛盾してしまう。

②は、「親の育て方が間違っていたことになるのを……子どもの存在を否定してしまおう」という部分が間違い。男爵にしろ世間一般の親にしろ自分の「育て方が間違っていたことになる」ことを気にしているという内容は、まったく述べられていない。

③は、後半の「つい取り乱してしまい心にもないことを口走ってしまう」が間違い。「何のためらいもなく、その存在（＝怪物）を取り消そうとする」男爵と、傍線部のような発言をする親は似ているのであって、「心にもないこと」を言つてているのではない。

⑤は、「その子の心身のありようは自分の似姿である」という事実を突きつけられ」という部分が間違い。親の苛立ちは、子どもが自分に似ているという事実ではなく、創造物であるはずの子どもが親の思惑と異なるという点に向けられている。

## 問3 「怪物」が叫んだ理由を説明する問題

傍線部の「愛そうとしないのに、なぜつくつた?」という怪物の叫びは、フランケンシュタイン男爵に向けられたものである。しかも、傍線部直前に「怪物の方も、男爵を自分の創造主であると考えています。だからこそ、創造主にふさわしい愛と責任を彼に求めてやまない」と述べてあることから、

- a 怪物にとつて男爵は創造主である
  - b (aに、ふさわしい) 愛と責任を求めている
- というポイントが、直ちに得られるはずだ。
- では、どうして「怪物」は「愛と責任」を求めて叫んでしまうのだろうか。これについては、傍線部とほんと同内容の表現である、「男爵に、なぜ自分が作ったのかと問い合わせる」（第三段落）に着目し、そこに至るまでの事情を確認していくこう。
- 第二段落では、人造人間（＝怪物）を生みだした男爵が、怪物の容貌を嫌い見捨ててしまうことが述

べられている。なおこのことは、第七段落末尾で

「思いに反してできそこないを作つてしまつた」と  
言い換えられている。さらに第三段落では、「怪物」

が人間界から拒絶され、「幾多の絶望のうちに」「なぜ自分を作つたのかと問い合わせる」ことが述べられ  
ている。こうしたことからは、

c 男爵は思い通りにならなかつた怪物（＝人造

人間）を見捨てた

d 怪物は自らの状況に絶望する

というポイントが得られる。

また、これに関連して第八段落に「怪物の悲哀  
は、彼が最後までフランケンシュタインの『作品』  
でしかありえなかつた、というところにこそ由来し  
ている……だからこそ、執拗に自分の作り主による  
愛と承認を求め続けずにいらねなかつた」とある。  
そこで、さらに

e （aだから）自分が生みだされた意味づけを

男爵に求めるしかない

というポイントが得られる。以上から、「a・bな  
のに、cされd・eとなる」という内容になつてい  
る⑤が正解。

①は、まず「男爵が」「人間界からも追放しよう  
とした」という部分が疑問。本文では、怪物が「人  
間界（＝世間）」に受け入れられなかつた（第三段  
落）とされているだけで、「男爵」個人の判断や指  
示でそうなつたとまでは述べられていない。かり  
に、こうした疑問を抱かなくとも、「男爵を親とし  
て認められなくなつた」という部分が、a・bポイ  
ントに明らかに反するので、この選択肢に迷うこと  
はないはずだ。

②は、まず「生まれたくない自分」という部分  
が本文に根拠を持たない内容。また、「当初の思惑  
とは異なるように育つてしまつた」という部分も間  
違い。男爵は人造人間が誕生し、動き出してすぐ見  
捨てている。

③は、男爵が生命体を創造するという「自身の行  
為に対して恐怖を覚える」という「理不尽なあり  
方」に、子どもとしての怪物が「やりきれない思い  
を抱」いたという内容であるが、怪物の叫びは、そ  
うした点ではなく、c・eポイントとして示され  
ている点に向けられているのである。

④は、「無責任さに」「復讐心さえ抱いた」ことが  
「叫び」の理由とされているが、これだけでは、b  
ポイントの「愛を求めている」という内容やd・e  
ポイントと対応しない。

#### 問4 「他者としてのわが子」を引き受けることの内 容を説明する問題

傍線部直前を踏まえれば、「親になるということ」  
は「『他者としてのわが子』を引き受ける」ことで  
あり、さらに傍線部直後に、そうした親子関係は、  
デリダの「散種の子ども」という言葉からイメージ  
できると述べられていることをまず確認しておこ  
う。

次に、「他者としてのわが子」ということについ  
ては、「親子であろうと、絶対的な他者関係に変わ  
りはない」という部分に端的に示されているよう

に、その詳しい内容は第八段落で述べられているこ  
とに注目しよう。筆者はたしかに「子どもの遺伝的  
形質はすべて両親から与えられたもの」（第七段落）  
であるし、親は「子どもの心身の形成過程に大きな  
影響を及ぼす」が、「親が子どもに『存在』を与え  
ることはできない」（第八段落）と述べている。こ  
の第八段落の内容を整理すると以下のようになる。

a 親は子どもの心身にわたって深く関わる

b （にもかかわらず）子どもの存在は親に与え  
られたものではなく、親子は絶対的な他者とし  
てある

さらに、デリダの「散種の子ども」というイメー  
ジを紹介したのち、第十一段落では、「おそらく愛  
という言葉を語ることができるのは、他者との間で  
しかない」ことから、親は特別の存在として、他者  
としての子どもを愛するのだということが述べられ  
ている。ここからは、

c 親にとつて特別な他者である子どもを愛する  
というポイントも得られる。こうした内容を含んで  
いる③が正解。

①は、「子どもを親の作品である」としている部  
分が、bポイントに反する。

②は、「子どもを愛する前提」として愛に対する  
認識が必要だとされている点が間違い。本文で、  
「子どもへの愛」には前提となる認識をもつことが  
必要だということはまったく述べられていない。ま  
た、a・cポイントが欠落している。

④は、子どもが「親の似姿」から「次第に個性的  
な存在になる」となっているが、bポイントにある  
ように、そもそも子どもははじめから親とは独立し  
た存在・絶対的な他者としてある。

⑤は、後半の「子どものことを非人称的な存在と  
して大切にする」という部分が間違い。子どもが  
「非人称的な存在」であることなどまったく述べら  
れていない。

れていない。本文では、ハイデガーの考えに即して、「子ども」という「存在」を与えたものがいるとしたら、それは「非人称で表現するしかない何かである」(第八段落)と述べられている。

#### 問5 「散種の子ども」というデリダの言葉の内容を説明する問題

「散種」という言葉については、傍線部直後に「文字通り種をまき散らすという意味」と示されている。そして、「種をまき散らした木」と「風に乗って吹き飛ばされて、どこかに落ちてそこで芽を出す」種から、「ふつきれたさわやかな関係」をイメージとして思い描くことができると言われている。ただ、ここで留意しておきたいのは、第十段落の冒頭で述べられているように、「デリダはこの散種」という言葉を、親子関係に限定して使っているわけではないということだ。「むしろこれ(=デリダの言う『散種』という言葉)は、ものを書く人とその書かれたもの(=テクスト)との関係で言われているもの」なのである。

この点をしっかりと踏まえて、この段落でテクストについて述べられていることを順番に整理すると次のようになる。

##### a テクストは書き手から離れる(=書き手のところには戻らない)

b テクストは書き手の意図や思惑のなかにとどまらない

c テクストは書き手の知らないさまざまなどころでさまざまな新しい意味を生み出す

ただし、「書き手から離れる」というaポイントは、「書き手の意図や思惑から離れる」というbポイント、および「書き手から離れてさまざまなところで新しい意味を生み出す」というcポイントに実質的に含まれることになる。したがって、b・cを含んでいる⑥が正解。

①は、後半の「新しい意味の適否の判断が求められる」という部分が、本文でまったく述べられていない内容である。

②は、後半の「時代や地域を超えた普遍性を獲得する」という部分が、本文ではまったく述べられない内容である。

③は、後半の「最終的に書き手のもとへ帰つくる」という部分がaポイントに反する。

④は、「書き手がそれを書いたこと自体を忘却することによって、「書きかれたもの」は「さまざま新しい意味を生み出すようになる」という因果関係

#### 問6 この文章の論の展開に関して説明する問題

【本文解説】で分割した三つの部分の内容を再確認しよう。

Iでは、男爵と怪物が創造者と被創造者と考えられ、悲劇的な結末を迎えた小説の紹介を通して、親子関係の問題が提起されている。次にIIでは、子どもは親の創造物ではなくそれ自体の存在であることが述べられている。そして、IIIでは、親と子の関係がたとえ特別の関係であるとしても、「散種」のイメージにあるように、子どもを独立した他者として接することが親になることだと締めくくられている。

こうしたそれぞれの内容が、この順番で構成されている⑧が、正解。

①は、まず前半の「親と子どもとの宿命的な悲劇」が間違い。男爵と怪物が悲劇的結末を迎えたのは「宿命」(=前世から決まっている避けられないこと)だというふうには紹介されていない。また中間部分の「今日の心理学や教育学が前提としている親子観の矛盾」が間違い。本文では「親子観の矛盾」に関しては、まったく述べられていない。

②は、まず「惨劇」の原因を「親の身勝手さ」だけに限定している点が間違い。小説では、創造者である男爵と被創造者である怪物との間のすれ違いが生んだ悲劇的な関係が紹介されている。また、「心身にわたる影響力の発揮をできるだけ抑制する」とで、「子どもを独立した他者として尊重できるようになる」という因果関係も本文から読み取ることはできない。

④は、まず前半の「あたかも創造主のように振る舞う親の犠牲になつた子どもの悲哀を描いた小説」という部分が限定的な内容で不適切。これでは「子ども」の立場にあるものだけが不幸だという意味になる。だが本文では、親と子の不幸な関係について論じられているのである。また後半の「できるだけ距離を置いて接するべきだ」も「散種」の説明としては不適切。

⑤は、小説の説明を「科学者が生んだ悲劇」と科学者だけに限定した部分が不十分な説明である。「科学者と人造人間との間で生じた悲劇」とするべきである。また、「人間の創造主になりたいという野心を抱いた科学者」と「子どもを親の創造物と見なしがちな現代の親」は、本文において重ねて論じ

が、本文ではまったく述べられていない。「書きかれたもの」は、「書き手」とは関わりなく「勝手な場所で、芽を出す」(第十段落)のである。

られており、両者の「違い」が「検討」されているわけではない。

第2問 現代文  
【出典】

八木義徳の小説「風祭」の一節から出題。初出は、一九七五年雑誌「文藝」で、本文は、講談社文芸文庫『私のソーニヤ 風祭』(二〇〇〇年)に収録されたものに拠った。なお、設問作成の都合で、一部省略した箇所がある。

八木義徳（やぎ・よしのり）は、一九一一年北海道生まれの小説家。高等学校のときから同人雑誌に参加し、作品を発表する。若い頃は、左翼思想との関わりで有島武郎やドストエフスキイに心酔していたが、大学に入つてから、当時天才と称された横光利一と出会い、以後、横光を一生涯の師として仰ぐことになる。

一九四四年、中国大陸で従軍中、「劉広福」<sup>（りゅうこうふく）</sup>で第十九回芥川賞を受賞する。それ以降、一九九九年に死去するまで長い作家歴を辿ることになる。私小説（＝身辺に材を求めてそこに自己の心境を託した作品）の正統的な書き手として、とりわけその晩年において評価された。一九八八年には、日本芸術院賞（恩賜賞）を受賞。その翌年から日本芸術院会員となる。

主な作品には、「母子鎮魂」「私のソーニャ」「摩周湖」「家族のいる風景」などがあり、今回出題した「風祭」では、読売文学賞を受賞している。また、一九九〇年には『八木義徳全集 全八巻』(福武書店)が刊行され、菊池寛賞を受賞した。

本文は、二つの家の間の葛藤やわだかまりが解消されていくさまを、主人公の視点を通して描いたものである。

ここで、その二つの家をめぐる人物関係を簡単な図で整理しておこう。

\*主人公の伊作と治彦とは、亡き伊作の母

好之の遺児として異母兄弟の関係にある。

この二つの家をめぐる問題の根っこに、妻子がいながら別の家庭を持つという高峰好之のあり方があることは言うまでもない。ただ、注意しなければならないのは、登場人物それぞれが、少なくともそうした好之の振る舞いに対し批判したり反撥したりはしていない

いということである。そのことは是非はあるが、問題を解くというレベルでは、その点を押さえそなへようにしてよい。

また、本文は主人公・伊作の眼を通して描かれていたため、それ以外の登場人物の言動やその内面が読み取りづらい点にも注意しておかねばならない。とりわけ、治彦や圭子の人物像を自分勝手に解釈してしまうと、高得点は望めないだろう。

では、以上の二点に留意しつつ、本文を大きく①・②・③の三つに分け、それぞれの内容を簡単に整理していく。

① 母の「罪」の思い（本文冒頭から、9行目「……その夜のことである。」まで）

還暦（＝満六〇歳）を過ぎた伊作は、死を身近に意識するようになった。このところ年来の友を相次いで亡くしたことも関係しているのだろう。彼らの思い出は、いつも過去の日の姿を伴っていた。しかしいま伊作が気にしているのは、取り返ししようのない過去に囚われている母のことだつた。老いさき短い母が「或る一人の女への消し難い『罪』の思い」に苦しんでいるのなら、息子としてそれを拭い去つてやりたいと思う。が、そのためには何をなすべきか、伊作にはその当たがないのだった。

そんなある日、母が倒れ、立ち居もおぼつかなくなってしまったのである。そのことをきつかけとして、伊作は、何とかしなければならないという切迫感のなかで、その「或る一人の女」の息子であり自分にとっては異母兄にあたる治彦に会つてみようと思いつく。

①のポイント

- i 伊作の母は、高峰の正妻に対して申し訳なさを感じている。
- ii 伊作は、iで苦しんでいる母のため、異母兄を訪ねようと思いつく。

なお、iの具体的な内容は、かつて高峰との間に子どもや家庭をもうけ、正妻から高峰を奪う形になってしまったことに対する母の「罪」の意識である。こうした内容は本文に明示されていないが、前書きや（注）、さらには②の部分の叙述から的確に読み取つておきたい。また、②以降の部分では、伊作の立場から見た父や治彦との関わりに焦点が絞られていくが、そうなった契機がiiにあつたという点は押さえておきたい。

② 治彦の家で——二つの家——（11行目「二十二年ぶりの治彦は……」から、86行目「……と伊作は思つた。」まで）

二十二年ぶりの治彦はさすがに老いを漂わせていたが、自分と同じ逆さにつり上がつたその太く濃い眉毛は、まさしく父との血のつながりを示すものであつた。

伊作は、話のきっかけとして亡父の日記が残つてゐるかどうかを聞いてみたのだが、圭子（＝治彦の妻）は、敗戦間近に隣組長の指示ですべて焼いてしまつた文章を知つてゐる伊作は、治彦を薄情な人間だとは思えないのだった。伊作がその文章――母が今まで隠し持つていた父の死亡通知――のことを持ち出すと、治彦もそれは覚えていたようであつた。

そのことをきつかけに、話は二人の父やそれぞれの母親のことに及んでいく。そこでも圭子が口火を切り、父が伊作たち一家のことを愛し心配していたことが実例をあげて聞かされる。その一つ一つは、二つの家をめぐる事情から治彦にも知り得ないことであつた。そういうするうち、圭子に問い合わせられたこともあつて、伊作も、父母をめぐる幼い日の思い出を話すことになる。それを黙つて聞いていた治彦は、ふいに「いいお話をうかがいました」と言い、父は自分の母ではなく伊作の母親といふときが「いちばん安らぎの時」であり、その意味で伊作の母に「一人の女としてのジエラシーは確かにあつたと思います」と喋り始める。それを聞いていた圭子は、二つの家をめぐるあれば、なんとなく心が落ち着くでしょ」と結論づけて、簡単にまとめてしまう。伊作は、納得できないような治彦と異なり、そうした圭子の言葉にもそれなりの理があるよう感じたのだった。

②のポイント

- i 伊作は、治彦の眉毛に同じ父の子としての血のつながりを感じる。
- ii 母が隠し持つていた父の死亡通知は治彦の書いたもので、それを見れば、治彦が情理を兼ね備えた人物であることがわかる。
- iii 圭子は、そんな古い文章を伊作の母が今まで取つて置いたことに驚きを示すとともに、伊作の父が伊作一家のことを気にかけていたことを話して聞かせる。

iv そのことをはじめて知った治彦は、興味を示すようになり、はじめてその重い口をひらくようになる。

v 伊作の父親との思い出話を聞いた後、治彦は、父が安らげたのは伊作の家であり、だからこそ自分の母親は伊作の母親にジエラシーを感じていたのだと、率直に語る。

vi 妻子はすべてを運命だと結論づける。

この場面では、iii～vで示される、伊作と治彦の父親やそれぞれの母親のありようを的確に読み取ること。そのうえで、治彦が伊作の母親やその家の存在を受け容れるかのような発言をしていることは、とりわけ注目しておかねばならない。これが、③の場面の治彦と伊作の会話、つまりは本文の主題につながっていることは明らかである。

なお、iiiやviからも見て取れるように、この場面全体を通して妻子が夫と伊作との二十二年ぶりの会話を推し進める役割を担っているという点には留意しておきたい。妻子は、たんに出しゃばりで軽率な女性として描かれているのではない。夫とその異母弟との二つの家をめぐる微妙な関係を彼女なりに意識して振る舞つていてるのである。その天性の届託（＝心配や悩み）のなさが、巧まずして二人への気遣いになつていると、言うこともできようか。ともかくも、その点は押さえそこねないようにしたい。

### ③ 治彦の家で——思いがけない言葉——（87行目）

「伊作さん、あなた……」から、本文末まで)

話も一段落し、伊作が長居を詫びて帰ろうとしたとき、伊作は治彦からはじめて名前で呼ばれ、「お母さんにくれぐれもよろしく申し上げて下さい」と声をかけられる。思いがけない言葉だった。照れた微笑を浮かべている治彦に、「ありがとうございます。帰つたら、必ず母に申し伝えます」と一礼し、伊作は高峰家を辞したのだった。

#### ③のポイント

- i 治彦が、伊作のことをはじめて名前で呼ぶ。
- ii 治彦が、伊作の母への挨拶を伊作に託する。
- iii そうした治彦の思いがけない振る舞いに、伊作は、驚きながらも深く感謝した。

この短い場面は、本文のクライマックスとして置かれている。①の場面で描かれた母の「罪」の意識は、iiに見られるように、治彦の言葉で「雪がれた」と理解することができるだろう。もちろんそれは、母が気にしつづけた「或る一人の女（＝治彦の母）からの赦し」ではないとしても、その息子のあたたかい言葉は、母の心を慰めてくれるであろう。とすれば、iiiの伊作の感謝が、たんなる儀礼的なレベルを越えたものであるのは言うまでもない。伊作は、母の「罪」の意識を払拭したいという思いだけで、なんの成算もないままに治彦のもとを訪れたのだった。それが、こうした僕（＝思いがけない幸せ）と言つてよいような結末を迎えることになったのである。

#### 【設問解説】

##### 問1 語句の意味の説明問題

この設問は、語句の辞書的な意味を答えるもので、基本的には知識型の問題である。ただ、それだけでは決まらない場合もあるので、傍線部の文脈やその場面の状況にも留意しておきたい。

②の「感涙に咽ぶ」は、「感動のあまり激しく泣く」という意味の表現である。なお、「感涙」も「咽ぶ」もほぼ同義内容となつていて。ここで文脈を検討しても、〈息子の結婚に感激して泣いている姿〉という点は容易に押さえられるはずだ。したがつて、④が正解。

②と⑤は、そもそも〈泣く〉という意味が押さえられていない。「感涙」の「涙」を見落とさないこと。また、①は「不覚にも（＝思わず）」が、③は「眼がかすむ」が、それぞれ「感涙に咽ぶ」の意味内容やニュアンスと異なつた説明になつていて。(1)の「情理を尽くした」は、「人情や道理に通じた」という意味の表現である。選択肢を検討するにあたつては、〈情と理〉という相反する要素をともに満たしている」という点に着目したい。したがつて、④と⑤が正解の候補になるが、「……尽くした」に「バランスが取れた」という意味はないので、「……十分通じた」と説明している④が正解となる。

①と②は、「情」についてだけの説明にとどまりており、右でも触れた、〈情と理との並立関係〉が踏まえられていないことになる。また③も、①や②に比べれば、若干「情理」に関する説明が丁寧になつていてるもの、それでもやはり、両者の間の〈並立関係〉が捉えられていない。

なお、ここで文脈からは、治彦が書いた父の死亡通知が「情理を尽くしたいたいへん立派な文章だつた」と言われているだけで、「情理」という言葉を知らないければ解きづらかったかもしれない。また、傍線部を含む大きな文脈で考へても、〈治彦は單に薄情な人間ではなく父思いであつた〉ということがわかるだけで、これも決定的な根拠にはならなかつただろう。そのことからも、言葉の知識の大切さを

実感してもらいたい。

(イ)の「気さくで」は、〈勿体ぶつてない／さつぱりして物事にこだわらない〉という意味で、そのままで①が正解となる。正解以外の選択肢は、すべて辞書的な意味が出ていない。

なお、傍線部の箇所では、圭子の性格が「気さく」という言葉で捉えられているわけだが、その言葉の辞書的な意味を踏まえないと、自分勝手な解釈を下し、否定的な評価を伴う③や④、あるいはそれとは逆に肯定的ではあつても意味 자체が大きすぎる⑤などを選択してはならない。また、②の「気心の知れた」は、〈相手の気持ちや気性が分かっている〉の意で「気さく」とは無関係である。

## 問2 主人公に関する説明問題

設問に「ここで、『伊作』についての説明」とあるため、まず【本文解説】で①とした箇所の内容を精確に踏まえていけばよい。その大枠についてはポイントの項でまとめておいたが、ここでは、もう少し丁寧に傍線部までの流れを振り返っておくことにしよう。

- \* 還暦をすぎ、死を意識するようになった伊作
- \* 老いた身に甦つてくるのは過去の記憶だ
- \* 母は高峰の妻への罪悪感に苦しんでいるらしい
- \* それを祓つてやるのが息子の務めだろう
- \* だが、その方法がわからない
- \* そんなある日、母がまた倒れたのである
- \* そんな切羽詰まつたとき、伊作は治彦を訪ねてみようと思いつく（＝傍線部A）

ここからは、

- a 老いた母の「或る一人の女」（＝高峰の正妻）への消し難い「罪」の思いを、息子の義務として祓つてやりたいと思つている
- b しかし、その当てがないままでいる
- c そんななか、治彦（＝異母兄）を訪ねてみよう、とふいに思いつく

というポイントが確認できる。したがつて、以上の経緯を過不足なく踏まえた④が正解。

①は、「高峰もその妻も亡くなつた今、母の思いを伝える相手は高峰の息子しかいないため……会うほかないと覚悟を決めている」の部分が誤り。これでは、「母の思いを伝える」という明確な目的があつたことになる。しかし b・c ポイントで確認した

ように、伊作は母のために何をすればよいのか「当てがないまま」「治彦を訪ねてみよう」とへふいに思ついたのである。

②は、傍線部の「治彦を訪ねてみよう」という内容に関する説明がないため、まず解答の候補から除外できるはずだ。そのうえで、「老いを迎えた母が過去の思い出に浸ることで現実から逃避しようとする」の部分も誤り。そうした「現実逃避」については、本文には述べられていない。

③は、「高峰の妻に謝りたいという母の願望」を「最後の母のわがまま」としている点が、本文に根拠のない説明になつていて、また、「相手の息子に協力を呼びかけ」ることで母の「願望」を「実現」しようとするという内容も、本文に全く根拠のない内容である。

⑤は、まず「老いた母が高峰やその妻に謝罪しようと心に決めている」という部分が誤り。伊作の母は、高峰の妻に対してはたしかに罪の意識を抱いているが、高峰に罪の意識を抱いているのではない。さらに、この選択肢は、最後の部分でも誤つている。傍線部の「治彦を訪ねてみよう」は、あくまでも「ふいに思ついた」のであり、この選択肢のよう、「高峰の息子と話し合うことからはじめるしかないと考えるようになつていて」といった計画的なものでないのは明らかだ。

## 問3 登場人物（治彦）に関する説明問題

問2 同様に、この設問でも「この場面での」という条件に留意し、まずは関連文脈を確定することからはじめねばならない。するとそれが、それまでずっと黙つていた治彦が「はじめて重い口をひらく」ようになるまでの場面、つまりは、【本文解説】で②とした箇所で、細かく言えば②のポイントでiii・ivおよびvとした箇所だということがわかるはずだ。では、その場面の内容を、なぜ治彦は沈黙を破つて話はじめたのかという点に留意し、整理してみよう。

- \* 伊作が亡父の日記のことを話題にする
- \* 圭子がその日記は焼いてしまったと言う
- \* 治彦はそのことに関心を示さない

←

\* 話は治彦が書いた父の死亡通知に移つていく  
\* それは伊作の母が今まで隠し持つっていたものである  
\* 治彦はじめてその話に興味を示す  
\* さらに圭子が、治彦の父は伊作一家のことを愛していたのだと、義父から直接聞いた話をする

\* 治彦はそれを聞いて話はじめる（II 傍線部 B） ←

\* 治彦の話は、二つの家をめぐる話であり、そのことに関する治彦の思いであった

ここからは、

- a 自分（治彦）の書いた古い死亡通知を、伊作の母が今まで取つて置いたことを、伊作から知られる
- b 治彦の父が、伊作一家のことを気にかけ愛していたということを、圭子から聞かされる

- c 以上のことを知った治彦は、話に興味を示すようになり、父をめぐる話をはじめる

というポイントが確認できる。したがつて、以上の内容を的確に踏まえた③が正解。なお、正解の「自分自身も当事者の一人として心を動かしはじめている」の部分は、右で解説した（父をめぐる話をしじめる）という内容に関係する説明であり、さらにそれを具体化すれば、【本文解説】②のポイントのv（父が安らげたのは伊作の家であり、そのことに母は嫉妬していたであろうという、治彦の推測）に関わっている。

①は、まず「伊作の訪問に心喜ばないものを感じていた」の部分が、本文には述べられていない内容である。したがつて、そのことを理由に「伊作にことさら無愛想な態度を取りがち」であると述べたり、「伊作や圭子の話に耳を傾けるうちに……伊作に対する態度を改めねばならないと思ははじめる」と説明するのはおかしいことになる。なお、治彦が「無愛想」に見えるとすれば、それは日頃から「寡黙な」（傍線部B直後）治彦の性格に由来しているはずだ。

②について。「突然の伊作の訪問に戸惑い」の部分は、二十二年ぶりの再会ということからも許容できるが、だからといって「自分たち家族の平和が乱されるのではないかと危惧していた」とまで考えていたかどうかは、わからないことである。また、「伊作の父母を思う気持ちの強さ」や、「妻が自分の両親をひそかに気遣つてくれていたことを知つて」の部分も、想像の域を出ず、明確な根拠を本文に求めることはできない。

④について。本文には「父が安らげるのは伊作の家」「治彦の母親は伊作の母に嫉妬心を覚えていただろ」といったことは述べられているが、この選択肢のように「母や自分が結局のところ父には愛さ

れていなかつた」とするの言い過ぎになってしまふ。また、そうした思いが「骨身に堪え」る要因として、「妻の圭子」の「身振り手振りを交えた具体的な話しぶりの効果」があつたという説明も、本文に述べられていないことである。

⑤は、「自分の母よりも伊作の母の方がより深く父を愛していた」の部分が明らかに誤り。（治彦の母親は伊作の母に嫉妬心を覚えていただろ）といふことは書かれているが、いざれの愛情が優つてたかについては述べられていない。また、本文の最終部からは「二つの家族の和解を願う気持ち」を読み取ることもできなくはないが、「この場面」でそこまで踏み込んだ心情が出ていているかどうかは疑問。やはり正解のよう、「当事者の一人として心を動かしはじめている」で止めておくべきだ。

#### 問4 登場人物（「圭子」）に関する説明問題

傍線部の場面に即して「圭子」の人物像を把握することが求められている。

では、傍線部Cから見ていこう。ここでは、傍線部の「ふいに」という言葉に着目し、圭子がそれまでの話の流れを断ち切り別の話題に導こうとしているという点をしっかりと押さえたい。傍線部の前の部分では、治彦が、伊作と父親との思い出を聞いた後、父が安らげたのは伊作の家であり、だからこそ、自分の母親は伊作の母親にジエラシーを感じていたのだと語っている。つまり話は、志村と高峰という二つの家の関わりという核心的な部分に向かっているのである。それは、伊作にとつても治彦にとつても、簡単にやり過ぐことはできない重い意味をもつものである。そうした状況をわかつたうえでの何かどうか、圭子は、その重い話を「運命」として割り切つてしまえばいいと言う。そうすれば、「心に安らぎと落ちつき」が与えられるというのである。伊作も治彦も、圭子の言うその「運命」という言葉やその考え方に寛然としないものを感じながらも、少なくとも伊作は、その話を受け容れていく。

なお、この傍線部Cに関しては、「話が絶望的な方向へ行かないよう、治彦や伊作のことを気遣つて話題転換を図つた」というところに、圭子の意図を読み取ることもできないではない。ただし、そうした意図を傍線部Dから読み取ることはできないだろう。

傍線部Dでは、その直前に「治彦とはいろいろとあつたが、夫婦になつたのは運命だと考えたら気が楽になつた」という圭子の軽い発言がおかれたうえ

で、傍線部では、まったく唐突に音楽の話題へと飛躍していく。それは、その場での自分の思いつきをそのまま口にしているだけに思えるのである。

以上の内容を整理すると、

a その場の状況を深く心にとめるいとなく

b それまでの話の流れを唐突に断ち切り

c 次の話題へと誘導している

ということになる。したがって、以上の内容を踏まえた②が正解。なお、「自分勝手などもある」「とらわれのない振る舞い」の部分が、aに示されるような圭子の多面的な性格やそのありようを言い当てていることに着目したい。こうした圭子の性格は、「日記を焼いたことに後悔をにじませる」と「父の義父の話を伝えるところ」(伊作に父のことをどう思つか聞くところ)などにも散見されるものである。こうした設問では、本文全体からその人物像を大きく把握しておくと解きやすい場合もあるということは念頭においておきたい。

①は、「自分に注目を集めるため」の部分が、本文に根拠を持っていない。また、「剽輕な(=つけいな)話しぶり」という部分も、限定的な説明になっており、適切な説明とは言い難い。

③は、「人の感情のおもむく先を見通すことができる」の部分が、本文に根拠を持っていない。圭子にそうした能力があるかどうかについて、本文からは確定できない。また、「人を傷つけたりはしない善良な人物」といった倫理的な評価に関わる説明も、本文の内容とは無関係である。

④は、「優柔不断な夫に代わって一家を支えてきたという自負心が強く」の部分が、本文に根拠を持つていいない。また、「夫のことを配慮し夫を立てるよう振る舞う」の部分も、本文における治彦夫婦のありようとは異なる説明になってしまっている。

⑤は、圭子が「夫に代わって客人の相手」をしているのか、あるいは、これまでしてきたのかは、本文からはわからないことである。また、圭子の「口出し」が、「その場の雰囲気を壊してしまう」といったことは述べられておらず、本文からはむしろその場の雰囲気を明るくする人物として描かれていて理解することができるだろう。

## 問5 主人公に関する説明問題

この設問は、傍線部の表現やその場面の内容を介して、本文の主題を確認する問題である。

まずは、傍線部に至る内容を確認しておこう。

\* 伊作が帰る際、治彦が伊作のことをはじめて「伊作さん」と名前で呼ぶ  
\* さらに、伊作の母に「くれぐれもよろしく」伝えて下さいと言う

\* そうした治彦の言葉は、伊作には「思いもかけぬ」ものであったが、それは治彦にしてみても同じことなのである。治彦の顔には「すこし照れたような微笑」が浮かんでいるのだった

\* 伊作は、治彦の言葉に自分や母に対する厚意を感じとり、感謝の念を伝え、高峰家を辞するのだった

このからは、

a 治彦が、伊作やその母親に厚意を示している

b そのことは伊作が感謝している

という内容をきちんと押さえよう。

そのうえで、それらとの関わりで本文の主題について確定すること。これに関しては、とりもなおさず①の部分の内容をもう一度確認することになるはずだ。つまり、「母の罪の意識を息子として払拭する」ということである。ただ、それは母親だけの問題ではなく、伊作自身にも関わってくる問題として捉え返していかなければならない。そのためには、②の部分の治彦とのやりとりで明らかになつた事柄がヒントになるのではないか。つまり、「父が自分や母のことを愛してくれていた」ということ、そしてそのことに関連してもつとも大切なのは、(③まで関わりのほとんどなかつた)高峰家の治彦と圭子とがしてくれたことである。以上、まとめるところ。

c 母の罪の意識を払拭し、高峰家との間の隔たりがなくなつたかのような思いを持つに至った

ということになる。最初からこの内容を読み込むことは難しいだろうが、選択肢を比較検討するながら、最終的にはこのcポイントに気づいてほしい。

以上の内容を踏まえた①が正解。選択肢の最後の部分がcポイントの説明になっていることを確認しておこう。

②は、「母のこれまでの執着」という説明の仕方が、「母の過去の罪に関する思い」からややずれたものになつていて、また、正解と比較したとき、cポイントの説明が不十分なものになつていているのは否めないだろう。

③は、「母への親愛の情を示す治彦の言葉」と「すべては運命だという圭子が言った言葉」とを「結びつけ」るという説明が、傍線部の場面や本文の主題とは関わりのないものになつてゐる。さらに、「思いがけない人の縁」が何を指しているのか曖昧なものになつてしまつてゐる。

④は、「伊作の家と治彦の家との間でゆえなく生じたいざこざ」の部分が、明らかに杜撰な説明になつてゐる。両家の間にはつきりとした「いざこざ」が生じていたとは、本文には書かれていない。また、それを許容するとしても、その「いざこざ」が生じた理由としては、伊作や治彦の父の存在しか考えられない。したがつて「いざこざ」が「ゆえ（＝理由）なく生じた」とは言えないはずだ。

⑤は、伊作が「治彦の言葉」を、「それぞれの母を大切に思うことに変わりはないということ」を「それとなく示し」たものだと思ったという内容が誤り。それに類したことを治彦や圭子との会話の中で言った（74行目）のは「伊作」であるということを見落とさないようにしよう。

## 問6 文章中の叙述に関する説明問題

本文の叙述（表現や描き方）に関する説明では、「知識や解釈」が必要になつてくることも多く、正誤の判断がつきにくかつたりもする。その際には、本文に書かれている内容と矛盾しない説明であるかどうかにとりわけ留意すること。

順に選択肢を見ていく。

①について。ここで話題になつてゐる「眉毛」の描写から、「伊作と治彦が異母兄弟であること」がわかるという説明は正しい。しかし、その「眉毛」の描写が、「長年にわたる二人の確執（＝不和）」の根深さをも暗示している」かどうかは不明。そもそも伊作と治彦とは、三十八年前に父が死んでからは、今回が二回目の出会いでしかない。そんな「二人」に「長年にわたる」「確執」があつたということは、本文から確定できない。

②について。「茶箱四つにぎつしり詰まつて」いたのは、伊作の父・好之の日記類であるが、それだけ日記を書いたからといって、好之が「伊作同様に自己の内面を凝視し続け」ていたかどうかは確定できない。また、そのことに関連して、治彦が伊作を「一人の人間の心のひだを奥深くさぐつてみよう」とする人物だと考えているのは事実だが、伊作自身が「自己の内面を凝視」していたという記述は本文には見当たらない。さらに、大量の日記を残したか

らといつて、好之が「小説家としての資質」を持っていたかどうかかも、本文からは確定できない。

③について。「めらめら」は擬声語ではなく、擬態語とみなすべきである。その意味で、「ぶすぶす」と「めらめら」とともに擬声語として扱うのは問題である。さらに、この選択肢では、擬声語による表現が「戦争に対する批判的な思いをかき立てる」と説明しているが、本文にそうしたことを行うかがわせる叙述は皆無である。戦時下において隣組長から日記を焼くよう指示された、という細かなエピソードだから「反戦」といったテーマに拡大解釈しないようにしよう。

### 擬態語

\*聴覚以外の感覚印象を言語で表現した語。

### 擬声語（擬音語）

\*実際の音をまねて表現した語。

④について。本文の（　）部には「この治彦は寡黙なタイプの男らしく」「圭子のお饒舌りがつづいている間、彼は一語もはさまず、……身動きもせずにいた」とあり、治彦の「寡黙」さが強調され、イブ」として捉えられている。すぐあと箇所でも、「治彦は別に表情も変えず、また黙つて庭の芝生に顔を向けた」と、治彦の「寡黙」さが強調されている。こうした点に留意すれば、選択肢の「治彦の『寡黙』は、治彦の性格の一端（→タイプ）を示している」という説明は納得のいくものである。次に、そうした「治彦の『寡黙』」が、「二つの家が抱え込むことになつてしまつた重い問題と響き合つてゐる」という点に關して検討しよう。治彦は「二つの家」の問題の当事者の一人であり、しかも、「どうしても母の方につくようになつて」（73行目）と言つてゐるよう、その「重い問題」の影響を受けていることの自覚もある。とすれば、「二つの家」の問題と、治彦の「寡黙」な性格が「響き合つてゐる」と受けとめることに無理はなく、その点で、選択肢後半の説明も誤つてはいないと言える。したがつて、これが一つめの正解。

⑤について。「『失礼』なものだった」という表現の直後には、「しかし伊作は、この気さくで若々しい老女には答えやすかった」とある。また、「落ち着きすぎるほど落ち着いている」という表現は、「すべてを運命だと考えると落ち着ける」という圭子の発言やその考え方を踏まえたものであり、この文脈で伊作が圭子の発言を肯定的に捉えようとしているのは理解できるはずだ。したがつて、伊作が「圭子の発言や振る舞い」を「好意的な眼差しで捉

えていることがうかがえる」という説明は誤っていることになる。さらに、伊作は一貫して圭子の発言に對して感情を高ぶらせることなく、落ち着いた

対応をしている。そうした点に留意すれば、選択肢

中程の「圭子の発言や振る舞いを冷静に評しつつ」の部分も、的を射た説明だと言える。したがって、

これが二つめの正解。

⑥について。まず、伊作が「木訥（＝無骨で飾りのないこと。無口なこと）」であるという説明が誤っている。本文においてこの「木訥」という人柄や人間性に当てはまるのはむしろ治彦であろう。つぎに、部屋の様子やレコードのコレクションなどから、「治彦の趣味が洗練されている」とまでは言えるだろうが、だからといって、それらが伊作と治彦の間の「生活水準や境遇の差」を際立たせているといったことは、本文からは、わからないことである。

### 第3問 古文

#### 【出典】

『扇ながら』

成立 室町時代

ジャンル 御伽草子（室町時代物語）

作者 未詳

内容 ある時、少将は、都の郊外で素性のわからぬ姫君を見初めて結ばれ、自邸に迎える。

ほんの短い間離れていることも耐えがたいほど思い合う二人だが、少将は、やむを得ない事情から姫君のもとへ帰れない日々が続

き、その上、その間に大納言の娘とも契りを交わしたことを姫君に知られてしまう。姫君

は、少将の薄情な仕打ちを恨み、出家しようと山奥に身を隠した。少将は、姫君を捜してあちらこちらを歩きまわった後、川を流れて

きた扇を手がかりにして姫君を捜すと、都へ連れて帰った。その後、実は姫君は中納言の娘であったことがわかり、二人は幸福に暮らした。

室町時代に書かれた物語だと考えられているが、その成立についての詳細はわかつていない。本作とは別に、鎌倉時代中期までに書かれた、本作と同名の『扇ながら』という物語があつたことはわかつているが、そちらは現存しない。本作がその鎌倉時代に書かれた物語の改作であるのか、まったく別に構想された作品であるのかについても、定かではない。

問題文は、角川書店『室町時代物語大成 第三巻』による。ただし、センター試験の表記に倣い、問題文としての体裁を整えるために、表記を改定したほか、一部中略した箇所がある。

#### 【本文解説】

『扇ながら』は、上中下の三巻からなるが、問題文は、中巻の最後の部分である。少将は、大納言邸で接待を受け、その娘と結ばれてしまふが、誰を思うよりも女主人公の姫君を慕っている。久しぶりに帰宅がかなった際に、姫君が姿を消していたのを知った少将は、清水寺を皮切りに諸所の寺社に詣で、乳母の子である兵部尉一人を供として、京都を中心になららをさすらって姫君を捜し回るが、いつこうに見つからない。そうこうするうちに、深い山中にまで分け入ります。

問題文は、二つの段落に分かれている。

〔第一段落〕

少将と兵部尉は、道行く人ごとに姫君の行方を尋ね

るが、誰に聞いても何もわからず、途方に暮れてしまふ。そんな時、通りすがりの尼君から、姫君の居場所についての手がかりを得る。

兵部尉から事情を聞いた尼君は、少将に薬を与え、少し元氣を取り戻した少将に対して、川上の方に都から来た人々がいると言い、そこまでの行き方を教えるのである。

## 〔第二段落〕

第二段落は、さらに二つの場面に分けられる。前半は姫君の、後半は少将の様子をそれぞれ描いている。

まず前半では、姫君の葛藤が描かれる。俗世に背を向けて人里離れた所へ移り住み、心を澄まして父母の菩提を弔い、自らの死後の安寧を祈つて過ごそうとするのに、ともすれば自分を裏切った少将の形見の扇などを見ては恨めしさがつのり、つらい気持ちが搔き立てられる。そこで、姫君は、思い切つて扇を川へ捨てて、その時の思いを歌に詠むのだが、扇を捨ててもなお涙が止められない。

A～Cの三首の歌は、この時姫君が口ずさんだものである。後に出てくるEの歌は、それらとは別に、姫君が扇に書きつけたものだろう。流す直前に書きつけたとも、それよりもっと前に書きつけてあつたものとも考えられる。

後半では、転じて、姫君を捜す少将の様子が描かれる。尼君の言葉に従つて川に沿つて上流を目指すものの、疲れて座り込み、川を流れぐる紅葉を見つめて、さすらう我が身のつらさを歌に詠む。その時、紅葉とともに流れてくる扇を拾い上げる。それはもともと自分が持つっていた扇であり、そこに書かれている歌は姫君の筆跡であった。それを見た少将は、姫君が川に身を投げて亡くなつたのではないかという最悪の事態を想像して、不安に駆られるのである。

## 〔全文解釈〕

日数も次第に重なると、少将殿も兵部尉も、ともに身も弱り、心もすっかり疲れなさつた。あまりのことには、兵部尉は、道行く人に会つては、「このような人には会いなさらないか」と尋ねたけれども、（道行く人は）「いや、そのような人には会わないし、行方も知らない」と言つて、通り過ぎたのが情けない。そのようであつても、あまりの悲しさに、行き来の人には（姫君の行方を）尋ねたところ、年の頃五、六十歳ぐらいの女で、見苦しくない様子である者が、この人々のありさまを拝見して、涙を浮かべて申したのは、「どのような人でいらっしゃるのか」と尋ねるので、兵部尉が、申したのは、「今は何を隠したりしようか（いや、もう何も隠すつもりはない）。こちらの方は

都の方に住んでいらっしゃるお人であるが、思いがけず、自身の恋しく思う人が、（この方を）恨む気持ちがあつてどこへとも行方がわからなくおなりになつたのを、悲しいことと思いなさつて、（自分の）命があるならばその限りは（その恋人を）お探しになろうということで、父君や母君にもお知らせにならず、この二、三十日の間さまざまといらっしゃる。慣れない道中を、あちらこちらと（姫君を捜して歩き回り）心をすり減らしなさるので、今はすでにお命も終わりと見えなさる」と言つて、細々と述べたところ、尼君は、聞きなさつて、「それにしても痛ましい御ことだなあ」と、一緒になつて涙を流しておっしゃったのは、「そうですね、この川の上流に、情趣を解する様子の人々は、都からやつて来ていらっしゃるよ。お氣の毒なことよねえ」と言つて、懐からお薬などを取り出し、少将殿に差し上げたところ、兵部尉は水をくんで差し上げるので、（少将は）気分が少しよくなりなさつた。「それで、その所へはどこを行くのだ」と（少将が）お尋ねになると、（尼君は）「ここからあちらへ少し行って、細い川がある。その川縁に沿つて上流へお向かいください」と、親切に教えた。

さて、一方、姫君は、薄情だった人を恨んだために、このような所へは來てしまつたよ、そうではあるけれど、父母の御菩提をも弔いたいと思ひなさつたので、ただ一筋に来世のためのお勤めを、大切なことだとお思いになり、心から迷いを払つていらっしゃるけれども、時には（少将の）形見などをご覧になつては、少し心も乱れるので、とはいえ、つらい俗世に背を向ける身となつて、このような思い（を持つことは驚きあきれることなので、少将殿が、（いつも手にして）持ちなじんでいらっしゃった扇を、形見としてお持ちになつていたのも、つまらないことだ。見るたびごとに、恨めしさはまさるのだった。今は（このようなものを持っていても）どうしようというのか（いや、どうしようもない）と思って、住んでいらつしやる庵の前を流れる川へ投げこみなさつて、このように（歌を詠んだ）、

薄情な人が形見として残した扇までも、見ると涙を流してしまふのだなあ。

限りなく（苦しく）思つたことは遠ざかり、（昔とは）違う方の（暮らしこそ尼となつて）墨染めの衣（に身を包むのだよ）。

（目の前の川は）底までも清い流れの水なので、私の心まで澄んでいるのだつたよ。

このよう口ずさみなさつて、（少将への思いを断ち切ることを）決心なさるけれども、こぼれる涙は絶え間もない。また、少将殿は、尼君の教えに従つて、細

い川に沿つて上りなさるが、あまりの苦しさに川の縁にある岩に腰をかけて、水に流れる紅葉が浮かんでいるのをご覧になつて、

移ろいやすく流れる川の紅葉もどまるところ

はあつたのに（どうして今の自分はさすらつて

いるのだろうか）。

この川に流れる紅葉も、我が身のありさまも、いつ止まるということはわからず、流れ誘われて行くことの悲しさは、晴らす方法もなくて、（少将は）涙を流しなさる。そこに、川上から、人が使いなじんだ扇が流れてきたのを、取り上げてご覧になると、彩りも深く、美しい絵などが（描かれて）あり、ほんとうに趣深い風情がある。ものを書いてあるのをご覧になると、

「（あの人を）薄情だとも思わない私を、どうかすると扇が風ではとさせているのはどうしてだろうか。

つまらないものは、形見であつたことよ」と書き留めあつた。（少将が）この扇を見ると、自分が持ち慣れていた扇である。歌は（自分が）捜している人の筆跡だと見（て取）ると、（平静な）心も消し飛んでしまつて、どう見ても、この人は川に身を投げたのだろうかと思い、自分も一緒に身を投げようと思ひなさつた。この扇を胸に当て、顔に当て、愛着を感じることは限りない。（ほんとうに姫君が）お亡くなりになつたと聞いたならその時には、我が身はどのようになるのだろうか（いや、どうにもしようがなく死んでしまうのだろう）と、心細さは限りない。

### 【設問解説】

#### 問1 短語句の解釈問題

短い語句の解釈を問う問題は、センター試験の古文の問1の定番である。単語や文法に対する基礎知識を踏まえて、文脈の中で適切なものを選ぶことが必要である。

(ア) 通りけるこそうたでけれ  
傍縁部中で、覚えておくべき古語は「うたでけれ」である。「うたでけれ」は形容詞「うたでし」の已然形。

うたでし（ク活用形容詞）  
1 情けない。  
2 気の毒だ。  
3 嫌だ。

切である。したがって、正解は②である。

ついでながら、「通りける」の「ける」は過去の助動詞「けり」の連体形である。連体形ですぐ下に

体言がない場合は、その下に適当な名詞、もしくは助動詞「の」を補つて訳出するとい場合が多い。

選択肢のうち、②・⑤はそのような訳になつていて、①・③・④は接続助詞「ので」「て」でつなぐ訳になつてゐるため、連体形の訳出として適切ではない。

また、形容詞の已然形活用語尾は「けれ（しけれ）」というかたちになるが、これを過去の助動詞「けり」の已然形と勘違いする者が多い。傍縁部中の「けれ」も、ク活用形容詞「うたでし」の已然形「うたでけれ」の活用語尾であつて助動詞ではない。

過去の助動詞だと勘違いして、「た」の訳語のある選択肢①・③・④に絞つて答を考えた者がいたら、気をつけてほしい。

#### (イ) 何をか今はつつむべき

傍縁部中で、覚えておくべき古語は「つつむ」、注意すべき助詞・助動詞は「か」・「べき」である。「つつむ」は動詞「つつむ」の終止形で、「べき」は助動詞「べし」の連体形。

つつむ（マ行四段活用動詞）

1 気がひける。

2 遠慮する。

3 隠す。

4 包む。

#### か（係助詞）

1 疑問「～か」。

2 反語「～か、いや、（そんなことは）ない」。

#### べし（助動詞）

1 当然「～はずだ」「～ちがいない」「～ねばならない」「～べきだ」。

2 推量「～だろう」「～しそうだ」。

3 意志「～しよう」。

4 可能「～ことができる」。

5 適当「～するのがよい」。

6 命令「～せよ」。

選択肢の中で「つつむ」が正しく訳されているものは、④・⑤である。そのうち、⑤は「か」を単に疑問の用法と捉えて解釈しているが、④は「か」を反語で解釈し、選択肢全体としては「隠さない」と

ここでは、②の「情けない」のみが正しく、そのほかの選択肢はすべて「うたでし」の訳として不適

いう趣旨になつてゐる。「隠さない」ということは、  
③にある「打ち明ける」ということにもつながる  
が、③は、選択肢全体としては「打ち明けたくない」  
というように、さらに打消の「ない」を付ける  
ことで④と逆の意味になつてしまつてゐる。だか  
ら、「か」を疑問で解釈するとしても、反語で解釈  
するとしても、このような意味にはならないので、  
③は選べない。さらに、「つつむ」は、①のように  
「わからない」と解釈することも、②のように「知  
つてゐる」と解釈することもできないので、答は④  
か⑤に絞ることができる。

④・⑤は「べき」も、「～しよう」「～だろう」と  
適切に訳されており、傍線部そのものの意味として  
は、どちらも間違つてはいらない。このような場合には、傍線部の前後の文脈を見る必要がある。傍線部は、女房に「いかなる人でまします」と問い合わせ  
られた兵部尉が、少将のことを説明する発言部分の  
最初にあたる。聞かれたことに答えるわけだから、  
その行為は「隠さない」=「打ち明ける」行為であると  
考えられ、選択肢④の内容と合致する。「べき」を  
「しよう」と意志で訳出していることも、兵部尉が  
自分自身のこれから行為を説明していると考え  
と適合する。しかし、⑤のように誰かが何かに「遠  
慮している」状況を示すことは、傍線部前後から  
探せず、文脈に合わないこととなる。したがつて、  
「か」は反語の用法で、正解は④である。

(ウ) **ねんごろに教へけり**

傍線部の「教へけり」については、すべての選択  
肢が「教えた」と訳しているため、「ねんごろに」  
の部分の訳で解答が決まる。「ねんごろに」は形容  
動詞「ねんごろなり」の連用形で、覚えておくべき  
古語である。

ねんごろなり（ナリ活用形容動詞）  
1 情愛が細やかだ。親密だ。  
2 丁寧で念入りだ。  
3 熱心だ。真剣だ。

ことが普通である。本問のような敬語の問題は、こ  
の五年間に限つても、'09年本試験、'11年追試験  
で出題されており、文法問題として定期的に課され  
ている。さらに、この最近の二回の敬語問題は、三  
箇所の傍線部について、敬意の方向と敬語の種類を  
組み合わせて問う形式での出題となつており、本問  
もそれに倣つた。

このように、敬語問題は定期的に出題されるのだ  
から、重要な敬語動詞については、どのような動作  
を表すどのような種類の敬語かということを暗記し  
ておくことが重要である。

まず、波線部 **a** 「給へ」・ **b** 「参らすれ」・ **c** 「思  
し」の三語について確認する。

給ふ（ハ行四段活用／ハ行下二段活用動詞）

（四段活用）

1 お与えになる（「与ふ」の尊敬語）。

2 ～なさる（尊敬の補助動詞）。

（下二段活用）

1 ～ます（謙譲の補助動詞）。

参らす（サ行下二段活用動詞）

1 差し上げる（「与ふ」の謙譲語）。

2 ～申し上げる（謙譲の補助動詞）。

思す（サ行四段活用動詞）

1 お思いになる（「思ふ」の尊敬語）。

**a** の「給へ」は、活用の種類によつて敬語の種類  
が異なる語だが、その後の「り」は、完了・存続  
の助動詞で、サ行変格活用動詞の未然形か四段活用  
動詞の已然形（命令形という考え方もある）の下に  
しか付かない語である。下二段活用動詞の下にこの  
「り」が接続することはない。したがつて、**a** の  
「給へ」は四段活用の「給ふ」の已然形（あるいは  
命令形）で、尊敬語であることがわかる。

以上のことから、**a** は尊敬語、**b** は謙譲語、**c** は  
尊敬語で、選択肢の中では①と④のみが正しい説明  
になつてゐることがわかる。

次に、誰から誰への敬意を表すかという、敬意の  
方向についての考え方をまとめると、

選択肢の中で、この語の訳に該当するものは、  
⑤の「親切に」だけである。これは、右記の2の意味  
を表した訳語だと考えられる。しかし、その他の選  
択肢の訳出は、どれも「ねんごろなり」の意味に該  
当しない。したがつて、正解は⑤である。

問2 文法問題

センター試験の古文では文法知識問題が一問出題  
されるのが常で、それも近年では問2に設定される

敬意の方向

- 1 「誰から」の敬意か。
- ① 地の文・作者、または語り手から。
- ② 会話文・会話の発言者から。

## 2 「誰へ」の敬意か。

① 尊敬語：動作の主体へ。

↓その動作の「主語」を考える。

② 謙譲語：動作の客体へ。

↓その動作が、「誰に」及ぶか、もしくは「誰を」相手にしているのかを考える。

③ 丁寧語：聞き手へ。

↓地の文なら「読者」、会話文なら「会話の聞き手」となる。

最初に、**a**・**c**が「誰から」の敬意を表しているのかについて確認する。波線部は、**a**が兵部尉の発言の中にあるが、それ以外は発言の中ではなく、作者が物語の展開を綴った地の文の中にある。したがって、**a**は「兵部尉から」、**b**・**c**は「作者から」の敬意を表すもので、この観点から検討しても、選択肢の中では①と④が正しいということになる。

続いて、**a**・**c**が「誰へ」の敬意を表しているのかについて確認する。

**a**は、尊敬語であるから、「迷ひ給へり」の主体への敬意を表している。兵部尉は、この波線部前後の発言で、自分の主人である少将がここに至るまでの経緯を説明しているのだから、「迷ひ給へり」の主体は、兵部尉が「これは」と指示示し、「都方にわたらせ給へる御人なる」と紹介した少将である。よつて、**a**は少将への敬意を表している。

**b**は、謙譲語であるから、「参らすれ」という動作の客体への敬意を表している。ここで「参らすれ」は、「水をむすびて参らすれ」と直前に接続助詞「て」があり、動詞の直後に付いているわけではないので補助動詞ではない。内容的にも「差し上げる」と訳せ、「与ふ」の謙譲語として用いられているから、兵部尉が水を「誰に」差し上げたかを考えればよい。兵部尉は、尼君がふところから薬などを取り出して少将に差し上げたのを受けて、水を差し上げたのであるから、この水は少将がその薬を服用するためのものだと考えるべきである。よつて、「参らすれ」の客体は少将であり、**b**は少将への敬意を表している。

**c**は、尊敬語であるから、「思しければ」の主体への敬意を表している。波線部直前の「と」は、それまでの記述を「思す」内容として受ける格助詞である。その「と」が受ける心情の内容は、「憂かりし人を恨みしゆゑに、かかる所へは来りけるよ、さりながら、父母の御菩提をもとぶらはばや」の部分で、「薄情だつた人を恨んだがゆえに、このような山奥へ来たものの、それはそれとして父母の菩提を

弔つて過ごしたい」という意味であり、これは姫君の心情である。すなわち、この心情表現部の直前に書かれている「姫君は」が、波線部「思しければ」にかかる主語になっている。よつて、**c**は姫君への敬意を表している。

「誰へ」の敬意を表すかという点について、以上の結果に合った説明をしている選択肢は、③と④である。敬語の種類についても「誰から」の敬意を表すかについても正しく書かれていた①は、この「誰へ」の敬意を表すかという点で、**c**について「父母へ」と間違った記述をしている。

したがって、正解は④である。

### 問3 心情の説明問題

センター試験の古文では、例年、問3以降で、本文の内容に関わる説明問題が出題されるが、特に、登場人物の心情に関する設問は頻出である。傍線部を中心にしてその前後の本文を吟味して、選択肢を丁寧に検討することが、正解への常道である。

傍線部は、尼君の発言である。「あはれなり」は、

あはれなり（ナリ活用形容動詞）

- 1 しみじみとした情趣がある。
- 2 かわいい。美しい。
- 3 悲しい。つらい。
- 4 かわいそうだ。氣の毒だ。
- 5 ありがたい。

など、物事に深く心動かされた際に、広く用いられる語である。各選択肢の、①「深く胸を痛める」・②「強く感動する」・③「たいそう興奮する」・④「ひどく氣の毒に思う」・⑤「しみじみと痛ましく思う」は、いずれも「あはれなり」の訳語としてそれなりに認めうる表現であるから、傍線部の意味だけで選択肢を絞り込むことは難しい。

そこで、この尼君の発言周辺の文意を確かめる。尼君の発言の前には、少将の事情を説明する兵部尉の言葉があり、尼君の発言はそれに対するものである。そして尼君は、傍線部の発言をした後、涙を流して、さらに言葉を続けている。以上の部分についての内容は、【全文解釈】を参照してもらうことにして、それと各選択肢の内容を比較する。選択肢に共通する「高貴な若君」とは、兵部尉が紹介している少将のことである。

①の「高貴な若君が……長旅を続けた」は、兵部尉の発言の「この二、三十日がほど迷ひ給へり」と一致する。その長旅が「慣れない」ものだったこと

は、その後の「ならはぬ道を」という言葉と一致する。また、その旅が、「恋しい姫君に会いたい一心で」のことであるのは、「我が思ひ人の……いづくとも行方知らずになり給ひを……たづね給はんとて」と一致し、その長旅のために、「今にも死にそうに感じられるほど心身ともに疲れはてている」という部分は、「心を尽くし給へば、今ははや御命も限りと見えさせ給ふ」とあるのと一致する。また、この部分については、本文一行目の、少将と兵部尉についているので、その「様子を目の当たりにして」いるという選択肢の記述も正しい。以上のように、選択肢①の記述は、すべて本文に根拠を求めることができ、正しい。

②は、「生死も定かではない姫君を捜して」とするが、本文は、少将が姫君の死の可能性も考えながら捜しているとは読めない。兵部尉は「いづくとも行方知らずになり給ひし」と、姫君が行方不明になつたことを言つてはいるだけで、死んでいるかもしれないとは言つていないのである。本文の最終部分で、上流から流れてきた扇を見た少将は、その時に姫君が亡くなっている可能性を考えるが、傍線部の時点では死の可能性も考えながら捜し回つているわけではない。また、兵部尉の発言にある「命のあらん限りは」は、少将が「御命も限りと見え」るほど消耗している様子と結びつく表現で、姫君についてのものではない。

③は、「どうやらその姫君は自分の知人のようなので」が間違い。尼君は、姫君が知人のように一言も言つていらない。傍線部の発言の後、「この川の奥にこそ、心あるさまの人々は、都より来りておはしますぞや」と言つてはいるが、「心あるさま」とは情趣を解する様子ということであつて、尼君は、少将たちに、都から来ている情趣を解する様子の人が近くにいるという情報を与えたに過ぎない。したがつて、姫君について「若君に居場所を教えられるのではないかと思い、たいそう興奮する」はずもない。

④は、少将が都を出てさすらつてゐる理由が、姫君に「謝罪したい一心で」あるという点に根拠がない。兵部尉の発言にある「我が思ひ人の、恨みありて」は姫君が少将を恨む気持ちを抱いたということで、姫君が「行方知らずに」なつたわけを簡単に説明したものである。しかし、少将が姫君に謝罪しようとしているといふのではない。

⑤は、「親の反対を押し切つて」という記述が間違つてゐる。兵部尉の発言で「父母御にも知らせ給はず」とあるところから、少将が親に知らせず旅に出たことはわかるが、それ以外に少将の親について触れる記述はなく、親が少将の旅に反対したとは書かれていません。むしろ、少将が知らせなかつた以上、親は反対する機会も持たなかつたと考えられる。「旅の目的を遂げることなく路傍で命を終えようとしている」というのも、合つてゐるとはいえない。兵部尉が「今ははや御命も限りと見えさせ給ふ」と言つてはいるが、それを聞いた尼君は、姫君かもしけない都人のいる場所を教え、少将に薬を与えて元氣を回復させているのである。今にも死にそうなほど弱つてゐるとは思つただろうが、目的を遂げないまま、まさしく命を終えようとしていることに「あはれなる御こと」と感じたのではない。

したがつて、正解は①である。

#### 問4 和歌の説明問題

センター試験の古文では、和歌の問題が頻出である。現行課程の学習指導要領に基づいてセンター試験の国語の出題形式が変わってから七年になるが、本試験・追試験計十四回のうち、本文に和歌や和歌にもとづく表現がなかつたのは、'08年本試験・'11年本試験の二回だけである。しかも、本文に和歌がある場合は、必ずなんらかのかたちで設問に関わつており、'10年本試験では六首の和歌がすべて問われ、'12年追試験では本文中の和歌をめぐつて二つの設問が設けられるなど、つねに和歌は重い位置を占めている。

本文中に五首の歌があり、そのそれぞれの解釈について各選択肢で扱うという今回の設問は、'11年追試験と同じ形式である。各選択肢が別々の歌を扱うのだから、選択肢ごとに個別に吟味するしかない。

①は、「扇だけ」という記述が間違つてゐる。A歌の「さへ」は添加を表す副助詞で、他の条件の上に「扇」を付け加え、「扇までも」と言つてゐるのである。つまり、ただでさえ涙を流しがちであるのに、「扇までも」見ると涙を誘うのだということになり、扇だけが恋人の仕打ちを思い出させるものだとは言つてはいけないのである。また、「扇も流してしまおう」というのも間違つてゐる。扇を見る涙を流してしまおうと詠んでゐるのも間違つてゐる。扇を見ると涙とは詠んでいない。

②は、「亡き父母を弔うために着ていた喪服を脱ぎ」が間違い。「墨染めの袖」は僧衣や喪服を表す言葉であるし、たしかにA～Cの歌を詠む直前で、

姫君は「父母の御菩提をもとぶらはばや」と言つてゐるので、姫君の父母が亡くなつてゐることはわかつる。しかし、姫君の父母が亡くなつたのが最近で、姫君がその喪中であるという記述は本文になく、「ただ一すぢに後の世のいとなみ、大事と思し召し」や「憂き世をそむく身となりて」とあることから、「墨染めの袖」は、俗世を捨てた尼のような姿になつてゐることを示す表現だと考えられる。また、このB歌で、姫君はそのように「墨染めの袖」を身にまどつて生きていくつもりだと詠んでゐるのであつて、それを「脱ぎ」というのは、この歌の趣旨とは逆である。

③は、「その流れの中に自らの住み処を求めて身を投げよう」が間違い。C歌の「我が心さへするなりけり」は、「澄んだ気持ちになる」と言つていいだけで、「身を投げよう」とは言つていない。

④は、「恋しい人は自分から遠く離れて行き、今もどこかをさまよつてゐるのだろう」が間違い。D歌は、その直後の本文からわかるように、少将が「我が身」について「流れさせはれゆくことの悲しさ」を感じて詠んだ歌である。「恋しい人」、すなわち姫君が遠く離れて行つたことを思つて詠んだ歌ではない。

⑤は、E歌についての説明である。E歌は、少将が拾い上げた扇に書かれていた歌で、「たづねる人の手」、すなわち姫君の筆跡だとあることから、詠んだのは姫君である。E歌の「つらし」とも思はぬ我」は、選択肢が記すように「別れた恋人を薄情だとももう思つてないはずの自分」と解釈できる。「つらし」は覚えておくべき古語である。

- つらし（ク活用形容詞）  
1 心苦しい。つらい。  
2 思いやりがない。薄情だ。

第二段落の最初にあるように、姫君は、「憂かりし人を恨」んだために、山奥へやつて来て、少将のことも思い切ろうとしているのだから、この「つらし」は「薄情だ」の意でとらえるのが適當である。そして、E歌の「扇の風におどろかす」の「おどろかす」には、

おどろかす（サ行四段活用動詞）

- 1 気づかせる。  
2 目を覚まさせる。  
3 びっくりさせる。

の意があるが、ここでは、扇がもたらす風によつて、この歌の作者である姫君が何かに気づかされるということである。扇が恋人であつた少将の形見の扇であることと、上の句とのつながりを考えると、姫君が気づかされるのは、ふだんは「つらし」とも思はぬ相手、つまり少将の、「つらし」と思われるかつての様子についてであろう。

最後に、「らん」は助動詞で、以下のよだな用法がある。

らむ（らん）（助動詞）

1 現在推量 「(今)」へ～しているだろう」。

2 現在の原因推量 「(どうして)～(いる)だろうか」。

3 現在の伝聞・婉曲 「～(ている)ような」。

※ 「～らむ十体言」「～らむ+助詞」のようない形のとき、3の現在の伝聞・婉曲用法になる。

）では、歌の最後にあり、下に体言も助詞も統かないでの、「らん」は右記の3の用法ではない。また、姫君が、自分の心情について現在推量を用いて、「私は、今～少将の薄情な様子を思い起こしているのだろう」と言うのは不自然であるから、1の用法でもない。2の現在の原因推量の用法だと考えるべきである。「私は、どうして少将の薄情な様子を思い起こしているのだろう」と、自らの思いの原因を考えて歌にしてゐるのである。その内容は、選択肢の「形見の扇を目にする」と、その人を思い起こして恨めしくなるのはなぜだろうか」という表現と一致する。したがつて、⑥の記述は正しい。正解は⑥である。

## 問5 心情の説明問題

傍線部自体は、ほぼ現代語でも用いられる表現で、容易に理解できる。選択肢のうち、①「たとえようもなく気がかりに思う」、②「この上なく不安な」、④「いつまでもよくよと悩んでいる」、⑥「～いまでも悔やまれる」は、傍線部の「心細さは限りもなし」と結びつく表現だが、③「かすかな希望を抱く」はすぐには結びつかない。まず、この点を見る限り、③は正解ではなさそうである。

次に、傍線部の直前を見ると、「死に給へると聞きたらんときは、我が身は何とかならん」を、格助詞「と」が受けて、傍線部につなげている。「と」が受けた部分は少将の心中で、「我が身」は少将の

こと、「死に給へる」の主語は、少将の心中部で尊敬語が使われていることから、姫君である。すなわち「姫君がお亡くなりになつたと聞いたらその時は、我が身はどうになるのだろうか」と考えているのである。よつて、傍線部は、姫君が死んでいたらどうしようかという不安の表現だということになる。①「姫君の身に何かあつたからではないか」・②「姫君が死んだなら自分はどうなつてしまうのか」は、この本文の内容と結びつく。

それに対して、⑤の「姫君がもうすでに死んでしまつている以上」は、姫君の死を既定のものとしている点が間違っている。本文の「死に給へると聞きたらんときは」の「ん」は、婉曲・仮定を表す助動詞で、まだそのことが定まつていないことを示す語だから、少将にとつて「死に給へると聞きたり」ということはまだ起きていらない。つまり、少将は、まだ姫君の死の知らせを聞いてはいないが、もしそのようないきを聞いたらどうしようかと心配しているにすぎない。さらには、扇について「かつて歌を詠み交わした時に姫君が手に持つていたものだ」というのも本文に根拠がないので誤りである。

③は「姫君が川に身を投げた」という表現で姫君の死に触れるが、結局のところ、「思い出にすがれば生きていたのではないか」と思つたとは、本文のどこにも書かれおらず、傍線部直前から傍線部にかけての記述と無関係の内容を、少将の心情としてまとめており、また、前述のとおり、傍線部の内容から大きくはずれていることからも、正解にはなり得ない。

④は、「姫君が……扇を捨ててしまつたのだと悟り」とあるのみで、少将が姫君の死を恐れていることに触れていないので、間違いである。当然、それがもとで「いつそのこと川に身を投げて死んでしまおうか」と少将が思つたというのも、本文に根拠がなく、不適切である。よつて、正解は①か②に絞ることができる。

①と②の選択肢を比べた場合、①の「やはりこの先に姫君の住む家があるのでうれしく思う」という記述には根拠がない。現実には、その川の上流に姫君の住まいがあるのだが、扇を拾つて以降、少将は「この人は川に身を投げたるにや」と悪い想像をめぐらせるばかりで、その上流に姫君の住む家があると思つたとは書かれていない。一方、②の「もともと自分が持つっていたもので」は本文の「我が持ちなれし扇なり」と、「しかも姫君の筆跡で歌が書かれていた」は本文の「歌はたづねる人の手なり」と、「姫君は川に身を投げたのではないかと思ひ

は本文の「この人は川に身を投げたるにやと思ひ」とそれぞれ対応し、「姫君が死んだなら自分はどうなつてしまうのか」は、先述の傍線部の直前部分と一致するので、正しいことがわかる。

正解は②である。

#### 問6 表現と内容の説明問題

センター試験の古文では、表現についての説明問題は必ず出題される。本問のように「表現の特徴と内容についての説明」を求めるかたちで、最後の設問として出題されるのが、もつともよくある形式である。ただし、ほとんどの場合、各選択肢は本文の内容にも触れており、むしろその内容の一一致・一致が選択肢の正誤を判定する要点になつてていることが多いので、表現に関わる問題だということはそれほど意識する必要はなく、ひとつひとつの選択肢が本文の表現と内容に照らして正しいかどうかをきちんと見比べれば、正解を導くことができる。

①は、「(少将と兵部尉の)喜びが強調される」と

もに、尼君は困窮した衆生を救う菩薩の変化であつたことが暗示され」に根拠がない。たしかに尼君は少将と兵部尉に救いの手を差し伸べるし、少将の疲労を回復させ、姫君のもとへの道を示すことになるのだが、少将や兵部尉の喜びが、直接的な表現で語られてはいないし、まして尼君を菩薩と結びつける記述はない。また、「少将と兵部尉が徐々に疲労の度を深めていく様子が段階を追つて詳細に記されているとも言えない。少将と兵部尉は、本文1行目すでに、「身も弱り、心も疲れはて給ひけり」と、すっかり疲れはてた姿で登場する。

②は「流されて」が少将にあてはまらないので間違いである。少将は、行方不明の姫君を捜して、みずから旅に出たのである。なお、②には他にも間違つた記述がある。「和漢混交文」とは、中世に多く見られる、和文のなかに漢文訓読の文体の影響を色濃く受けた文体を言う。『平家物語』の冒頭の文章などがその典型としてよく挙げられるが、今回の本文は概して和文調であり、和漢混交文とは言えない。当然、そうしたことによつて「物語全文の懷古的な雰囲気」が伝わるということも認められない。ただし、選択肢の前半部分は、一般論としてはおおむね正しい。「貴種流離譚」などと呼ばれるが、高貴な生まれである人物が、自身の本来あるべき場所にいられず、様々な苦難に直面するという展開は、様々な古典に見られ、『伊勢物語』において主人公の男が都にいづらくなつて東国に下つたり、『源氏物語』において主人公の光源氏が一時都を離れて須

磨や明石で過ごしたりする話などは、その例として引かれることが多い。しかし、選択肢の説明の中で

「恋のために」「流されて」という部分は不正確で、特に「流されて」は『伊勢物語』にも『源氏物語』にも当てはまらない。これが、今回の物語の少将にも当てはまらないことは前述のとおりである。

③は、「前半部は、登場人物の会話を中心に物語が展開し」は正しい。兵部尉と道行く人たち、特に尼君との対話が中心になっている。中でも、5行目から7行目にかけての兵部尉の発言は、少将の事情を説明しており、8～9行目の尼君の発言によつて、姫君の居場所の手がかりが示される。後半部は、二つの場面から成り立っている。その前半は、姫君が、俗世を捨てて生きようと思う気持ちと、少将のことを思い出さずにはいられない気持ちとの葛藤に悩み、少将の形見の扇を川に捨てる様子を、その時姫君が詠んだA～Cの歌を中心に描いている。

後半は、姫君に会えないままさすらう少将のつらさを、Dの歌を中心いて描いている。最後の場面では、少将は川を流れてきた扇を拾い、そこに書かれていたEの歌を見て、それが姫君の手もとにあつたものだと悟り、姫君の身を案じることになる。これらは姫君と少将の「思うにまかせない心情が、二人の歌を中心として表現されている」と説明でき、選択肢③の記述は正しいことがわかる。

④は、「姫君と少将の歌のやりとり」という部分が決定的に違う。本文中には姫君の歌が四首、少将の歌が一首あるが、いずれもそれぞれが一人でみずからの思いを歌に託したというだけのものであつて、二人のやりとりにはなつていない。したがつて、そのことで、「二人の心のすれ違い」が「取り返しのつかないことのように」描かれることもない。

⑤は、「尼君にだまされたと絶望する少将」が決定的な間違いである。本文の最後まで読んでも、まだ少将は姫君に会えていないが、確実に姫君に近づいていることは、姫君が流した扇を少将が拾うことからもわかる。少将は、自分がどこまで行かなければならぬのかという不安を、紅葉を見ながら歌に詠んではいるが、その時点でも、今自分が向かっている川上に姫君がいないと確信しているわけではないし、まして道で会った尼君が意図的に事実と違うことを教えて自分をだましたと思つてゐるわけでもない。少なくともそのような少将の心情を示す表現は、本文にはない。

以上により、正解は③であるとわかる。

#### 第4問 漢文

【出典】 鄭克『折獄龜鑑』

原本は全二十巻であったが、十五巻が失われてしまった。現在伝わっているのは、『永樂大典』（明の永樂帝の勅命で編纂された類書）に収められている同書の記事を合わせて八巻本としたものである。鄭克は北宋末から南宋初の官僚であるが、正史に伝記は残されていない。書名の『折獄龜鑑』とは、「捜査官・裁判官が」事件の解決と裁決に当たる際の規範（を集めた書物）の意である。前近代の中国においては、地方長官が警察・司法の長をも兼ねていた。本書は、古今の地方長官による事件の捜査と裁決の実例を集めた五代の和凝の『疑獄集』を増補し、二十の部門に分類したものである。本文は卷七「察盜」（盜賊を取り締まる）に収められている「韓褒置帥」（韓褒が盜賊取り締まり役を置く）に拠つた。

#### 【本文解説】

刺史の韓褒の任地では、山間部であることも災いしてか、盜賊が跋扈していた。事件の調査を始めると首謀者はなんとこの地方の有力者であるらしい。韓褒は素知らぬ顔で有力者たちに近づき協力を依頼する一方、土地の不良少年を集めて調査に当たらせ、犯人を摘発できない場合は担当の不良少年が故意に見逃したと見なしして処断するとした。この措置に恐れ入った不良少年が自白して、仲間の盜賊の名前や隠れている場所まで告げると、韓褒は、期限内に自首した者は免罪とするが、逃亡した者は極刑に処するとの立て札を出し、盜賊たちを自首させることに成功した。

地方の土豪劣紳（悪徳ボス）の犯罪を、「偷を以て盜を治す（盜人を使って盜人の取り締まる）」方法で鮮やかに解決した韓褒の手並みを見てほしい。中央政府の権威の及ばない地方では、中央から派遣された官僚がただ強圧的に事件の解決に当たつても、問題は全く解決しない。実情を確實に把握したうえで、人情の機微を押さえ、厳罰と温情とを巧みに使い分けてこそ問題を解決できるのである。

#### 【書き下し文】

後周の韓褒は北雍州の刺史たり。州北山をお帶び、多く盜賊有り。褒密に之を訪ぬるに、並びに豪右の為所なり。而るにひつて之を知らずとし、厚く礼遇を加へ、謂ひて曰はく、「刺史起つに書生よりすれば、安んぞ盜を督するを知らん。頼む所は卿等の共に其の憂ひを分かたんのみ」と。乃ち悉く桀黠の少年の素より郷里の思ひと為る者を召し、置きて主帥と為す。其の地界を分かち、盜の發りて獲ざる者有れば、故に縦すを以て論ず。是に於いて惶懼首服して曰はく、「前

に盗の発るは、並びに某等之を為す」と。有る所の徒

侶は、皆其の姓名を列す。或いは亡命匿する者は、

亦た悉く其の所在を言ふ。褒乃ち盜の名簿を取りて

之を藏し、因りて州門に大勝して曰はく、「自ら盜を

行ふを知る者は、急ぎ來たりて首さば、即ち其の罪を

除かん。今月を尽くして首さざる者は、其の身を願ひ

し、妻子を籍没して、先に首す者を賞せん」と。旬

日の間、諸盜悉く首し尽くす。褒名簿を取りて之を勘ふるに、一に差異無し。並びに其の罪を原し、許

すに自新を以てす。是より群盜屏息す。

### 【全文解釈】

北周の韓褒が北雍州の長官を務めていた（時の）ことである。（北雍）州は北山（の山並み）に開まれ、盜賊が頻々と出現した。褒が内密に聞き込みをしたところ、（事件は）すべて（土地の）有力者たちの仕業であった。ところが（褒はそのことを）知らぬふりをして、（その有力者たちを）手厚くもてなして、（有力者たちに）言った、「私は書生上がりなので、盜賊の取り締まりなど出来ようはずもありません。私が頼みとすることは、あなた方が私の悩みを分かちあつてくれるだけです（＝あなた方が一緒に盜賊の取り締まりに当たつてくれる）ことです」と。かくして（褒は）日頃土地の悩みの種となつてゐる凶暴で悪賢い若者たちをすべて召し出し、（彼らを）総指揮官として配置した。（受け持たせる）地域を分け、（それぞれの地域に）盜賊が出ても捕らえられないことがあれば、わざと見逃したとして（その地域担当の総指揮官の若者を）処罰することとした。すると（総指揮官に任命された若者たちは）恐れおののき、自首して罪に服して言つた、「これまで盜賊が出たのは、みな私どものしたことです」と。（彼らは）一味すべての仲間の姓名を挙げた。また逃亡したり潜伏したりした者たちについても、すべてその居所を告げた。褒はそこで盜賊の名簿を手に入れてしまつておいて、州の門に大きな立て札を立てて記した、「自分が盜みを犯したと承知している者は、急ぎ自首して来たら、すぐにその罪を免ることとする。今月中に自首しない者は、自身は見せしめに死刑にし、妻子を財産として没収して、（その財産を）先に自首した者に褒美として与えることとする」と。十日の間に、盜賊たちはみな自首した。褒が名簿を持つてきて調べたところ、名簿（に記載された名前）とまったく相違がなかつた。（褒は）すべてその罪を許し、心を入れ替え（て再出発する）ことを認めた。それ以来、盜賊たちは息をひそめた。

## 【重要語・基本句形】

### (1) 重要語

○為ハセ——である

○密ヒカシ 内密に

○並ハタハタ みな・すべて

○所ハコ ——（する）こと・もの

○而ハタク ところが・しかし

○自ハセ ——から

○乃ハナシ そこで

○悉ハタハタ みな・すべて

○素ハタハタ 普段から・日頃

○故ハタハタ 故意に・わざと

○於ハタハタ するに・そこで

○所ハコ あるに・あるに

○故ハタハタ するに・そこで

○於ハタハタ するに・あるに

○所ハコ あるに・あるに

○故ハタハタ するに・そこで

○耳ハスル 自分で・自分から

○即ハサハサ やはり・もまた

○亦ハサハサ そこで

○因ハサハサ すべての・あらゆる

○所ハコ あるに・あるに

○故ハタハタ するに・そこで

○所ハコ あるに・あるに

○故ハタハタ するに・そこで

○耳ハスル だけだ〔限定形〕

○一無ハタハタ まつたく——がない〔否定の強調〕

※（セ）は活用語の未然形、（スル）は活用語の連体形、（ヤ）は終助詞をそれぞれ表す。

(2) 基本句形

○安ハシハシ どうして——しようか（いや

——しない）〔反語形〕

○——（スル）のみ 耳ハスル ——だけだ〔限定形〕

○一無ハタハタ まつたく——がない〔否定の強

調〕

(2) 「所有」は(1)「有る所」のと読んで下の名詞を修飾する語である。「自分のものとして持つているもの」あるいは「そこに存在するかぎりのもの」という意味から、軽じて「すべての・あらゆる」という意味で用いられるので、押さええておこう。正解は④である。

(2) 「自新」は「自分で自分を新しくする」、つまり「自分の従来の態度を改めて新しい人間になる」という意味であり、「自ら新たにす」と読むこともできる。「自」がここでは「自分で自分を」という意味で、動作の主体が動作の対象でもある再帰用法の語としてはたらいでいることにも注意しておこう。正解は①である。

### 問2 返り点の付け方と書き下し文の問題

#### 問1 語の意味の問題

(1) 「所有」は(1)「有る所」と読んで下の名詞を修飾する語である。

「自分のものとして持つているもの」あるいは「そこに存在するかぎりのもの」という意味から、軽じて「すべての・あらゆる」という意味で用いられるので、押さええておこう。正解は④である。

(2) 「自新」は「自分で自分を新しくする」、つまり「自分の従来の態度を改めて新しい人間になる」という意味であり、「自ら新たにす」と読むこともできる。「自」がここでは「自分で自分を」という意味で、動作の主体が動作の対象でもある再帰用法の語としてはたらいでいることにも注意しておこう。正解は①である。

「返り点の付け方と書き下し文」の問題は、前後の文脈を検討し、そこに当てはまる意味として最もふさわしい書き下し文を選べばよい。

傍線部までの内容を要約すると、刺史の韓褒の任地では、盗賊による事件が頻発していたが、事件の調査を始めると首謀者はこの地方の「豪右」（有力者）であることがわかった、となる。傍線部は、それを知った後に「韓褒」がとった行動であるとまず押さえよう。特に、書き下し文の前半に注目して選択肢を検討する。

①の前半「而して陽に之を知らずして」は「そして明らかにこれを知らないで」と直訳である。「之」の内容は、「盗賊が（この地方の）有力者であったこと」と考えられる。すると、内密の調査の結果、盗賊の首謀者がこの地方の有力者であると韓褒は知つていたのだから、その事実に反する内容になつてしまつ。

②「而るに之かずして知ると陽りて」は、「それなのに（韓褒は）行かないで知つたと偽つて」と直訳である。韓褒がどこに行かなかつたのかが出ていない上、なぜ偽つたのかも不明である。

③「而して陽に之がざるも知りて」は、「そして（韓褒は）明らかに行かなかつたが知つて」と直訳できる。これも、「明らかに行かなかつた」との表現が漠然としている上に、「知る」の対象が明確ではない。

④「而るに陽りて之を知らずとし」は、「それなのに（韓褒は）偽つて盗賊がこの地方の有力者であつことを知らないふりをして」と直訳できるので、最も文脈に適合する。後半の「厚く礼遇を加へ」も「韓褒は有力者たちを）手厚くもてなし」と解釈でき、文脈に合う。

⑤「而して之かざるを陽るるを知るも」は、「そして（韓褒は）行かなかつたふりをしたのを知つたが」と直訳できる。先にも述べたとおり、ここでは、「知る」主体は文脈から「韓褒」と判断できるので、「行かなかつたふりをした」のが誰の行為か、「之に」に行かなかつたのがやはり特定できない。したがつて、正解は④である。

### 問3 解釈の問題

傍線部が韓褒の発言であることを押さえた上で選択肢を検討する。文脈から、発言の相手である「卿等」（あなた方）は、「豪右」（この土地の有力者）であるとわかるはずである。すると、選択肢の前半の「私があなた方にお願いするのは」と「私が頼みとするのは、あなた方が」のどちらの解釈がよりふ

さわしいのかを決定する根拠は、文脈上見出せない。したがつて、選択肢の後半を検討してゆく。  
まず「其憂」の指示内容に注目する。「憂」とは「悩み・心配事」の意味なので、発言者の韓褒が当面悩んでいることは何かを考えると、それは文脈から判断して「盗賊の横行」しかない。すると、「分其憂」は、「悩みを共有する」の意味となる。この意味にふさわしい選択肢を選ぶ。なお、傍線部末尾の「耳」は「のみ」と読んで限定・強調の意味を表すが、ここでは強調の意味を表していると考えるのが適切である。

①「給料に見合つた仕事をしていただき」と、「あなた方が私と共存共榮の道を探つてくれる」と、⑤「あなた方がみな学問に励み身を慎んでいてくれていたこと」は、いずれも韓褒の悩みの内容として不適当である。②「全員そろつて他の土地に避難してくれる」とは、本文のどこにも言及されていない内容なので不可と判断する。残つた③「あなた方が一緒に盗賊の取り締まりに当たつてくれる」と、④「あなた方がみな学問に励み身を慎んでいたこと」が、韓褒の悩みの内容を最も適切に解釈している。したがつて、③が正解である。

### 問4 理由説明の問題

まず傍線部「惶懼首服」（恐れおののき、自首して罪に服する）したのは誰かを考える。傍線部は、「分其地界、有<sub>レバ</sub>盜發而不獲者、以<sub>シテ</sub>故<sub>ヲ</sub>縱論」（受け持たせる地域を分け、それぞれの地域に盗賊が出ても捕らえられないことがあれば、わざと見逃したとしてその地域担当の総指揮官の若者を处罚することとした）を、「於<sub>イチ</sub>是<sub>イチ</sub>」（すると）と受けしており、さらに傍線部ははさんで「前盜發者、並<sub>シ</sub>某等為<sub>シ</sub>之<sub>ヲ</sub>」（これまで盗賊が出たのは、みな私どものしたことです）とあるので、「惶懼首服」したのは、盗賊取り締まりの総指揮官に任命された若者であるとわかる。すると、総指揮官の若者が恐れおのいたのは韓褒の彼らに対する厳しい方策であったことが理解できるだろう。

つまり、盗賊取り締まりの総指揮官に任命された不良少年たちは、盗賊を捕らえられなければ検挙されてしまうというのである。要するに、総指揮官の不良少年たちは、「盗賊を捕らえる」か、「盗賊を見逃した罪で処罰される」かの二者択一を迫られ、完全に追い詰められたわけである。

以上の内容の説明として最もふさわしい選択肢は①「韓褒が土地の不良少年に盗賊の取り締まりに当たらせ、盗賊が捕縛されない場合は、故意に見逃したと見なして、彼らを処罰することにしたから」で

ある。②は「盜賊を捕らえた者に褒美として有力者の土地を分け与えることにした」の部分が本文には記されていない内容である。③は「韓褒が盜賊の被害にあつた土地の人々に武器を貸し与えて自警団を組織させ、盜賊と見なした者を捕らえて殺す権限を彼らに与えることにした」の部分が本文の内容と異なる。④は「韓褒が住民に盜賊を見逃すように命じたことで、盜賊が姿を現し、一度に全員を逮捕するに成功した」の部分が本文に記されていない。したがって、正解は①である。

選択肢を見て、②「除」は「のぞく」(除外する・取り除く)、③「盜」は「ぬすむ」(盗む・自分のものにする)、④「隠」は「かくす」(隠す)・「かくる」(隠れる)、⑤「分」は「わかつ」(分ける)・「わかる」(分かる)と、それぞれ動詞として読めることに注意したい。それを踏まえた上で、立て札に掲示された内容から検討してゆこう。

空欄を含む文の直前の一文である「自首ヲ知ル行フ盜ヲ者ハ急ギ來タ首ヲ即チ除ケンノ其ノ罪ヲ」は、「自分が盜みを犯したと承知している者は、急ぎ自首して来たら、すぐにその罪を免することとする」程度に解釈できる([全文解釈]を参照)。この一文で、選択肢①に掲げられている「首」が「まうす」(自首する)という動詞として用いられていることに注意したい。(注9)「惶懼首服」の「恐れおののき、自首して罪に服する」という内容からも、この意味が導けよう。「自首すれば免罪になる」との文脈を把握しておく。

次に、最初の空欄の直前の「尽クシテ今月ヲ」(今月中に)から、韓褒が自首の期限を切つたことを押さえた上で、(注12)と(注13)を参考に「顕ワシシ其ノ身ヲ籍シテ妻子ヲ」を解釈してみると、「自身は見せしめに死刑にし、妻子を財産として没収して」となるので([全文解釈]を参照)、「尽クシテ今月ヲ不レル」者ハ顕ワシシ其ノ身ヲ籍シテ妻子ヲ」は、要するに「今月中に[X]しなければ、極刑に処せられる」という意味になることを押さえておく。つまり、空欄には動詞が入ることになる。

さらに、二番目の空欄を含む一文「賞セシニ先キ者ヲ」の内容を考える。空欄が動詞であることは、先に検討したとおりなので、「先んじて[X]する者には褒美を与える」と解釈できよう。

## 問5 空欄補充の問題

選択肢を見て、②「除」は「のぞく」(除外する

## 問6 内容説明の問題

傍線部「二無差異」は、「まったく相違がない」という意味である(2)基本句形の項を参考)。それを押さえた上で、傍線部の直前の部分に注目する。「褒取ヲ名簿ヲ勘ラ之ヲ」(褒が名簿を持ってきて調べたところ)とあるので、問題となるのが「名簿」であることがわかる。「名簿」については、本文中に「所有徒侶ヲ皆列ス其ノ姓名ヲ或イハ亡命隠匿スル者ハ亦悉ツ悉ツ其所在ヲ褒乃取リテ盜名簿ヲ藏シ之ヲ」(盜賊取り締まりの總指揮官に任命された若者たちは一味すべての仲間の姓名を挙げた。また逃亡したり潜伏したりした者たちについても、すべてその居所を告げた。褒はそこで盜賊の名簿を手に入れてしまつておいて)とあるので(問1・(1)の解説および[全文解釈]を参照)、盜賊の名を記したものであることがわかる。その上で立て札に對する盜賊の反応を示す「旬日之間、諸盜咸悉尽ス」(十日の間に、盜賊たちはみな自首した)の箇所を想起しよう。当然ながら、「自首した盜賊たちの名が、盜賊の名簿に記された名と完全に一致した」ということである。したがって、正解は⑤「名簿に記された名前と自首した盜賊の名前が一致していた」である。①~④はいずれも「名簿」に触れていないので不適切である。

最後に、立て札に對する盜賊たちの反応を検討してみよう。「旬日之間 諸盜咸悉首尽ス」(十日の間に、盜賊たちはみな自首した)とあるので、盜賊たちがみな自首したことが読み取れる。

全体の文脈を整理すると、「自首すれば免罪」→「Xしなければ極刑」→「先んじて[X]する者には褒美」→「盜賊全員が自首」との流れになる。空欄に入る語が「自首する」=「首」であるのは明白だろう。したがって、正解は①である。

②から⑤の選択肢も確認しておくと、②「除」(除く)では、「除く」対象が特定できず、空欄二箇所とも意味が通らない。(3)「盜」(盗む)、④「隠」(隠す・隠れる)も空欄二箇所とも意味が不明となる。⑤「分」(分ける・分かる)も「分ける・分かる」の対象が不明なので、やはり不適切である。

## 問7 理由説明の問題

本文全体の展開を今一度確認してみよう。

a 刺史の韓褒の任地では、盜賊が横行していくた。

b 事件の調査を始めるに首謀者はなんとのこの地方の有力者であるらしいことがわかつた。

韓褒は素知らぬ顔で有力者に近づき協力を依

頼した。

- c 韓褒は、一方で土地の不良少年を集めて盜賊の取り締まりに当たらせ、犯人が摘発できない場合は故意に見逃したとして処断するとした。

d この措置に恐れ入った不良少年が仲間の盜賊の名前や居所を自白すると、韓褒は、期限内に自首した者は免罪、逃亡した者は極刑とする立て札を出し、盜賊たちを自首させることに成功した。

これを踏まえた上で、本文末尾の部分の内容を確認してみる。「並原<sup>二</sup>其罪<sup>一</sup>、許<sup>二</sup>以<sup>一</sup>自新<sup>ヲ</sup>。由<sup>レ</sup>是群盜屏息」（褒はすべてその罪を許し、心を入れ替えて再出発することを認めた。それ以来、盜賊たちは息をひそめた）とあり（問1・(2)の解説および【全文解説】を参照）、韓褒が実際に自首した盜賊たちの罪を問わなかつことで、かえつて盜賊の横行が終息したことがわかる。

以上を整理してみると、韓褒は、bのように表向きもの柔らかな態度を装いつつ、cのような強硬策を取り、かつdに見られるように、自首すれば免

罪、自首しなければ極刑という通告を行い、言葉を違えず自首した者を許すこと、盜賊たちを心服させたのである。この展開をまとめた選択肢を選べばよい。

したがって、正解は②「事前調査で土地の者が盜賊だと知りながら、素知らぬ顔で土地の者に取り締まりに当たらせて威圧する一方、期限を切つて自首した者は罪を許し、自首しなかつた者は厳罰に処すという飴<sup>あめ</sup>と鞭<sup>むち</sup>を巧みに使つたから」である。

①は「謙虚に土地の有力者に助言を求め、住民の信頼を得るために力を注ぐなど、地域の協力を仰いで準備を整えた上で逮捕に乗り出した」と説明しているが、韓褒の厳格な対応に触れていない。③は「盜賊同士の不信感を煽<sup>おき</sup>つて内部分裂をはかり、結果として盜賊が自滅するように追い込んだ」が本文中に記されていない内容である。④は「その根本的な原因がこの地域の貧困にあることを知り、地域経済を豊かにすることによって盜賊の数を減らした」が本文の内容と対応していない。⑤は「裏では住民の密告を奨励する恐怖政治を行つて、少しでも罪を犯した者はすべて逮捕してしまつた」が本文の内容と矛盾する。よつて、①・③・④・⑤はいずれも不適切な説明である。

# 【地理歴史】

## 世界史 A

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点	
第1問	A	問1	③	3		
		問2	①	3		
		問3	③	3		
		問4	①	3		
	B	問5	③	3		
		問6	②	3		
		問7	④	3		
		問8	④	3		
	C	問9	②	3		
		問10	①	3		
		問11	④	3		
第1問 自己採点小計			(33)			
第2問	A	問12	③	3		
		問13	②	3		
		問14	①	3		
		問15	③	3		
	B	問16	①	3		
		問17	①	3		
		問18	④	3		
		問19	①	3		
	C	問20	④	3		
		問21	②	3		
		問22	③	3		
第2問 自己採点小計			(33)			
第3問	A	問23	②	3		
		問24	①	3		
		問25	①	3		
	B	問26	④	3		
		問27	②	4		
		問28	①	3		
		問29	③	3		
	C	問30	③	3		
		問31	②	3		
		問32	②	3		
		問33	④	3		
第3問 自己採点小計			(34)			
自己採点合計			(100)			

### 【解説】

#### 第1問 世界史上の都市の成立と発展

##### 【出題のねらい】

都市の成立と発展について、Aでは中世西ヨーロッパの都市の成立と発展を、Bでは中国の代表的海港都市である広州を、Cではアフリカにおけるイスラーム化の進展と都市の発展を、それぞれ扱って出題した。

##### 【設問別解説】

A

問1 ① ③

③イギリスでは、18世紀ころに穀物の増産を目的に第2次囲い込み(エンクロージャー)が行われ、多くの自営農民が土地を失った。なお、16世紀ころには羊毛の増産をめざして第1次囲い込みが行われた。①インダス文明は青銅器文明であり、鉄製農具は使用されなかった。インドにおける鉄器の使用は、インド=ヨーロッパ語系のアーリヤ人が、前1000年すぎにガンジス川流域に進出したころに始まったとされている。②トウモロコシはアメリカ大陸原産の作物であり、ヨーロッパや中国にもたらされたのは、15世紀に始まる大航海時代以降。したがって、7世紀から10世紀に中国を支配した唐で栽培されたことはない。④ホームステッド(自営農地)法は19世紀の南北戦争中、アメリカ連合国(連邦)ではなく、アメリカ合衆国のリンカーン大統領が、西部農民の支持を得るために制定したもの。アメリカ連合国は、奴隸制の拡大に反対する共和党のリンカーンが大統領に当選したことに反発した南部諸州が、合衆国から離脱して建国した国。

問2 ② ①

①a ナポレオン1世は、1806年にライン川以東の西南ドイツ諸邦をあわせてライン同盟(ライン連邦)を結成し、これによって神聖ローマ帝国は名実ともに消滅した。b ラインラントは、ドイツ西部のライン川流域の地域で、第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約やその後のロカルノ条約により、非武装化が規定されていた。しかし、ヒトラーの指導するナチス=ドイツは、第二次世界大戦前の1936年にラインラントに軍を進駐させた。

問3 ③ ③

③クリミア戦争は19世紀半ば、南下をめざすロシアがトルコと戦った戦争。ロシアの南下政策を脅威と考えたイギリス・フランスや、サルデーニャ(サルディニア)王国がトルコ側で参戦した。ロシアは敗北し、パリ条約によってロシアの南下政策は挫折した。①サンスーシ宮殿は、プロイセンのフリード

リヒ2世(大王)が、フランスのパリではなく、ブロイセンの都ベルリンの郊外に建設したロココ式の宮殿(第2問 問6 ④の解説参照)。②第1回万国博覧会は19世紀半ば、パリではなくイギリスのロンドンで開催された。④国際連盟は、第一次世界大戦後に成立した集団安全保障機関で、パリではなくスイスのジュネーヴに本部が置かれた。

問4 [4] ①

①19世紀後半、イタリア王国は普墺(ブロイセン=オーストリア)戦争を機に、当時オーストリア領であったaのヴェネツィアを併合した。④bのローマ教皇領は、1870年に勃発した普仏(ブロイセン=フランス)戦争に乗じてイタリア王国が併合した。以後ローマ教皇はイタリア王国と断交し、この状態はムッソリーニが1920年代に教皇庁と関係を改善するまで続いた。

B

問5 [5] ③

③清の乾隆帝は、18世紀半ばにヨーロッパ諸国との貿易港を広州一港に限定し、<sup>ヨホン</sup>公行と呼ばれる特許商人組合に貿易を独占させた。①康熙帝は、17世紀後半から18世紀前半にかけての清の皇帝。三藩の乱を鎮圧し、鄭氏台湾を征服し、ロシアのピョートル1世(大帝)とネルチンスク条約を締結した。②雍正帝は18世紀の清の皇帝。軍事・行政の最高機関として軍機處を設置し、また、ロシアとキャフタ条約を結んだ。④宣統帝(溥儀)は、辛亥革命で退位した清朝最後の皇帝。満州事変のさいに、日本が成立させた満州国の執政となり、のちに皇帝となった。

問6 [6] ②

②12世紀前半の靖康の変で、北宋の都の、臨安(杭州)ではなく開封(汴京)が金に占領され、北宋は滅亡した。臨安は、北宋が滅亡したのちに高宗が建てた南宋の都。①長安は、黄河の支流である渭水流域の都市で、前漢や唐などの都が置かれた。③モンゴル帝国のフビライ=ハンは大都(現在の北京)に遷都し、国号を元とした。④明は、朱元璋(洪武帝)が南京を都として創始した王朝。のち、永楽帝が北平(北京)に遷都した。

問7 [7] ④

④イギリスは、19世紀にビルマ戦争を起こし、ビルマ(ミャンマー)をイギリス領インドに併合した。①スペイン領の、タイではなくフィリピンで、ホセ=リサールが独立運動を展開したが、刑死した。タイは、ラタナコーシン(チャクリ)朝のもとで独立を維持した。②フランスではなくイギリスが、マレー半島南部に、シンガポール・マラッカ・ペナンから

なる海峡植民地を建設した。フランスは、19世紀後半にベトナム・カンボジアをあわせてフランス領インドシナ連邦を形成し、のちにラオスもこれに編入した。③カンボジアではなくインドネシアで、サレカット=イスラーム(イスラーム同盟)が結成され、オランダに自治を要求した。

問8 [8] ④

④スペインのコルテスではなくピサロが、ペルー(アンデス高地)のインカ帝国(インカ文明)を滅ぼした。コルテスは、メキシコのアステカ帝(王)国(アステカ文明)を滅ぼした。①バルトロメウ=ディアスは、15世紀後半にアフリカ南端の喜望峰に達したポルトガルの航海者。②ヴァスコ=ダ=ガマは、15世紀末に喜望峰を回ってインド西岸のカリカットに到達したポルトガルの航海者。③コロンブスはトスカネリの地球球体説を信じ、スペインのイサベル(イサベラ)女王の援助を得て西回りでインドをめざし、1492年にサンサルバドル島に到達した。

C

問9 [9] ②

②1960年は多くのアフリカ諸国が独立したため、「アフリカの年」と呼ばれている。①トンプクトゥは、モノモタバ王国ではなく、西アフリカのマリ王国やソンガイ王国の経済・文化の中心として栄えた。モノモタバ王国は、アフリカ東南部に成立した国。③ガーナは1957年、カストロではなくエンクルマを指導者としてイギリスから独立し、サハラ以南における第二次世界大戦後初の独立国となった。カストロはキューバの指導者で、1959年のキューバ革命でバティスタ政権を倒した。④南アフリカ共和国のマンデラは、アパルトヘイト(人種隔離政策)を導入したのではなく、これに抵抗した黒人運動家。アパルトヘイトは、20世紀初めから南アフリカ連邦で行われた白人優位の人種隔離政策で、南アフリカ共和国でも継承されたが20世紀末に撤廃され、そのうちにマンデラは南アフリカ共和国初の黒人大統領となった。

問10 [10] ①

①a 英仏協商は1904年、モロッコにおけるフランスの優越権とエジプトなどにおけるイギリスの優越権とを、相互に承認した条約。これにドイツが反発し、翌年に第1次モロッコ(タンジール)事件が起こり、1911年には第2次モロッコ(アガディール)事件が起こったが、イギリスがフランスを支持したためにドイツは譲歩し、モロッコはフランスの保護国となった。

問11 [11] ④

④ア. ダウ船はムスリム商人などが使用した、三角帆を特徴とする木造船(下図参照)で、古代からインド洋での海上交易に利用された。イ. マムルーク朝は13世紀半ば、エジプトのカイロを都に建国されたトルコ系イスラーム王朝。ムスリム商人を保護して海上貿易で繁栄し、カイロは国際交易の中心として栄えた。マムルーク朝は、モンゴル軍の侵入を阻止し、十字軍も撃退したが、16世紀前半にオスマン帝国に滅ぼされた。①②ア. ジャンク船は、おもに中国商人が使用した木造の帆船(下図参照)。①③イ. セルジューク朝は、中央アジアから西方に進出したトルコ系イスラーム王朝で、1055年にバグダードに入城してアッバース朝カリフから世俗君主であるスルタンの称号を得た。また、セルジューク朝は小アジアにも進出してビザンツ帝国を圧迫し、これが十字軍遠征の一因となった。



ダウ船



ジャンク船

## 第2問 歴史上の宗教の伝播・普及と文化への影響

### 【出題のねらい】

歴史上の宗教の伝播・普及と文化への影響について、Aでは東アジアにおける仏教を、Bでは中世西ヨーロッパにおけるキリスト教を、Cではインドにおけるヒンドゥー教とイスラーム教を、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

A

#### 問1 [12] ③

③洪秀全は、キリスト教の影響を受けて上帝会を組織し、19世紀半ばに「滅満興漢」を掲げて太平天国の乱を起こし、土地の均分策である天朝田畠制度などの政策を唱えた。①前漢ではなく後漢が、2世紀後半に太平道の教祖の張角を指導者として起こった黃巾の乱を契機に動搖し、3世紀前半に滅亡した。②元は、紅巾(白蓮教徒)の乱に乗じて中国を征服したのではなく、13世紀後半に南宋を滅ぼして中国を統一した。紅巾の乱は、元が滅亡する原因となつた14世紀後半の農民反乱。④19世紀後半の中国では民衆の排外運動が激化し、山東半島では義和団が蜂起した。清は、「扶清滅洋」を唱える義和団に同調して列強に宣戦布告したので、列強は8カ国共同出兵を行つて清と義和団を破つた。この義和団事件で敗北した清は、1901年に南京条約ではなく北京議定書(辛丑和約)を締結し、列強の北京駐兵権などを認めた。南京条約は、1842年に結ばれたアヘン戦争の講和条約。

#### 問2 [13] ②

②ア. サマルカンドは、中央アジアのソグディアナ地方の中心都市で、内陸中継貿易を担つたソグド商人の拠点として栄え、また、ティムール帝国(朝)の都にもなつた。イ. アラム文字は、地中海東岸を中心に内陸貿易で活躍したアラム人が使用した文字で、ソグド文字などに影響を与えた。③④ア. バグダードは、アッバース朝の都が置かれたティグリス川流域の都市。①③イ. ローマ字は、古代ローマで使われた文字。

#### 問3 [14] ①

①江華島事件は、1875年に日本の軍艦が江華島付近で朝鮮軍に砲撃されたことを契機に起つた事件で、この事件の翌年に日本は日朝修好条規(江華島条約)を結んで朝鮮を開国させた。②金玉均ではなく、大院君の擁立をめざす軍隊が壬午軍乱を起つたが、失敗に終わった。金玉均は、親日・開化派の独立党の指導者で、日本の支援で閔氏政権を打倒し

ようとして甲申政変を起こしたが、失敗した。③日露戦争を契機に甲午農民戦争(東学党の乱)が勃発したのではなく、1894年に甲午農民戦争を契機として日清両軍が朝鮮に出兵し、その後日清戦争が勃発した。日露戦争は、1904年に起こった戦争。④日本が、日韓併合条約を締結して大韓帝国(韓国)を併合したのは、19世紀ではなく、伊藤博文が安重根によって暗殺された翌年の1910年。

問4 [15] ⑧

③フランスがインドシナ半島から撤退したのち、アメリカ合衆国の支援を受けて、ホー=チ=ミンではなくゴ=ディン=ジエム(ディエム)を大統領に、ベトナム共和国が成立した。ホー=チ=ミンは、1930年にインドシナ共産党を結成し、第二次世界大戦後にベトナム民主共和国の独立を宣言した。①ベトナムでは20世紀初頭、日露戦争の影響を受けてファン=ボイ=チャウが日本へ留学生を送る東遊(ドンズー)運動を展開した。②インドシナ戦争では、1954年にフランス軍がディエンビエンヌの戦いで敗北し、ジュネーヴ休戦協定が結ばれてフランスはインドシナ半島から撤退した。④ベトナム社会主義共和国は、1980年代からドイモイ(刷新)政策と呼ばれる改革・開放政策を推進し、外国資本の導入などによる経済発展をめざした。

B

問5 [16] ①

①農奴は、莊園領主に対して賦役と貢納の義務を負ったほか、教会に対して十分の一税を納めた。②教皇レオ3世ではなく教皇ウルバヌス2世によって、1095年にクレルモン宗教会議(公会議)が招集されて聖地奪還の聖戦が提唱され、翌年第1回十字軍が開始された。レオ3世は、800年にカール1世(大帝)にローマ皇帝の帝冠を受けた教皇。③イギリスでは17世紀にピューリタン(清教徒)革命が起り、チャールズ2世ではなくチャールズ1世が処刑されて共和政が成立した。チャールズ2世は、クロムウェル死後の王政復古で即位した国王。④フランスでは1848年に二月革命が起り、シャルル10世ではなくルイ=フィリップが退位して七月王政が崩壊し、第二共和政が成立した。シャルル10世は、1830年の七月革命で退位したブルボン朝の王。

問6 [17] ①

①イタリアのピサ大聖堂などに代表されるロマネスク様式は、11世紀ころに西ヨーロッパで発達した建築様式。②ゴシック様式は、12世紀ころに発達した、尖塔やステンドグラスを特徴とする建築様式で、代表的建築物はドイツのケルン大聖堂などであ

る。③ルネサンス様式は、14~16世紀のルネサンス期にうまれた建築様式で、聖(サン)ピエトロ大聖堂など有名。④ロココ様式は18世紀ころに流行した様式で、代表的建築物はプロイセンのフリードリヒ2世(大王)が造営したサンスーシ宮殿などである。

問7 [18] ④

④b フランコは、1936年にスペイン人民戦線政府に対して反乱を起こし、これによってスペイン内戦が勃発した。スペイン内戦は、1939年のマドリード陥落により、フランコの勝利で終わった。c ポルトガルは、1949年にアメリカ合衆国などとともに北大西洋条約機構(NATO)の結成に参加した。a スペインとポルトガルは、1986年にヨーロッパ共同体(EC)に加盟した。

問8 [19] ①

①a ビザンツ帝国は、6世紀のユスティニアヌス帝の時代に最盛期を迎え、ゲルマン人の国家などを征服してローマ帝国の旧領の多くを回復した。b ビザンツ帝国では、モザイクなどを特徴とするビザンツ様式と呼ばれる建築様式が発達し、聖(ハギア)ソフィア聖堂などが建てられた。

C

問9 [20] ④

④ウルドゥー語を国語とするパキスタンは、インドの核実験に対抗して1998年に原爆実験に成功し、核保有国となった。①スリランカは、インドの南東に位置する島国。住民の多くは仏教徒で、1970年代にセイロンからスリランカに国名が変更になった。②イランでは、1979年のイラン革命でパフレヴィー朝が倒れ、ホメイニを最高指導者とするイラン=イスラーム共和国が成立し、反欧米政策を進めた。③アフガニスタンは、インド北西に位置する国。1979年にソ連がアフガニスタンに侵攻して以降、長く内戦状態が続いている。

問10 [21] ②

②イギリスは、19世紀前半にシク教徒とのシク戦争に勝利し、パンジャーブ地方を征服した。①19世紀ではなく18世紀に、イギリスはプラッサーの戦いで、フランスとベンガル地方政府の連合軍を破った。③インド帝国の建国に反発してシパーイーの反乱(インド大反乱)が起こったのではなく、イギリスがシパーイーの反乱を機にムガル帝国を滅ぼしてインドを直轄支配するようになり、その後1877年にインド帝国を建てた。④19世紀ではなく20世紀初頭、イギリスが民族運動を分断するために制定したベンガル分割令に対して、インド国民會議派がカルカッタ大会4綱領を採択した。

問11 [22] ⑧

⑧1967年の第3次中東戦争で、イスラエルは周辺のアラブ人国家を攻撃して勝利を収め、エジプトのシナイ半島とガザ地区、シリアのゴラン高原、ヨルダンのヨルダン川西岸地区を占領した。①イギリスは第一次世界大戦中に、バルフォア宣言ではなくフセイン(フサイン)=マクマホン協定(書簡)でアラブ人に独立を約束し、バルフォア宣言ではユダヤ人に対して民族的郷土の設立を約束した。②第一次世界大戦後、イラクはパレスチナやヨルダンとともに、フランスではなくイギリスの委任統治領になった。フランスの委任統治領になったのはシリア・レバノン。④アメリカ合衆国の、レーガン大統領ではなく民主党のクリントン大統領の仲介で、1993年にイスラエルとパレスチナ解放機構(PLO)の間でパレスチナ暫定自治協定が調印された。レーガン大統領は、1980年代の共和党の大統領。

### 第3問 歴史上の貧困と社会保障

【出題のねらい】

貧困と社会保障について、Aではイギリスの救貧法を、Bではドイツの社会保険制度を、Cでは現代の欧米の状況を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [23] ②

②a アイルランドでは、1840年代に主食であったじゃがいもの凶作で多数の人々が餓死し、アメリカ合衆国などへの移民が急増した。b 1924年の移民法の制定で、日本人のアメリカ合衆国への移民が増加したのではなく、日本からの移民は事実上禁止された。

問2 [24] ①

①ドイツでは17世紀に三十年戦争が勃発し、ウェストファリア条約が結ばれて終結した。ウェストファリア条約では、ドイツの各領邦の主権が認められて神聖ローマ帝国は有名無実化した。②鄭和の南海遠征は、17世紀ではなく15世紀前半に、明の永楽帝などの命で行われた。③ウラービー(オラービー)の反乱は、17世紀ではなく19世紀後半にエジプトで起こった反乱。19世紀のエジプトは財政難に陥り、1875年にスエズ運河会社のエジプト保有株がイギリスに売却されたのちは、イギリスの干渉が強まつた。このようななかでウラービーの反乱が起こったが、この反乱はイギリスによって鎮圧され、以後エジプトは事実上イギリスの保護国となった。④ボストン茶会事件は、17世紀ではなく18世紀後半に、イ

ギリスが北米13植民地への重商主義政策強化の一環として制定した茶法に反発して、植民地の人々が起こした事件。

問3 [25] ①

①イギリスでは、19世紀ではなく17世紀に審査法が制定され、公職就任者が国教徒に限定された。19世紀前半には、審査法の廃止やカトリック教徒解放法の制定によって、国教徒以外でも公職につけるようになった。②イギリスでは、1832年の第1回選挙法改正によって腐敗選挙区が廃止され、産業資本家に参政権が認められた。③イギリスでは、19世紀前半の自由主義改革の進展により、奴隸貿易が禁止され、次いで奴隸制が廃止された。④穀物法は19世紀前半に制定された、輸入穀物に高関税をかけて穀物価格を維持し、国内の地主らを保護する保護関税法。これに対し、コブデン・ブライ特拉が廃止運動を展開し、1846年に穀物法が廃止された。

B

問4 [26] ④

④b 1834年、プロイセンを中心としてドイツ関税同盟が発足し、ドイツの経済的統一が進んだ。c 1848年、フランスの二月革命の影響を受けてドイツでもベルリンやウィーンで三月革命が起り、これを機にフランクフルト国民議会が開催されてドイツの統一と憲法制定が討議されたが、ドイツ統一は成功しなかった。a プロイセンの首相ビスマルクは、鉄血政策を推進して軍事力によるドイツ統一をめざし、ドイツ北部の領土問題をきっかけに1866年に普墺(プロイセン=オーストリア)戦争を起こしてオーストリアを破った。この結果、ウィーン会議によって成立したドイツ連邦は解体され、オーストリアなどを除いて、プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦が成立した。

問5 [27] ②

②大韓民国(韓国)では、金正日ではなく朴正熙大統領が、1960年代から70年代にかけて経済発展に尽力した。金正日は朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の最高指導者で、金日成の死後1990年代後半に総書記に就任し、核開発などを強行して国際的な非難をあびた。①日本では、1868年に明治維新によって新政府が成立し、富国強兵・殖産興業政策を進めて工業化につとめた。③リード・クアンユーは、1965年のシンガポール独立以降、首相として経済発展に尽力した。その結果、シンガポールは韓国・香港・台湾とともに、アジアの新興工業経済地域(NIES)の一角を占めるようになった。④中華人民共和国の鄧小平は、プロレタリア文化大革命で失脚したが、

1970年代に中国の最高指導者となって国防・工業・農業・科学技術の「四つの現代化」をめざし、外国資本の導入など市場経済を取り入れた改革を推し進めた。

問6 [28] ①

①ソ連では1956年、ソ連共産党第20回大会でフルシチョフがスターリン批判を行い、これを機にハンガリーやポーランドで反ソ暴動が起り、中ソ論争も始まった。②1970年に、アルゼンチンではなくチリで、アジェンデが社会主義政権を樹立したが、その後軍部のクーデタで崩壊した。③ポーランドではなくチェコスロバキアで、1968年にドブチェックが「プラハの春」と呼ばれる自由化政策を進めたが、ソ連のプレジネフがワルシャワ条約機構軍を投入して弾圧した。④1980年、ハンガリーではなくポーランドにおいて、ワレサを委員長に自主管理労組「連帯」が組織された。「連帯」は一時非法化されたが、1989年の東欧革命のさいに行われた選挙で勝利を収めて「連帯」政権が成立し、その後ワレサはポーランドの大統領となった。

問7 [29] ③

③第一次世界大戦では、アメリカ合衆国は当初中立を維持していたが、1917年にドイツが無制限潜水艦作戦を開始すると、これを理由にウィルソン大統領は連合国(三国協商)側で参戦した。①ブルガリアは、連合国側ではなくドイツ・オーストリアの同盟国側で参戦して敗北し、戦後、連合国とスイイ条約を結んだ。②第一次世界大戦中のマルヌの戦いは、ドイツがロシアに敗れたのではなく、ベルギーの中立を侵犯してフランスに侵入したドイツ軍の進撃を、フランス軍が阻止した戦い。④第一次世界大戦後、オーストリアは連合国側と、セーヴル条約ではなくサン=ジェルマン条約を結んだ。セーヴル条約は、オスマン帝国が連合国と結んだ条約で、その後、ムスタファ=ケマル(ケマル=アタテュルク・ケマル=パシャ)が、オスマン帝国を滅ぼし、連合国とローザンヌ条約を結んだ。

C

問8 [30] ③

③アトリーは労働党政治家で、1945年に首相となり、重要産業の国有化や社会保障制度の充実などにつとめた。①グラッドストンは自由党政治家で、19世紀後半に首相として教育法や労働組合法を制定するとともに、第3回選挙法改正を実現させた。②チャーチルは保守党政治家で、第二次世界大戦中に首相となり、戦中に行われた連合国会議でも指導力を発揮した。④サッチャーは保守党政

治家で、1979年にイギリス初の女性首相となって国有企業の民営化などの改革を断行し、経済の立て直しにつとめた。

問9 [31] ②

②アメリカ合衆国では、1933年に民主党のフランクリン=ローズヴェルトが大統領に就任してニューディールを推進し、農業調整法(AAA)や全国産業復興法(NIRA)で政府による農業や工業への統制を強めるとともに、テネシー川流域開発公社(TVA)設立などの公共事業で失業者の救済にもつとめた。①フランスは世界恐慌以前の1923年、ドイツの賠償金支払い遅延を理由に、ベルギーとともにドイツの工業地帯のルール地方を占領した。しかし、これによってドイツでは激しいインフレーションが起こって経済が混乱し、また、フランスは内外の批判を受け、1925年に撤退した。③ソ連の新経済政策(ネップ)は、世界恐慌以前の1920年代前半に、戦時共産主義に代わって実施された政策。穀物の強制徴収をやめて余剰穀物の自由販売を認め、中小企業の私営を認めた。④1930年代にエチオピア侵略を強行したのは、ドイツではなくイタリア。イタリアのムッソリーニ政権は、1935年にエチオピアを侵略し、翌年これを併合した。

問10 [32] ②

②1960年代に、欧米などの先進国とアジア・アフリカ・ラテンアメリカなどの発展途上国との経済格差が拡大して南北問題が顕在化し、その解決のための国連貿易開発会議(UNCTAD)が開催された。①アメリカ合衆国は1947年、ラテンアメリカ諸国ではなく、ヨーロッパ諸国の経済復興と共産化防止などを目的としてマーシャル=プランを発表した。③アメリカ合衆国のニクソン大統領が、1971年にドルと金の交換を停止したニクソン=ショックを機に、為替相場は変動相場制から固定相場制へ移行したのではなく、固定相場制から変動相場制へと移行していく。④東南アジア諸国連合(ASEAN)は、アジア通貨危機に対応するために結成されたのではなく、1960年代に結成された地域協力機構で、2012年現在では東南アジア諸国10ヶ国が加盟している。アジア通貨危機は1997年、タイの通貨価値急落から始まってアジア全体に波及し、世界経済に大きな影響をもたらした。

問11 [33] ④

④ア. 不戦条約は、1920年代にフランス外相ブリアンとアメリカ合衆国のケロッグ国務長官の尽力で成立した。グラフから分かるように、19世紀末から1920年代までは、フランスの65歳以上の人口割合は

ほぼスウェーデンと同じで、日本やアメリカ合衆国より高かった。イ. 湾岸戦争は、1990年のイラクのフセイン政権によるクウェート侵攻を機に、翌91年にアメリカ軍を中心とする多国籍軍が出撃してクウェートを解放した戦争。このころ日本の65歳以上の人口割合はアメリカ合衆国を抜き、さらに21世紀に

は先進国中で最も高齢化が進んでいる。①②ア. エーベルトは、1919年にドイツで成立したヴァイマル(ワイマール)共和国の初代大統領。①③イ. キューバ危機は、1962年にキューバに建設中のソ連のミサイル基地をめぐって、アメリカ合衆国とソ連が対立した事件。

●写真・図版提供

PPS 通信社

## 世界史 B

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1	1	①	3	
		問2	2	①	3	
		問3	3	④	2	
	B	問4	4	①	2	
		問5	5	②	3	
		問6	6	④	3	
	C	問7	7	①	3	
		問8	8	④	3	
		問9	9	①	3	
第1問 自己採点小計				(25)		
第2問	A	問1	10	③	3	
		問2	11	①	3	
		問3	12	④	2	
	B	問4	13	③	3	
		問5	14	②	3	
		問6	15	①	3	
	C	問7	16	②	2	
		問8	17	④	3	
		問9	18	③	3	
第2問 自己採点小計				(25)		
第3問	A	問1	19	③	3	
		問2	20	②	3	
		問3	21	①	2	
	B	問4	22	④	2	
		問5	23	②	3	
		問6	24	③	3	
	C	問7	25	③	3	
		問8	26	⑤	3	
		問9	27	①	3	
第3問 自己採点小計				(25)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第4問	問1	28	①	2		
	問2	29	③	3		
	問3	30	②	3		
	問4	31	②	3		
	問5	32	③	3		
	問6	33	④	3		
	問7	34	④	3		
	問8	35	②	2		
	問9	36	③	3		
第4問 自己採点小計					(25)	
自己採点合計					(100)	

### 【解説】

#### 第1問 世界史上の大規模なイベント

##### 【出題のねらい】

世界史上の大規模なイベントについて、Aでは1900年のパリ万国博覧会を訪れた夏目漱石の日記を、Bでは近代オリンピックへの政治的影響を、Cではナポレオン1世の戴冠式を、それぞれ扱って出題した。なお、夏目漱石の日記の引用は、『漱石日記』(平岡敏夫編 岩波書店)を用いた。

##### 【設問別解説】

###### A

問1 1 ①

①エディソンはアメリカ合衆国の発明家・技術者で、19世紀後半に蓄音機や電灯(白熱電球)などを発明した。②アメリカ合衆国大統領マッキンリーは、1898年にアメリカ＝スペイン(米西)戦争を戦ったのちに、ハイチではなくキューバを独立させた。キューバは、その後アメリカ合衆国の保護国となった。ハイチは、黒人指導者トゥサン＝ルーヴェルチュールの運動によって、19世紀初頭にフランスから独立した。③コッホは19世紀から20世紀にかけてのドイツの医学学者で、電話機を発明したのではなく細菌学の基礎を確立した。19世紀後半に電話機を発明したのは、アメリカ合衆国のベルである。④ファショダ事件でイギリスに譲歩したのは、ヴィルヘルム2世治下のドイツではなく第三共和政下のフランスである。ファショダ事件は、1898年にスーザン(現在の南スーザン)のファショダでアフリカ縦断政策をと

るイギリスとアフリカ横断政策をとるフランスの両国軍が対立した事件。ヴィルヘルム2世は、ビスマルク失脚後に積極的な「世界政策」を展開したドイツ帝国の皇帝で、モロッコをめぐるフランスとの対立から20世紀初頭に2度のモロッコ事件を起こした。

#### 問2 [2] ①

① a 唐の玄奘は仏典を求めて、7世紀前半に北インドのヴァルナ朝におもむき、ナーランダー僧院で学んだ。その旅行記が『大唐西域記』である。b 日露戦争で日本が勝利したことは、アジアの民族運動に影響を与えた。ベトナムの民族運動家ファン=ボイ=チャウは、日本に留学生を派遣するドンズー(東遊)運動を指導したが、フランスと結んだ日本の弾圧によって挫折した。

#### 問3 [3] ④

④ a. エッフェル塔は、1789年のフランス革命の勃発から100周年にあたる1889年のパリ万国博覧会の呼び物として建設された。イ. モーパッサンは、ゾラとともにフランス自然主義を代表する小説家で、代表作には『女の一生』がある。①② a. ピューリタン革命は、17世紀イギリスのステュアート朝のチャールズ1世時代に起こった内戦。①③ i. ドストエフスキイは、ロシアの写実主義作家で、代表作『罪と罰』で知られる。18世紀末から20世紀初めのヨーロッパ文学については次の表を参照。

思潮	人名	おもな作品など
古典主義	ゲーテ(独) シラー(独)	
ロマン主義	ハイネ(独) ユーゴー(仏) バイロン(英) プーシキン(露)	『歌の本』 『レ=ミゼラブル』 ギリシア独立戦争に参加
写実主義	スタンダール(仏) バルザック(仏) フロベール(仏) ディケンズ(英) トルグーネフ(露) ドストエフスキイ(露) トルストイ(露)	『赤と黒』 『ボヴァリー夫人』 『罪と罰』 『戦争と平和』(ナポレオン戦争が題材)
自然主義	ゾラ(仏) モーパッサン(仏) イプセン(ノルウェー)	ドレフュス事件で活躍 『居酒屋』 『女の一生』 『人形の家』

#### 18世紀末から20世紀初めのヨーロッパ文学

#### B

#### 問4 [4] ①

①ローマ皇帝テオドシウスは、4世紀末にキリスト教を国教化し、他の宗教の信仰を禁じた。②3世紀後半に軍人皇帝時代の混乱を収束して即位したディオクレティアヌスは、四分統治(四帝分治制・テトラルキア)を導入して帝国の再編をはかるとともに元老院を無視してドミナトゥス(專制君主政)を開始し、皇帝崇拜を拒否するキリスト教徒の大迫害を行った。③トラヤヌスは五賢帝の2番目の皇帝で、ローマ帝国の最大領土を実現した。④4世紀後半のローマ皇帝ユリアヌスは、ミトラ(ミトラス)教に傾倒してキリスト教を排斥し、のちにキリスト教会から「背教者」と呼ばれた。

ト教を国教化し、他の宗教の信仰を禁じた。②3世紀後半に軍人皇帝時代の混乱を収束して即位したディオクレティアヌスは、四分統治(四帝分治制・テトラルキア)を導入して帝国の再編をはかるとともに元老院を無視してドミナトゥス(專制君主政)を開始し、皇帝崇拜を拒否するキリスト教徒の大迫害を行った。③トラヤヌスは五賢帝の2番目の皇帝で、ローマ帝国の最大領土を実現した。④4世紀後半のローマ皇帝ユリアヌスは、ミトラ(ミトラス)教に傾倒してキリスト教を排斥し、のちにキリスト教会から「背教者」と呼ばれた。

#### 問5 [5] ②

② a 自由主義・ナショナリズム(国民主義)が広まったギリシアでは、19世紀前半にオスマン帝国の支配に対して独立戦争が始まった。ロシア・イギリス・フランスがギリシアを支援し、オスマン帝国はギリシアの独立を承認した。なお、この戦争には、イギリスのロマン主義詩人バイロンが、ギリシア独立を支援するため義勇兵として参加した。c 第一次世界大戦後、イラクはパレスチナ・ヨルダンとともにイギリスの委任統治領となっていたが、1932年イギリスはイラク王国の独立を認めた。b 1947年に国際連合(国連)が決議したパレスチナ分割案をユダヤ人側は受け入れ、翌年イスラエルの建国を宣言した。同年、これに反対するアラブ諸国が出兵してパレスチナ戦争(第1次中東戦争)が起こり、勝利したイスラエルは領土を拡大し、多くのパレスチナ難民(パレスチナ人)が発生した。

#### 問6 [6] ④

④ 2001年9月11日に発生した同時多発テロ(九一一事件)ののち、アフガニスタンを攻撃したのは、アメリカ合衆国の共和党の、レーガン政権ではなくブッシュ(子)政権である。これによってアフガニスタンのターリバーン政権は崩壊した。レーガンは、1980年代のアメリカ合衆国大統領。①騎馬遊牧民のエフタルは、5世紀半ば頃に中央アジアを拠点として勢力を伸ばし、アフガニスタンから西北インドに進出した。インドのグプタ朝は、エフタルに領土を奪われて衰亡した。エフタルは、6世紀にホスロー1世時代のササン朝と突厥に挾撃されて滅んだ。②ガズナ朝は、10世紀にマムルーク(トルコ系軍人奴隸)出身者がアフガニスタンに建てたイスラーム王朝で、北インドへの侵入をくり返し、インドのイスラーム化を促進した。③19世紀後半にロシアがバラ(ボハラ)=ハン国・ヒヴァ=ハン国・コーカンド=ハン国を支配下に置いて中央アジアで南下をはかると、インドの植民地化を進めるイギリスは、ロシ

アを警戒してアフガニスタンに進出し、アフガン戦争をへてアフガニスタンを保護国化した。

C

問7 [7] ①

①エジプト遠征から帰国したナポレオン＝ボナパルトは、ブリュメール18日のクーデタで総裁政府を倒して統領(執政)政府を樹立し、第一統領に就任して事実上の独裁権を握った。②ナポレオンは西南ドイツの諸邦を統合して、自らを盟主とする、ドイツ連邦ではなくライン同盟(ライン連邦)を結成した。この結果、神聖ローマ帝国は名実ともに消滅した。ドイツ連邦は、ウィーン會議で成立したドイツ諸邦の連合組織。③ナポレオンは、ロシア(モスクワ)遠征に失敗したのちに大陸封鎖令(ベルリン勅令)を発したのではなく、ロシアが大陸封鎖令に背いてイギリスと通商したため、ロシア遠征を行った。④ワーテルローの戦いに敗れたナポレオンが流刑となった地は、地中海のコルシカ島ではなく大西洋のセントヘレナである。コルシカ島は、ナポレオンの出身地。

問8 [8] ④

④メディチ家出身の教皇レオ10世が、サン(聖)=ピエトロ大聖堂改築の資金を集めためドイツで贍宥状(免罪符)の販売を許可すると、マルティン=ルターが九十五カ条の論題を発表して批判し、宗教改革が開始された。①聖像禁止令を出したのは、教皇グレゴリウス1世ではなくビザンツ(東ローマ)皇帝レオン(レオ)3世。グレゴリウス1世は6世紀末から7世紀初めの教皇で、ゲルマン人への布教を行った。②第4回十字軍を提唱した教皇は、ウルバヌス2世ではなく教皇權絶頂期のインノケンティウス3世である。ウルバヌス2世は、11世紀末のクレムン宗教會議(公會議)で十字軍を提唱し、第1回十字軍が派遣された。③教会大分裂(大シスマ)とは、14世紀後半から15世紀前半まで、ローマとカノッサではなく、ローマと南フランスのアヴィニヨンに教皇が並び立ったこと。コンスタンツ宗教會議(公會議)で、新たなローマの教皇に統一されて解消した。イタリアのカノッサでは、11世紀後半に聖職叙任権をめぐって教皇グレゴリウス7世と対立して破門された神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世が謝罪して許されるという、カノッサの屈辱と呼ばれる事件が起こった。

問9 [9] ①

①トゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を撃退したカール=マルセルの子で、カール大帝(シャルルマニュ)の父ピピン(3世)が、8世紀半ばメロヴィング朝を廢してカロリング朝を開いた。

②イベリア半島を支配したゲルマン人の西ゴート王国は、カール大帝に滅ぼされたのではなく、8世紀前半にウマイヤ朝のイスラーム軍に滅ぼされた。カール大帝時代には、イベリア半島は後ウマイヤ朝が支配していた。③カール大帝が擊退したのは、マジャール人ではなくアヴァール人である。マジャール人は、10世紀にオットー1世によって撃退された。オットー1世はその後教皇から帝冠を受け、これによって初代の神聖ローマ皇帝となったとされる。④フランク王国はカール大帝の死後、10世紀ではなく9世紀のヴェルダン条約・メルセン条約によって分裂し、のちのドイツ・フランス・イタリアの原形が形成された。

## 第2問 長期間にわたって君主や権力者の地位にあった人物

【出題のねらい】

長期間にわたって君主や権力者の地位にあった世界史上の人物について、Aでは清の康熙帝(聖祖)と乾隆帝(高宗)を、Bではイギリスのヴィクトリア女王を、Cではスペインのフランコを、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [10] ③

③ポーランド王国はプロイセン・オーストリア・ロシアの3国によって3度にわたって分割された結果、18世紀末に消滅した。19世紀前半のウィーン會議でポーランド立憲王国が成立したが、事実上ロシアの支配下にあり、ポーランドが独立を回復するのは第一次世界大戦後であった。①18世紀ではなく17世紀前半にジャワ島のバタヴィア(現ジャカルタ)に商館を建て、貿易の拠点としたのはポルトガルではなくオランダ。ポルトガルは16世紀にインド西岸のゴアを拠点としてアジア各地に進出した(第3問問6②解説参照)。しかしポルトガルは、やがてアジア各地の拠点の多くをオランダに奪われた。②日本で徳川家康が江戸(徳川)幕府を開いたのは、17世紀初頭。④ウェストファリア条約が結ばれて三十年戦争が終結したのは、17世紀半ば。

問2 [11] ①

①12世紀前半に女真(女直)を統一し、金を建国した完顔阿骨打(太祖)は、部族制にもとづく軍事・行政組織である猛安・謀克を採用した。②金は12世紀前半の靖康の変で北宋を滅ぼし、高宗が江南に逃れて成立した南宋とは、長江ではなく淮河(淮水)を国境に定めた。③清の軍事・行政上の最高機関となる

軍機処を設置したのは、ヌルハチ(太祖)ではなく雍正帝(世宗)。ヌルハチは後金(金)の建国者で、次のホンタイジ(太宗)が国号を清に改称した。④辯(弁)髪は漢民族の風習ではなく女真(女直・マンジュ[満州])の髪型の風習で、清は辯髪を禁じたのではなく漢民族に強制した。

問3 [12] ④

④ア. 唐の支配の基盤であった均田制・租庸調制は、8世紀には行き詰まりをみせており、さらに8世紀半ばに節度使の安禄山と部下の史思明らが起こした安史の乱によって、中国国内は荒廃した。乱の鎮圧後、唐は土地や資産に応じて課税する両税法を採用し、これによって大土地所有を事実上認めた。イ. 両税法は明代半ばまで行われたが、明代後半にメキシコ銀や日本銀が流入して中国国内での銀の流通量が増大すると、人頭税と土地税を銀で一括して納める一条鞭法が実施された。さらに清代には、地丁銀の採用によって人頭税は事実上消滅した。①②ア. 八王の乱は、晋(西晋)の時代に起こった帝位をめぐる内乱である。①③イ. 元は遊牧民のモンゴル人の王朝で、従来の土地所有をそのまま認め、税制は両税法を行った。

B

問4 [13] ③

③a アイルランド自治法が成立したのは、ヴィクトリア女王(位1837~1901)の死後、20世紀前半の1914年。その実施は第一次世界大戦勃発によって延期された。アイルランド自治法案は女王在位中の19世紀後半、グラッドストン自由党内閣が議会に2度提出したが、成立しなかった。b 国産穀物を保護するために安価な輸入穀物に高関税を課した穀物法は、コブデン・ブライトらが結成した反穀物法同盟の尽力によって、ヴィクトリア女王時代の1846年に廃止された。

問5 [14] ②

②イギリスはロシアの南下に対抗するために、清から山東半島北東岸の威海衛を租借した。①遼東半島南部の旅順や大連を租借したのは、ドイツではなくロシア。③山東半島南西岸の膠州湾を租借したのは、フランスではなくドイツ。④広東省の広州湾を租借したのは、ロシアではなくフランス。

問6 [15] ①

①a はボスニア・ヘルツェゴビナ。ロシア = トルコ(露土)戦争後に結ばれたサン=ステファノ条約で、ロシアがバルカン半島における勢力を拡大させると、イギリス・オーストリアが反発した。ドイツのビスマルクが仲介してベルリン会議を開き、ベル

リン条約が結ばれてア. オーストリアはボスニア・ヘルツェゴビナの統治権を得た。その後、20世紀初めに青年トルコ革命が起こると、その混乱に乗じてオーストリアはボスニア・ヘルツェゴビナを正式に併合した。③④b はルーマニア。サン=ステファノ条約・ベルリン条約で、セルビア・モンテネグロ・ルーマニアの独立が認められた。②④イ. サン=ステファノ条約でロシア保護下の自治国とされていたブルガリアは、ベルリン条約で領土を縮小され、オスマン帝国内の自治国とされた。サン=ステファノ条約・ベルリン条約については次の地図参照。



サン=ステファノ条約(1878)



ベルリン条約(1878)

C

問7 [16] ②

②ピカソはスペイン出身の立体派(キュビズム)の画家で、スペイン内戦中にフランコ側を支援するドイツ軍がスペインの都市ゲルニカを無差別爆撃すると、これに抗議して「ゲルニカ」を描いた。①ゴヤは、18世紀から19世紀にかけてのスペイン人の画家。③エル・グレコは、16世紀から17世紀にかけてスペインで活躍したギリシア人画家。④ベラスケスは、17世紀にスペインの宮廷画家として活躍した。

問8 [17] ④

④1945年のドイツの無条件降伏後に開かれた首脳会談は、カイロ会談ではなくポツダム会談で、アメリカ合衆国のトルーマン、イギリスのチャーチル(途中でアトリーに交代)、ソ連のスターリンが参加し、日本の降伏条件やドイツの管理方針などが討議された。カイロ会談は、ドイツ降伏前の1943年にアメリカ合衆国の大将軍マッカーサー、イギリスのチャーチル、中国の蒋介石によって、おもに対日戦の基本方針について議論が行われた。第二次世界大戦中のおもな首脳会談については、下の表を参照。①第二次世界大戦は、直前に独ソ不可侵条約を結んだナチス=ドイツが、1939年にポーランドに侵攻し、これにイギリス・フランスが宣戦して開始された。②フランスは、開戦の翌年にパリを占領されてドイツに降伏した。ドイツはフランス北部を直接支配し、南部にはペタンを主席とする対独協力政権のヴィシー政府を成立させた。③アメリカ合衆国・イギリスが主体の連合軍は、1944年

に北フランスのノルマンディーに上陸し、パリを解放した。これによって、ドイツはソ連の攻撃とあわせて東西から攻撃を受け、敗戦へと向かうことになった。

問9 [18] ③

③1973年の第4次中東戦争にさいして、アラブ石油国は石油戦略をとり、そのため世界的に石油危機(オイル=ショック)が起こった。①マーストリヒト条約にもとづいてヨーロッパ連合(EU)が発足したのは、1993年。②エンクルマの指導でガーナがイギリスから独立したのは、1957年。④発展途上国の経済発展を促進するために、第1回国連貿易開発会議(UNCTAD)が1964年に開催された。

### 第3問 世界史上の象徴

#### 【出題のねらい】

世界史上の象徴について、Aでは力や正義、共和政、団結の象徴となったファスケスを、Bではゾロアスター教とその象徴を、Cでは中国の皇帝権の象徴である龍を、それぞれ扱って出題した。

#### 【設問別解説】

A

問1 [19] ③

③古代ローマでは、浴場を中心とする大規模な娯楽施設として、各地に公共浴場が建設された。①喜劇作家のアリストファネスは、古代ローマではなく前5世紀の古代ギリシアのアテネで『女の平和』を著し、ペロポネソス戦争を風刺した。②タキトゥスは、『対比列伝(英雄伝)』ではなく『ゲルマニア』

会談名・日時	会 談 参 加 者	内 容
大西洋上会談 1941.8	F. ローズヴェルト(米) チャーチル(英)	大西洋憲章 ・戦後の国際秩序と安全保障の原則をうたう ・国際連盟に代わる平和機構の再建など
カイロ会談 1943.11	F. ローズヴェルト(米) チャーチル(英) 蒋介石(中)	カイロ宣言 ・対日戦の基本方針 ・朝鮮独立の確認、台湾などの中国への返還
テヘラン会談 1943.11~12	F. ローズヴェルト(米) チャーチル(英) スターリン(ソ)	連合国の大将軍マッカーサー、イギリスのチャーチル、ソ連のスターリンによる会談
ヤルタ会談 1945.2	F. ローズヴェルト(米) チャーチル(英) スターリン(ソ)	ヤルタ協定 ・ドイツの戦後処理[米・英・仏・ソによる4国管理など] ・ドイツ降伏後3ヶ月以内のソ連の対日参戦
ポツダム会談 1945.7~8	トルーマン(米) チャーチル(英) [途中からアトリー ー] スターリン(ソ)	ドイツや日本の処理についての議論 ポツダム宣言(米・英・中) ・日本への無条件降伏要求 ・日本の戦後処理方針

### 第二次世界大戦中のおもな首脳会談

を著した。『対比列伝』の著者はブルタルコス。④古代ローマではなく中世ヨーロッパで、11世紀頃から大学が成立した。北イタリアのボローニャ大学は法学で、南イタリアのサレルノ大学は医学でそれぞれ有名であった。

問2 [20] ②

②オケオは扶南の外港とされる遺跡で、メコン川の下流に近い海岸に位置する。仏像・ローマ金貨や中国の鏡が出土し、当時の海上貿易の広がりを知ることができる。①前7世紀頃に世界で初めて鋳造貨幣を使用したとされる小アジアの国家は、ピュー(膘)ではなくリディア。ピューは、8世紀頃にビルマ(ミャンマー)で栄えた国家で、仏教が信奉された。③前3世紀後半に中国を統一した秦の始皇帝は、五銖錢ではなく半両錢を統一貨幣とした。五銖錢は、前漢の武帝が発行した貨幣。④元で使用された紙幣は、交子ではなく交鈔と呼ばれた。交子は、北宋で発行された世界最初の紙幣。なお、南宋の紙幣は会子と呼ばれた。

問3 [21] ①

①ファシスト(タ)党的党首であったア.ムッソリニは、1922年のローマ進軍で政権を掌握し、その後フィウメ併合とアルバニア保護国化を行った。1929年にはイ.ラテラン(ラテラノ)条約を結び、イタリア王国による教皇領の併合以来対立していたローマ教皇と和解し、教皇庁の所在地区をヴァチカン市国として独立を認めた。③④ア.ガリバルディは、シチリア(両シチリア・ナポリ)王国を占領してサルデーニャ(サルディニア)国王ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世に献上し、1861年にはイタリア王国が成立した。②④イ.トリアノン条約は、第一次世界大戦後に連合国(協商国)と敗戦国ハンガリーとの間に結ばれた条約である。

B

問4 [22] ④

④ゾロアスター教の聖典は『アヴェスター』で、ゾロアスター教を国教としたササン朝で完成された。①『リグ=ヴェーダ』は古代インドの神々に対する贊歌集で、バラモン教で根本聖典とされるヴェーダのうち最古のものである。②『コーラン(クルアーン)』は、イスラーム教の聖典で、正統カリフ時代に成立した。③『シャクンタラー』は、グプタ朝時代にカーリダーサがサンスクリット語で著した戯曲。

問5 [23] ②

②16世紀初めにイランに建てられたサファヴィー朝は、シーア派の十二イマーム派を国教とし、全盛

期のアッバース1世のとき、イスファハーンに遷都した。①10世紀にイランに成立したイラン系でシーア派のブワイフ朝は、バグダードに入城してアッバース朝のカリフから、スルタンではなく大アミールに任命され、統治権を獲得した。ブワイフ朝を倒したトルコ系セルジューク朝の創始者トゥグリル=ベクは11世紀半ばにアッバース朝のカリフからスルタンの称号を正式に得て、以後のイスラーム諸王朝でスルタンは世俗君主の称号として広く用いられた。③18世紀末にイランに成立したトルコ系のカージャール朝は、19世紀前半にロシアに敗北してカルロヴィツツ条約ではなくトルコマンチャーイ条約を結び、アルメニアの大半をロシアに割譲した。カルロヴィツツ条約は、17世紀末にオーストリアなどとオスマン帝国との間に結ばれた条約で、オスマン帝国はハンガリーをオーストリアに割譲した。④バーブ教徒の乱は、イギリス・ロシアの圧迫に反発した農民の反乱で、パフレヴィー朝ではなくカージャール朝で19世紀半ばに起こった。パフレヴィー朝は、第一次世界大戦後の20世紀前半にイランでレザーエハーン(レザーエ=シャー)が建てた王朝。

問6 [24] ③

③ポンペイ(ムンバイ)はインド西岸北部に位置し、イギリス東インド会社が17世紀以降、インド東南岸のマドラス(チェンナイ)やガンジス川下流のカルカッタ(コルカタ)とともにインド進出の拠点とした。①ムガル帝国のアクバルはアグラに都を遷した。②ポルトガルのバントロメウ=ディアスは、インドに来航したのではなく、1488年にアフリカ南端まで到達した。喜望峰と名付けられたこのアフリカ南端の地を経由して、ヴァスコ=ダ=ガマがインド西岸のカリカットに1498年に到達した。その後、16世紀初めにポルトガルはインド西岸のゴアにインド総督府を置いた。④20世紀初めに4綱領を採択したインド国民会議派の大会は、カルカッタで開かれた。このカルカッタ大会では、イギリス支配に対する民族運動の分断をねらったベンガル分割令(カーテン法)に反発したティラクらが、英貨排斥・スワධীন(国産品愛用)・スワラージ(自治獲得)・民族教育の4綱領を採択した。

C

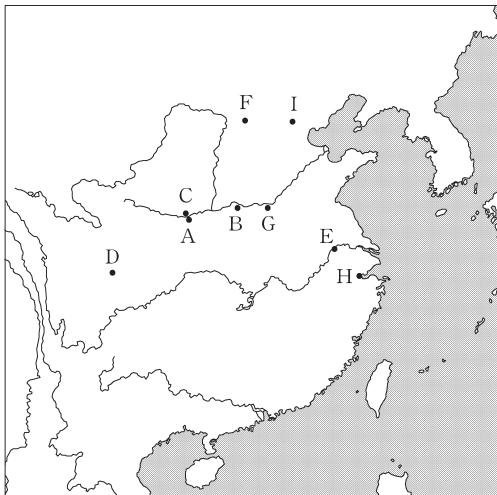
問7 [25] ③

③a郡県制は、戦国時代の秦などで施行され、中国を統一した始皇帝が全国に拡大した。中央から郡や県に官吏を派遣して統治する中央集権的な制度である。b殷は前1600年頃に成立した、現在確認される中国最古の王朝で、渭水流域に興った周(西周)に

前11世紀に滅ぼされた。

問8 [26] ⑤

⑥ c 前3世紀末に前漢を建てた劉邦(高祖)は、渭水流域の長安を都とした。a 鮑卑の拓跋氏が建てた北魏の孝文帝は、5世紀末に平城から洛陽に遷都した。b 10世紀後半に北宋を樹立した趙匡胤(太祖)は、黄河中流域の開封(汴京)に都を定めた。中国歴代王朝のおもな都については、次の地図と表を参照。



	現在名	都の名[王朝名]
A	西安	鎬京[西周], 長安[前漢], 大興城[隋], 長安[唐]
B	洛陽	洛邑[東周], 洛陽[後漢・魏・西晋・北魏]
C	咸陽	咸陽[秦]
D	成都	成都[蜀]
E	南京	建業[吳], 建康[東晋・南朝], 金陵(南京)[明]
F	大同	平城[北魏]
G	開封	開封(汴京)[後唐以外の五代, 北宋]
H	杭州	臨安[南宋]
I	北京	大都[元], 北京[明・清]

おもな中国王朝の都

問9 [27] ①

①朝鮮半島西南部に成立した百濟は、7世紀後半に唐と新羅の連合軍に滅ぼされた。その後、百濟救援のための日本水軍も、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗北した。②新羅で施行された骨品制は、両班を優遇するものではなく、婚姻や官職を規制する氏族制的な身分制度であった。両班は、高麗や朝鮮王朝(李氏朝鮮・李朝)における特権的な官僚階級。  
③10世紀前半に高麗を建国したのは、大祚榮ではなく王建(太祖)である。大祚榮は、7世紀末に高句麗

の遺民などを率いて中国の東北部に渤海国を建国した。④壬辰・丁酉の倭乱は、16世紀末に日本の豊臣秀吉が朝鮮を侵略した事件で、このときに李成桂(太祖)ではなく李舜臣が龜甲船を率いて日本水軍を撃破した。李成桂は、高麗の將軍として倭寇を撃退して台頭し、14世紀末には高麗を倒して朝鮮王朝を建てた。

#### 第4問 空気と人間

##### 【出題のねらい】

空気と人間について、Aでは古代ギリシアにおける空気に対する理解を、Bでは気球の発明を、Cでは大気汚染を、それぞれ扱って出題した。

##### 【設問別解説】

###### A

問1 [28] ①

①ア. 古代ギリシアのポリスの多くは、前8世紀頃に集住(シノイキスモス)によって成立した。ポリスの中心部にある丘はアクロポリスと呼ばれ、その上に神殿を建てて、ポリスの守護神をまつることが多かった。イ. スパルタはドーリア人のポリスで、被征服民はヘイロータイ(ヘロット)として農業に従事した。また、ペリオイコイと呼ばれた半自由民も存在し、農業・商工業に従事した。スパルタでは、ヘイロータイの反乱に備えて、伝説的立法者リュクルゴスが制定したとされる独自の軍国主義体制がとられた。③④ア. アゴラは、アクロポリスのふもとにあった公共広場で、市民はここで政治・経済活動を行った。②④イ. コロヌスは、帝政ローマ時代の小作人のことである。奴隸制にもとづくラティンディア(ラティンディウム)が帝政時代に行きづまると、3世紀頃からコロヌスを使用する土地経営のコロナトゥスが普及した。

問2 [29] ③

③ア 12世紀のイスラーム世界の哲学者イブン＝ルシュド(アヴェロエス)は、デカルトの哲学の影響を受けたのではなく、アリストテレスの哲学の研究を行い、中世ヨーロッパのスコラ哲学(スコラ学)に影響を与えた。デカルトは17世紀に活躍したフランスの哲学者で、『方法叙説』を著し、演绎法による合理論哲学を主張した。ビ 18世紀から19世紀のイギリスのベンサムは、「最大多数の最大幸福」を主張し、功利主義哲学を創始した。

問3 [30] ②

②マウリヤ朝は、チャンドラグプタが前4世紀にガンジス川中下流域のパートリップトラに都を置いて創始し、前3世紀のアショーカ王の時代に最盛期と

なった。①匈奴が、冒頓单于のもとで前漢の高祖(劉邦)と戦って勝利するなど最盛期を迎えたのは、前3世紀末から前2世紀前半。③バビロン第1王朝(古バビロニア王国)でハンムラビ法典が制定されたのは、前18世紀頃である。シュメール法などを集大成したハンムラビ法典は、復讐法であること、身分によって刑罰が異なることに特徴がある。④フェニキア人の植民都市カルタゴがポエニ戦争で敗北してローマに滅ぼされたのは、前2世紀。

## B

### 問4 [31] ②

②フランクリンがフランスに滞在した時期は、1775年から1783年のアメリカ独立戦争とほぼ同時期である。フランクリンの外交的努力もあって、フランスはアメリカ合衆国側で参戦した。その後、スペインもアメリカ合衆国側で参戦した。また、ロシアのエカチェリーナ2世の提唱で武装中立同盟が結成されてイギリスは孤立し、1783年のパリ条約でイギリスはアメリカ合衆国の独立を認めた。①『コモン=センス(常識)』を著したのは、フランクリンではなくトマス=ペイン。アメリカ独立戦争開戦の翌年、このパンフレットが出版されると独立を求める世論が高揚した。③18世紀半ばに起きたフレンチ=インディアン戦争は、フランスとイギリスの北アメリカにおける植民地戦争で、アメリカ合衆国が成立する以前の戦争である。ヨーロッパにおける七年戦争と連動して戦われた。④ウィーン会議は、ナポレオン戦争後のヨーロッパの秩序回復のため、19世紀前半に開かれた。また、アメリカ合衆国の代表は参加していない。ウィーン会議ではフランス代表ターラーらが、フランス革命以前の状態を正統とする正統主義を唱えた。

### 問5 [32] ③

③中国で火薬が実用化されたのは春秋・戦国時代ではなく宋代で、火薬はイスラーム世界を通じてヨーロッパに伝わったとされる。①六十進法は、古代メソポタミアでシュメール人が使い始めた。②ゼロの概念はインドで発見された。このゼロの概念や数

字がイスラーム世界に伝播し、数学が発達した。④イスラーム世界では、数学をはじめ、鍊金術・医学・天文学・哲学などは外来の学問とされた。一方、『コーラン(クルアーン)』にもとづく神学・法学・歴史学などは、固有の学問とされた。

### 問6 [33] ④

④a南北戦争は19世紀後半の戦争で、飛行機は20世紀初めに発明されたので使用されていない。飛行機は、第一次世界大戦中から戦闘でも使用されるようになった。bフランスのミッテラン大統領ではなくアメリカ合衆国のジョンソン大統領が行った、ベトナム民主共和国への爆撃である北ベトナム爆撃(北爆)から本格化した戦争は、インドシナ戦争ではなくベトナム戦争。第二次世界大戦後、ベトナム民主共和国は、1940年代から50年代にフランスとインドシナ戦争を戦い、さらに1960年代から70年代にアメリカ合衆国とベトナム戦争を戦った。ミッテランは、1980年代から90年代のフランス大統領。

## C

### 問7 [34] ④

④イギリスのプランタジネット朝のエドワード1世は、13世紀末に模範議会を開催した。①フランスとの間で百年戦争が起こったのは、プランタジネット朝のエドワード3世の時代で、14世紀前半のことである。②権利の請願が提出されたのは、スチュアート朝のチャールズ1世の時代の17世紀前半で、チャールズ1世はこれを無視して専制政治を行い、ピューリタン革命の結果、処刑された。③ノルマン人の一派デーン人がイギリスに侵入したのは、8世紀末から11世紀のことで、9世紀のアルフレッド大王はデーン人の侵入を一時撃退したが、11世紀前半にデーン人のクヌート(カヌート)がイギリスを征服した。

### 問8 [35] ②

②b18世紀前半にジョン=ケイが発明した飛び杼(梭)によって布を織る能率が大幅に向上すると、糸が不足し、糸の増産のために18世紀後半にハーグリ

18 世 紀	飛び杼(梭) ジェニー紡績機 水力紡績機 ミュール紡績機 力織機 綿繰り機	ジョン=ケイ ハーグリーヴズ アークライト クロンプトン カートライト ホイットニー	蒸気機関の実用化 蒸気機関の改良	ニューコメン ワット
19 世 紀			蒸気船 蒸気機関車	フルトン スティーヴンソン

## 産業革命期のおもな発明・改良・実用化

ーヴズのジェニー(多軸)紡績機が発明され、さらに紡績機の発明があいついだ。そして、ニューコメンが実用化した蒸気機関をワットが改良し、以後、蒸気機関は動力源として用いられ、カートライトが発明した力織機にも、蒸気機関が導入された。さらに19世紀に入ると、アメリカ合衆国でフルトンが蒸気船を、イギリスでスティーヴンソンが蒸気機関車を、それぞれ実用化した。産業革命期のおもな発明・改良・実用化については前ページの表を参照。

問9 [36] ③

③パグウォッシュ会議は1957年にカナダのパグウォッシュで最初の会議が開かれ、以後科学者による核兵器の禁止運動の中心となっている。①ワント

ン会議は、第一次世界大戦後の1921年から22年にかけて開かれた国際会議で、四ヵ国条約・九ヵ国条約・ワシントン海軍軍備制限条約が結ばれ、アジア・太平洋におけるアメリカ合衆国主導のワシントン体制が成立した。②バンドン(アジア=アフリカ)会議は、1955年にインドネシアのバンドンで開かれた史上初のアジア・アフリカ諸国首脳の会議で、平和十原則を発表した。④ブレトン=ウッズ会議は、第二次世界大戦末期の1944年に連合国代表が世界経済の立て直しのために開催した会議。国際復興開発銀行(世界銀行、IBRD)と国際通貨基金(IMF)の設立を決定した。

●写真・図版提供

PPS 通信社

# 日本史 A

## 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	2	
	問2	2	①	3	
	問3	3	④	3	
第1問 自己採点小計		(8)			
第2問	A 問1	4	③	3	
	A 問2	5	⑥	3	
	A 問3	6	④	3	
	B 問4	7	①	3	
	B 問5	8	②	3	
	B 問6	9	③	3	
第2問 自己採点小計		(18)			
第3問	問1	10	⑤	3	
	問2	11	②	3	
	問3	12	③	3	
	問4	13	①	3	
第3問 自己採点小計		(12)			
第4問	A 問1	14	④	3	
	A 問2	15	①	3	
	B 問3	16	②	3	
	B 問4	17	③	3	
	B 問5	18	①	3	
第4問 自己採点小計		(15)			
第5問	A 問1	19	②	2	
	A 問2	20	④	3	
	A 問3	21	①	3	
	B 問4	22	②	3	
	B 問5	23	③	3	
	C 問6	24	①	3	
	C 問7	25	②	3	
	C 問8	26	⑤	3	
第5問 自己採点小計		(23)			

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第6問	A 問1	27	④	3	
	A 問2	28	④	3	
	A 問3	29	①	3	
	B 問4	30	③	3	
	B 問5	31	①	3	
	B 問6	32	②	3	
	C 問7	33	③	3	
	C 問8	34	②	3	
第6問 自己採点小計				(24)	
自己採点合計				(100)	

## 【解説】

### 第1問 電話の普及と社会の変化

#### 【出題のねらい】

電話の普及をテーマにした高校生の発表という形式をとった問題文とともに、明治時代初期から戦後の高度経成長期までの社会の変化について問うた。ここ数年、センター試験の第1問では、高校生を登場させたユニークな形式の問題文が出来ているので、本問もその形式にならって作成した。しかし、設問そのものは基本的な事項であるから、きちんと正解してほしい。

#### 【設問別解説】

##### 問1 1 ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。日本初となる東京(新橋)・横浜間の鉄道は、官営として1872年に建設された。日本鉄道会社は、1881年に設立された日本初の民間鉄道会社で、上野・青森間の鉄道などを敷設し経営した。Yは正しい。日本最初の日刊新聞は『横浜毎日新聞』で、横浜港に入りする船舶や貿易に関する情報を提供した。

##### 問2 2 ①

正しい組合せは①。aは正しい。市川房枝らは、1920年に新婦人協会を結成し、女性の政治活動を禁止した治安警察法第5条の改正を求める運動を展開した。その結果、1922年には治安警察法第5条の一部が改正され、女性が政治集会に参加することができるようになった。bは誤っている。関東大震災の混乱のなか、大杉栄とともに憲兵に虐殺されたのは、伊藤野枝である。景山英子は女性の民権運動家で、1885年、大井憲太郎らとともに、武器を持って

朝鮮に渡り朝鮮の内政改革をしようとはかったが、渡航前に逮捕された(大阪事件)。cは正しい。大正時代には職業をもつ女性が増え、彼女らは職業婦人とよばれた。大正～昭和初期の女性の職業としては、電話交換手やバスガールのほかに、デパートの店員やタイピストなどがあった。dは誤っている。女子挺身隊が組織され軍需工場などに動員されたのは、太平洋戦争の時期である。大正時代ではない。

問3 [3] ④

正しい配列は④。I 東京オリンピックの開催・東海道新幹線の開通は1964年で、1960年代の半ばである。II 特需景気は、朝鮮戦争勃発(1950年)にともなって起こった好景気で、1950年代初めである。III 「もはや戦後ではない」とうたったのは、1956年度版の『経済白書』で、神武景気(1955～57年)の最中であった。この神武景気から高度経済成長がスタートすることを知っていれば、1950年代の半ばであると判断できる。以上から II—I—III となる。

## 第2問 幕末・明治時代前期の遣外使節

【出題のねらい】

本問は、幕末と明治時代前期の遣外使節を素材に、当該期の外交・政治・経済・文化を幅広く問うものである。センター試験の第2問では、主として開港後から明治時代前期にかけての時期があつかわれるので、本問を参考に、この時期の諸分野の確認・整理をしてほしい。

【設問別解説】

A ここでは、日米修好通商条約の批准書の交換のためにアメリカに派遣された使節(万延遣米使節)を取りあげながら、開港後の貿易や政治などを問うた。

問1 [4] ⑧

正しいのは⑧。日米修好通商条約など安政の五か国条約の締結後、1859年から諸外国との貿易が始まった。条約では、日本商人と外国商人との取り引きは、開港場に設定された居留地において行われることになっていた。①は誤っている。安政の五か国条約では、日本に關税自主権がなく、關税率を自由に決めるることはできなかった。しかし、關税をかけることができなかっただけではなく、協定にもとづく税率で日本は輸入品に關税をかけた(協定關稅制)。②も誤っている。貿易の取引相手国としては、イギリスが第1位であった。④も誤っている。綿織物などが輸入されたとする点は正しいが、日本から大量の生糸・茶などが輸出されたため、当初は輸出超過であった。

問2 [5] ⑥

正しい配列は⑥。幕末の政局は、朝廷と幕府と諸藩の関係や、公武合体派と尊王攘夷派などの対立が複雑にからんでいる。まずは、各時期の大きな流れを整理しておく必要があろう。本問では、尊王攘夷派の中心的な役割を果たしていた長州藩と三条実美ら尊王攘夷派の公家が、公武合体派の公家と結んだ薩摩藩と会津藩によって京都から追放された八月十八日の政変(III)をまず確認したい。この後、勢力の回復をめざした長州藩は京都に攻め上ったが、薩摩・会津両藩に敗れ京都から退いた。これを禁門の変という(II)。IIIとIIの時期は近いものの、政局の大きな流れを認識していれば、III→IIという配列は判断できたはずである。その後、長州藩は四国艦隊下関砲撃事件などを経て、攘夷の不可能をさとて藩論はしだいに討幕となり、薩摩藩でも薩英戦争を機に討幕を唱える勢力が台頭はじめた。こうしたなか、土佐藩出身の坂本竜馬らの仲介で薩長同盟が成立し(I)、この後、薩摩藩・長州藩は武力討幕をめざすことになった。以上から、III→II→Iという配列になる。

### ◆幕末の政局

1862年	文久の改革 生麦事件→薩英戦争(63)
1863年	長州藩、攘夷決行 八月十八日の政変……(III)
1864年	禁門の変……(II) 第一次長州征討 四国艦隊下関砲撃事件
1866年	薩長同盟……(I) 第二次長州征討
1867年	大政奉還 討幕の密勅(→のちに取り消し) 王政復古の大号令

問3 [6] ④

誤っているのは④。『時事新報』は福沢諭吉が1882年に創刊した新聞であり、彼は1885年3月、この新聞に脱亜論とよばれる論説を発表した。ここで福沢は、日本は清国や朝鮮の開明を待って連帶を強める余裕はなく、むしろアジアを脱して欧米側に立つべきであると強調している。①は正しい。福沢は本問であつかった万延遣米使節に随行した咸臨丸で渡米し、アメリカの実情を見聞している。その後の渡欧経験などももとにして『西洋事情』を著し、欧米諸国の制度や文化を日本に紹介した。②も正しい。福沢がかつて江戸築地の中津藩邸を開いた蘭学塾は、1868年に芝に移され慶應義塾と命名され、の

ちに慶應義塾大学となった。⑥も正しい。福沢は、森有礼が発議した明六社の創立に参加し、中村正直・西周・津田真道・加藤弘之らとともに啓蒙活動にいそしだ。この時期に福沢が著した『学問のすゝめ』は、実学を勧め、学問の重要性を説いたもので、大ベストセラーになった。

B ここでは、明治時代前期に派遣された岩倉遣米欧使節をとりあげながら、明治時代の政治や外交、さらに女子教育などについて問うた。

問4 [7] ①

正しい組合せは①。空欄[A]には木戸孝允が入る。大久保利通・木戸孝允・伊藤博文などがこの使節団に参加した。木戸が征韓論争で征韓論に反対したことから、彼が使節団に参加したことが分かるだろう。西郷隆盛は使節団には参加しなかった。板垣退助や西郷隆盛らは、いわゆる留守政府を預かり、征韓論の主張を高めていった。1873年、使節団が帰国すると、大久保・木戸らは内治優先を主張して征韓論に反対し、征韓派が下野する事態となった(征韓論の政変)。空欄[I]にはイギリスが入る。久米が三大国と認識しているヨーロッパの大國で、「世界の貿易場」と形容していることから、イギリスである。

問5 [8] ②

正しい組合せは②。Xの鹿鳴館に象徴される極端な欧化主義政策を展開した人物は、aの井上馨である。外務卿(のち外務大臣)となった井上馨のもとで進められた交渉では、政府が鹿鳴館を建設して舞踏会を開くなど、極端な欧化主義政策がとられた。おりから1886年にノルマントン号事件が起こると、治外法権の撤廃を求める国民の声は大きくなつた。しかし、井上の改正案には、治外法権の撤廃とひきかえに、日本の裁判所に外国人判事を採用することが規定されているなどしたため、これに対して政府内外からの反発が高まり、結局井上は辞任することになった。bの大隈重信は、井上の後を継いだ外務大臣で、大審院に限定しながらも外国人判事の採用を条件としたため激しい反対運動が起り、国家主義者におそわれて負傷し、交渉を中止した。Yの治外法権の撤廃に成功したときの外務大臣は、dの陸奥宗光である。陸奥が外務大臣をつとめた第2次伊藤博文内閣が成立したころには、日本はすでに憲法と議会をもち、諸法典もほぼ完成するなど、近代国家としての体裁を整えつつあった。また、当時、イギリスはロシアの東アジア進出を警戒していたため、日本に対して融和的な態度を示すようになった。こうした状況のなかで、日本は1894年、日清戦争開戦

の直前に日英通商航海条約に調印し、治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復に成功した。eの小村寿太郎は、1911年に関税自主権の完全回復を実現したときの外務大臣である。

問6 [9] ③

正しいのは③。1899年に公布された高等女学校令で、男子の中学校に対する女子の中等教育機関として高等女学校が制度化された。ここで教育は、「良妻賢母」の育成を主目的としていた。ただし、これはやや細かい知識なので、①・②・④が誤っていることを、自信をもって判断してほしい。①は誤っている。明治政府は学校教育の確立にむけて文部省を設け、1872年に学制を定めた。学制では国民皆学が目指され、男子のみならず女子も小学校教育の対象とされていた。したがって、その後の教育令の制定によって「初めて女子に小学校教育の道がひらかれた」というのは誤りである。②も誤っている。義務教育の就学率は向上し、義務教育が6年に延長された1907年には97%にまで上昇した。男女合わせて100%ちかいのだから、女子のみが50%未満ということはあり得ない。女子の就学率は、1890年には男子の半分弱だったが、日露戦争前後には90%以上に達し、第一次世界大戦頃には、女子と男子との差はほとんど無くなつた。④も誤っている。そもそも大学令は、大正時代の原敬内閣のときに制定されたものである。明治時代にも津田梅子の女子英学塾(現在の津田塾大学)や成瀬仁蔵の日本女子大学校(現在の日本女子大学)などの高等教育機関が存在していたが、これらが正式に大学として認められるのは第二次世界大戦後である。

### 第3問 矢野文雄(竜溪)の人物史

#### 【出題のねらい】

矢野文雄(竜溪)は、政治小説『経国美談』を書いたことで知られる。彼の活動は、自由民権運動期を代表する言論人、大隈重信系の官僚、立憲改進党の指導者、中国駐在の外交官、新聞社の経営陣など非常に幅広く多彩で、多くの若者に影響を与えたといわれている。本問は、彼の人物史を素材に、明治時代中後期の政治・外交・文化について問うたものである。

#### 【設問別解説】

問1 [10] ⑥

正しい配列は⑥。自由民権運動ならびに政府の動向について確認した。I 立志社建白がとりあげられているが、それを知らないても「西南戦争の最中」とあるので時期は確定できる。II 国会期成同盟は、西南戦争後、自由民権運動の担い手として士族に加

えて豪農・商工業者らが参加するなかで結成された。Ⅲ政府が言論取締りのために讒謗律・新聞紙条例を制定したのは、全国組織の愛国社が設立された年であり、西南戦争の前である。以上から、Ⅲ—I—Iの年代順となる。以下に、自由民権運動の経緯について整理しておいたので、参考にしてほしい。

#### ◆自由民権運動の経過と政府の対応

1874	民撰議院設立建白書提出
1875	愛國社結成 政府 大阪会議開催 讒謗律・新聞紙条例制定
1877	西南戦争
1880	国会期成同盟結成 政府 集会条例制定
1881	明治十四年の政変 開拓使官有物払下げ中止 大隈重信の罷免 国会開設の勅諭 自由党結成 (1881～ 松方財政)
1882	福島事件
1884	自由党解散 秩父事件
1887	大同団結運動 三大事件建白運動 政府 保安条例制定

#### 問2 [11] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。政府内では、明治14年(1881年)になると、国会の早期開設を唱える大隈重信らと漸進主義をとる伊藤博文らの対立が先鋭化した。開拓使官有物払下げ事件で藩閥政府への批判が高まるなか、伊藤らは払下げを中止し、大隈を罷免するとともに、国会開設の勅諭で国会開設を公約することによって危機を乗り切った。この政変を明治十四年の政変という。Yは誤っている。伊藤を中心とする藩閥政府は、君主権の強いドイツ流の憲法の制定をめざした。伊藤博文は自ら渡欧し、ドイツの憲法理論などを学び、帰国後に憲法草案の作成をすすめた。そのときに助言したのはドイツ人法律顧問ロエスレルである。フランス人法律顧問のボアソナードは、民法などの起草にあたった。

#### 問3 [12] ③

誤っているのは③。ロマン主義文学の中心となった雑誌には、北村透谷らの『文学界』と、与謝野鉄幹・晶子夫妻らの『明星』がある。『白樺』は、武者小路実篤らが1910年に創刊した白樺派の同人雑誌である。白樺派は自然主義に対抗して人道主義や理

想主義などを追求し、大正期の文壇の主流となつた。①は正しい。文明開化のころは、江戸時代の小説の系譜をひく作品が人々に親しまれていた。これを戯作文学といふ。②も正しい。明治時代中期、坪内逍遙は戯作文学や政治小説を批判し、人間の内面や世相を忠実に描き出す写実主義の重要性を主張した。同時期には二葉亭四迷や尾崎紅葉らがいる。④も正しい。日清戦争前後にはロマン主義文学が、日露戦争前後には自然主義文学がさかんになった。

#### 問4 [13] ①

正しい組合せは①。Xは旅順あるいは大連で、地図上のaに位置する。日本は、日露戦争で遼東半島の旅順・大連を占領し、ポーツマス条約によってロシアから租借権を譲渡され、日本の大陸侵略の拠点とした。これは、遼東半島の位置を知つていれば正解が出せる。Yは膠州湾で、地図上のcに位置する。日本は、第一次世界大戦に参戦すると膠州湾に面した青島を占領し、ドイツの山東省権益を獲得した。なお、地図上のbは威海衛で、イギリスが租借した。地図上のdは広州湾で、フランスが租借した。

### 第4問 明治時代の議会政治

#### 【出題のねらい】

帝国議会開設後の明治時代政治史の基本は、藩閥勢力と政党勢力との関係である。本問では、帝国議会開設後の藩閥勢力と政党の動向について、日清戦争前と戦争後に分けて整理した。明治時代の政治史は、「日本史A」学習の基盤となる分野であり、本問を参考に、明治時代中～後期の政治史をしっかり整理してほしい。

#### 【設問別解説】

A 日清戦争前の帝国議会を初期議会といふ。この時期、政府は政党の動向に左右されないとする超然主義を掲げていたが、帝国議会の衆議院では反政府の立場をとる民党が優勢であった。このため、とくに予算案をめぐって藩閥政府と民党との対立がくり広げられた。基本的な対立の構造を明確にし、その経緯をおさえておきたい。

#### 問1 [14] ④

正しい組合せは④。空欄Aには黒田清隆が入る。大日本帝国憲法が発布された当時の首相であるということから判断できる。黒田は、憲法発布の翌日、超然主義の立場を最初に表明した。そして、この後の藩閥政府の首脳らも、この超然主義の立場を継承した。山県有朋は第1議会のときの首相で、立憲自由党の一部を切りくずして予算を成立させた。

空欄 **イ** には民力休養が入る。当時の民党が掲げていたスローガンは「経費節減・民力休養」で、行政費を節約して地租を軽減せよというものであった。なお、「閥族打破・憲政擁護」は第一次護憲運動のときのスローガンである。

問2 **15** ①

誤っているのは①。衆議院議員選挙法は、憲法発布と同時に公布された。このときの選挙資格は、直接国税15円以上を納める満25歳以上の男子であり、15円以上が10円以上に引き下げられたのは、1900年、第2次山県有朋内閣のときの改正によってであった。②は正しい。第1議会当時の民党は、立憲自由党と立憲改進党で、両党を合わせると衆議院の過半数を占めていた。なお、立憲自由党は翌年自由党と改称した。③も正しい。第2議会にのぞんだ第1次松方正義内閣は、海軍拡張予算をめぐって民党勢力と対立し、衆議院を解散し、第2回総選挙で民党的議席数を減らすことを画策した。④も正しい。第2回総選挙では、内務大臣品川弥二郎の指揮の下に警察が動員され、選挙干渉が行われたが、民党の優勢をくつがえすことはできなかった。

B 日清戦争後の帝国議会は様変わりした。日清戦争の開戦とともに政争は中断され、日清戦争後は、両者の利害の一一致もあり、政府と政党との提携が行われた。しかし、政府による地租増徴案の提出によって提携は破綻し、藩閥勢力と政党の再編がくり広げられた。日清戦争前とは異なり複雑な動きをするが、藩閥の巨頭であった伊藤と山県の考え方の違いなどを踏まえて理解しておきたい。

問3 **16** ②

正しい組合せは②。近代の政党名について整理できているかどうかを確認した。空欄 **ウ** には憲政党が入る。自由党と進歩党(立憲改進党の後身)が合同した政党は憲政党である。憲政会は、大正時代末期の第二次護憲運動で護憲三派を形成した政党の一つで、昭和時代に入って政友本党と合同し、立憲民政党と名称が変わる。「党」と「会」の1文字違いではあるが、全く異なる政党なので注意したい。なお、憲政党は、分裂すると旧自由党系は憲政党を、旧進歩党系は憲政本党を名のった。空欄 **エ** には立憲政友会が入る。この政党は、伊藤博文が1900年に伊藤系の官僚と旧自由党系の憲政党とを基盤に結成した政党で、第一次護憲運動・第二次護憲運動でも重要な役割を果たし、1940年に解散するまで存続した。

### ◆明治期～昭和初期の主な政党

#### ○初期議会期(日清戦争前)

立憲自由党→自由党  
立憲改進党

#### ○日清戦争後

自由党と進歩党(立憲改進党の後身)  
→合同して憲政党を結成  
→分裂 憲政党(旧自由党系)  
憲政本党(旧進歩党系)

#### ○桂園時代～第一次護憲運動

立憲政友会(伊藤系官僚+憲政党)  
立憲国民党(憲政本党の後身)

#### ○第一次護憲運動のあと

立憲政友会  
立憲国民党→革新俱楽部  
立憲同志会→憲政会

#### ○第二次護憲運動のあと(二大政党へ再編)

立憲政友会(革新俱楽部が合流)  
憲政会→立憲民政党(政友本党が合流)

問4 **17** ③

正しいのは③。第1次大隈重信内閣(隈板内閣)は、憲政党を基盤とする初の政党内閣であったが、憲政党内部の旧自由党系と旧進歩党系は対立することが多く、いわゆる共和演説事件で尾崎行雄が文部大臣を辞任すると、その後任をめぐって両派の対立が頂点に達し、憲政党は分裂した。その結果、第1次大隈内閣はわずか4ヶ月で退陣せざるを得なかった。①はジーメンス事件。大正時代初期の第1次山本権兵衛内閣が退陣する契機となった、海軍高官の汚職事件である。②は2個師団増設問題。桂園時代の第2次西園寺公望内閣が崩壊する原因となった出来事である。④は大逆事件。明治時代末期に起きた事件で、この事件以降、社会主義運動は壊滅状態となり、「冬の時代」をむかえた。なお、この当時は第2次桂太郎内閣であったが、大逆事件が第2次桂内閣の退陣の原因となったわけではない。

問5 **18** ①

正しい組合せは①。Xは正しい。第2次山県内閣のとき文官任用令が改正され、これにより、政党員は各省次官などの高級官吏になれないようになった。Yも正しい。軍部大臣現役武官制の制定は、政党勢力の影響が軍へ及ぼないようにするためのものであった。

## 第5問 近現代の軍事をめぐる動向

### 【出題のねらい】

本問は、大正時代から第二次世界大戦後の軍事をめぐる動向を素材に、当該期の外交・政治を中心に問うたものである。日本は、日清・日露戦争、第一次世界大戦に勝利し国際的地位を高めたが、満州事変以後の中国侵略に行き詰まり、第二次世界大戦では敗戦国となった。戦後は、占領下における日本国憲法で戦争放棄を明記したが、冷戦を背景とした占領政策の転換で再軍備がはじまることになった。このように各時代における軍事をめぐる動向は、近現代史における重要なテーマの一つである。本問の学習を通じて、近現代史の理解力をよりいっそう深めてほしい。

### 【設問別解説】

A 第一次世界大戦後の列強間の軍拡競争とワシントン体制下での軍縮、その後の軍拡の動きとロンドン海軍軍縮会議までを中心につかかった。

問1 [19] ②

正しい組合せは②。空欄[A]には、ワシントン会議参加の背景になった恐慌ということから、戦後恐慌が入る。日本は日露戦争後、経済不況に悩まされていて、第一次世界大戦勃発とともにう大戦景気により不況から脱却した。しかし、大戦終結後、列強の経済力回復などから好景気は長くは続かず、1920年に戦後恐慌に陥った。なお、金融恐慌は、第1次若槻礼次郎内閣の時代の1927年に発生した恐慌で、台湾銀行など多くの金融機関が危機的状況に陥った。空欄[I]には、「世界恐慌の影響が広がるなかで」の海軍軍縮会議の開催地ということから、ロンドンが入る。なお、パリでは1928年に不戦条約が調印された。以下に海軍軍縮条約について整理しておいたので、参考にしてほしい。

#### ◆海軍軍縮条約

##### ワシントン海軍軍縮条約 (1922)

ワシントン会議で締結

日本首席全権：加藤友三郎

米英日仏伊が参加

主力艦の保有量を制限

10年間主力艦の建造を中止

##### ロンドン海軍軍縮条約 (1930)

ロンドン海軍軍縮会議で締結

日本首席全権：若槻礼次郎

英米日が参加

補助艦の保有量を制限

主力艦の建造禁止を延長

国内で統帥権干犯問題が起こる

問2 [20] ④

誤っているのは④。九ヵ国条約は、中国の領土保全・門戸開放・機会均等などを定めたもので、この条約締結の結果、石井・ランシング協定が廃棄されることになった。日英同盟協約は、四ヵ国条約の締結によって廃棄された。①は正しい。アメリカは国際連盟に参加しないなど第一次世界大戦後のヴェルサイユ体制への参入には消極的であったが、その後のワシントン体制形成の提唱国として列強の代表を招集した。②も正しい。海軍軍縮が重要な案件の一つであったので、日本は海相の加藤友三郎が首席全権として参加した。③も正しい。四ヵ国条約は、太平洋における権益の相互尊重などを定めたものである。

問3 [21] ①

正しい組合せは①。aは正しい。護憲三派内閣(第1次加藤高明内閣)の時代には、1925年にいわゆる普通選挙法が成立し、選挙資格における納税制限が撤廃された。bは誤っている。普通選挙法に基づく最初の総選挙が実施されたのは、田中義一内閣の時代の1928年であった。cは正しい。護憲三派内閣では、普通選挙法と抱き合わせて1925年に治安維持法が制定され、無政府主義者や共産主義者などに対する取締りが強化された。dは誤っている。治安警察法の制定は、第2次山県有朋内閣の時代の1900年で、その背景には労働運動の高揚などがあった。したがって、a・cが正しい組合せとなる。

B 1930年から1945年までの政府支出と軍事費の推移を示す表を素材に、満州事変からアジア太平洋戦争までの「十五年戦争」下の軍事費や出来事を中心につかかった。

問4 [22] ②

誤っているのは②。センター試験の近現代史では、表やグラフを利用した問題が頻出なので、本問は表の読み解きを含む問題とした。満州事変が日中軍事停戦協定(塘沽停戦協定)で終息したのは1933年である。表を見れば軍事費は一貫して増加しているので「減少傾向に転じた」という内容が誤りと判断できる。①は正しい。満州事変がはじまったのは1931年で、翌年の1932年の軍事費は、1931年に比べて増加している。このころは蔵相高橋是清による積極財政がはじまった時期でもあることを押さえておきたい。③も正しい。日中戦争が勃発した1937年の軍事費は、前年の約3倍になっている。④も正しい。第2次近衛文麿内閣のもとで北部仏印進駐が実施されたのは1940年で、軍事費は政府支出の約3割を占めていることがわかる。

問5 [23] ⑧

正しい組合せは⑧。Xは誤っている。国家総動員法は、日中戦争勃発の翌年の1938年に、戦争が長期化の様相をみせるなかで制定された。ミッドウェー海戦後ではない。Yは正しい。1944年にサイパン島が陥落し、ここにアメリカ軍の飛行場が建設されると、本土空襲が激化し、東京など大都市の多くが大きな被害を受けた。なお、関連事項として、サイパン島陥落を機に日米開戦時の東条英機内閣が退陣して小磯国昭内閣に代わったこと、大都市の国民学校児童の学童疎開(農村などへの集団移動)が行われたことなども押さえておこう。

C 第二次世界大戦の敗戦、連合国軍による占領下の陸海軍解体などから、朝鮮戦争を機とした再軍備の開始・展開までを中心につながった。

問6 [24] ①

正しい組合せは①。空欄〔ウ〕には、朝鮮戦争の勃発を契機に設立されたということから、警察予備隊が入る。保安隊は、サンフランシスコ平和条約の発効によって警察予備隊が改組されたものである。アメリカは占領当初、日本の非軍事化と民主化をはかったが、冷戦と中国内戦における共産党軍の優勢を受けて、日本を「反共の防壁」として極東戦略の要と位置づけるなど占領政策を転換した。そうした背景のなかで朝鮮戦争を機に再軍備がはじまった点を理解しておいてほしい。空欄〔エ〕には、自衛隊設立の背景となったということから、MSA協定が入る。日本が独立を回復した後、アメリカは日本に対して防衛力増強を求め、1954年には、アメリカが日本に対して経済・軍事援助を行う代わりに日本の防衛力増強を義務づけるといった内容のMSA協定が日米間で締結された。この結果、日本は保安隊・海上警備隊を統合して陸海空の3隊からなる自衛隊を設立することになった。なお、日米行政協定は日米安全保障条約の細目規定であり、1952年に締結された。

問7 [25] ②

誤っているのは②。過度経済力集中排除法が制定され、当初は300社を超える巨大独占企業が分割の対象とされた。しかし、占領政策の転換によって実際に分割されたのはわずか11社で、また、銀行はじめから分割の対象外であった。①は正しい。極東国際軍事裁判が開かれ、軍や政府の首脳など28名がA級戦犯容疑者として起訴され、東条英機・広田弘毅ら7名が死刑となった。③も正しい。アメリカ教育使節団の勧告を受け、教育の機会均等や男女共学などの教育理念を示した教育基本法と、新しい学校

制度などを定めた学校教育法が制定された。④も正しい。1947年公布の警察法で自治体警察などが設置された。しかし、1954年の警察法改正で、自治体警察が廃止されるなど中央集権化がはかられた。

問8 [26] ⑥

正しい配列は⑥。I 「日米新安保条約をめぐる反対闘争」が起きている時期だから、このときの首相は岸信介と判断できる。1960年前後の時期と推定できよう。II 「中曾根康弘内閣のとき」とあるから、1980年代と判断できる(防衛費の対GNP比1%枠が突破されたのは1987年)。III 「鳩山一郎首相」とあるので、1955年前後の時期と判断できる(第1回国防会議が開催されたのは1956年)。以上から、III—I—Iの年代順となる。

## 第6問 近現代の農村と農民

### 【出題のねらい】

本問では、近現代の農村・農民について、寄生地主制の成立と解体をテーマに、社会・経済史を中心に問うた。日本の近現代史を学ぶ上で、寄生地主制は重要な概念であるから、この機会にしっかり理解してほしい。また、受験生のなかには社会・経済史分野を不得意とするものもいるが、本問を通して社会・経済史全体の再確認を行ってほしい。

### 【設問別解説】

A 明治時代の地租改正と松方財政についてあつかった。

問1 [27] ④

正しい組合せは④。空欄〔ア〕には解禁が入る。江戸時代には田畠永代売買の禁令が出され、田畠を自由に売買することは禁止されていたが、明治政府は、近代的土地位度を確立するために、1872年に田畠永代売買の禁令を解いた。その前年には、田畠勝手作りも許可されている。空欄〔イ〕にはデフレーションが入る。松方は、それまでのインフレーションを食い止めるために、増税と緊縮財政を行い、通貨量を縮小するデフレ政策を展開した。通貨の価値が上がって物価が下落することをデフレーション(デフレ)という。

問2 [28] ④

誤っているのは④。地租改正によっても江戸時代以来の地主・小作関係は維持され、地租は金納となつたが、小作料は現物納のままであり、小作農は高率の現物小作料に苦しむことになった。①は正しい。地券は土地所有者(地主・自作農)に交付された。②も正しい。政府が決定した地価が基準となり、地租はその3%を金納することと定められた。

地価の算定にあたっては、旧来の年貢収入を減らさないという方針があったため、地租は農民にとって江戸時代と変わらない重い負担であり、1876年には大規模な地租改正反対一揆が起こった。これをうけて、政府は翌1877年に地租の税率を2.5%に引き下げた。⑧も正しい。農民が共同で利用していた入会地のうち、その所有権を立証できないものは官有地に編入された。このことも農民にとっては大きな負担となった。

#### ◆地租改正の要点

江戸時代の年貢	地租
課税基準 収穫高	地価
税率 4～5割	3%
納稅法 米納	金納
負担者 本百姓	地券所有者

#### 問3 [29] ①

正しい組合せは①。Xは正しい。寄生地主は、高率の現物小作料を徴収し、その収益を公債や株式に投資した。このことが、資本主義発展のための資金供給の役割を果たした。Yも正しい。小作料の支払いに苦しむ小作農は、娘を紡績業や製糸業の工場に出稼ぎに出することで家計を補った。彼らが低賃金で働いたことによって、日本の綿糸や生糸は輸出を伸ばしていった。

#### 問4 [30] ③

正しい組合せは③。空欄[ウ]にはシベリア出兵が入る。1918年、シベリア出兵をあてこんだ米の投機的買占めが行われて米価が急騰し、米騒動が発生した。空欄[エ]には賀川豊彦が入る。米騒動以降、農村では小作料の減免などを求める小作争議が頻発した。こうしたなか、1922年に賀川豊彦・杉山元治郎らによって小作人組合の全国組織である日本農民組合が結成され、小作争議を指導した。鈴木文治は、大正時代の初めに、労資協調を方針とする労働団体である友愛会を結成した人物である。

#### 問5 [31] ①

正しいのは①。小林多喜二の作品は『蟹工船』である。小林多喜二はプロレタリア文学の作家で、日本共産党的活動家でもあったため、特高警察に逮捕され、拷問によって殺害された。②の『太陽のない街』もプロレタリア文学の小説で、徳永直の作品である。③の『暗夜行路』は、白樺派に属した志賀直哉の作品である。④の『大菩薩峠』は大衆文学の代表作で、中里介山の作品である。

#### 問6 [32] ②

誤っているのは②。金解禁を行った大蔵大臣は井上準之助である。井上準之助は、為替相場の安定などをはかって金解禁を行ったが、旧平価での解禁であったため実質的に円の切り上げとなり、輸出には不利に作用した。高橋是清は井上に代わって大蔵大臣となった人物で、金輸出を再禁止した。①は正しい。1929年10月にニューヨークのウォール街で株価が暴落し、それが世界恐慌に発展した。その影響が日本にも及び、旧平価の金解禁による不況と相まって昭和恐慌となった。③も正しい。昭和恐慌のなか、政府は重要産業統制法を制定し、カルテルの結成を助長した。④も正しい。昭和恐慌が発生すると、米などの農産物の価格が暴落するとともに、アメリカ向けの生糸輸出の激減によって織価も暴落した。また、都市の失業者が帰農したため農家の困窮は深刻となり、欠食児童や娘の身売りが続出した。

#### C 第二次世界大戦後の農地改革と、高度経済成長期の農村をあつかった。

#### 問7 [33] ③

正しい組合せは③。空欄[オ]には自作農創設特別措置法が入る。日本政府は1946年に第1次農地改革を行ったが、寄生地主制の解体が不徹底であるというGHQの指摘を受け、翌年に自作農創設特別措置法を制定して第2次農地改革を開始した。農業基本法は、高度経済成長期の1961年、農業の構造改革をめざして制定された法律である。空欄[カ]には10%が入る。戦前の小作地は全耕作地の約45%であったが、農地改革の結果、小作地は10%程度にまで減少した。

#### 問8 [34] ②

誤っているのは②。1960年代後半には、米の生産拡大と消費の停滞により米は生産過剰におちいり、1970年から減反政策がはじまった。一方、米以外の農産物の輸入は拡大し、食糧自給率は1960年代前半から急速に低下していった。①は正しい。高度経済成長期には、農業のみで生計を立てる専業農家は減少し、兼業農家が増加した。③も正しい。農業と工業の収入格差が拡大するなか、農村からの都市への労働力の流出が進み、農村では過疎化、都市では過密化の問題が起こった。④も正しい。高度経済成長の時期には、消費革命とよばれる耐久消費財の普及が進んだ。1960年代には、電気冷蔵庫・電気洗濯機・白黒テレビの「三種の神器」、1970年代には、カー・クーラー・カラーテレビの「3C」が各家庭に浸透した。こうした現象は都市のみではなく、農村においても見られた。

# 日本史 B

## 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	2	
		問2 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	2	
		問3 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	2	
	B	問4 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	2	
		問5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	2	
		問6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	2	
第1問 自己採点小計			(12)		
第2問	A	問1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
		問2 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	3	
		問3 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑥</span>	3	
	B	問4 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
		問5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">11</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
		問6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
第2問 自己採点小計			(18)		
第3問	A	問1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">13</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
		問2 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">14</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
		問3 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">15</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
	B	問4 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">16</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
		問5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">17</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	3	
		問6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">18</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
第3問 自己採点小計			(18)		
第4問	A	問1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">19</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	2	
		問2 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">20</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	3	
		問3 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">21</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑥</span>	3	
	B	問4 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">22</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
		問5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">23</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	3	
		問6 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">24</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
第4問 自己採点小計			(17)		
第5問	問1	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">25</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑤</span>	3	
	問2	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">26</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
	問3	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">27</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
	問4	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">28</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
第5問 自己採点小計			(12)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	2	
	問2	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">30</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④</span>	3	
	問3	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">31</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
	問4	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">32</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
	問5	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">33</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</span>	3	
	問6	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">34</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①</span>	3	
C	問7	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">35</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">②</span>	3	
	問8	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">36</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑤</span>	3	
第6問 自己採点小計			(23)		
自己採点合計			(100)		

## 【解説】

### 第1問 古代～近代の絹と綿をめぐる歴史

#### 【出題のねらい】

センター試験の第1問は、例年テーマ史が出題されている。本問では、テーマとして「絹と綿をめぐる歴史」をとりあげた。センター試験では特殊なテーマがとりあげられることがあるが、各設問はテーマに関する知識が無くても正解が導けるものばかりなので、落ち着いて各設問にあたることが肝心である。また、センター試験の第1問は、会話文やレポートなどの形式で出題されるので、本問もそれに準拠し会話文の形式を採用した。

#### 【設問別解説】

A 桑畠の歴史を素材に、古代～近世の養蚕や生糸・絹織物について確認した。

##### 問1 1 ②

正しい組合せは②。空欄Aには、調が入る。律令税制の一つである調は、絹・布・糸など郷土の産物を中央政府に納めるもので、良民の成年男子に課せられた。義倉は、凶作にそなえて粟を納めさせるものである。次ページに、律令税制について整理しておいたので、参考にしてほしい。空欄1には、井原西鶴が入る。『好色一代男』が西鶴の代表作であることから容易に正解できたであろう。ちなみに、この作品は西鶴が著した浮世草子の第一作目である。近松門左衛門は人形浄瑠璃の脚本家で、『曾根崎心中』や『国性爺合戦』などの作品がある。井原西鶴と近松門左衛門は、ともに元禄文化を代表する人物であり、それぞれのおもな作品を一度確認しておきたい。

### ◆律令税制

租…口分田の面積に応じて稻を納めさせる  
庸…都での労役(歳役)の代わりに布を納めさせる  
調…絹・糸や海産物など郷土の産物を納めさせる  
義倉…凶作にそなえて粟を納めさせる  
出舉…稻を貸し付けて利息とともに納めさせる  
雜徭…地方での労役に従事させる  
兵役…軍団兵士  
衛士(都の警備)・防人(九州北部の警備)

問2 [2] ⑧

正しい配列は⑧。年代配列問題は、時代を特定するキーワードを、各文中から見つけだすことが大切である。Iでは「元明天皇」、IIでは「憲法十七条」、IIIでは「延喜式」がそれぞれのキーワードである。年代順に解説する。II憲法十七条が推古天皇のもとで定められたものであることを知つていれば、6世紀末から7世紀初めのことであると判断できる。I元明天皇が平城京に遷都した天皇であることを知つていれば、8世紀初めころであると判断できる。III延喜式が醍醐天皇のもとで編纂されたものであることを知つていれば、平安時代中期の10世紀初めころであると判断できる。以上から、II—I—IIIの年代順となる。

問3 [3] ④

誤っているのは④。幕末の貿易では、生糸が主要な輸出品となり、当初は全体の約8割を占めた。その結果、生糸を生産する製糸業が急速に発展し、マニュファクチャ化がすんだ。一方、生糸を原料とする絹織物業は、生糸輸出の激増で原料の不足・価格高騰などにより大きな打撃を受けた。製糸業と絹織物業の区別をしっかりとおきたい。①は正しい。平安時代後期から鎌倉時代にかけて行われた日宋貿易では、宋からは宋銭・絹織物などが輸入され、日本からは金・硫黄・刀剣などが輸出された。②も正しい。室町時代、日明貿易で明から輸入された中国生糸を使って、国内では京都・堺・博多などで絹織物が生産された。③も正しい。江戸時代初期に創設された糸割符制度は、糸割符仲間とよばれる特定の商人らに輸入生糸を一括購入させ、ポルトガル商人の利益独占を抑制しようとしたものである。

B 木綿を素材に、中世の商業や近世・近代の綿業について確認した。

問4 [4] ①

正しい組合せは①。Xは正しい。室町時代には手工業者や商人の座が増加し、寺社などの本所の保護

のもと閑錢の免除や販売独占権などを認められた。そのうち、大山崎の油座は油の販売と原料である荏胡麻の仕入れ独占権などをもっていた。Yも正しい。戦国大名は、城下町の繁栄などを目的に楽市・楽座を実施して領内経済の発展をはかった。織田信長も、城下町安土の繁栄をはかるために楽市令を発した。

問5 [5] ③

正しいのは③。江戸時代には、織物に関する特産物が各地に生まれた。絹では西陣織・桐生絹・足利絹など、綿では小倉織・久留米絹など、麻では奈良晒・越後絹などがある。教科書などに掲載されているおもな特産品の一覧表で、一度確認し整理しておきたい。①は誤っている。田畠勝手作りの禁を撤廃したのは明治政府で、地租改正条例公布の2年前の1871年のことである。江戸幕府は、田畠勝手作りの禁を出して、木綿・菜種・桑などの作付けを制限した。②も誤っている。刈敷・草木灰は自給肥料である。購入肥料である金肥には、干鰯や油粕などがある。④も誤っている。村方騒動は、村役人の不正を追及し村役人の交代を要求するなどの村内の紛争である。在郷商人らの指導によって、都市特権商人の流通独占に対して、流通の自由化などを求めたのは国訴である。

問6 [6] ④

正しい組合せは④。aは誤っている。1883年に開業した大阪紡績会社は、輸入の紡績機械・蒸気機関を用いた大規模経営に成功した。また、原料である綿花は、おもに中国・インドなどからの輸入に依存していた。bは正しい。紡績業の発展はめざましく、1890年には綿糸の国内生産量が輸入量を上まわった。さらに、日清戦争後には中国・朝鮮への輸出が急増し、1897年に綿糸の輸出量が輸入量を上まわった。cは誤っている。綿織物はおもに中国や朝鮮などに輸出された。欧米とくにアメリカに輸出されたのは、生糸である。dは正しい。1930年代前半の高橋財政下、日本は為替相場の下落(円安)を利用して輸出をのばし、綿織物ではイギリスを抜いて世界第1位の輸出国となった。したがって、b・dが正しい組合せとなる。

### 第2問 古代・中世の法と裁判

#### 【出題のねらい】

本問は、古代の法と裁判をテーマとする問題文を素材に、古代(一部中世)の政治を中心に問うものである。問題文では、豪族による裁判の時代から律令国家による裁判の時代へ、中国からの継承法にもとづく時

代から日本にあった慣習法の時代へ、という変化を概観した。

#### 【設問別解説】

A 古墳時代の豪族や律令官制、および奈良時代の政治について確認した。

問1 [7] ③

正しい組合せは③。空欄 [ア] には、太政官が入る。刑部省などの八省は、太政官のもとでそれぞれ政務を分担した。神祇官は神々の祭祀をつかさどる官司で、行政全般は太政官が管掌した。空欄 [イ] には、藤原武智麻呂が入る。藤原武智麻呂は藤原不比等の四子の一人で、南家の祖となった人物である。藤原仲麻呂は、その武智麻呂の子である。

問2 [8] ④

正しいのは④。ヤマト政権は服属した地方豪族に国造などの地位を与え、従来の領有地の支配をまかせ、屯倉の管理などにあたらせた。①は誤っている。古墳時代の豪族は、民衆の集落から離れた場所に居館を構えた。また、古墳も共同墓地から離れた場所、例えば集落を見下ろす場所などに築かれ、民衆から隔絶した権力を誇示した。②も誤っている。豪族の私有地である田荘を耕作していたのは、私有民の部曲である。名代・子代は大王家の直轄民である。③も誤っている。豪族には、その出自や勢力に応じて臣・連・君・直などの姓が与えられ、有力な地方豪族には君の姓が与えられた。真人は、のちに天武天皇が定めた八色の姓の最上位に位置し、皇族から分かれた氏族に与えられた。

問3 [9] ⑥

正しい配列は⑥。年代順に解説する。Ⅲ「長屋王」がキーワード。光明子の立後に反対したため、謀反を企てていると誣告され、自殺に追いこまれた長屋王の変(729年)についての説明文である。Ⅱ「橘奈良麻呂の謀反計画」がキーワード。藤原仲麻呂政権に対してクーデターをはかった橘奈良麻呂の変(757年)についての説明文で、奈良時代半ばころと判断できる。Ⅰ「光仁天皇」がキーワード。光仁天皇は、称徳天皇の死後に天智系から即位した天皇で、桓武天皇の父であることから、奈良時代末の出来事と判断できる。以上から、Ⅲ→Ⅱ→Ⅰの年代順となる。

B 平安時代以降の法と裁判を軸に、律令制再建築や政治史の動向、および鎌倉時代の御成敗式目について確認した。

問4 [10] ①

正しい組合せは①。空欄 [ウ] には、檢非違使が入る。檢非違使は嵯峨天皇が設置した令外官の一つ

で、都の警備などにあたった。のちには裁判をも担当するようになり、五衛府・刑部省・彈正台・京職などの権限を吸収していった。勘解由使は、桓武天皇が置いた令外官の一つで、国司交替時の事務などを監督した。空欄 [エ] には、伴善男が入る。問題文に書かれたエピソードを知っておく必要はなく、年代から判断してほしい。問題文の事件が起きたのは、846年で9世紀半ばである。伴善男は、応天門の変(866年)で排斥された人物の一人であるから、おおよその時期が合っている。源高明は、10世紀後半の安和の変(969年)で排斥された人物であるから、約1世紀も後に活躍した人物ということになるので排除できる。以下に、平安時代の政変について整理しておいたので、参考にしてほしい。

#### ◆平安時代の政変

平城太上天皇の変(葉子の変) (810)

平城太上天皇と嵯峨天皇との対立

嵯峨天皇が北家の藤原冬嗣を藏人頭とする  
式家の藤原葉子らを排斥  
→北家台頭の契機

承和の変 (842)

藤原良房が伴健岑・橘逸勢らを排斥  
→道康親王(のちの文徳天皇)が立太子

応天門の変 (866)

大納言の伴善男らを排斥  
→藤原良房は正式に摂政となる

阿衡の紛議 (887~888)

藤原基經と宇多天皇の対立

菅原道真の左遷 (901)

左大臣の藤原時平が右大臣の菅原道真を排斥

安和の変 (969)

左大臣の源高明を排斥  
→以後、摂政・関白が常置

問5 [11] ①

正しい組合せは①。Xは正しい。律令制定後、律令の補足・修正である格や施行細則である式が数多く出されていた。嵯峨天皇は、これらを分類・整理して弘仁格式を編纂させた。その後も、清和天皇の時代に貞觀格式、醍醐天皇の時代に延喜格式がそれぞれ編纂され、あわせて三代格式と総称される。Yも正しい。律令法は唐の律令をモデルにしたため、日本の実情と合わないことも多々あった。そのため、条文の解釈についても学者の間でさまざまに説が分かれていた。こうしたなか、養老令の官撰注釈書『令義解』によって令の公式解釈が示された。なお、諸説を集めた私撰注釈書の『令集解』と混同し

ないようにしたい。

問6 [12] ②

誤っているのは②。引付衆は執権北条時頼の時代に設置されたもので、御成敗式目が制定された時点ではまだ存在していない。①は正しい。執権北条泰時は合議体制の整備をすすめ、執権を補佐する連署や重要政務を合議する評定衆を設置し、さらに合議政治の規範となる御成敗式目を制定した。③も正しい。御成敗式目は、道理とよばれる武家社会の慣習・道徳と源頼朝以来の先例を基準にして定められ、その条文のなかには当時の公家法と異なる規定もみられた。また、御成敗式目は幕府の勢力範囲(御家人社会)にのみ適用されたもので、公家法や莊園領主が定めた本所法と併存するものとされた。ただし、のちに幕府の勢力範囲が広がっていくと、その適用範囲も拡大していった。④も正しい。御成敗式目は武家法の根本法典とされ、室町幕府にも引き継がれて基本法典とされた。

### 第3問 中世の交通と流通

#### 【出題のねらい】

本問は、鎌倉・室町時代における交通・流通の発達に焦点をあてて、中世の政治・社会経済・文化について総合的に問うたものである。社会経済史は一般的に学習の遅れがちな分野であり、特に交通・流通は諸君にとってなじみの薄いところであろう。設問は基本事項がほとんどなので、本問を用いて中世の社会経済史についての対策をしてほしい。

#### 【設問別解説】

A 鎌倉時代の交通の発達について、東海道を素材に、鎌倉幕府による整備や往来のあり方について確認した。

問1 [13] ①

正しい組合せは①。aは正しい。守護は各国に一人ずつ設置され、おもに東国出身の有力御家人が任命された。bは誤っている。鎌倉時代の守護は、大番催促(内裏・朝廷の警備役である京都大番役を勤めるために国内御家人を招集・統率する権限)と謀叛人・殺害人の逮捕を基本的な職務とした。これを大犯三カ条という。使節遵行は、室町幕府の裁判の判決を守護が強制執行する権限で、南北朝時代に新たに守護に認められたものである。cは正しい。御家人が将軍から受ける御恩には、本領安堵と新恩給与があった。本領安堵は将軍が御家人の先祖伝来の所領の支配を保障するもので、新恩給与は戦功のあった御家人に新たな所領を給付することである。これらの御恩は、いずれも地頭に任命する形式をとっ

て行われた。dは誤っている。下地中分とは、地頭の莊園侵略に対して、莊園領主が土地を折半して相互の支配権を確認し、干渉しないことを約束した解決法で、地頭の権限ではない。また莊園・公領からの年貢の半分を兵糧米として徴収する半済は、南北朝時代に守護に与えられた権限である。したがって、a・cが正しい組合せとなる。

問2 [14] ③

正しい配列は③。年代順に解説する。II「源頼朝」がキーワードである。源頼朝は、弟義経をかくまつたことを理由に、1189年に奥州藤原氏を攻め滅ぼし、東北地方に支配を拡大した。その翌年、頼朝は上洛して後白河法皇と会談し、右近衛大将に任じられたが、間もなく辞任して鎌倉に戻った。I「後鳥羽上皇による北条義時追討」がキーワードで、承久の乱に関する文であることがわかる。源頼朝没後、將軍職は2代頼家・3代実朝へと継承されていたが、1219年に実朝が公暁に殺害されて源氏將軍の血筋は断絶した。このような状況下、後鳥羽上皇は、1221年に畿内・西国の武士に呼びかけて北条義時追討の兵を挙げたが、幕府軍に敗れた。このとき幕府軍は東海道・東山道・北陸道の三方に分かれて京都に攻め上っており、東海道の軍は北条泰時・時房らが率いていた。III「宗尊親王」がキーワードである。源氏將軍の血筋が断絶したあと、頼朝の遠縁にあたる九条家から頼経が將軍に迎えられ、以後將軍職は頼経の子である頼嗣に継承されていった。これを摂家將軍とよぶ。その後、執権北条時頼の時代になると、これまでの摂家將軍にかわって皇族から將軍が迎えられた。それが後嵯峨上皇の皇子である宗尊親王である。以上から、II—I—IIIの年代順となる。

問3 [15] ③

正しい組合せは③。Xは「諸国を遊行」・「踊念仏によって布教」したということから、bの一通についての文と判断できてほしい。一遍は、阿弥陀仏への信心の有無を聞くことなく、すべての人が救われるという念仏の教えを説き、時宗の開祖となった。一遍は全国を遊行する途中、鎌倉に入ろうとしたが幕府に拒まれ、鎌倉郊外に滞在したのちに京都に入り、踊念仏で自らの教えを広めた。aの忍性は律宗の僧侶で、奈良に北山十八間戸をつくるなど社会事業に尽力した。Yは「『十六夜日記』に記した」ということから、cの阿仏尼と判断できてほしい。阿仏尼は、藤原定家(『新古今和歌集』の撰者の一人)の子の妻であり、一族内部での所領紛争に際して、幕府への訴訟のために京都から東海道を経由して鎌

倉に赴いた。その道中の出来事を中心に記した紀行文が『十六夜日記』である。dの菅原孝標の女は、平安時代の人物で、国司であった父の任地である上総国から帰京する旅や宮仕えの様子などを『更級日記』に著した。

B 室町時代の琵琶湖水運を素材として、当該期の交通・流通の発達などについて確認した。

問4 [16] ②

正しい組合せは②。空欄[A]には、敦賀が入る。東北地方の日本海側や北陸地方から海路で運搬されてきた年貢などの諸物資は、越前国の敦賀や若狭国の大浜の港で陸揚げされてから、陸路で琵琶湖岸に廻送され、船に積みかえられて琵琶湖を南下した。<sup>とさみなと</sup>十三湊は、青森県の日本海側にあった港町で、蝦夷地と日本海海運を結ぶ結節点であった。空欄[I]には、門前町が入る。琵琶湖を縦断した物資は、南岸の坂本や大津で陸揚げされ、京都にもたらされた。坂本は、琵琶湖水運の要衝に位置する港町であり、延暦寺の門前町でもあった。そのため、ここには延暦寺をはじめとする莊園領主の倉庫群や多数の家屋が建ち並んで年貢などの諸物資が大量に集中し、馬借などの業者が集住していた。寺内町は、一向宗寺院を中心に発達した都市である。以下に、中世後期に発達した都市について整理しておいたので、参考にしてほしい。

#### ◆中世後期のおもな都市

門前町	寺社の門前に形成 坂本(延暦寺) 宇治・山田(伊勢神宮) 長野(善光寺)
寺内町	一向宗寺院を中心に形成 吉崎(吉崎道場) 石山(石山本願寺)
港町	水陸交通の要所に発達 自治都市が多い 堺・博多…日明貿易の拠点 草戸千軒…瀬戸内海海運で発展 敦賀・大浜…日本海海運と琵琶湖水運を結ぶ 坂本・大津…琵琶湖水運と京都を結ぶ 坊津…琉球貿易などの拠点 十三湊…蝦夷地と日本海海運を結ぶ
城下町	戦国大名の拠点 小田原(北条氏) 一乗谷(朝倉氏) 山口(大内氏)

問5 [17] ④

誤っているのは④。蔵元・掛屋は江戸時代の蔵屋敷の業務を担ったもので、室町時代の金融業者ではない。室町時代の金融業者は土倉・酒屋で、室町幕府はこれらを保護して倉役・酒屋役を徵収した。①

は正しい。二毛作は、同じ耕地でおもに表作に米、裏作に麦というように年2回耕作することで、鎌倉時代には畿内・西国において普及し、室町時代には東国にまで拡大した。また、室町時代になると、畿内の一部では三毛作も行われるようになった。②も正しい。見世棚は、軒端に商品を並べる棚を置いて販売した常設の小売店舗のことと、室町時代には京都などの都市で増加した。③も正しい。中世には、中国から貨幣が大量に輸入され、国内で流通したために、貨幣経済が発展した。室町時代には日明貿易によって洪武通宝・永楽通宝などの明錢が輸入された。

問6 [18] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。馬借とは、馬の背に荷物を載せて運搬した陸上運送業者である。これに対して、車に物資を載せ牛などに引かせて運搬したのが車借である。図版の場面は、米俵を京都方面に運搬する馬借が大津の関所を通過する様子を描いたものといわれている。Yは誤っている。山城の国一揆は、1485年に南山城の国人や土民らが一揆を結び、守護の畠山両軍に国外退去を求め、8年間にわたって自治支配を実現したものであった。馬借の蜂起とは関係ない。

## 第4問 近世のキリスト教と蘭学

### 【出題のねらい】

本問は、近世における西洋文明の流入とその影響について、キリスト教と蘭学(洋学)という2つのテーマをとりあげ、その動向を問うたものである。本問を通して、海外からもたらされたキリスト教と蘭学(洋学)が、どのような発展をとげ、どのような影響を国内にもたらしたか、さらには時の為政者はこれに対してどのような対応をしたかなどを確認してほしい。

### 【設問別解説】

A キリスト教に関して、その伝来から織豊政権期における為政者の対応、さらには江戸時代前期のいわゆる鎖国体制下の動向を、来日した宣教師を中心に確認した。

問1 [19] ①

正しい組合せは①。空欄[A]には、ヴァリニャーニが入る。イエズス会宣教師ザビエルが1549年に鹿児島に上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えて以来、多くの宣教師が来日した。イタリア人宣教師ヴァリニャーニは、ローマ教皇のもとに使節を派遣することをすすめ、キリスト教の大友義鎮・大村純忠・有馬晴信が天正遣欧使節を派遣した。また、ヴァリニャーニがもたらした活字印刷術によっ

て、ローマ字による宗教書や文学書、日本の古典や辞書などの出版が行われた。これらの出版物をキリスト教版(天草版)という。ザビエルは、前述のようにキリスト教を初めて日本に伝えた宣教師である。

空欄**I**には、西洋紀聞が入る。イエス会宣教師のシドッチは、マニラに渡って日本語を学び、1708年に大隅の屋久島に上陸したが、捕えられて長崎から江戸に送られた。当時、幕政を担当していた新井白石が彼を尋問し、それをもとに『西洋紀聞』『采覧異言』を著した。『海国兵談』は林子平が著した書物である。

問2 [20] ④

正しい組合せは④。Xは誤っている。織田信長は、支配に屈しない仏教勢力を従わせようとし、延暦寺を焼打ちし、全国各地の淨土真宗寺院を拠点とする一向一揆を滅ぼし、石山本願寺を屈服させるなどした。その一方で、信長は仏教勢力を牽制する意味もあってキリスト教を保護した。宣教師に布教の便宜を与えるとともに、安土にセミナリオ、京都に南蛮寺の建設を許可した。Yも誤っている。豊臣秀吉は当初、キリスト教の布教を承認していたが、九州平定の帰路、長崎が大村純忠によりイエス会の教会に寄進されていることを知り、バテレン追放令を出した。しかし、ポルトガル・イスパニアとの貿易を奨励したために統制は徹底しなかった。当時の貿易相手国は、オランダ・イギリスではない。オランダ・イギリスとの貿易開始は、秀吉死後の1600年、オランダ船リーフデ号の豈後漂着がきっかけであった。

問3 [21] ⑥

正しい配列は⑥。いわゆる鎖国の過程について、史料を用いて年代配列の形式で確認した。年代順に解説する。III貿易船に「將軍の朱印状」以外に「閣老の書簡」の携行が義務づけられたことが読みとれる。「閣老」とは注にあるように老中をさし、老中が発行する「書簡」とは老中奉書をさす。したがって、この史料は奉書船に関する記述であることがわかる。奉書船に関しては、1633年に奉書船以外の日本船の海外渡航が禁止されたことを想起してほしい。II「有馬領の住人、あるいは農民の大部分が叛乱を起こし」とあるので、1637~38年に起きた島原の乱と判断したい。この乱は、島原・天草の領主が苛酷な年貢を課したことなどに抵抗したキリスト教徒を中心とする農民らの一揆である。Iオランダ人の居住地が「平戸」から「長崎」に移されたということから、1641年に平戸のオランダ商館を長崎出島へ移したことだとわかる。以上から、

III—I—Iの年代順となる。以下に、鎖国の過程について整理しておいたので、参考にしてほしい。

◆鎖国政策の推移

1612年	直轄領に禁教令 翌年全国化
1616年	中国船以外の寄港地を平戸・長崎に限定
1623年	イギリス、平戸商館を閉鎖
1624年	イスパニア船の来航を禁止
1633年	奉書船以外の日本船の海外渡航を禁止
1635年	日本人の海外渡航・帰国を全面的に禁止
1637年	島原の乱(~38年)
1639年	ポルトガル船の来航を禁止
1641年	オランダ商館を平戸から長崎出島に移す

B 蘭学(洋学)に関して、享保改革期の漢訳洋書輸入の禁緩和を契機とする西洋の知識や学問への関心の高まりから、田沼期の発展を経て、幕府による統制・弾圧が厳しくなるまでの動向を確認した。

問4 [22] ②

正しいのは②。徳川吉宗は、青木昆陽の意見を入れて凶作に備えて甘藷の栽培を命じたほか、甘藷や朝鮮人參などの栽培をすすめるなど新しい産業を奨励した。①は誤っている。蘭書を翻訳するための蚕書和解御用が設置されたのは、11代將軍徳川家斉の時代である。③も誤っている。宮崎安貞が『農業全書』を著したのは元禄年間であり、また幕府の命令を受けたものでもない。④も誤っている。これは田沼時代の政策である。田沼意次は銅・鉄・朝鮮人參などの座を設けて専売制をしき、特定の御用商人に専売権を与えて運上を納めさせるなど、町人の経済力をを利用して利益の一部を幕府の収入に取り込もうとした。

問5 [23] ④

正しい組合せは④。下線部の翻訳書とは『解体新書』、問題文の図版はその扉絵である。aは誤っている。『蘭学階梯』は大槻玄沢が著した蘭学の入門書である。玄沢は杉田玄白・前野良沢に学び、江戸に芝蘭堂という蘭学塾を開いて多くの門人を育てた。この私塾は、太陽暦の元旦に「おらんだ正月」を祝うなど、蘭学の中心的存在となった。b・dは正しい。『解体新書』は、『ターヘル=アナトミア』を杉田玄白や前野良沢らが日本語に翻訳し、田沼時代に刊行したものである。『解体新書』の刊行により西洋医学がすぐれていることが明らかになると、医学分野で蘭学はめざましく発展した。cは誤っている。志筑忠雄は『暦象新書』を著して万有引力・地動説などを紹介するとともに、ケンペルの『日本誌』の一部を「鎖国論」と抄訳して「鎖国」の語を

初めて使用した人物でもある。

問6 [24] ③

正しい組合せは③。Xオランダ商館の医師として来日したドイツ人シーボルトは、長崎郊外の鳴滝塾で診療と医学・博物学などの教育を行い、高野長英らの俊才を育てた。シーボルトは帰国際、持ち出し禁止の日本地図を持っていたため国外追放となり、シーボルトに地図を渡した幕府天文方の高橋景保らも処罰された。これをシーボルト事件という。

ドイツ人ケンペルはオランダ商館の医師で、問5の解説で前述したように日本研究につとめ、『日本誌』などを著した人物である。Y1837年、日本人漂流民の送還と通商を求めて来航したアメリカ商船モリソン号が、異国船打払令によって撃退されるという事件が起こった。これをモリソン号事件という。この事件に対して蘭学者でありシーボルトの門下であった高野長英は『戊戌夢物語』を、また渡辺華山は『慎機論』を、それぞれ著して幕府の対応を批判し処罰された。この弾圧事件を蛮社の獄という。緒方洪庵は、大坂に蘭学塾である適塾を開き、橋本左内・大村益次郎・福沢諭吉など多才な人材を数多く育てた。

## 第5問 矢野文雄(竜溪)の人物史

### 【出題のねらい】

矢野文雄(竜溪)は、政治小説『経國美談』を書いたことで知られる。彼の活動は、自由民権運動期を代表する言論人、大隈重信系の官僚、立憲改進党の指導者、中国駐在の外交官、新聞社の経営陣など非常に幅広く多彩で、多くの若者に影響を与えたといわれている。本問は、彼の人物史を素材に、明治時代中後期の政治・外交・文化について問うたものである。

### 【設問別解説】

問1 [25] ⑤

正しい配列は⑤。自由民権運動ならびに政府の動向について確認した。I立志社建白がとりあげられているが、それを知らないても「西南戦争の最中」とあるので時期は確定できる。II国会期成同盟は、西南戦争後、自由民権運動の担い手として士族に加えて豪農・商工業者らが参加するなかで結成された。III政府が言論取締りのために讒謗律・新聞紙条例を制定したのは、全国組織の愛国社が設立された年であり、西南戦争の前である。以上から、III—I—Iの年代順となる。以下に、自由民権運動の経緯について整理しておいたので、参考にしてほしい。

### ◆自由民権運動の経過と政府の対応

1874	民撰議院設立建白書提出
1875	愛国社結成 政府 大阪会議開催 讒謗律・新聞紙条例制定
1877	西南戦争
1880	国会期成同盟結成 政府 集会条例制定
1881	明治十四年の政変 開拓使官有物払下げ中止 大隈重信の罷免 国会開設の勅諭 自由党結成 (1881～松方財政)
1882	福島事件
1884	自由党解散 秩父事件
1887	大同団結運動 三大事件建白運動 政府 保安条例制定

問2 [26] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。政府内では、明治14年(1881年)になると、国会の早期開設を唱える大隈重信らと漸進主義をとる伊藤博文らの対立が先鋭化した。開拓使官有物払下げ事件で藩閥政府への批判が高まるなか、伊藤らは払下げを中止し、大隈を罷免するとともに、国会開設の勅諭で国会開設を公約することによって危機を乗り切った。この政変を明治十四年の政変といいう。Yは誤っている。伊藤を中心とする藩閥政府は、君主権の強いドイツ流の憲法の制定をめざした。伊藤博文は自ら渡欧し、ドイツの憲法理論などを学び、帰国後に憲法草案の作成をすすめた。そのときに助言したのはドイツ人法律顧問ロエスレルである。フランス人法律顧問のボアソナードは、民法などの起草にあたった。

問3 [27] ③

誤っているのは③。ロマン主義文学の中心となつた雑誌には、北村透谷らの『文学界』と、与謝野鉄幹・晶子夫妻らの『明星』がある。『白樺』は、武者小路実篤らが1910年に創刊した白樺派の同人雑誌である。白樺派は自然主義に対抗して人道主義や理想主義などを追求し、大正期の文壇の主流となつた。①は正しい。文明開化のころは、江戸時代の小説の系譜をひく作品が人々に親しまれていた。これを戯作文学といいう。②も正しい。明治時代中期、坪内逍遙は戯作文学や政治小説を批判し、人間の内面や世相を忠実に描き出す写実主義の重要性を主張し

た。同時期の文学学者に二葉亭四迷や尾崎紅葉らがいる。④も正しい。日清戦争前後にはロマン主義文学が、日露戦争前後には自然主義文学がさかんになった。

#### 問4 [28] ①

正しい組合せは①。Xは旅順あるいは大連で、地図上のaに位置する。日本は、日露戦争で遼東半島の旅順・大連を占領し、ポーツマス条約によってロシアから租借権を譲渡され、日本の大陸侵略の拠点とした。これは、遼東半島の位置を知つていれば正解が出せる。Yは膠州湾で、地図上のcが膠州湾に位置する。日本は、第一次世界大戦に参戦すると膠州湾に面した青島を占領し、ドイツの山東省権益を獲得した。なお、地図上のbは威海衛で、イギリスが租借した。地図上のdは広州湾で、フランスが租借した。

### 第6問 近現代の軍事をめぐる動向

#### 【出題のねらい】

本問は、大正時代から第二次世界大戦後の軍事をめぐる動向を素材に、当該期の外交・政治を中心に問うたものである。日本は、日清・日露戦争、第一次世界大戦に勝利し国際的地位を高めたが、満州事変以後の中国侵略に行き詰まり、第二次世界大戦では敗戦国となった。戦後は、占領下における日本国憲法で戦争放棄を明記したが、冷戦を背景とした占領政策の転換で再軍備がはじまることになった。このように各時代における軍事をめぐる動向は、近現代史における重要なテーマの一つである。本問の学習を通じて、近現代史の理解力をよりいっそう深めてほしい。

#### 【設問別解説】

A 第一次世界大戦後の列強間の軍拡競争とワシントン体制下での軍縮、その後の軍拡の動きとロンドン海軍軍縮会議までを中心につながった。

#### 問1 [29] ②

正しい組合せは②。空欄Aには、ワシントン会議参加の背景になった恐慌ということから、戦後恐慌が入る。日本は日露戦争後、経済不況に悩まされていていたが、第一次世界大戦勃発にともなう大戦景気により不況から脱却した。しかし、大戦終結後、列強の経済力回復などから好景気は長くは続かず、1920年に戦後恐慌に陥った。なお、金融恐慌は、第1次若槻礼次郎内閣の時代の1927年に発生した恐慌で、台湾銀行など多くの金融機関が危機的状況に陥った。空欄Bには、「世界恐慌の影響が広がるなかで」の海軍軍縮会議の開催地ということから、ロンドンが入る。なお、パリでは1928年に不戦条約が

調印された。以下に海軍軍縮条約について整理しておいたので、参考にしてほしい。

#### ◆海軍軍縮条約

##### ワシントン海軍軍縮条約 (1922)

ワシントン会議で締結

日本首席全権：加藤友三郎

米英日仏伊が参加

主力艦の保有量を制限

10年間主力艦の建造を中止

##### ロンドン海軍軍縮条約 (1930)

ロンドン海軍軍縮会議で締結

日本首席全権：若槻礼次郎

英米日が参加

補助艦の保有量を制限

主力艦の建造禁止を延長

国内で統帥権干犯問題が起こる

#### 問2 [30] ④

誤っているのは④。九ヵ国条約は、中国の領土保全・門戸開放・機会均等などを定めたもので、この条約締結の結果、石井・ランシング協定が廃棄されることになった。日英同盟協約は、四ヵ国条約の締結によって廃棄された。①は正しい。アメリカは国際連盟に参加しないなど第一次世界大戦後のヴェルサイユ体制への参入には消極的であったが、その後のワシントン体制形成の提唱国として列強の代表を招集した。②も正しい。海軍軍縮が重要な案件の一つだったので、日本は海相の加藤友三郎が首席全権として参加した。③も正しい。四ヵ国条約は、太平洋における権益の相互尊重などを定めたものである。

#### 問3 [31] ①

正しい組合せは①。aは正しい。護憲三派内閣(第1次加藤高明内閣)の時代には、1925年にいわゆる普通選挙法が成立し、選挙資格における納税制限が撤廃された。bは誤っている。普通選挙法に基づく最初の総選挙が実施されたのは、田中義一内閣の時代の1928年であった。cは正しい。護憲三派内閣では、普通選挙法と抱き合わせて1925年に治安維持法が制定され、無政府主義者や共産主義者などに対する取締りが強化された。dは誤っている。治安警察法の制定は、第2次山県有朋内閣の時代の1900年で、その背景には労働運動の高揚などがあった。したがって、a・cが正しい組合せとなる。

B 1930年から1945年までの政府支出と軍事費の推移を示す表を素材に、満州事変からアジア太平洋戦争までの「十五年戦争」下の軍事費や出来事を中心に

あつかった。

問4 [32] ②

センター試験の近現代史では、表やグラフを利用した問題が頻出なので、本問は表の読み解きを含む問題とした。誤っているのは②。満州事変が日中軍事停戦協定(塘沽停戦協定)で終息したのは1933年である。表を見れば軍事費は一貫して増加しているので「減少傾向に転じた」という内容が誤りと判断できる。①は正しい。満州事変がはじまつたのは1931年で、翌年の1932年の軍事費は、1931年に比べて増加している。このころは蔵相高橋是清による積極財政がはじまつた時期でもあることを押さえておきたい。③も正しい。日中戦争が勃発した1937年の軍事費は、前年の約3倍になっている。④も正しい。第2次近衛文麿内閣のもとで北部仏印進駐が実施されたのは1940年で、軍事費は政府支出の約3割を占めていることがわかる。

問5 [33] ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。国家総動員法は、日中戦争勃発の翌年の1938年に、戦争が長期化の様相をみせるなかで制定された。ミッドウェー海戦後ではない。Yは正しい。1944年にサイパン島が陥落し、ここにアメリカ軍の飛行場が建設されると、本土空襲が激化し、東京など大都市の多くが大きな被害を受けた。なお、関連事項として、サイパン島陥落を機に日米開戦時の東条英機内閣が退陣して小磯国昭内閣に代わったこと、大都市の国民学校児童の学童疎開(農村などへの集団移動)が行われたことなども押さえておこう。

C 第二次世界大戦の敗戦、連合国軍による占領下の陸海軍解体などから、朝鮮戦争を機とした再軍備の開始・展開までを中心になつかった。

問6 [34] ①

正しい組合せは①。空欄[W]には、朝鮮戦争の勃発を契機に設立されたということから、警察予備隊が入る。保安隊は、サンフランシスコ平和条約の発効によって警察予備隊が改組されたものである。アメリカは占領当初、日本の非軍事化と民主化をはかつたが、冷戦と中国内戦における共産党軍の優勢

を受けて、日本を「反共の防壁」として極東戦略の要と位置づけるなど占領政策を転換した。そうした背景のなかで朝鮮戦争を機に再軍備がはじまつた点を理解しておいてほしい。空欄[W]には、自衛隊設立の背景となつたということから、MSA協定が入る。日本が独立を回復した後、アメリカは日本に対して防衛力増強を求め、1954年には、アメリカが日本に対して経済・軍事援助を行う代わりに日本の防衛力増強を義務づけるといった内容のMSA協定が日米間で締結された。この結果、日本は保安隊・海上警備隊を統合して陸海空の3隊からなる自衛隊を設立することになった。なお、日米行政協定は日米安全保障条約の細目規定であり、1952年に締結された。

問7 [35] ②

誤っているのは②。過度経済力集中排除法が制定され、当初は300社を超える巨大独占企業が分割の対象とされた。しかし、占領政策の転換によって実際に分割されたのはわずか11社で、また、銀行ははじめから分割の対象外であった。①は正しい。極東国際軍事裁判が開かれ、軍や政府の首脳など28名がA級戦犯容疑者として起訴され、東条英機・広田弘毅ら7名が死刑となった。③も正しい。アメリカ教育使節団の勧告を受け、教育の機会均等や男女共学などの教育理念を示した教育基本法と、新しい学校制度などを定めた学校教育法が制定された。④も正しい。1947年公布の警察法で自治体警察などが設置された。しかし、1954年の警察法改正で、自治体警察が廃止されるなど中央集権化がはかられた。

問8 [36] ⑤

正しい配列は⑤。I 「日米新安保条約をめぐる反対闘争」が起きている時期だから、このときの首相は岸信介と判断できる。1960年前後の時期と推定できよう。II 「中曾根康弘内閣のとき」とあるから、1980年代と判断できる(防衛費の対GNP比1%枠が突破されたのは1987年)。III 「鳩山一郎首相」とあるので、1955年前後の時期と判断できる(第1回国防会議が開催されたのは1956年)。以上から、III—I—IIの年代順となる。

●図版提供・協力

石山寺／神戸市立博物館ほか

# 地理 A

## 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	②	2	
	問 2	2	②	3	
	問 3	3	④	2	
	問 4	4	④	2	
	問 5	5	③	3	
	問 6	6	④	3	
	問 7	7	①	3	
	問 8	8	①	3	
第1問 自己採点小計		(21)			
第2問	問 1	9	①	3	
	問 2	10	②	3	
	問 3	11	①	3	
	問 4	12	①	3	
	問 5	13	⑤	3	
	問 6	14	⑤	3	
	問 7	15	③	3	
第2問 自己採点小計		(21)			
第3問	問 1	16	①	3	
	問 2	17	③	3	
	問 3	18	④	3	
	問 4	19	④	3	
	問 5	20	①	3	
	問 6	21	③	3	
	問 7	22	⑥	3	
第3問 自己採点小計		(21)			
第4問	問 1	23	②	3	
	問 2	24	④	3	
	問 3	25	②	3	
	問 4	26	③	3	
	問 5	27	②	3	
	問 6	28	⑤	3	
	問 7	29	③	3	
第4問 自己採点小計		(21)			

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	問 1	30	③	2	
	問 2	31	④	2	
	問 3	32	③	3	
	問 4	33	④	3	
	問 5	34	④	3	
	問 6	35	④	3	
第5問 自己採点小計		(16)			
自己採点合計		(100)			

## 【解説】

### 第1問 地理の基礎的事項

#### 【出題のねらい】

メッカを中心とした正距方位図法による世界地図を利用して、世界の主要河川と流域の自然環境、正距方位図法、イスラム教徒の分布、北極地方と南極地方の自然環境、人種・民族、フィヨルド、鉱産資源の生産について問うた。それぞれの事項について基本的知識が定着しているかを確認してほしい。

#### 【設問別解説】

問1 1 ②

流域は、河川に流れ込む水が集まる範囲で、集水域ともよばれる。地形図でも尾根・谷の読み取りとともに出題されるので意味を理解しておこう。世界最大の流域面積をもつのはイのアマゾン川で、705万 km<sup>2</sup>と日本の国土面積の約19倍もある。これは、中流域に広大なアマゾン盆地が広がるためである。2位はエのコンゴ川(370万 km<sup>2</sup>)、3位はウのナイル川(335万 km<sup>2</sup>)、4位はアのミシシッピ川(325万 km<sup>2</sup>)である。また、流長が6,000 km以上の河川は、ナイル川、アマゾン川、長江、ミシシッピ川(最大の支流ミズーリ川の源流からメキシコ湾まで)である。

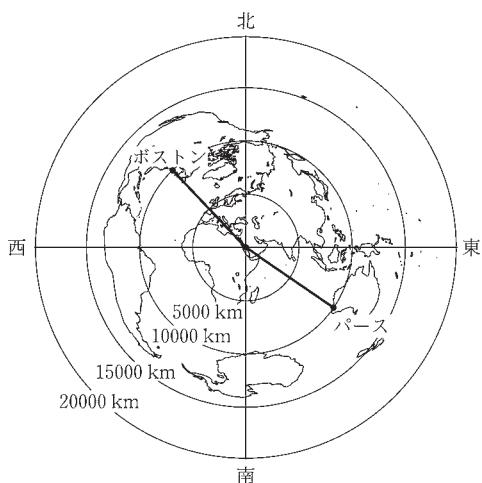
問2 2 ②

①正しい。アのミシシッピ川の本流は、ミネソタ州から流出し、構造平野の中央平原を流れ、河口部には鳥趾状三角州が形成されている。②誤り。南アメリカ大陸には古期造山帯の山脈はみられず、イのアマゾン川は新期造山帯のアンデス山脈を源としている。中下流域に広がるアマゾン盆地は標高が低く、河口から3,500 km以上遡ったペルーの河港であるイキトスでも標高は約100 mしかない。③正しい。ウのナイル川は、スーダンの首都ハルツーム付

近で白ナイル川と青ナイル川が合流する。白ナイル川は赤道直下のヴィクトリア湖から、青ナイル川はエチオピア高原のタナ湖から流れ出し、合流点付近より下流部では、サハラ砂漠を貫流する外来河川となっている。④正しい。エのコンゴ川は、アフリカ東部の大地溝帯の高原やタンガニーカ湖などを源とし、中流域にはコンゴ盆地が広がるが、河口付近には滝があり、外洋船は遡航できない。アフリカ大陸は台地状で、下流部に滝や急流のある河川が多いため、ヨーロッパや北アメリカのように外洋と内陸を結ぶ河川交通は発達しなかった。

## 問3 [3] ④

正距方位図法は、図の中心からの距離と方位が正しく、中心と任意の地点を結ぶ直線は、地球上の最短経路である大圏航路を表している。①正しい。地球全周は約4万kmで、正距方位図法の世界地図では、円周が中心の対蹠点(地球の中心をはさんだ正反対の地点)を示すことから、半径は約2万kmである。よって、図1で中心から約1万5千kmの地点は、半径の3/4を半径とする円にあたり、図①に示すようにどの大陸もその円の内側に位置することが読み取れる。②正しい。図1における方位は、メッカを通る子午線(經線)の上が北、下が南にあたり、メッカでその子午線と直交する直線の右が東、左が西にあたるので、ボストンはほぼ北西の方位に位置することがわかる。③正しい。メッカからボストンとペースに直線を引くと、どちらも半径のほぼ半分の長さで、メッカからの距離は約1万kmと読み取れる。④誤り。大圏航路は、図の中心と任意の地点を結ぶ直線で表されるが、中心以外の2地点間については直線で表すことができない。実際の



図① メッカ中心の正距方位図法による世界地図

ボストン・ペース間の大圏航路は、図②に示すようにアラスカ上空を通る。

## 問4 [4] ④

メッカを聖地とする宗教はイスラーム(イスラム教)である。イスラームは北アフリカ、西アジア、中央アジアなどの乾燥地域に広がっているが、湿润地域であるCのバングラデシュやDのインドネシアなどでも信仰されており、人口世界4位のインドネシアはイスラム教徒数が世界一である。Bのカザフスタンでも、他の中央アジア諸国と同様にイスラームが信仰されている。アフリカではサハラ砂漠以北の地域で主に信仰されているが、Aのエチオピアでは、周囲と異なりキリスト教を信仰する人が多い。

## 問5 [5] ③

①正しい。地球の地軸は、公転面に垂直の線から23.4度傾いて自転しているため、北緯66.6度上では夏至(6月21日頃)、南緯66.6度上では冬至(12月21日頃)に太陽が沈まない。夏至と冬至は、北半球、南半球で共通して用いられる用語であり、南半球でも6月(冬季)に夏至、12月(夏季)に冬至がある。北極点と南極点では、1年の半分が昼、半分が夜で、北極点では春分から秋分まで、南極点では秋分から春分まで太陽が沈まず昼が続く。②正しい。現存する大陸氷河(氷床)は南極大陸とグリーンランド島の2か所だけで、氷山は、氷河の末端部が海に入り、切り離されたものである。グリーンランドから流れ出た氷山は、ラブラドル海流によってカナダ大西洋岸沖合まで移動することがあり、1912年にイギリスを出航しニューヨークを目指したタイタニック号は、この海域で氷山に衝突して沈没した。③誤り。北緯60度以北の地域には、スカンディナヴィア山脈



図② ボストン中心の正距方位図法による世界地図

やウラル山脈(の一部)などの古期造山帯がみられる。バルト楯状地やカナダ楯状地などの安定陸塊、アラスカ山脈などの新期造山帯(環太平洋造山帯)もみられる。南緯60度以南にある南極大陸の大部分は、かつて南アメリカやアフリカ、オーストラリアなどと同様に古大陸のゴンドワナランドに属していた安定陸塊で、アンデス山脈に続く南極半島など一部は環太平洋造山帯に属している。④正しい。南緯60度以南に位置する南極大陸は全域が寒帯の氷雪気候(EF)であるが、北緯60度以北の地域には、寒帯とともに亜寒帯が広く分布し、スカンディナヴィア半島西岸やアイスランド南部、アラスカ南岸には温帶の西岸海洋性気候(Cfb・Cfc)もみられる。

問6 [6] ④

経度0度(本初子午線)は、イギリスのロンドンを通り、その東側(東経0～180度)が東半球、西側(西経0～180度)が西半球である。①正しい。人口が3億人を超えるのは中国(13.5億人)、インド(12.4億人)、アメリカ合衆国(3.1億人)の3か国(2011年)であり、東西両半球に存在する。②正しい。ネグロイド(黒色人種)は、アフリカのサハラ砂漠以南に主に居住しており、経度0度はガーナの首都アクラ付近を通るので、アフリカではネグロイドが住民の大部分を占める国が東西両半球ともにみられる。また、ラテンアメリカにもジャマイカやハイチなどネグロイド中心の国がみられる。③正しい。シナ・チベット語族の言語を公用語とする国は、中国・ブータンとタイなど東南アジアの国々に限られる。④誤り。キリスト教のカトリックは、ヨーロッパではラテン系民族の国で主に信仰され、大航海時代にはスペイン人とポルトガル人によって世界各地に広められた。このため、西半球に位置するラテンアメリカ諸国の大半ではカトリックが主に信仰され、ブラジルはカトリックの信者が世界で最も多い。

問7 [7] ①

Pは、ニュージーランド南島の南西岸で、フィヨルドが発達しており、図2の北東部にはFIORD-LANDと記載されている(地図帳にも記載されているフィヨルドランド国立公園)。ニュージーランドは年中偏西風(力)の影響を受け、全域が西岸海洋性気候であるが、南島には高峻なサザンアルプス山脈が南北に走り、風上側の西岸では降水量が特に多く、大量の降雪によって山頂部には、現在でも氷河が発達している。氷期には氷河が海まで達していたが、氷期が終わると氷食によるU字谷(キ)に海水が進入し、両岸が絶壁で奥深い入り江のフィヨルドが形成された。フィヨルドはノルウェーにおける入り江

名称で、ニュージーランドでは、図2のようにサウンド(Sound)とよばれ、図2の範囲の北側にあるミルフォードサウンドは世界から多くの観光客を集めている。他にフィヨルドの例として知られるノルウェーやカナダ太平洋岸、チリ南部も、偏西風に対して山脈の風上側に位置している。

問8 [8] ①

①はボーキサイト、②はウラン、③は鉄鉱石、④は石炭の生産上位国である。アルミニウムの原料となるボーキサイトの生産では、Xのオーストラリアが世界全体の3分の1近くを占め、世界一である。また、ボーキサイトは熱帯・亜熱帯に埋蔵が多く、オーストラリアの主要鉱山は北部のサバナ気候区に分布し、表1中3～5位の国々はいずれも熱帯に位置する。原子力発電に利用されるウランは、カザフスタンやナミビアが決勝手である。鉄鉱石は安定陸塊に多く埋蔵されるので、面積の大きい国で生産が多い。石炭は古期造山帯に埋蔵が多く、中国の生産は世界の約1/2を占めている。資源については、生産統計だけでなく、主な産地を地図帳で確認しておこう。

## 第2問 環太平洋を中心とする地域の国境を越えた結びつき

【出題のねらい】

国境を越えた結びつきについて、環太平洋地域を中心として、日本との貿易額の変化と貿易品目、海外直接投資、日本の地方空港の国際便、日本人旅行者の海外渡航先、国家群などについて出題した。統計図表が多用されるが、常識や理屈を駆使して考えれば正解の得られる問い合わせが多い。EU、NAFTA、ASEANなどの地域協力組織や商品・資本などの国際的移動を円滑にするために結ばれる自由貿易協定(FTA)についても問われる所以、それについても理解を深めておこう。

【設問別解説】

問1 [9] ①

日本の貿易相手先の第1位は、第二次世界大戦後一貫してアメリカ合衆国であったが、2000年代に入り、中国が第1位の貿易相手国となった(輸入は2002年以後、輸出は2010年以後)。よって、割合が低下しているA(①)がアメリカ合衆国で、大幅に上昇しているD(④)が中国である。1960年代半ば以後アメリカ合衆国に対して日本はほぼ一貫して貿易黒字であり、1980年代以後は輸出が輸入を大幅に上回っている。逆に、原油輸入先の中東に対しては、日本は大幅な赤字であり、C(③)は中東と判定する。

残るB(②)はアジア NIEs で、日本が貿易黒字であるのは、NIEs では、高度な技術を必要とする部品や工場で使う生産用の機械などを日本から輸入し、工業製品の輸出は欧米諸国向けが多く、日本向けは少ないといためである。

問2 [10] ②

日本の主要な一次産品(未加工の農林水産物や鉱産・エネルギー資源)の主な輸入先は覚えておこう。石炭はオーストラリア(東部の古期造山帯に属するグレートディヴァイディング山脈付近に炭田があり、製鉄用の良質な石炭の産出が多い)とインドネシア(火力発電燃料用の低品位石炭が多い)が、液化天然ガスは東南アジアのマレーシア・インドネシア・ブルネイとオーストラリア、および中東のカタールが、鉄鉱石はオーストラリアとブラジルが、それぞれ主要な輸入先である。また、天然ゴムは、生産上位国のタイ・インドネシアから輸入している。肉類は、牛肉がオーストラリア・アメリカ合衆国、鶏肉はブラジルから、豚肉は北アメリカのアメリカ合衆国・カナダ、ヨーロッパのデンマークから輸入している。木材は、カナダ・アメリカ合衆国・ロシアからの輸入が多い。以上から、①は石炭・鉄鉱石・肉類が多いオーストラリア。②は天然ゴムを決め手にインドネシア。ただし、天然ゴムが5位以内に登場しない年もあるので、インドネシアが産油国であることや、火力発電用石炭の日本向け輸出が増加していることも知っておこう。③・④の区別は難しいが、ロシアの輸出第1位の品目は原油で、対日輸出でも原油が多いこと、カナダの原油はアメリカ合衆国やヨーロッパ向けが多く、日本へはほとんど輸出されていないことなどから、③がロシア、④がカナダである。

問3 [11] ①

アジアへの海外直接投資は、製造業が多い。すなわち、工場の海外進出である。日本企業がアジア諸国に工場を移転させる最大の理由は、賃金水準の低い現地の労働力をを利用して生産コストを下げるためであったから、進出先の賃金水準が上昇すると、賃金のより安い国へと進出先を変える。よって、1980年代半ば以後の投資額が停滞し、順位も下がったAは、日本に次いで工業化が早い時期から進んだアジア NIEs の韓国である。2000年代に入って投資額がやや減ったIは、NIEs に次いで工業化が進み、マレーシアとともに準 NIEs ともよばれるタイで、一貫して投資額が増えているWは中国である。なお、2000年代に入ると、現地市場の獲得を ASEAN や中国への進出理由とする企業が増えている。すなわ

ち、経済成長により所得水準が向上し購買力の高まった地域に売るために、現地で生産するのである。中国への投資額が増え続けているのは、人口が多く巨大な市場として成長しているからである。

問4 [12] ①

地方空港で国際便の発着数が多い空港のある都市は、広域中心都市(地方中枢都市)の福岡・札幌・広島・仙台と、政令指定都市の県庁所在都市で人口の多い静岡・新潟・岡山、および、国際空港から離れた離島でもある沖縄の那覇である。Kはロシア・極東の都市と結ばれていることから札幌(新千歳)空港、Lは、台北(台北)やホンコン(香港)への便数が最も多く、タイツォン(台中)への便もあることから、台湾やホンコン(香港)に最も近い那覇空港である。よって、残ったMは広島空港である。

問5 [13] ⑤

2000年代初頭に大幅に減少したキがアメリカ合衆国で、最も伸びている力が1990年代から工業化が著しく進展し、日本から観光目的に加えて商業目的での渡航が増えた中国であり、クが韓国である。なお、アメリカ合衆国には、グアムやハワイが含まれており、かつては身近な海外旅行先がグアムやハワイであったが、海外旅行経験の増加と多様化によりアメリカ合衆国が大幅に減少した。海外旅行者数は、政情不安や世界的な流行病の発生により、一時的に減ることがある。アメリカ合衆国が2001年に大幅に減ったのは、2001年9月11日に起きた米国同時多発テロが原因である。2003年の減少はアメリカ合衆国だけでなく、世界的なもので、これは、SARS(重症急性呼吸器症候群)流行とイラク戦争が原因である。2009年のアメリカ合衆国と中国への旅行者の減少は、新型インフルエンザの世界的な流行が原因である。

問6 [14] ⑥

日本に居住する外国生まれの人口の出生地域で最も多いシはアジアである。外国生まれの人口と登録外国人数は一致するものではないが、ある程度類似した傾向にあると考えてよい。日本における登録外国人の出身国で多いのは、韓国・朝鮮(2世・3世が多い)、中国、フィリピンなどのアジア諸国で、1990年からは、労働力不足を補うために、出入国管理法が改正され、ブラジル、ペルー出身の日系人が増えた。アメリカ合衆国では、第二次世界大戦後、ヒスピニックとアジア系の流入が多い。ヒスピニックは、アメリカ合衆国にラテンアメリカから流入したスペイン語を母語(幼児期に母親など身近な人々から自然に覚えた言語)とする人々で、出身地とし

てはメキシコが最も多く、次いでカリブ海地域(キューバなど)からが多い。よってサはラテンアメリカである。オーストラリアでは、建国以来採っていた有色人種の移民を制限する白豪主義を1970年代に撤廃して以後、アジア系の移民が増えているが、今もヨーロッパ(ス)からの移民が多い。カナダでもアジア系の移民が増えているが、ヨーロッパからの移民も多い。

問7 [15] ⑧

誤りは③で、オーストラリアと日本との間で自由貿易協定(FTA)は協議中ではあるが、締結はしていない。FTAは関税など貿易の障害を取り除き貿易を自由化する協定であるが、日本側では安い農産物が流入すると国内の農業が打撃を受けるため、オーストラリアのような農業の国際競争力の高い国との貿易自由化には慎重論が多いためである。オーストラリアは、アメリカ合衆国との間ではFTAを2000年代に入って締結し、中国とは協議中であるが、そうした事実は知らなくてよい。オーストラリアが環太平洋地域との貿易を拡大させたのは1970年代以後で、イギリスのEU(当時はEC)加盟がその契機である。オーストラリアはイギリス連邦加盟国で、イギリス連邦内では加盟国間での貿易を優遇する取り決めがあったが、イギリスのEC加盟によりその取り決めが撤廃されたため、経済的にも発展したアジアなど距離的に近い環太平洋諸国との貿易が拡大した。①正しい。東南アジアのASEAN(東南アジア諸国連合)は、東西冷戦下の1967年に資本主義体制であったインドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシアによって結成された地域協力機構である。その後、1990年代初頭の東西冷戦終結を受け、ベトナム、ミャンマー、ラオスなどの社会主義体制の国々も加盟し、現在は東ティモールを除く東南アジアの10か国が加盟している。②正しい。NAFTA(北米自由貿易協定)は、アメリカ合衆国とカナダの貿易協定にメキシコを加え、1994年に発効した自由貿易協定であり、関税や非関税壁などを段階的に撤廃し、巨大な自由貿易圏を目指すものである。④正しい。APEC(アジア太平洋経済協力会議)は、1980年代後半にオーストラリアの提唱により始まった、貿易・投資、エネルギー資源など、多角的な問題を取り扱う経済協力会議である。現在は、環太平洋地域に位置する、アジア、オセアニア、南北アメリカの国・地域のほかロシアが参加している。

### 第3問 ヨーロッパの自然と人間生活

#### 【出題のねらい】

ヨーロッパの自然と人間生活について、地形、気候、工業、農業、貿易、言語・宗教などについて出題した。地理Aの教科書には図表、写真がふんだんに使用されており、センター試験はこれらの図表、写真を利用したものもみられる。教科書を利用した学習を心がけるとともに、地図帳で国の位置などを調べながら進めよう。

#### 【設問別解説】

問1 [16] ①

①誤り。地図帳や資料集などに掲載されている世界の地震・火山の分布を見ればわかるように、地震・火山活動はプレートの境界で活発である。Aのアイスランド島は、プレートの広がる境界に形成された海嶺が海面上に現れたものであり、日本列島のようなプレートのせばまる境界に位置する海溝に沿う島ではないので注意しよう。②正しい。Bはリ亞斯海岸の名称の由来となったスペイン北西部のリ亞スバハス海岸である。リ亞斯海岸は、V字谷をもつ壯年期の山地などが沈降、もしくは海水面が上昇することにより形成され、岬と入り江が、のこぎりの歯のように交互に並ぶ複雑な海岸線となっている。③正しい。Cはフランス北部に位置するパリ盆地である。軟らかい地層と硬い地層が交互に堆積し、ゆるやかに傾いている地域では、軟らかい地層が侵食され、硬い地層は侵食から取り残されて丘陵となるケスターがみられる。④正しい。Dはカルスト地形の名称の由来となったスロベニア西部に位置するカルスト地方である。石灰岩が炭酸ガスを含む雨水などに溶食されて形成された地表の凹地には、直径が10 m～1,000 m程度のドリーネや複数のドリーネがつながったウバーレなどがあり、地下には鍾乳洞もみられる。日本にも、山口県の秋吉台など各地にカルスト地形はみられるので、地図帳で位置を調べておこう。

問2 [17] ③

ヨーロッパ西部の気候は、アルプス山脈付近を境として南側と北側で分けることができる。アルプス山脈付近よりも南側の大西洋沿岸と地中海周辺は、夏季に亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響を受け乾季、冬季に亜寒帯低圧帯の影響を受け雨季となる地中海性気候が広く分布する。よって、図2中で夏季少雨となっている①にはリスボンが当てはまる。一方、アルプス山脈付近よりも北側は、年中亜寒帯低圧帯の影響を受け湿潤な西岸海洋性気候が広く分布し、暖流の北大西洋海流上を吹く偏西風の影響を受

けて西側ほど冬季の気温が高い。また、夏季の気温は、太陽高度の低い高緯度ほど低温となる。よって、図2では、夏季の気温が最も低い②は最も高緯度に位置するレイキャビクが当てはまる。残る③・④のうち冬季の気温が高い③はロンドン、冬季の気温の低い④は東部に位置するワルシャワがそれぞれ当てはまる。

問3 [18] ④

アは産業革命の発祥の地として有名なランカシャー地方のマンチェスターであり、かつて植民地であったインドや北アメリカから輸入した綿花を利用した綿工業から工業化が進展したが、現在は機械工業や先端技術産業の集積地となっている(②)。イはドイツ北西部のルール地方であり、ルール炭田とライン川や内陸運河などの水運を背景として鉄鋼業などの重工業が発達し、ヨーロッパ最大の工業地帯となつた。近年は、エネルギー資源利用の中心が石炭から石油に移ったことや資源の枯渇、生産設備の老朽化などにより粗鋼の生産量は停滞しており、機械工業などへの転換が進んでいる(①)。ウはアルプス山脈の麓に位置するイタリア最大の工業都市ミラノであり、古くは豊富な河川水を、動力として利用した綿織物や絹織物、毛織物などの繊維工業が、20世紀に入ると水力発電を利用して各種工業が発達した。近年は、衣類や靴、鞄をはじめとする服飾品など、職人の手作業による高級ブランド品の生産地としても有名となり、日本への輸出も多い(③)。エはフランス南西部のトゥールーズであり、ヨーロッパ最大

の航空機メーカーであるエアバス社の組立工場が位置する。エアバス社は、フランスをはじめヨーロッパの4か国の共同出資により1970年代に設立された企業であり、主に旅客機の開発が行われ、トゥールーズには、ヨーロッパはもとより世界各地で生産された部品が集められ、旅客機の最終組立が行われている(④)。

問4 [19] ④

以下は、地図帳を開き、国の位置などを確かめ、下の表①も見ながら読んでほしい。ブドウはパリ盆地付近がヨーロッパにおける栽培北限で、イタリアやスペイン、フランスなど地中海周辺に位置する国々が上位であり、図3ではスペインが決め手である(④)。トウモロコシは、温暖な気候が栽培に適し、ヨーロッパでは、ドナウ川よりも南側が栽培の中心であり、フランス、ルーマニア、イタリア、ハンガリー、セルビアが生産上位国となっている(②)。小麦は、冷涼でやや乾燥した気候が栽培に適し、フランスなどヨーロッパ中部で栽培が盛んである。この地域では主食であるため、人口の多いフランス(2011年の人口は6,313万人、以下同じ)、ドイツ(8,216万人)、イギリス(6,242万人)、ポーランド(3,830万人)、イタリア(6,079万人)が上位となっている(③)。アンデス地方が原産地であるジャガイモは、冷涼な地域が栽培に適し、ヨーロッパでは北部で栽培が盛んであり、ドイツ、ポーランドが生産上位国である(①)。

問5 [20] ①

表① ヨーロッパにおける生産上位5か国

順位	ジャガイモ	トウモロコシ	小麦	ブドウ
1位	ドイツ	フランス	フランス	イタリア
2位	ポーランド	ルーマニア	ドイツ	フランス
3位	フランス	イタリア	イギリス	スペイン
4位	オランダ	ハンガリー	ポーランド	ドイツ
5位	イギリス	セルビア	イタリア	ルーマニア

統計年次は2009年。

『世界国勢図会』により作成。

表② 輸入相手上位5か国

順位	フィンランド	ブルガリア	ポーランド	ポルトガル
1位	ロシア	ロシア	ドイツ	スペイン
2位	ドイツ	ドイツ	ロシア	ドイツ
3位	スウェーデン	イタリア	中国	フランス
4位	中国	トルコ	イタリア	イタリア
5位	オランダ	ギリシャ	フランス	オランダ

統計年次は2009年。

『データブック オブ・ザ・ワールド』により作成。

フィンランド、ブルガリア、ポーランド、ポルトガルの4か国は、いずれもEU(ヨーロッパ連合)加盟国であり、EUの経済大国であるドイツ、イギリス、フランス、イタリアとの貿易額が大きいから、これら4か国以外の、特に距離の近い国に注目する。①は5位がチェコであることからポーランド、②は1位がスペインであることからポルトガルと判定する。また、③はルーマニア、トルコが上位となっていることからブルガリア、④はスウェーデン、ロシアが上位となっていることからフィンランドと判定する。なお、表②はこれら4か国の輸入相手上位5か国を示したものであるが、ポーランド、ブルガリア、フィンランドは、ロシアと距離が近く、エネルギー資源を依存しているため、いずれの国でもロシアが上位となっている。

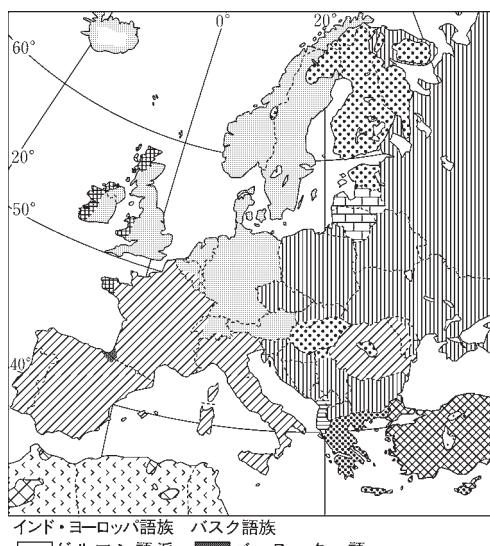
#### 問6 [21] ⑧

図③・④に示したヨーロッパの言語・宗教分布図を見ながら、以下を読んでほしい。ヨーロッパでは、広くインド・ヨーロッパ語族に属する言語が使用されており、南西部ではラテン語派のフランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、北西部ではゲルマン語派のドイツ語、英語、デンマーク語、スウェーデン語、ノルウェー語、東部ではスラブ語派のロシア語、ポーランド語、チェコ語などが

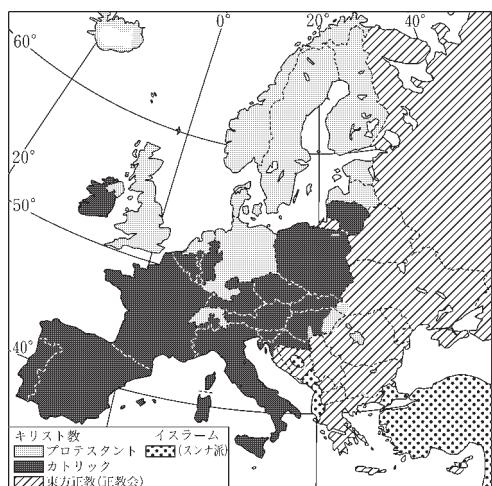
分布している。一方、インド・ヨーロッパ語族に属さない言語が使用される国・地域もあり、ハンガリー、フィンランドではウラル語族のハンガリー語やフィンランド語が主に使用され、フランスとスペインの国境付近にはバスク語族に属するバスク語もみられる。

ヨーロッパでは広くキリスト教が信仰されているが、歴史的には、中世に西部のカトリックを信仰する地域と東部の東方正教(正教会)を信仰する地域とに分かれ、16世紀における宗教改革によってカトリックが広く分布する西部にプロテstantが興り、北部を中心に伝播した。したがって、南西部のラテン語派の分布する地域ではカトリック、北西部のゲルマン語派の分布する地域ではプロテstant、東部のスラブ語派が分布する地域では東方正教が主に信仰されている。ただし、スラブ語派の分布する東ヨーロッパでも、ポーランド、チェコなどではカトリックが主に信仰されるので注意が必要である。以上をもとに正誤を判定しよう。

①誤り。カ(スウェーデン・フィンランド)の、スウェーデンではゲルマン語派のスウェーデン語、フィンランドではウラル語族のフィンランド語が主に使用され、宗教はともにプロテstantが過半を占める。②誤り。キ(ドイツ・ポーランド)の、ドイツ



図③ ヨーロッパの言語  
 インド・ヨーロッパ語族 バスク語族  
 ゲルマン語派 バスク語  
 ラテン語派 ウラル語族  
 スラブ語派 フィン・ウゴル諸語  
 ケルト語派 アルタイ諸語  
 バルト語派 チュルク語派  
 ギリシャ語派 アフリカ・アジア諸語  
 アルバニア語派 リトアニア語派  
 イラン語派 ベルベル語派



図④ ヨーロッパの宗教

図③ ヨーロッパの言語

ではゲルマン語派のドイツ語、ポーランドではスラブ語派のポーランド語が主に使用され、宗教は、ドイツでは南部ではカトリック、北部ではプロテスタントが主に信仰され、ポーランドではカトリックが大半を占める。③正しい。ク(スペイン・フランス)は、言語はラテン語派、宗教はカトリックで共通している。④誤り。ケ(オーストリア・ハンガリー)は、オーストリアはゲルマン語派のドイツ語、ハンガリーではウラル語族のハンガリー語が主に使用され、宗教は、ともにカトリックが過半を占める。

問7 [22] ⑥

写真1および説明文にあるサーミ人とトナカイ、ビールに注目しよう。サーミ人は、ラップランドとよばれる図4中のXの位置するノルウェーやフィンランド、ロシアの一部を含むヨーロッパの北極圏でトナカイの遊牧や漁労などを行っている。一方、ビールは、大麦などを原料とするアルコール飲料であり、ビール工業は、ドイツ、チェコ、オーストリアなどでは伝統的な工業として古くから発達し、ヨーロッパから世界各地へ伝播した。以上より、スカンディナヴィア半島北部のXにスが当てはまり、ビール工業で有名なドイツ南部のY(ミュンヘン)にシ、残ったZ(ブルガリア中部)にサが該当する。なお、サのバラ祭りは、初夏にバラの花の収穫を祝う祭りであり、ブルガリアは、バラを原料とする香料の世界最大の生産地である。

#### 第4問 先進国と発展途上国の地球的課題と国際協力

##### 【出題のねらい】

現代世界の諸課題と国際協力について、世界の人口問題、食料問題、都市問題、エネルギー問題、環境問題、民族問題、政府開発援助などについて幅広く問うた。この分野は、発生している問題について背景や仕組みを理解したうえで、先進国と発展途上国における課題の違いや共通点を把握することが重要である。また、図表を使用した設問も多いため、知識を活用して図表を読み解く方法を定着させておこう。

##### 【設問別解説】

問1 [23] ②

経済発展に伴い多産多死型から多産少死型へ、さらに少産少死型へと変化することを人口転換という。発展途上国では、第二次世界大戦後、医療の発達や環境衛生の改善によって、死亡率、特に乳幼児死亡率が低下したが、出生率が高いままであったため、人口爆発とよばれるほどの人口急増がみられた。先進国では、家族計画の普及、女性の社会進出

などによって出生率も低下し、欧米諸国では第二次世界大戦以前から多産少死型から少産少死型へ移行した。また、65歳以上(老年)人口割合は、出生率が高い発展途上国では年少人口(15歳未満)の割合が高いため低い。一方、出生率が低く年少人口割合が低下し、医療環境が整備された日本など平均寿命が伸長した先進国では高い。したがって、図1では、65歳以上人口割合の低い①・②は、発展途上国のエチオピア(2010年の1人当たりGNIは324ドル、以下同じ)、中国(4,529ドル)のどちらか、③・④には先進国のアメリカ合衆国(47,153ドル)、ドイツ(40,596ドル)のどちらかがそれぞれ当てはまり、合計特殊出生率が極めて高い①は、アフリカの発展途上国で人口爆発状態にあるエチオピア、②が中国だが、1人当たりGNIが低い割に合計特殊出生率が先進国の③(アメリカ合衆国)よりも低い。これは、強力な人口抑制策である一人っ子政策を推進して、出生率を下げたためである。また、アメリカ合衆国は仕事を求める若い移民の流入の多い国であり、ヨーロッパの先進国に比べ若年層の人口割合が高いため、出生率は高めで、高齢化のスピードも遅い。残った④はドイツで、少子化が進み老年人口率は20%を超え、日本と同様に世界でも最も高齢化が進んでいる国一つである。

問2 [24] ④

内戦や干ばつが発生すると栄養不良人口割合は上昇する。コンゴ民主共和国(2011年の人口は6,776万人、2010年の1人当たりGNIは186ドル、以下同じ)は、中央アフリカに位置する発展途上国であり、1990年代には、民族対立を背景とする内戦が発生し、現在も政情が不安定である。よって、図3では、1990年代に栄養不良人口の割合が急激に上昇し、現在も住民の7割前後を占めるAをコンゴ民主共和国と判定する。図2では、3か国中最も人口の多いインド(12.4億人、1,395ドル)が、栄養不良人口が2億人を超えるアと判定できるので、1990年代に栄養不良人口が増加しているイをコンゴ民主共和国、減少しているウをベトナムと決める。なお、1990年代以降、ともに経済発展が著しいインドとベトナム(8,879万人、1,145ドル)の図3における判定は難しく、判定できなくてもよいが、図2のアと形が似ているBがインド、ウと同じく一貫して低下しているCが、1986年のドイモイ政策導入以降、工業化による経済発展が進んだベトナムである。インドは、1990年代以降の経済発展により中間層が形成されたものの経済格差は大きいため、割合は低下していない。

問3 [25] ②

②誤り。問1でみたように、発展途上国では、乳幼児死亡率の低下にともなう人口爆発が生じ、農村の余剰人口が都市へ押し出される。しかし、雇用機会を上回る人口が都市に流入し、その多くは定職に就けず、収入が不安定であるため市街地周辺の湿地や河川敷など条件の悪い空き地を不法に占拠し、廃材などを利用した小屋を建てて居住している。このような地域はスラム(不良住宅地区)とよばれる。フィリピンの首都マニラ(2011年の人口は1,186万人、以下同じ)など発展途上国でも都心では高層ビルが建設されるなど都市開発が盛んであるため、空き地は都心ではなく市街地周辺にみられる。

①正しい。発展途上国の首都であるインドネシアのジャカルタ(977万人)、フィリピンのマニラは、ともにプライメートシティ(首位都市)であり、人口や国家機能などが集中し、第2位都市との格差が大きい。プライメートシティの市街地では、公共交通機関、道路、電気、上下水道などの社会資本整備が国内の他都市に比べて進んでおり、国内外からの投資が集中し、多くの人口が流入する。しかし、社会資本の整備は人口増加に対応できておらず、交通渋滞、騒音や水質汚濁、大気汚染など都市内部の環境悪化が深刻となっている。③正しい。先進国でも、人口や諸機能の都市への集中により、交通渋滞や大気汚染などが深刻化し居住環境が悪化した。地価の高騰は、都市内部の住宅の供給を妨げ、居住環境がよく地価の安い郊外へ人口移動を促し、都心と都心周辺部で常住人口が減少し郊外へ流出するドーナツ化現象が発生した。しかし、郊外の市町村は急速な人口増加に対応できず、都市計画を実行に移す前に民間業者が宅地開発を小規模に行う。このため、郊外では、農地が無秩序に開発され、住宅地などが虫食い状に拡大するスプロール現象が発生した。この現象は、日本では、高度経済成長期に顕著にみられ、新興住宅地のなかには、上下水道や道路、学校などの整備が遅れ、日常生活に困難をきたした例もみられた。④正しい。欧米や日本など先進国の都市は、現在の都心から外側に徐々に拡大していった。よって、最も古く形成された市街地は都心部であり、老朽化が最も早くみられるのもこの地区のはずである。しかし、都心部は、当初は住宅機能もあわせもっていたが、市街地の拡大とともに中心業務地区(CBD)や商業地区に変化した。一方、都心周辺部に当たるインナーシティには古くからの住宅地が残っており、老朽化が進んでいる。このため、欧米の都市ではインナーシティの居住環境が悪化するス

ラム化が進行した。このような都市内部の衰退に対して、都心周辺部のインナーシティでは、継続的大規模な再開発が行われ、商業施設やオフィス、高層マンションの供給などが進み、高所得者層の流入がみられ、都市内部の再生が進むようになった。このような都心周辺部の再生をジェントリフィケーションとよび、これにともない人口の都心回帰がみられるようになった。

問4 [26] ③

図4は各国の1次エネルギー供給構成を示したものであるが、これはほぼ消費構成にあたると考えてよい。①は石炭の供給割合が高いので、発展途上国のインド(2010年の1人当たりGNIは1,395ドル、以下同じ)と判定する。また、②は天然ガスの供給割合が高いことから、北海などにガス田をもつオランダ(46,512ドル)と判定する。天然ガスは、輸送時にパイプラインやLNG(液化天然ガス)船など、専用の設備・施設、輸送機関が必要であるため、生産国や大陸の先進国で供給割合が高いことも知っておこう。③は水力の供給割合が高いことから水力発電が盛んなブラジル(10,517ドル)と判定する。ブラジルは国土のほとんどが安定期塊であり、石油や石炭などの化石燃料の埋蔵に恵まれなかったため、発電は水力に依存するとともに古くからサトウキビを原料とする液体バイオ燃料の研究開発や海底油田の探査を進めてきた。近年は、発展途上国で森林資源が豊富であることから薪炭材の利用がもともと多いことに加え、バイオエタノールを自動車燃料として利用しているため、図4中の「その他」の割合が高い。④は原子力の供給割合が高いことからフランス(40,268ドル)と判定する。フランスは、1970年代における2度の石油危機を契機に原子力の利用中心に転換した歴史をもつ。

問5 [27] ②

①正しい。aの位置するアマゾン盆地では、1970年のアマゾン横断道路の建設以後の入植による牧場や耕地の造成、鉄鉱石やボーキサイト鉱山などにおける大規模な露天掘り、ダム建設などにより熱帯林が大規模に伐採され森林面積の減少は著しい。②誤り。bのアラル海は、中央アジアの乾燥帯に位置する塩湖であり、湖の水は灌溉には利用できない。旧ソ連時代から、アラル海に流入するアムグリア川とシルグリア川から灌溉用水を取り水して綿花栽培が行われた。このため、アラル海に流入する水量が激減し、アラル海の面積は縮小した。これにより、漁業が壊滅的な被害を受けたり、干上がった湖底から塩などが周辺地域に飛来したりして健康被害が発生し

た。③正しい。地球温暖化が進むと、南極大陸やグリーンランド内陸の大陸氷河の融解や海水の熱膨張により海面の上昇が予測されている。これにより、cのモルディブなど赤道付近のサンゴ礁の島々や、ガンジスデルタに位置するバングラデシュなど、低平な国では土地の水没が懸念されている。④正しい。酸性雨は石炭などの化石燃料の大量消費によって、燃焼時に発生する硫黄酸化物や窒素酸化物が大気中の水や酸素と反応して生じる。これにより、森林の枯死や湖の酸性化による生態系の破壊などの問題が発生している。中国は、1次エネルギー供給構成において石炭が約7割を占め、特に長江以南の地域では硫黄分が多く含まれる石炭の産出が多いため、酸性雨の被害は深刻である。

問6 [28] ⑤

Xは、スーダンと隣国チャドとの国境付近のダルフール地方である。この地方では、非アラブ系(アフリカ系)の遊牧民に対して、スーダン政府に後押しされたアラブ系の民兵が襲撃を繰り返し、紛争が激化した2003年以降、数十万人にのぼる死者や周辺諸国へ多数の難民を発生させている。Yは、トルコ、イラク、イランなどにまたがるクルディスタン地方であり、ここには約2,000万～3,000万人のクルド人が居住している。アラブ人、トルコ人、イラン人に次いで西アジアで多くの人口を抱えるクルド人が独立国家をもつことができなかったのは、20世紀の初頭に国境線が画定された時に、居住地域が分断されたためであり、現在もトルコなどでは、自治権を獲得する運動や独立運動が厳しく制限されている。Zは、インドとパキスタンなどの国境付近にあたるカシミール地方であり、住民の多くはイスラム教徒である。第二次世界大戦後、インドとパキスタンがイギリスから独立する際、カシミール地方にパキスタン(イスラーム)が侵攻したため、ヒンドゥー教徒の藩王がインドへの帰属を決めた。これにより、インドがこの地方へ侵攻し、インド・パキスタン戦争が発生した。なお、カシミール地方の領有問題は、現在も解決していない。

問7 [29] ⑧

ODA(政府開発援助)は、OECD(経済協力開発機構)加盟国のうち、DAC(開発援助委員会)を通じて、先進国から発展途上国へ供与される資金援助である。日本(③)は、1990年代にアメリカ合衆国を抜いて世界一の援助国となったが、近年の景気の低迷による援助額の削減により、2001年からはアメリカ合衆国(④)が1位となり、2006年以降、イギリス、フランス(①)、ドイツ(②)にも抜かれ、2010年は世

界5位であった。フランス、ドイツの判定はできなくてもよいが、図6からもわかるように、ヨーロッパ諸国が日本やアメリカ合衆国に比べると、GNIに対する援助額の割合が高いことは覚えておこう。

## 第5問 利根川流域の地域調査

### 【出題のねらい】

利根川流域を対象として、河川勾配と河川流量、水利用、農業、埼玉県の市町村別人口動向、都市化が進展した地域の新旧地形図の読図、自然災害について出題した。地域調査の問題では、特定地域の特別な知識が求められているのではなく、地形や気候などの自然環境や、産業分野などについての一般的な理解をもとに、正解を導けるかどうかが問われている。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院の昭和31年と平成20年に発行された2万5千分の1地形図「取手」である。

### 【設問別解説】

問1 [30] ③

利根川は、群馬県と新潟県の県境付近に位置する三国山脈を源流として、関東平野を東流し太平洋へ注ぐ流長322kmの河川であり、流域面積は日本一である。一方、信濃川は、埼玉県、長野県、山梨県の県境付近に位置する関東山地を源流として、長野県から新潟県を経て日本海へ注ぐ流長367kmの河川であり、流長は日本一である。一般に、流量やその年変化は、流域の気候や地形などの自然環境の影響を強く受ける。日本の気候区分は、冬季降水量の多い日本海側と少ない太平洋側とに分けられ、利根川と信濃川の流量の年変化にもこの影響がみられる。よって、図3では、4月に流量のピークがみられるbを、冬季降水量(降雪量)が多く、融雪が進む春先の流量が多い信濃川流域、冬季の流量が少なく、7月、9月の流量が多いaを、冬季に北西季節風の山地風下側で降水量が少なく、梅雨や秋雨により夏季に降水量が多い利根川流域と、それぞれ判定する。河川勾配については、図1より、利根川が埼玉県北部から河口部まで低地を流れていることが読み取れ、図2で河口から上流側200km付近まで河川勾配が緩やかなイを、利根川と判定する。

問2 [31] ④

土木技術の発達にともない、河川には堤防、堰、ダムなどが建設され、洪水調節などの治水や生活・農業・工業用水を利用するための利水が進められてきた。図1中、力は山間部に位置することから、川を堰き止めたダムが位置すると考え、写真1中では、山地とダム湖、堰堤がみられるF(矢木沢ダム)

を選択する。矢木沢ダムは、利根川流域の洪水調節はもとより、群馬県への農業用水や生活用水、東京都への生活用水の確保のために建設された多目的ダムである。キ、クの判定は難しいが、Eの説明文に「塩害防止」とあるので、河口からほど近いクがE(利根川河口堰)に当てはまると考える。堰は、水を堰き止める目的で建設された建造物で、河川の上流側に水を貯留することにより、用水路への配水を容易にしたり、満潮時や荒波のときに海水が逆流し、その水がしみ込んで地下水が塩水化し、下流部の農地に入り込んで塩害を招くことを防いだりする目的で建設される。残りのD(利根大堰)にはキが該当する。利根川の中流に位置する利根大堰は、周辺地域への生活・農業・工業用水の供給や、高度経済成長期における東京都や埼玉県の水不足を解消したり、当時、水質汚濁が問題となっていた小中河川の水質改善のために余剰水を流し込んだりするために建設されたものである。

問3 [32] ⑧

茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県は、いずれも大消費地である首都圏に位置し、野菜を栽培する近郊農業が盛んである。また、地勢的にみると、関東平野は台地が広く、沖積低地が狭いため、耕地面積に占める水田面積の割合が低めである。よって、どの県でも割合の高いサが野菜、シが米である。次に、県域面積は、図1からも読み取れるように、群馬県(6,362 km<sup>2</sup>)、茨城県(6,096 km<sup>2</sup>)が同程度で、これらに千葉県(5,157 km<sup>2</sup>)が続き、埼玉県(3,798 km<sup>2</sup>)が最も狭い。しかし、農地面積は、茨城県が約17.7万ha、千葉県が約13.2万ha、埼玉県が8.4万haで、山地の多い群馬県が7.8万haであり、県域面積が狭く、最も都市化の進んでいる埼玉県の農地面積は千葉県より狭い。したがって、農業生産額の多いPには県域面積の広い千葉県、少ないQには埼玉県が当てはまる。

問4 [33] ④

埼玉県は40の市、23の町、1つの村(2010年)からなる関東の中西部に位置する内陸県で、全域が東京都心から約100km圏内に含まれる。地勢は、おおむね三つの地域に区分でき、西部は山地、中央部は丘陵と台地、東部は低地が広がっており、これは図1からも読み取ることができる。

第二次世界大戦後の日本の人口動態と産業構造の変化は、人口動態は第1次ベビーブーム以降、多産少死型から少産少死型へ移り、産業構造は工業化の進展にともない、第1次産業中心から第2次、第3次産業へと重心が移り、東京大都市圏や大阪大都市

圏では地方から就業機会を求める多くの若年層が流入し、全国的に過疎過密が生じた。埼玉県でも1965～1970年には、都心と距離的に近く、交通アクセスもよい南東部では、ドーナツ化現象による都心部から郊外地域への人口移動による社会増加により人口増加率が高かった(①)。一方、西部の山間地を中心とする山間地を中心とした地価高騰や居住環境の悪化によるドーナツ化現象は進行しており、郊外に位置する埼玉県の1985～1990年の人口増加率は9.2%，社会増加率は6.2%とともに全国1位となった。郊外では、鉄道や道路などの交通網の整備が進み、都心へのアクセスが改善されたため、都心から離れた地域でも宅地開発が進んだ。このため、人口減少が続いた西部の山間地を除く埼玉県内における人口増加の地域的差異は小さくなつた(②)。1980年代に入ると、全国的に少子・高齢化が進み、1980年代後半からは死亡率が出生率を上回る自然減少状態にある都道府県が増加し、2005～2010年には、人口増加率がプラスであったのは、東京都をはじめ、わずか9都府県であった。埼玉県内でも自然増加率がマイナスとなっている市町村が山間地以外でも増加しており、約半数の市町村で人口増加率はマイナスとなつた。しかし、県内全体では南東部の市町村の人口増加率はプラスであり、この期間において埼玉県の人口は約14万人増加している。よって④は誤りであり、図5からは埼玉県の人口増減は読み取れないが、南東部のさいたま市(約122万人)など人口規模の大きな都市で増加していることから推測する。

問5 [34] ④

図6の地形図の範囲は、利根川の運搬・堆積作用によって形成された沖積平野にみられる氾濫原と、海面の相対的な低下により、かつての沖積平野が台地化した地域である。①正しい。2008年の地形図にみられる特別支援学校の敷地付近は、1956年の地形図をみると東、西、南側に等高線間隔の狭い急斜面があり、新旧地形図ともに北側の水田が広がる地域との高低差はみられない。このような地形は侵食谷とよばれ、小河川が台地面を侵食して形成されたものである。②正しい。JR線は標高20m程度の台地上に敷設され、あらき駅も台地上に建設され

た。また、あらき駅の南側には住宅団地が新たに造成されており、南新木二丁目～四丁目は台地上に位置し、南新木一丁目付近には侵食谷を埋めて造成された土地もみられる。**③正しい。**1956年の地形図の南西端には水域(手賀沼)がみられ、「浅間渡」と記された付近には渡船の地図記号もみられる。しかし、2008年の地形図では、この付近は水田となっているので、干拓により農地が拡大したことが読み取れる。**④誤り。**新旧地形図を見比べてみると、利根川右岸の人工堤防の位置は移動しておらず、河川敷に造成された公園はみられるが、これはもともと河川敷であった土地に造成されたものである。

問6 **[35]** **④**

**④誤り。**高潮は台風など強い低気圧の接近による海水面の吸い上げ現象に満潮が重なり、海水面が上昇するものであり、湾奥に位置する沖積平野の海岸

付近の河口部や地盤沈下によって海面下となった低地などで、海から強風が吹きこむと被害が大きくなる。図6で示された地域を図1でみると河口から数十kmも上流側に位置し、高潮の発生は予想されない。**①正しい。**付近は、北側は利根川に、南側は手賀沼に面する低湿地であるから、過去において何度も大水害に見舞われている。**②正しい。**液状化現象とは、地震などの強い揺れにともなって、地下水位の高い砂質の地盤が液体状になる現象であり、2011年3月11日に発生した大地震によって、図6中の南部の干拓地をはじめ複数箇所で液状化現象が発生した。**③正しい。**かけ崩れとは、集中豪雨や地震などにより、斜面の地表部の土砂が崩れ落ちる現象である。図6では、洪積台地と沖積平野の境界付近に等高線間隔の狭い急斜面やかけの地図記号がみられる。

●写真提供

© SATOSHI INOUE/SEBUN PHOTO/amanaimages/P P S 通信社

## 地理 B

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	②	3	
	問 2	2	④	2	
	問 3	3	④	3	
	問 4	4	②	3	
	問 5	5	①	3	
	問 6	6	③	2	
第1問 自己採点小計			(16)		
第2問	問 1	7	③	3	
	問 2	8	①	3	
	問 3	9	⑤	3	
	問 4	10	①	2	
	問 5	11	③	3	
	問 6	12	⑥	3	
第2問 自己採点小計			(17)		
第3問	問 1	13	①	3	
	問 2	14	④	2	
	問 3	15	④	3	
	問 4	16	①	3	
	問 5	17	④	3	
	問 6	18	②	3	
第3問 自己採点小計			(17)		
第4問	問 1	19	③	3	
	問 2	20	④	3	
	問 3	21	④	3	
	問 4	22	③	2	
	問 5	23	①	3	
	問 6	24	②	3	
第4問 自己採点小計			(17)		
第5問	問 1	25	②	3	
	問 2	26	③	3	
	問 3	27	①	2	
	問 4	28	④	3	
	問 5	29	②	3	
	問 6	30	②	3	
第5問 自己採点小計			(17)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第6問	問 1	31	③	2	
	問 2	32	④	2	
	問 3	33	③	3	
	問 4	34	④	3	
	問 5	35	④	3	
	問 6	36	④	3	
第6問 自己採点小計			(16)		
自己採点合計			(100)		

### 【解説】

#### 第1問 ヨーロッパとアフリカの自然環境

##### 【出題のねらい】

ヨーロッパとアフリカの地形、気候、植生について出題した。大地形とプレート境界、小地形、気温と降水量の分布は頻出なので、まずは分布を地図帳などでしっかり確認し、地形についてはその例を覚え、気候については成因から理解しておこう。

##### 【設問別解説】

###### 問1 [1] ②

①誤り。アはフランスとスペインの国境に利用されているピレネー山脈で、新期造山帯のアルプス・ヒマラヤ造山帯に属している。ヨーロッパでは、ピレネー山脈、アルプス山脈、東ヨーロッパのカルパティア山脈以南の地域が新期造山帯で、その北側には古期造山帯、バルト海周辺には安定陸塊が広がっている。V字谷が沈水したリアス海岸は各地にみられるが、名称は、スペインの北西部のリアスバハス海岸に由来している。②正しい。イのアトラス山脈もピレネー山脈と同様にアルプス・ヒマラヤ造山帯に属している。北側は地中海性気候で、南側はステップ気候から砂漠気候に続き、温帶と乾燥帯の境界となっている。なお、リビアやエジプトの北部は、地中海に面しているが、大部分が砂漠気候なので注意したい。③誤り。ウはエチオピア高原で、プレートの広がる境界に形成されたアフリカ大地溝帯に位置しているが、アフリカ大陸最高峰は、赤道付近の火山であるキリマンジャロ山(5895 m)である。赤道付近には他にも 5000 m を超える火山があり、山頂には氷河がみられる。④誤り。エのドラakensバーグ山脈は古期造山帯に属しており、南東側は多雨地帯ではない。安定陸塊の山脈で山麓が多雨地帯であるのは、インドの南西部にある西ガーツ山脈で、南西季節風に対して風上側となる沿岸部では雨季の

降水量が非常に多い。なお、アフリカ大陸では、北部に新期造山帯のアトラス山脈(最高峰は4165m)、南部に古期造山帯のドラakensバーグ山脈(最高峰は3482m)があるが、安定陸塊に属する大地溝帯付近の標高がより高いことに注意しよう。

## 問2 [2] ④

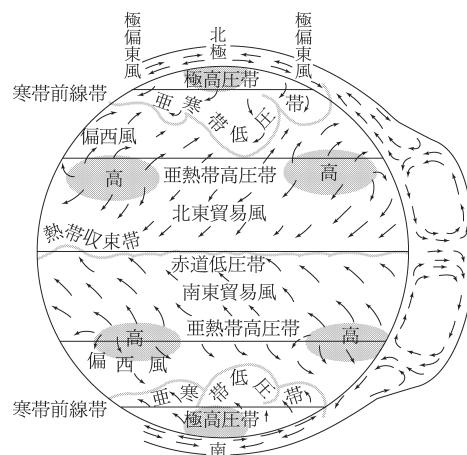
Xは東経20度で、地図帳で地形や地名を確認してほしい。<sup>①</sup>正しい。Aはスカンディナヴィア山脈で、ノルウェーとスウェーデンの国境に利用されている。ノルウェー側では海に迫っているが、スウェーデン側では傾斜が緩やかで、ボスニア湾周辺には低地が広がっている。氷期には、スカンディナヴィア半島を中心とするヨーロッパ北部に大陸氷河(氷床)が形成され、山地が海に面しているノルウェーの海岸には、氷河の後退とともにU字谷に海水が進入したフィヨルドが発達している。<sup>②</sup>正しい。Bは東ヨーロッパ平原で、氷期には大陸氷河に覆われていたため、氷河の末端に形成される堆積地形のモレーンや氷河湖などがみられる。<sup>③</sup>正しい。Cはハンガリー平原で、ドナウ川とその支流が流れている。北側の山脈は前述した新期造山帯のカルパティア山脈である。<sup>④</sup>誤り。Dは、アドリア海に面するディナルアルプス山脈である。地中海にはプレートのせばまる境界が走っているが、海溝はみられない。また、地中海周辺の火山は、イタリア南部(ヴェズヴィオ山など)やシチリア島、エーゲ海などにみられるが、ディナルアルプス山脈にはみられない。ディナルアルプス山脈付近には石灰岩が多く、山脈の北部に続くスロベニアのカルスト地方は、カルスト地形の名称の発祥地である。

## 問3 [3] ④

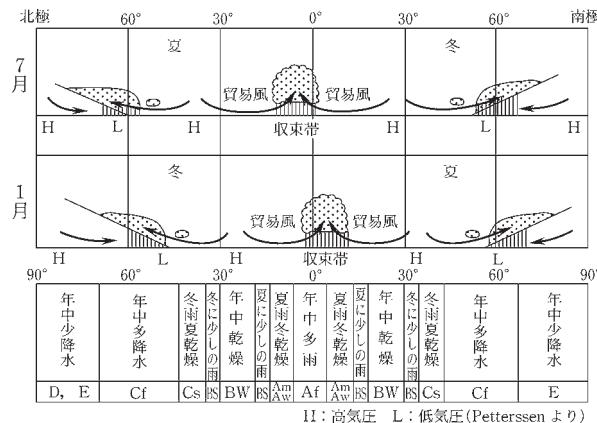
<sup>①</sup>正しい。カ付近は、プレートの広がる境界に形成された太西洋中央海嶺に位置している。北側にあるアイスランド島は、海嶺上に噴出した火山島である。<sup>②</sup>正しい。キは北海で、大陸棚が広がり、いくつかのバンク(浅堆)もあり好漁場となっている。<sup>③</sup>正しい。クの紅海は、インド洋中央海嶺から続くプレートの広がる境界に位置し、アラビア半島とアフリカ大陸が分裂して形成された地溝帯に海水が進入したものである。この地溝帯は、北側ではイスラエルとヨルダンの国境にある世界最低所の死海(海面下400m)に続き、南側ではアフリカ大地溝帯に続いている。<sup>④</sup>誤り。ケはモザンビーク海峡で、プレートの境界ではなく、海溝もみられない。海峡の東側のマダガスカル島は、アフリカ大陸から分裂した島で安定陸塊に属している。

## 問4 [4] ②

赤道を挟んだ南北半球における降水量の季節分配に関する問題で、大気大循環についての知識が必要となる。図①に示した大気大循環の模式図で、赤道低圧帯と亜寒帯低圧帯は多雨をもたらし、亜熱帯高圧帯は乾燥をもたらす。よって、赤道付近や緯度40~50度付近は多雨で、回帰線付近は乾燥するが、低圧帯や高圧帯は季節によって南北に移動するため、年中多雨の地域、年中乾燥する地域のほか、雨季と乾季のある地域が生じる。図①は、太陽が赤道上を照らす春と秋の状態を示したもので、夏至の頃、すなわち北半球の夏には全体に北上し、冬至の頃、すなわち南半球の夏には、全体に南下する。よって、図②に示したように気候区が配列する(この図は大陸西岸にのみ対応する)。図3中のサ(コペンハーゲン)は、年中亜寒帯低圧帯の影響を受け湿潤な西岸海洋性気候なので、図4では乾季が存在しないaが該当する。続くシ(ローマ)は地中海性気候で、夏季は北上してきた亜熱帯高圧帯の影響で乾燥し、冬季は南下してきた亜寒帯低圧帯の影響で湿潤となるため、cかeが該当するので、ここで正解は<sup>②</sup>と決まる。地中海性気候地域での冬季の降水量はそれほど多くはならないので、シは、eではなくcである。ス(ンジャメナ)は、夏季は北上してきた赤道低圧帯の影響で雨季、冬季は南下してきた亜熱帯高圧帯の影響で乾季となるためdが該当する。セ(ポワントノワール)は赤道より少し南の南半球に位置し、夏季は南下してきた赤道低圧帯の影響で雨季、冬季は北上してきた亜熱帯高圧帯の影響で乾季となるためeが該当する(南北半球では季節が反対になることに注意)。ゾ(ケープタウン)は、地中海付近と同じ緯度に位置し、地中海性気候なので、夏季に少雨のbが該当する。



図① 大気大循環の模式図



図② 気圧帯の位置の年変化と降水型モデル

問5 [5] ①

気温の年較差は、赤道付近で最も小さく、緯度とともに大きくなる。また、海岸沿いより内陸の方が大きくなる。よって、最も緯度が高く内陸に位置するチ(ハルツーム)は、年較差が最大の④が該当する。サハラ砂漠の南部で、砂漠気候に属するため降水量も非常に少ない。残りの3地点は赤道に近く、年較差はいざれも小さいが、ツ(キガリ)は、大地溝帯の高原に位置し、気温が低いので、②が該当する。ギニア湾岸は多雨で、サバナ気候や熱帯雨林気候が分布するので、タ(アビジャン)は降水量が多い①が該当する。赤道付近でも、アラビア半島に近いインド洋側は少雨で、乾燥気候が広がることから、テ(モガディシオ)は③が該当する。

問6 [6] ③

P付近は冷涼な亜寒帯湿潤気候で、針葉樹林(タイガ)が分布することから、写真はニが該当する。フィンランドには、氷食による凹地に水がたまつた氷河湖が非常に多い。マダガスカル島のQは、南東貿易風に対して山地の風上側にあたるため年中多雨で、熱帯雨林気候となっている。よって、ナの熱帯雨林が該当する。R付近にはナミブ砂漠がみられることから、砂丘の広がるヌが該当する。アフリカ南部の南回帰線付近には、大西洋岸にナミブ砂漠、内陸にカラハリ砂漠が分布するが、海岸部では沖合を北上する寒流のベンゲラ海流の影響を受け、乾燥帯は海岸に沿って赤道に近いコンゴ川河口付近まで延びている。これは、水温の低い海面に接する空気が冷やされて上昇気流が発生しないためである。

第2問 世界の農林水産業

【出題のねらい】

三大穀物の大陸別生産割合、商品作物の栽培起源地

と生産上位国、家畜の飼育頭数上位国、食料問題、林業、水産業について問うた。作物は、栽培起源地や栽培条件を知ると、生産地域を理解することができる。同様に、さまざまな統計も背景を考えて理解を深めよう。

【設問別解説】

問1 [7] ③

小麦、米、トウモロコシは三大穀物とよばれ、世界の生産量は約7~8億トンである。このうち、中国南部からインド東部付近を栽培起源地とする米はアジアで世界の9割が生産されるので、図1ではアが該当する。米は、輸出量が2,700万トンで、小麦(1.5億トン)やトウモロコシ(1億トン)に比べると少なく、ほとんどがアジアで生産、消費される。このため、稲作に適した多雨のモンスーンアジアの人口上位国で生産が多く、中国、インド、インドネシア、バングラデシュの順位は人口規模に対応している。西アジアを栽培起源地とする小麦は、熱帯を除く世界で広く栽培され、商品作物として貿易も盛んである。生産上位国は、中国、インド、アメリカ合衆国、ロシア、フランスで、図1では、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカで多いイが該当する。トウモロコシは熱帯アメリカを栽培起源地とし、生産上位国は、アメリカ合衆国(世界生産の37%)、中国、ブラジル、メキシコ、アルゼンチンで、南北アメリカ諸国が多くを占めている。よって、ウが該当する(以上、生産は2010年、輸出は2009年、以下も同様)。

問2 [8] ①

三つの作物の栽培起源地は、カカオがAの熱帯アメリカ、コーヒーがBのエチオピア高原、茶がCの中国南部~インド北部である。このうち、カカオとコーヒーは、大部分が輸出にまわされるのに対し、

茶の輸出量は生産量の4割程度で、生産上位国は、栽培起源地で国内消費量の多い中国、インドが1、2位を占める(キ)。茶は、かつてイギリスが貿易を独占していたことを背景として、旧イギリス領でプランテーションが拡大し、輸出は、ケニア、中国、スリランカ、インドの順になっている。栽培には水はけのよい傾斜地が適しており、中国の華南やインドのヒマラヤ山麓など主産地には丘陵地や山地が多い。一方、カカオとコーヒーは栽培起源地以外での生産が多い。これは、ヨーロッパ人が栽培起源地から苗を持ち出し、栽培に適した他地域で大規模なプランテーション開発を進めたためである。よって、収穫期に乾燥する熱帯の高原に適するコーヒーは、ブラジル、コロンビアなどの南アメリカが、年降水量の多い熱帯の低地に適するカカオはコートジボワール、ガーナなどのアフリカ(ギニア湾岸)が生産の中心となっている。同様に、天然ゴムも、アマゾン地方を栽培起源地とするが、生産の中心は東南アジア(タイ・インドネシア・マレーシア)である。

問3 [9] ⑤

家畜の分布は、自然環境や宗教との関係が深い。羊は粗食のため、牧草の少ない乾燥地域での遊牧に適しており、乾燥気候の広がるオーストラリアにも導入されたことから、スが該当する。飼育頭数上位国は、中国、インド、オーストラリア、イラン、スードンで、ヨーロッパでは、牧場・牧草地率が最も高いイギリスの飼育頭数が最も多い。豚は、イスラームでは不浄な動物とされるため、南アジアから西アジア、北アフリカにかけての地域が空白となっているサが該当する。飼育頭数上位国は、中国(世界の49%)、アメリカ合衆国、ブラジル、ベトナム、ドイツで、アメリカ合衆国とヨーロッパでは混合農業地域で飼育が盛んである。シは牛で、世界で広く飼育され、上位国はインド、ブラジル、アメリカ合衆国、中国、エチオピアである。ただし、インドで多いのは、ヒンドゥー教で聖なる動物とされるためで、肉は食用とはされないが、乳は利用され、インドのバター生産は世界一である。

問4 [10] ①

①誤り。緑の革命は、発展途上国の食料不足を解決するために米、小麦、トウモロコシの多収量品種を導入して増産をめざすもので、灌漑施設の整備、化学肥料や農薬の使用などの農業技術の革新とともに進められ、積極的に推進された東南アジアや南アジアでは、食料自給を達成した国が多い。アフリカでは緑の革命は進まず、一方で人口増加が著しいため、1人当たり食料生産は停滞している。②正し

い。中国では、近年の経済成長による食生活の変化で肉類の需要が増加したため、飼料として大豆の輸入が増加し、2009年には世界の輸入量の56%を占めるまでになっている。③正しい。穀物は、アメリカ合衆国、フランス、カナダ、オーストラリア、ロシアなどの輸出が多いが、異常気象による干ばつや冷害などにより小麦やトウモロコシの生産量が変動し、発展途上国を中心とした穀物需要の増加も背景となって、国際価格の変動が激しくなっている。④正しい。日本では、農業就業者の減少、高齢化、後継者不足などが問題となっており、廃業も増加している。さらに、米の生産調整(減反政策)も関連して、平野の周辺から山間部にかけての狭い耕地を中心に耕作放棄地が増加し、2010年には40万ha(滋賀県の面積に匹敵)に達している。

問5 [11] ③

木材は、用途から燃料用の薪炭材と、家具や建材、パルプなど燃料以外に利用される用材に分けられ、発展途上国では薪炭材の割合が高く、先進国では用材の割合が高い。また、冷涼な地域ほど針葉樹の割合が高い。よって、発展途上国の中は中国は②か⑧で、ブラジルの方が中国より温暖なため、針葉樹の割合が低い③が該当し、中国は②である。乾燥地域の広い中国に対して、ブラジルは大部分が熱帯と温帯なので、国土面積に占める森林面積の割合が高いと考えて判定してもよい。①は木材伐採高が世界一のアメリカ合衆国、④は針葉樹の割合が高いロシアである。

問6 [12] ⑥

カツオ、マグロ、イワシは海水温の高い海域に、タラ、ニシンは海水温の低い海域に多く生息している。よって、高緯度に位置する国が上位を占めるチはタラ類、低緯度に位置する国が上位に多いツはカツオ・マグロ類である。タは高緯度と低緯度の国が混在していることからニシン・イワシ類で、1位のペルーはアンチョビ(カタクチイワシ)の漁獲が多く、飼料・肥料用の魚粉に加工して輸出している。なお、漁獲量の上位国(2010年)は、中国、インドネシア、インド、アメリカ合衆国、ペルー、日本である。日本では、かつて沖合漁業で獲れるイワシ類が漁獲の中心で、1970年代から80年代にかけて世界一の漁業国であったが、1990年頃からイワシ類の漁獲が急速に減少したため、漁獲量もピーク時の40%ほどになっている。

### 第3問 都市と消費・余暇活動

#### 【出題のねらい】

都市人口率、大都市の発達、都市問題、日本の都市、家計消費支出、日本人の海外旅行と訪日外国人について出題した。都市化と都市問題は、先進国と発展途上国との違いを背景から理解することが重要で、日本では都市の階層構造についての理解が必要である。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [13] ①

都市人口率は、都市化の進展とともに上昇し、第1次産業人口率の低い先進国では高く、第1次産業人口率の高い発展途上国では低い。先進国では、産業革命以降、都市に工業が集積し、農村から労働力を吸収して都市化が進んだため、都市人口率が上昇した。よって、図1で、1950年から都市人口率が高い②は、先進国のイギリスである。一方、工業化の遅れた発展途上国では、農業従事者の割合が高く、都市人口率は低いが、ラテンアメリカでは例外的に都市人口率が高い。これは、新大陸では、先住民人口が少なく、ヨーロッパ人が都市を開拓拠点として入植を進め、農業は企業的な大規模経営が中心で、第1次産業人口率が低めであったためである。よって、1950年時点で、都市人口率が40%を超えている③はメキシコで、その後、NIEsとして工業化が進み、都市人口率も上昇している。①は韓国で、メキシコなどとともにNIEsに数えられ、1960年代後半から工業化が進展したため、急速に都市人口率が上昇した。④はインドで、最近はブラジル、ロシア、中国とともにBRICsとよばれ、経済成長が著しいが、工業化が本格化したのは1990年代以降であるため、都市人口率の伸びはゆるやかである。なお、発展途上国では、第二次世界大戦後の人口爆発によって、農村の余剰労働力が雇用機会の多い大都市に流入し、大都市人口が急増しているが、工業化が進んでいない国では、都市人口率はまだ低めである。

##### 問2 [14] ④

①正しい。大都市は、政治、行政、商工業、文化などさまざまな機能が集中し、周辺に広大な都市圏を形成する。このように地域の中心として発展した大都市をメトロポリスという。②正しい。大都市の市街地が拡大するとともに、周辺の都市と市街地が連続し、一体化した都市域が形成されることがある。このような連接都市(連携都市)をコナーベーションとよび、例として京浜地域や阪神地域、ドイツのルール地方などがあげられる。③正しい。いくつの大都市が帶状に連続し、交通・通信網で密接に結ばれた都市化地域をメガロポリスといい、アメリ

カ合衆国北東部のボストン・ワシントン間について最初に名づけられた。日本の京浜・阪神間も東海道メガロポリスとよばれる。よって、④は誤りで、ニューヨークは、ボストン・ワシントン間に位置するが、シカゴは五大湖の一つであるミシガン湖に面しており、北東部との連続性はない。

##### 問3 [15] ④

①正しい。ソウルの人口は1004万人(2010年)で、韓国の人口(4839万人、2011年)の1/5以上を占め、さらに首都圏全体では国内人口の4割以上と、首都機能の一極集中が著しい。このため、工業については首都への立地規制が行われ、首都圏内の周辺地域への工業集積が進んでいる。政府機関や大企業の本社も首都圏外に分散が進み、外港でもあるインチョンにはハブ空港となる国際空港も建設されている。②正しい。ニューヨークなどアメリカ合衆国の大都市では、民族による居住地の分化、すなわち住み分けがみられ、都心周辺のインナーシティ(旧市街地)には、黒人やヒスピニックなどの低所得者層が多く、スラムもみられる。インナーシティには元々白人が住んでいたが、居住環境の悪化や自動車の普及によって郊外の一戸建て住宅に移動し、そのあとに黒人やヒスピニックが居住するようになった。③正しい。メキシコシティは人口が2012万人(郊外を含む、2010年)で、第2位の都市との人口差が大きいプライメートシティ(首位都市)の例として知られる。図1でみたように、メキシコでは都市人口率の上昇が著しく、特に首都への人口集中が顕著であるが、発展途上国では、先進国のように都市で産業が十分に発達しておらず、流入人口に見合うだけの雇用がなく、住宅の供給も追いつかないため、市街地周辺の空地を不法占拠してスラムが形成されている。また、道路や電気、水道などの社会資本の整備も遅れており、自動車の増加によって渋滞が激しく、大気汚染も深刻である。メキシコシティは標高2300mの盆地に位置し、市街地周辺の斜面にはスラムが広がっている。また、高所で酸素濃度が低いため、エンジンが不完全燃焼を起こしやすく、排ガスが盆地底にたまつてスモッグが発生する。④誤り。ロンドンでは、産業革命後の19世紀に人口が急増し、公害や過密による居住環境の悪化をまねいた。これに対し、1944年に発表された大ロンドン計画では、無秩序な市街地の拡大を防ぐために市街地を取り巻くグリーンベルトを設置し、その外側の郊外に職住近接型のニュータウンが建設された。その結果、郊外へ人口や工場の流出が進み、都市内部が空洞化するインナーシティ問題が発生したため、特

に荒廃したテムズ川沿いの港湾地区であるドックランズでは、再開発が進められ、オフィス街や高級住宅地などが建設された。よって、文は郊外開発と空洞化の順序が逆になっている。

問4 [16] ①

昼間人口比率は、周辺から通勤・通学などで人口が流入する都市圏の中心都市で高くなる。A～Cはいずれも県庁所在都市であるが、千葉市は東京大都市圏に位置し、東京の衛星都市としての性格も有するため、東京への通勤者が多く、昼夜間人口比率は100%を下回り、Cが該当する。東京湾岸で工業が発達しているため、1人当たり製造品出荷額も多い。AとBは、1人当たり卸売業販売額の差が大きい。卸売業は、地域の中心都市で発達するため、四国の経済の中心である高松市がBで、Aは秋田市である。日本の都市を階層的にみると、三大都市の東京、大阪、名古屋を頂点として、広域中心都市(地方中枢都市)である札幌、仙台、広島、福岡が続いている。北陸の中心である金沢などとともに、高松は四国を中心としての準広域中心都市である。

問5 [17] ④

経済発展とともに可処分所得が増加し、生存に不可欠な食費の割合は低下する。X～Zは、この順に食料・飲料・たばこの割合が低くなっているので、経済水準に対応して、Xはインド、Yは韓国、Zはアメリカ合衆国となる。韓国では、受験競争が激しいため教育の割合が高く、アメリカ合衆国では、国民皆保険制度がないため医療・保健の割合が高い。

問6 [18] ②

①正しい。1980年代半ばに急速に円高が進み、海外旅行が安価となったことから、海外旅行者数は急増した。また、週休二日制の導入などにより労働時間が減少し、余暇時間が増加したことでも背景となっている。海外旅行者数は、1990年代後半になると景気後退の影響で停滞し、2003年にはイラク戦争や新型肺炎など、2009年には新型インフルエンザや不況などの影響で減少した。②誤り。2000年代に入って訪日外国人数が増加したのは、中国をはじめとする近隣諸国の経済成長で、観光客が増加したためである。円相場は、2000年代半ば過ぎまでは上下を繰り返し、その後は円高が進んでいる。③正しい。日本人の海外旅行先は、近く短期間で安価に行ける東アジア(中国、韓国、香港、台湾)と、ハワイ、グアムを含むアメリカ合衆国が上位である。④正しい。上述したように、訪日外国人は、近隣諸国からが中心で、韓国、中国、台湾、アメリカ合衆国、香港、オーストラリア、タイの順となっている(2010年)。

## 第4問 ラテンアメリカ地誌

### 【出題のねらい】

ラテンアメリカの自然、文化・社会、資源と産業、貿易について出題した。地図帳を活用して、地形、気候、資源分布、農業地域などのラテンアメリカ全体の特徴や相互の関係を理解するとともに、アルゼンチン、ブラジル、メキシコなどの主要国を中心に、国別に産業や社会の特色を把握しておこう。

### 【設問別解説】

問1 [19] ③

①正しい。Aは、大アンティル諸島の一部と小アンティル諸島を含む地域である。これらの島々は、太平洋には面していないが、環太平洋造山帯の一部をなす弧状列島で、沖合の大西洋にはペルトリコ海溝がある。②正しい。Bは、ペルー付近のアンデス山脈を中心とした地域である。ペルーの沿岸部は、沖合を北上する寒流のペルー海流の影響で、海面付近の空気が冷やされて大気が安定し、雨がほとんど降らず砂漠気候になっている。アンデス山脈が海岸近くまで迫っているため、寒流の影響は海拔高度の高い内陸部までは及ばず、海岸沿いに細長く砂漠が続いている。このような砂漠を海岸砂漠という。Bの南側には、南回帰線付近のチリ北部のアンデス山中にアタカマ砂漠が広がっている。③誤り。Cはブラジル高原の一部で、安定陸塊の高原である。気候は、主に雨季と乾季が明瞭なサバナ気候(Aw)であるが、内陸部は降水量が少なくステップ気候(BS)になるところもある。自然植生は疎林と長草草原からなるサバナで、ブラジル高原ではそれをカンポ(カンポ・セラード)という。セルバはアマゾン川流域の熱帯雨林の名称である。④正しい。Dは、チリ南部で、太平洋から吹く偏西風がアンデス山脈に当たり、風上側のこの地域に大量の降水をもたらす。この影響で氷期には氷河が発達し、現在でも山岳部には氷河がみられる。氷河消失後は氷食谷(U字谷)に海水が進入し、フィヨルドが形成されている。

問2 [20] ④

ラテンアメリカでは、アマゾン川河口付近を赤道、キューバ島の北を北回帰線、ブラジル南部やチリ北部を南回帰線がそれぞれ通る。北回帰線と南回帰線はほぼ熱帯気候と温帯気候の境界で、西岸から内陸部にかけては回帰線を中心に乾燥気候が分布する。ジャマイカの首都キングストンとメキシコシティは、ほぼ同緯度で北回帰線よりやや低緯度に位置する。低緯度なので気温の年較差は小さいが、北半球なので1月が最寒月となる①と④がキングストン

かメキシコシティのいずれかである。キングストンは海拔高度が低く、メキシコシティは海拔2,300mの高原にあるため、気温の年較差が同じくらいでも各月の平均気温が大きく異なる。平均気温の低い④が海拔高度の高いメキシコシティで、年中気温の高い①がキングストンである。気候区はメキシコシティが温暖冬季少雨気候(Cw)、キングストンがサバナ気候(Aw)である。チリの首都サンティアゴとアルゼンチンの首都ブエノスアイレスもほぼ同緯度で、南回帰線よりもやや高緯度にある。ブエノスアイレスは大陸東岸、サンティアゴは大陸西岸に位置するため、降水量の季節配分はブエノスアイレスが年中多雨型、サンティアゴが冬雨夏乾燥型となる。南半球のサンティアゴとブエノスアイレスは7月が最寒月の②か③で、夏に降水量が少ない②がサンティアゴ、乾季のない③がブエノスアイレスである。気候区はサンティアゴが地中海性気候(Cs)に近いステップ気候(BS)、ブエノスアイレスが温暖湿润気候(Cfa)である。

### 問3 [21] ④

①正しい。ラテンアメリカとは、メキシコ以南の中央アメリカ、カリブ海地域と南アメリカをいう。大航海時代以降、スペインとポルトガルの植民地となり、言語、宗教などラテン系文化の影響を受けた地域である。特に宗教ではほぼ全域でキリスト教が信仰され、その大部分がカトリックの信者である。②正しい。アルゼンチンもメキシコもかつてスペインの植民地であり、公用語はスペイン語である。ラテンアメリカではブラジルだけがポルトガルの植民地であったため、同国のみ公用語がポルトガル語である。また、カリブ海付近には、ジャマイカなど英語を公用語とする国やハイチなどフランス語を公用語とする国もみられる。③正しい。発展途上国では首都に人口が集中していることが多い。メキシコもアルゼンチンも首都が国内で人口最大の都市である。なお、ブラジルの首都ブラジリアは、1960年に遷都された歴史の新しい計画都市のため最大都市ではない(最大都市はサンパウロ)。④誤り。白人と先住民(インディオ)との混血をメスチソという。アステカ文明やマヤ文明が栄え、先住民人口の多かった

メキシコではメスチソが過半数を占めるが、先住民人口の少なかったアルゼンチンではヨーロッパから移住した白人が人口のほとんどを占める。ラテンアメリカ諸国の人種構成は国によってかなり異なるので、表①で整理しておこう。

### 問4 [22] ③

ラテンアメリカの産油国としてはメキシコとベネズエラが知られているが、近年、ブラジルで海底油田の開発が進み、原油産出量が急増している。したがって③がブラジルである。ブラジルは陸域の大部分が安定陸塊の楯状地のため、油田はほとんど分布しない。そこで1970年代から周辺の海域での油田探査を進め、リオデジャネイロ州沖の大陸棚で有望な油田を発見した。1980年代後半からは大水深海域での探鉱が活発になり、水深1000~1500mの海域で大油田が相次いで発見された。最近になって、さらに水深の深い海域や他の海域でも油田が発見されている。これらの油田によりブラジルの原油産出量は順調に増加し、2006年には原油の自給を達成している。①はメキシコである。メキシコでは20世紀初頭から外国企業による油田開発が行われ、原油産出量が飛躍的に增加了。その後、1930年代に石油産業を国有化したが、新規の油田開発は行われず、1970年頃まで既存の油田はほぼ枯渇し、原油の輸入国になっていた。ところが1970年代に入って、メキシコ湾南岸で油田が発見されると、メキシコの原油産出量は再び急増した。最近は油田の産出量がピークを過ぎたため、原油産出量は減少しつつある。②はベネズエラである。ベネズエラの油田開発は20世紀初めから外国企業によって始まり、1970年頃まで原油産出量は増加した。しかし、1960年代からの資源ナショナリズムの高まりにより外資系石油企業はベネズエラへの投資を抑制し、1970年頃をピークに原油産出量は次第に低下した。その後、石油産業が国有化されたが、原油産出量は回復していない。④はアルゼンチンである。アルゼンチンは南部のパタゴニア地方に油田がある。上記3か国に比べると原油産出量は少ないが、国内需要はほぼ満たしており、原油は自給できる。

### 問5 [23] ①

表① ラテンアメリカ諸国の人種構成

メスチソが多数の国	エクアドル、コロンビア、パラグアイ、メキシコなど
インディオが多数の国	ペルー、ボリビアなど
白人が多数の国	アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルなど
黒人が多数の国	ジャマイカ、ハイチなど

『データブック オブ・ザ・ワールド』による。

①誤り。アルゼンチンでは、大土地所有制にもとづく大農場・大牧場をエスタンシアという。エスタンシアの経営者の多くは都市に住む不在地主で、土地改良や機械化などの農場への投資が不十分なため、エスタンシアでの農業は粗放的で、生産性も低い。②正しい。エクアドルは、アンデス山脈沿いに油田があり、1973年にOPEC(石油輸出国機構)に加盟したが、1992年に脱退、その後2007年に復帰した(ラテンアメリカでの加盟国はペネズエラとの2か国)。バナナの世界一の輸出国としても知られ、輸出の1位は原油、2位は野菜・果実(大部分はバナナ)である。③正しい。チリは世界最大の銅鉱産出国である。銅鉱山は主にアメリカ合衆国資本によって開発されたが、1970年代に国有化された。しかし近年は外資を受け入れて新規の銅鉱山の開発が行われている。④正しい。メキシコはラテンアメリカの中では工業化が進展し、輸出品も原油を除くと機械類や自動車などの工業製品が上位を占めている。もともとアメリカ合衆国との経済的つながりが強かったが、1994年のNAFTA(北米自由貿易協定)の発足により、さらにその関係が強まった。アメリカ合衆国などの外資系企業は、自由貿易の利点を生かすためメキシコに生産拠点を置き、メキシコの安価な労働力を使ってテレビや自動車などを生産し、アメリカ合衆国に輸出している。

#### 問6 [24] ②

もともと一次産品の輸出が多かったブラジルは、輸出相手先としては先進国が多かったが、近年はアルゼンチンなどの近隣諸国や中国との貿易が活発になった。輸出先にアルゼンチンが入っているのが2009年で、上位に先進国が並ぶのが1989年である。また、2009年に輸出先第1位であるXは中国で、1989年に第1位、2009年に第2位のYはアメリカ合衆国である。中国への輸出が増えたのは、鉄鉱石や大豆などの中国での需要が多い資源や食料品の輸出が多いからである。アルゼンチンとは1995年のMERCOSUR(南米南部共同市場)結成により、相互に貿易が拡大した。現在、ブラジルにとってアルゼ

ンチンは輸出入とも第3位の貿易相手国で、アルゼンチンにとってはブラジルが輸出入とも最大の貿易相手国である(2009年)。MERCOSURはアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジルの4か国により1995年に結成された自由貿易を推進する組織で、その後ペネズエラも加盟している。

### 第5問 現代世界の諸課題

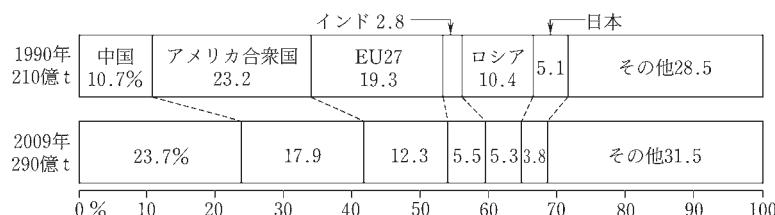
#### 【出題のねらい】

環境問題、女性の労働力率、民族・領土問題、歳出の使途別割合について出題した。環境問題については、さまざまな問題について原因と被害、発生地域を整理し、民族問題については、背景となる言語や宗教などの違いについて理解しておこう。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [25] ②

1人当たり二酸化炭素排出量は、1人当たりエネルギー消費量が多い国ほど多くなるので、一般的には経済水準に対応している。先進国の中でも国土が広くエネルギー多消費型の生活が営まれる新大陸の先進国では特に多いので、④はアメリカ合衆国と判定する。残りの3か国は、ロシア、中国、インドの順に経済水準が低くなるので、③がロシア、②が中国、①がインドである。日本はロシアより経済水準は高いが、エネルギー効率を高め、省エネルギーを進めてきたため、先進国の中では1人当たり二酸化炭素排出量は少ない。また、中国は近年の急速な経済成長でエネルギー消費量が急増したため、1人当たり二酸化炭素排出量も増加している。GDP当たり二酸化炭素排出量は、発電所や工場、自動車など二酸化炭素を排出するさまざま施設や機械などのエネルギー効率に影響され、省エネ対策を進めてきた先進国で少なくなる。また、第1次産業がGDPに占める割合の高い発展途上国でも少なくなる。日本では早くから省エネ対策が行われてきたためGDP当たり二酸化炭素排出量が少なかったが、近年は発展途上国でも効率化が進み、ロシアや中国でも減少が顕著である。なお、二酸化炭素排出量が最大の国



『日本国勢図会』により作成。

図③ 世界の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の割合

は、図③に示したように、アメリカ合衆国から中国に代わっている。

問2 [26] ⑧

①正しい。Aは五大湖周辺で、早くから鉄鋼業や自動車工業などが発展し、化石燃料の燃焼に伴い排出される硫黄酸化物や窒素酸化物が雨に溶け込んだ酸性雨で森林の枯死などの被害が生じている。②正しい。Bはサハラ砂漠南縁のサヘルで、砂漠化が深刻である。自然的要因としては、異常気象により赤道低圧帯がもたらす降水が減少したこと、人為的要因としては、人口急増に伴う食料増産のための耕地の拡大などによる過耕作、家畜頭数の増加による過放牧、燃料としての薪炭材の採取(過伐採)があげられる。③誤り。Cはシベリア東部の沿海州で、針葉樹林(タイガ)が分布しているが、針葉樹は建築材やパルプ材としての需要が多く、外貨獲得のために伐採され、森林破壊が進んでいる。シベリアでは、石油や天然ガス、石炭の開発が行われているが、この地域ではみられない。④正しい。Dはカリマンタン島で、人口増加に伴う焼畑の拡大や、植物性油脂原料として需要が増加しているパーム油を採取する油ヤシのプランテーションの拡大によって熱帯雨林の破壊が進行している。パーム油は、生産1、2位のインドネシアとマレーシアで世界生産の8割以上を占めている。

問3 [27] ①

①誤り。国連による最初の環境保護に関する世界会議は、1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議である。その後、1992年にリオデジャネイロで開催された環境と開発に関する国連会議は地球サミットとよばれた。その際、採択された気候変動に関する国連枠組条約にもとづいて1997年に開催された地球温暖化防止京都会議では、二酸化炭素の排出量削減目標が定められた。②正しい。成層圏で生物に有害な紫外線を吸収するオゾン層は、人工的に生成されたフロンによって破壊が進んだため、1985年にオゾン層保護のためのウィーン条約が採択され、1987年のモントリオール議定書によってフロンの規制が行われた。③正しい。熱帯林の減少を防ぎながら持続的な農業を行うために、森林伐採後に植林を行い、木が育つまでの間、樹間に作物を栽培するアグロフォレストリーが、アマゾン地方などで行われている。④正しい。ラムサール条約は、正式名を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1971年にイランのカスピ海沿岸にあるラムサールで採択され、1975年に発効した。日本では、釧路湿原や琵琶湖、谷津干潟など、

湿原や湖沼、干潟を中心に46か所が登録されている(2012年現在)。

問4 [28] ④

iranで信仰されるイスラーム(イスラム教)では、女性は家を守り、子どもを育てることが役割とされ、女性の社会進出は遅れている。よって、iranは、労働力率が極めて低い④が該当する。エチオピアは、経済水準が低く、女性の就学率も低いため、15~19歳の労働力率が高い②が該当する。韓国は、日本と同様に、出産によって一旦仕事を離れ、育児が終わると再び職に就く女性が多いため、30~34歳で労働力率が低下している③が該当する。①は女性の社会進出が進んでいるヨーロッパのフランスで、働きながら出産・育児が可能なように保育施設や育児休業制度が整備されており、少子化対策にもなっている。

問5 [29] ②

①正しい。Pはカナダのケベック州で、フランス系住民が多数を占めるため、イギリス系住民を中心のカナダからの分離独立運動が行われてきた。公用語は英語とフランス語で、首都のオタワは、イギリス系住民の多いオンタリオ州とケベック州の境界に置かれている。②誤り。Qは、ロシアとグルジア、アゼルバイジャンとの国境に利用されているカフカス山脈付近で、山脈の北側にはロシア連邦内の共和国が多く位置している。いくつかの共和国では民族紛争が生じており、特にチェチェン共和国は、イスラム教徒が多く、ロシアからの分離独立をめぐって激しい対立が続いてきた。カフカス山脈南側の3か国のうち、グルジアとアルメニアでは正教会が信仰され、アゼルバイジャンでは、中央アジア諸国と同様にイスラームが信仰されている。したがって、この付近にはカトリックは分布していないので誤りとなる。③正しい。Rは、カシミール地方で、インドとパキスタンがイギリスから独立するときに、この地方を治めていたヒンドゥー教徒の藩王がインドへの帰属を、イスラム教徒の多い住民がパキスタンへの帰属を求めしたことから領有問題が発生した。④正しい。Sは南沙群島で、無人島であったが、周辺海域での石油の埋蔵が確認されると、中国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイが領有を主張し、最近も中国とベトナム、フィリピンの間で対立が深まっている。

問6 [30] ②

Xは、防衛の割合が最も高く3割以上を占めている。これは、1979~1989年のソ連軍の侵攻、その後の内戦や同時多発テロ事件以降のアメリカ合衆国の

侵攻が続いたアフガニスタンである。Yは、社会保障・福祉の割合が5割近くを占めることから、社会保障制度が整備されたヨーロッパのドイツと判定できる。Zはタイで、経済発展を持続させるため経済産業や教育の割合が高くなっている。

## 第6問 利根川流域の地域調査

### 【出題のねらい】

利根川流域を対象として、河川勾配と河川流量、水利用、農業、埼玉県の市町村別人口動向、都市化が進展した地域の新旧地形図の読図、自然災害について出題した。地域調査の問題では、特定地域の特別な知識が求められているのではなく、地形や気候などの自然環境や、産業分野などについての一般的な理解をもとに、正解を導けるかどうかが問われている。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院の昭和31年と平成20年に発行された2万5千分の1地形図「取手」である。

### 【設問別解説】

#### 問1 [31] ③

利根川は、群馬県と新潟県の県境付近に位置する三国山脈を源流として、関東平野を東流し太平洋へ注ぐ流長322kmの河川であり、流域面積は日本一である。一方、信濃川は、埼玉県、長野県、山梨県の県境付近に位置する関東山地を源流として、長野県から新潟県を経て日本海へ注ぐ流長367kmの河川であり、流長は日本一である。一般に、流量やその年変化は、流域の気候や地形などの自然環境の影響を強く受ける。日本の気候区分は、冬季降水量の多い日本海側と少ない太平洋側とに分けられ、利根川と信濃川の流量の年変化にもこの影響がみられる。よって、図3では、4月に流量のピークがみられるbを、冬季降水量(降雪量)が多く、融雪が進む春先の流量が多い信濃川流域、冬季の流量が少なく、7月、9月の流量が多いaを、冬季に北西季節風の山地風下側で降水量が少なく、梅雨や秋雨により夏季に降水量が多い利根川流域と、それぞれ判定する。河川勾配については、図1より、利根川が埼玉県北部から河口部まで低地を流れていることが読み取れ、図2で河口から上流側200km付近まで河川勾配が緩やかなイを、利根川と判定する。

#### 問2 [32] ④

土木技術の発達にともない、河川には堤防、堰、ダムなどが建設され、洪水調節などの治水や生活・農業・工業用水を利用するための利水が進められてきた。図1中、力は山間部に位置することから、川を堰き止めたダムが位置すると考え、写真1中で

は、山地とダム湖、堰堤がみられるF(矢木沢ダム)を選択する。矢木沢ダムは、利根川流域の洪水調節はもとより、群馬県への農業用水や生活用水、東京都への生活用水の確保のために建設された多目的ダムである。キ、クの判定は難しいが、Eの説明文に「塩害防止」とあるので、河口からほど近いクがE(利根川河口堰)に当てはまると考える。堰は、水を堰き止める目的で建設された建造物で、河川の上流側に水を貯留することにより、用水路への配水を容易にしたり、満潮時や荒波のときに海水が逆流し、その水がしみ込んで地下水が塩水化し、下流部の農地に入り込んで塩害を招くことを防いだりする目的で建設される。残りのD(利根大堰)にはキが該当する。利根川の中流に位置する利根大堰は、周辺地域への生活・農業・工業用水の供給や、高度経済成長期における東京都や埼玉県の水不足を解消したり、当時、水質汚濁が問題となっていた小中河川の水質改善のために余剰水を流し込んだりするために建設されたものである。

#### 問3 [33] ③

茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県は、いずれも大消費地である首都圏に位置し、野菜を栽培する近郊農業が盛んである。また、地勢的にみると、関東平野は台地が広く、沖積低地が狭いため、耕地面積に占める水田面積の割合が低めである。よって、どの県でも割合の高いサが野菜、シが米である。次に、県域面積は、図1からも読み取れるように、群馬県(6,362km<sup>2</sup>)、茨城県(6,096km<sup>2</sup>)が同程度で、これらに千葉県(5,157km<sup>2</sup>)が続き、埼玉県(3,798km<sup>2</sup>)が最も狭い。しかし、農地面積は、茨城県が約17.7万ha、千葉県が約13.2万ha、埼玉県が8.4万haで、山地の多い群馬県が7.8万haであり、県域面積が狭く、最も都市化の進んでいる埼玉県の農地面積は千葉県より狭い。したがって、農業生産額の多いPには県域面積の広い千葉県、少ないQには埼玉県が当てはまる。

#### 問4 [34] ④

埼玉県は40の市、23の町、1つの村(2010年)からなる関東の中西部に位置する内陸県で、全域が東京都心から約100km圏内に含まれる。地勢は、おおむね三つの地域に区分でき、西部は山地、中央部は丘陵と台地、東部は低地が広がっており、これは図1からも読み取ることができる。

第二次世界大戦後の日本の人口動態と産業構造の変化は、人口動態は第1次ベビーブーム以降、多産少死型から少産少死型へ移り、産業構造は工業化の進展にともない、第1次産業中心から第2次、第3

次産業へと重心が移り、東京大都市圏や大阪大都市圏では地方から就業機会を求める多くの若年層が流入し、全国的に過疎過密が生じた。埼玉県でも1965～1970年には、都心と距離的に近く、交通アクセスもよい南東部では、ドーナツ化現象による都心部から郊外地域への人口移動による社会増加により人口増加率が高かった(①)。一方、西部の山間地を中心に過疎化の影響により社会増加率がマイナスとなり、人口増加率がマイナスとなっている町村もみられた(②)。1970年代の二度の石油危機を経て、日本経済は安定成長期に入り、人口移動も停滞したが、産業構造の高度化、特に経済のサービス化が進展し、諸機能の東京への一極集中が進んだことから、東京大都市圏への人口流入は続いた。一方で、都心周辺を中心とした地価高騰や居住環境の悪化によるドーナツ化現象は進行しており、郊外に位置する埼玉県の1985～1990年の人口増加率は9.2%，社会増加率は6.2%でともに全国1位となった。郊外では、鉄道や道路などの交通網の整備が進み、都心へのアクセスが改善されたため、都心から離れた地域でも宅地開発が進んだ。このため、人口減少が続いた西部の山間地を除く埼玉県内における人口増加の地域的差異は小さくなった(③)。1980年代に入ると、全国的に少子・高齢化が進み、1980年代後半からは死亡率が出生率を上回る自然減少状態にある都道府県が増加し、2005～2010年には、人口増加率がプラスであったのは、東京都をはじめ、わずか9都府県であった。埼玉県内でも自然増加率がマイナスとなっている市町村が山間地以外でも増加しており、約半数の市町村で人口増加率はマイナスとなった。しかし、県内全体では南東部の市町村の人口増加率はプラスであり、この期間において埼玉県の人口は約14万人増加している。よって④は誤りであり、図5からは埼玉県の人口増減は読み取れないが、南東部のさいたま市(約122万人)など人口規模の大きな都市で増加していることから推測する。

問5 [35] ④

図6の地形図の範囲は、利根川の運搬・堆積作用によって形成された沖積平野にみられる氾濫原と、海面の相対的な低下により、かつての沖積平野が

台地化した地域である。①正しい。2008年の地形図にみられる特別支援学校の敷地付近は、1956年の地形図をみると東、西、南側に等高線間隔の狭い急斜面があり、新旧地形図ともに北側の水田が広がる地域との高低差はみられない。このような地形は侵食谷とよばれ、小河川が台地面を侵食して形成されたものである。②正しい。JR線は標高20m程度の台地上に敷設され、あらき駅も台地上に建設された。また、あらき駅の南側には住宅団地が新たに造成されており、南新木二丁目～四丁目は台地上に位置し、南新木一丁目付近には侵食谷を埋めて造成された土地もみられる。③正しい。1956年の地形図の南西端には水域(手賀沼)がみられ、「浅間渡」と記された付近には渡船の地図記号もみられる。しかし、2008年の地形図では、この付近は水田となっているので、干拓により農地が拡大したことが読み取れる。④誤り。新旧地形図を見比べてみると、利根川右岸の人工堤防の位置は移動しておらず、河川敷に造成された公園はみられるが、これはもともと河川敷であった土地に造成されたものである。

問6 [36] ④

④誤り。高潮は台風など強い低気圧の接近による海面の吸い上げ現象に満潮が重なり、海面が上昇するものであり、湾奥に位置する沖積平野の海岸付近の河口部や地盤沈下によって海面下となった低地などで、海から強風が吹きこむと被害が大きくなる。図6で示された地域を図1でみると河口から数十kmも上流側に位置し、高潮の発生は予想されない。①正しい。付近は、北側は利根川に、南側は手賀沼に面する低湿地であるから、過去において何度も大水害に見舞われている。②正しい。液状化現象とは、地震などの強い揺れにともなって、地下水位の高い砂質の地盤が液体状になる現象であり、2011年3月11日に発生した大地震によって、図6中の南部の干拓地をはじめ複数箇所で液状化現象が発生した。③正しい。かけ崩れとは、集中豪雨や地震などにより、斜面の地表部の土砂が崩れ落ちる現象である。図6では、洪積台地と沖積平野の境界付近に等高線間隔の狭い急斜面やかけの地図記号がみられる。

●写真提供

© SATOSHI INOUE/SEBUN PHOTO/amanaimages/P P S通信社

# 【公 民】

## ■ 現代社会 ■

### 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	①	2	
	問2	2	④	3	
	問3	3	④	3	
	問4	4	③	3	
	問5	5	①	3	
	問6	6	③	3	
	問7	7	②	3	
	問8	8	④	2	
第1問 自己採点小計			(22)		
第2問	問1	9	②	2	
	問2	10	①	3	
	問3	11	③	3	
	問4	12	③	3	
	問5	13	④	3	
第2問 自己採点小計			(14)		
第3問	問1	14	④	3	
	問2	15	②	3	
	問3	16	②	2	
	問4	17	①	2	
	問5	18	④	3	
	問6	19	④	3	
	問7	20	⑥	3	
	問8	21	③	3	
第3問 自己採点小計			(22)		
第4問	問1	22	④	3	
	問2	23	②	2	
	問3	24	③	3	
	問4	25	②	3	
	問5	26	②	3	
第4問 自己採点小計			(14)		

問題番号	設問	解番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	27	②	3	
	問2	28	②	3	
	問3	29	②	3	
	問4	30	⑥	2	
	問5	31	④	3	
第5問 自己採点小計			(14)		
第6問	問1	32	②	3	
	問2	33	③	3	
	問3	34	③	3	
	問4	35	②	2	
	問5	36	①	3	
第6問 自己採点小計			(14)		
自己採点合計			(100)		

### 【解説】

#### 第1問 国民の暮らしと福祉の向上

##### 【出題のねらい】

本問は、女性差別、日本における外国人の法的地位、少子高齢化の現状と対策、所得格差是正の対策、雇用環境、家族をめぐる動向など、国民の生活と福祉に関する諸問題について幅広い観点から出題した。また、青年期におけるアイデンティティの確立についても出題した。

##### 【設問別解説】

###### 問1 1 ①

A：男女共同参画社会基本法(1999年制定)は、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる」社会の実現を目指している。

B：間接差別とは、男女雇用機会均等法の改正(2006年)により禁止されたもので、合理的理由がなく身長・体重を募集・採用の条件としたり、転勤経験の有無を昇進条件とするなど、表面上は、性別とは関係のない条件が結果的に一方の性にとって不利益となるような差別を指す。

C：ジェンダー(gender)とは、社会的・文化的に形成された性差を表す語である。生物学的な性差であるセックス(sex)とは区別される。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

正解の①以外の選択肢に出てくる語についてみてみよう。同和対策事業特別措置法は、部落差別の解消を目的として1969年に制定された法律。直接差別は性の違いによって異なる扱いをすることを指し、日本では、募集、採用など雇用をめぐる直接差別に関しては、男女雇用機会均等法の改正(2006年)以前から同法で禁止されてきた。エスノセントリズムは、自分の属する民族や文化を他の民族や文化に対して優越的なものと考える態度や考え方を指し、**自民族中心主義(自文化中心主義)**と訳される。

問2 [2] ④

出入国管理及び難民認定法は、在留資格制度によって外国人の在留活動を規制しており、付与された在留資格の活動範囲を超えて収益活動を行うことは禁じられている。④で取り上げられている単純労働は、同法が定める在留資格には含まれておらず、外国人が日本国内で単純労働に従事することは原則として禁止されている(ただし、資格外活動許可を得ることにより単純労働を行うことができる場合がある)。

①滋賀県米原町(現・米原市)は、**市町村合併の賛否を問う住民投票**(2002年実施)で、全国の地方自治体に先駆けてはじめて永住外国人に投票資格を与えた。その後、同様の措置をとる地方自治体の数が増えた。②難民条約の批准(1981年)に伴って国民年金法が改正され、これにより一定期間以上日本に在留する外国人にも、国民年金への加入資格が認められた。③国籍法は、「日本国民でない者…は、帰化によって、日本の国籍を取得することができる」、「帰化をするには、法務大臣の許可を得なければならない」(第4条)と規定している。

問3 [3] ④

介護保険制度は、介護保険法(1997年制定)に基づき2000年に導入されたもので、この制度により介護サービスの提供を受けるためには、**介護認定審査会**による要介護認定(要支援認定)を受けなければならぬ。申請さえすれば誰でも介護サービスを受けられるわけではない。また、40歳以上の全国民から保険料を徴収して、市町村及び特別区(東京23区)が運営し、費用の1割を本人負担とする制度であることも押さえておこう。

①合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均値)は、2005年に統計史上最低の1.26を記録した後、やや回復傾向を示し、2010年・2011年には1.39であった。したがって、「合計特殊出生率が低下してきており」という記述も、「現在、その値は2.0をわずかに上回る水準」という記述も誤

り。②高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は、1970年に高齢化社会の目安となる7%を超え、また1994年に高齢社会の目安となる14%を超え、さらに2010年には23%を超えた。したがって、この選択肢の前半部分は正しいが、「現在、日本人のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者」という後半部分は誤り。③育児・介護休業法(1995年制定)は、男女いずれの労働者に対しても、子どもが満1歳になるまでの育児休業を保障している(2004年の同法改正により、保育所がみつからないなど特別な場合には、育児休業の期間を6か月間延長できるようになった)。なお、介護休業については、介護を必要とする家族1人につき通算93日の休業が認められている。

問4 [4] ③

アイデンティティ(自我同一性)は、自己が一貫した連續性をもっているという認識が深まり、そのような自己像が周りの人によって認知されていると思えることで確立される。

①アイデンティティの確立にとって「社会規範から逸脱する行動」をとることが不可欠の条件ではない。②青年期の最も重要な発達課題としてアイデンティティの確立を挙げたのは、「フロム」ではなくエリクソン(1902~94)である。フロム(1900~80)は、ナチズムを支持した人々の心理傾向を分析した『自由からの逃走』の著者として知られる。彼は、その中で、ナチズムを支持した人々には、自由の重荷に耐えかねて、権威的な人物・組織への隸従や強制的な画一化の中に逃避する傾向がみられると分析した。④「アパシー」とは無関心のことである。したがって、「アパシーの感覚を身につける」ことは、アイデンティティの確立にとって阻害要因となることはあっても必要条件となることはない。

問5 [5] ①

所得税には、課税対象額が大きくなるほど高い税率が適用される累進課税制度が採用されている。これは、担税能力が大きい者はより多くの税負担をすべきであるという原則(垂直的公平の原則)に基づいている。この累進課税制度には、所得格差を是正する所得再分配効果があるので、最高税率の引き下げなど「所得税率の累進性を緩和する」施策は、所得格差の是正とは逆の効果を生むことになる。

②生活必需品は、基本的に所得額の多寡にかかわりなく購入されるから、これに対して賦課される間接税(例えば消費税)の所得に占める割合は、低所得者ほど高くなると考えられる(消費税の逆進性)。したがって、生活必需品に関して、この種の間接税の

税率を引き下げることは、所得に占める間接税の負担割合を低下させ、一律に定率の間接税を課す場合に生じる所得格差を、ある程度是正する効果をもつ。③雇用保険では失業者に対して失業給付が行われるが、その受給資格を得るために一定期間以上の加入が必要とされる。したがって、保険加入期間を短縮することはその受給者の増加をもたらし、所得格差を是正する効果をもつ。④公的扶助は、一定の要件を満たした生活困窮者に対して最低生活を保障しようとするものである。したがって、その所得要件を緩和することは、生活保護の受給者の増加をもたらし、所得格差を是正する効果をもつ。

問6 [6] ⑧

労働者派遣(事業)法は、1985年に制定されたが、その後派遣労働の対象職種を拡大するための改正が行われてきている。例えば、1999年の改正により製造業務などを除き派遣労働が原則自由化され、さらに2003年の改正により製造業務の派遣労働も解禁された。こうした法改正により、2000年代に入って派遣労働者が急増した。

①1990年代初めのバブル崩壊に伴い、日本経済は長期の景気後退を経験し、1990年代末から2000年代にかけてデフレーション(物価の持続的な下落)の傾向がみられた。したがって、不況下のインフレーション(物価の持続的な上昇)を意味するスタグフレーションが生じているという趣旨の記述は誤り。スタグフレーションは第一次石油危機(1973年)をきっかけに発生した現象である。②完全失業率は、2002年(年平均)に現行の統計史上最悪の5.4%を記録したが、その後、年平均ではこの水準を超えたことはない。したがって、2000年代に入って「完全失業率が上昇し続けており」という記述は誤り。また、日本の完全失業率が「現在、欧米諸国を大きく上回る水準」という記述も誤り。例えば、アメリカ、フランス、イギリスの完全失業率(2011年)は、いずれも8%を上回っている(IMF『世界経済概観データベース』2012年による)。④「従業員の一定割合を65歳以上の高齢者とすることを義務づけ」という記述は誤り。そのような事実はない。なお、高齢者の雇用に関する法制度については、高齢者雇用安定法の改正(2004年)により、事業主は、65歳までの定年の引き上げ、65歳までの継続雇用、定年制の廃止のいずれかを採用することを義務づけられたことを押えておこう。

問7 [7] ②

選択的夫婦別姓制度とは、夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の姓(氏)を称すること

とを認める制度である。1996年に法制審議会が民法改正によるこの制度の導入を提言したが、その後現在まで、この制度を導入するための民法改正は行われていない。したがって、民法上は、現在でも、結婚に際して、夫婦は夫または妻の姓(氏)としなければならない。

①生涯未婚率とは、「45歳～49歳」と「50歳～54歳」の未婚率の平均値から、50歳時の未婚率(結婚したことがない人の割合)を算出したもので、以前から上昇傾向が続いている。例えば、2000年と2010年を比較すると、男が12.57%から20.14%へ、女が5.82%から10.61%へと、それぞれ上昇している(数値は、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2012年)」による)。③世帯の総数に占める単独世帯の割合は、以前から上昇傾向が続いている。例えば、2000年と2005年を比較すると、27.6%から29.5%へと上昇している(数値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)2008年3月推計」による)。④ドメスティック・バイオレンス防止法(DV防止法)は、正式名称を「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」と言い、2001年に制定されて以降、何回か改正されてきている。同法が対象とする暴力の内容には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力などが含まれ、このうち身体的暴力については、被害者の申し立てにより地方裁判所が加害者に対して保護命令(接近禁止命令、退去命令)を出すことができる。

問8 [8] ④

イ：レポート作成に際しては、自分の意見と客観的な事実とを明確に区別する必要がある。

ウ：アンケート調査に際しては、対象者のプライバシーに十分配慮する必要がある。

ア：「自分が想定している調査結果を…説明する」ことは、予断を生じさせるおそれがあるので、アンケート調査に際して行うべきではない。

エ：報告に際しては、「客観性を保持」するためには、自分の仮説に合致する情報だけでなく、それに合致しない情報も提供する必要がある。したがって、自分の仮説に合致しない情報を「無視する」は誤り。

以上のことから、最も適当な組合せは④となる。

## 第2問 國際社会の課題

### 【出題のねらい】

本問では、国際社会を構成する要素である主権国家・個人・NGOと国際社会とのかかわりについての文章を掲げ、人口問題・地球環境問題などの国際社会

が直面している課題や、PKO・人権の国際的保障に関する取組みについて出題した。また、図表読み取り問題も出題した。落ち着いて正確な読み取りができるようにしておきたい。

#### 【設問別解説】

問1 [9] ②

国連が行っている平和維持活動(PKO)は、国連憲章に明文で規定されている活動ではなく、実際の必要から生み出されたものである。そのため、明文で規定されているわけではないが、実践的な積み重ねの中でそれには次のような原則が確立されてきた。(1)強制措置ではなく、受入れ国(当事者)の同意を基にした活動であること(同意原則)。(2)中立を維持すること(中立原則)。(3)身体防護など、必要最小限度の武器使用。このほかに、兵力の自発的提供、中小国を中心とした部隊編制などが指摘されている。ただし、受入れ国の同意を得ないで行われたUNOSOM II(第二次国連ソマリア活動)などの例外がある。

①PKOは国連憲章に明記されていない。また、憲章第7章に規定される、「軍事的強制措置」を担う活動でもない。⑨日本では、国連平和維持活動協力法(PKO協力法、1992年)により、自衛隊のPKOへの参加が始まった。自衛隊の派遣先が「アジアに限定」とあるが、アフリカのモザンビーク(1993~95)、南スーダン(2011~、2012年9月現在活動中)、中南米のハイチ(2010~、2012年度中に撤収予定)など、アジア以外にも派遣されたことがある。④PKF(国連平和維持軍)や停戦監視団のほか、UNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)などのように、選挙監視や民生支援のためのPKOも展開されている。

問2 [10] ①

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)において、地球上の生物種・遺伝子・生態系の多様性を守ることを目指し、生物多様性条約の署名が開始された。2010年に名古屋で開催された同条約の第10回締約国会議(COP10)では、遺伝資源の取得の機会や、その利用から得られた利益の公正かつ衡平な配分に関するルールを規定した名古屋議定書が採択された。

②1972年にスウェーデンのストックホルムで開催された国連人間環境会議で掲げられたスローガンは、「かけがえのない地球」であって「持続可能な開発」ではない。また、水鳥の生息地としての湿地の保全を図るラムサール条約は、1971年にイランのラムサールで採択されたものであって、国連人間環境会議で採択されたものではない。「持続可能な開

発」は、①の解説で述べた国連環境開発会議で掲げられた理念である。③「有害な廃棄物が国境を越えて処分されることによる健康や環境への被害を防ぐため」の条約は、1989年に採択されたバーゼル条約である。ワシントン条約は、1973年に採択された、絶滅が危惧されている野生動植物の国際取引を規制する条約である。④「国連環境開発会議」を国連人間環境会議に替えれば正しい文となる。

問3 [11] ③

中国について「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合の合計は53.0%であり、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた人の割合の合計は44.2%である。したがって、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合の合計は、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた人の割合の合計より「少ない」というのは逆で、誤りである。

①インド及び大洋州について、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合の合計は、インドが54.1%、大洋州が50.4%であり。双方とも50%を超えている。②それぞれの国・地域について、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた人の割合の合計は、中国44.2%、インド42.3%、東南アジア27.4%、中南米43.6%、アフリカ25.0%、中東53.2%、大洋州42.5%であり、中東が最も割合が大きい。④東南アジア及びアフリカについて、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合の合計は、東南アジアが69.0%，アフリカが70.0%であり、70%前後の割合と言える。なお、この調査結果は、それぞれの国・地域に対する、回答者である日本人の主観的な印象を集計したもので、「この国は途上国である」「この国は途上国ではない」と客観的に判断するための基準と言えるものではないことに、留意しておいてほしい。

問4 [12] ③

南アフリカでは、白人以外の人種を様々な分野で差別する人種隔離(アパルトヘイト)政策が行われていた。この政策は、国際社会から非難を浴び、国連でもこの政策の廃止を求め、南アフリカへの経済制裁が決議された。こうした国際社会の努力が実り、1990年代前半に南アフリカでのアパルトヘイト政策は廃止された。

①1948年に国連総会で世界人権宣言が採択された。その前文では、「人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎である」とうたわれ、世界平和の基礎としての

人権保障の重要性が指摘されている。②難民とは、戦争や政治的・宗教的迫害などによる危険から逃れるために、自国にとどまることができず避難を余儀なくされた人々のことを言う。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)は、こうした難民を保護する活動を行うなど、難民問題を取り組んでいる。④国際刑事裁判所は、大量殺害犯罪(ジェノサイド)、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略の犯罪(侵略の犯罪に関しては、当分の間、管轄権を行使できない)を行った個人を裁く常設の国際法廷として、2003年に設置された。国際刑事裁判所ローマ規程では、15歳未満の子どもを軍隊に徴用したり、敵対行為に積極的に参加させるために利用したりすることを、戦争犯罪であるとしている(第8条2(b)(xxvi))。

問5 [13] ④

国連の専門機関である国連食糧農業機関(FAO)は、世界の人々の栄養と生活水準の向上などを目指し、人々が十分な質・量の食糧に定期的にアクセスできる状態を確保するための様々な活動を行っている。また、2000年に開催された国連ミレニアムサミットでは、飢餓に苦しむ人口比率を半減することなどをうたった国連ミレニアム宣言が採択された。

①世界の人口が速いスピードで増加する人口爆発の要因は、開発途上国での人口転換が、多産多死型から多産少死型へと移行しているからである。②リプロダクティブ・ライツは、「性と生殖に関する権利」と訳され、「全てのカップルと個人が自分たちの子どもの数、出産間隔、ならびに出産する時を責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利」とされている。これを女性の権利とするか否かについては、議論の分かれるところだが、性と生殖に関する事項を国が規制するという考え方の対極をなすものであることは確かである。その点から②は誤りであると判断できる。なお、この考えは1994年の国際人口開発會議で提唱され、注目されるようになった。③世界の総人口は約70億人である一方、世界の穀物の総生産量は約100億人の必要量をまかなえる分があるとされる。したがって、「世界の穀物の総生産量は、世界の総人口をまかなえる水準に達しておらず」という記述は誤り。食糧不足は、穀物が家畜の飼料に使われたり、先進国が穀物を過剰に輸入したりするなどの分配面から生じている事態である。

### 第3問 民主社会の倫理と日本の政治の現状 【出題のねらい】

本問は、民主社会の倫理と日本の政治の現状に関する

基本知識を問うものである。基本的人権、民主社会の倫理、国会の民主的コントロール、行政の民主化に役立つ制度、政党、日本の選挙制度、日本国憲法や国民投票法が定める直接民主制の制度、国民の政治参加などについての基本知識を試す設問を作成した。

【設問別解説】

問1 [14] ④

日本国憲法は、「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」(第14条1項)と定めている。この「法の下の平等」の規定は、人種、信条、性別などに基づく不合理な差別を禁止しているが、例えば、未成年者に選挙権・被選挙権を認めない(第15条3項)など、合理的理由のある区別を許容している。

①障害者雇用促進法は、国や地方公共団体に職員の一定割合以上の障害者雇用を義務づけるだけでなく、民間企業に対しても従業員の一定割合以上の障害者雇用を義務づけている。②男女雇用機会均等法をはじめ、日本の法制度上、このような義務づけはない。③「実質的平等」と「形式的平等」を入れ替えれば、正しい記述になる。近代に登場した平等の理念は、封建的な身分制からの解放であり、性別、門地、出身などの社会的属性にかかわらず、法律上みな等しく取り扱い、すべての個人に平等な機会が与えられているという形式的平等であった。しかし、19世紀を通じて富者と貧者の格差、結果の不平等が拡大すると、抽象的な機会の平等は、潜在的能力があつても資財や教育その他の条件等を欠くためにそれを現実に利用できない者にとっては、形式的なものにすぎないとする批判がなされるようになった。そこで、各人が置かれた具体的な状況を考慮して、政府による積極的施策(社会保障給付など)を通じた実質的な平等を保障すべきであるとする主張がなされるようになった。

問2 [15] ②

現代人の社会的性格を他人指向型と特徴づけたのは、「ロールズ」ではなくリースマン(1909~2002)である。ロールズ(1921~2002)は、著作『正義論』において、公正としての正義を主張した。ロールズは、(1)基本的自由の権利は平等に配分されるべきである(平等な自由の原理)と説き、また、社会的・経済的不平等がある場合には、(2)公正な機会均等が確保されること(公正な機会均等の原理)、社会的・経済的不平等は、最も不遇な立場にある人々の便益を最大化するよう配慮すること(格差原理)、という二つの条件を満たさなくてはならないと説いています。

た。

①サルトル(1905~80)によれば、人間は自己の在り方を自由に決定できる存在である。自己の決定は、自己の在り方に対してだけでなく、同時に、他の人びとや社会の在り方に対しても影響を与えることになるのだから、自由は自己に対してだけでなく、全人類に対する責任も伴う。また、サルトルは、人間は社会の中に投げ込まれ社会に拘束されながらも、同時に、その現実を作り変えることのできる存在であるから、積極的に社会にかかわる必要があると説き、社会参加、アンガージュマンの重要性を説いた。②アドルノ(1903~69)は、著作『権威主義的パーソナリティ』において、権威ある者にはこびへつらい、弱者に対しては暴力的、攻撃的にふるまう性格的特徴を権威主義的パーソナリティ(権威主義的人格)と呼び、このような性格は、反省の態度の欠如と思考の硬直性という特徴をもち、ファシズムをはじめとする全体主義の温床となると説いた。④ハーバーマス(1929~)は、対話的理性に基づいた自由な討議を経て合意を形成していくことが社会統合の基礎となると説いた。

問3 [16] ②

本会議の審議を公開して国民の傍聴を認めれば、国会の活動に対する国民による民主的コントロールが確保される。日本国憲法でも、「両議院の会議は、公開とする」(第57条1項)と定め、本会議の公開の制度を設けている。ただし、日本国憲法は「出席議員の3分の2以上の多数で議決したときは、秘密会を開くことができる」(第57条1項)とし、本会議を非公開とすることができると定めている。また、国会の委員会については、国会法で、原則として傍聴はできないが、委員長の許可があれば、報道機関やその他の者も傍聴できると規定されている(第52条)。

①党議拘束は、政党が一つの集団としてまとまって行動するための手段であり、国会の活動を民主的にコントロールする手段ではない。③内閣の法律案提出権は、内閣が国政のリーダーシップを発揮するための手段であり、国会の活動を民主的にコントロールする手段ではない。④委員会中心主義は、国会における審議を効率化し充実させるための手段であり、国会の活動を民主的にコントロールする手段ではない。

問4 [17] ①

オンブズマン(行政監察官)制度とは、住民の訴えに基づいて行政運営を監視・調査し、是正勧告などを行う機関を言う。19世紀初めにスウェーデンで創

設された。オンブズマンを通じて、住民・国民の意思が国政・地方政治に反映されるので、行政の民主化に資する制度であると言える。日本では、この制度は、地方自治体の中には導入しているところもあるが、国レベルでは導入されていない。

②③④は行政権の肥大化を示す例である。②法律では大枠を定め、細部については法律の委任に基づいて行政機関が命令という形式で定めることを委任立法と言う。③行政機関は行政権を行使する際に、生活保護基準の認定など、法律に従って様々な判断を行う。こうした法律に基づいて行政機関が自らの判断で行う裁量行為を行政裁量という。委任立法や行政裁量が増えれば、行政機関が政策形成・決定過程にも影響力も増加する。④特殊法人を増設すれば、国の影響力が大きくなるから、行政権の肥大化につながる。なお、1990年代以降は、公社や公団などの特殊法人の改革が進められ、それらの独立行政法人化や民営化が進められている。

問5 [18] ④

1994年に制定された政党助成法は、国会議員を5人以上有するか、または、国会議員を有しあつ直近の国政選挙で得票率が2%以上の政党に対して、議員数や得票率に応じた政党交付金を国庫から交付することを定めている。

①「大衆に基盤を置く大衆政党」と「財産と教養のある有力者を中心とする名望家政党」を入れ替えれば正しい記述となる。18~19世紀の政党は、制限選挙の下で、名望家政党であった。ところが、19世紀半ばごろから徐々に普通選挙が普及し、労働者にも選挙権が広がったことから、政党は名望家政党から多くの党员を抱え組織化された大衆政党に移行した。②日本国憲法に政党に関する明文の規定はない。日本国憲法上、政党の活動は結社の自由(第21条1項)によって保障されている。③1955年から1993年にかけて続いた「55年体制」の下では、一時的に連立内閣となつたことはあるものの基本的には自由民主党の単独内閣が続き、政権交代はなかつた。

問6 [19] ④

日本国憲法は、「すべて選挙における投票の秘密は、これを侵してはならない。選挙人は、その選択に関し公的にも私的にも責任を問はれない」(第15条4項)と定め、秘密投票を保障している。

①の記述内容は参議院議員の比例代表選挙に関するものである。衆議院議員の比例代表選挙では、政党があらかじめ順位を示した候補者名簿を提出し、その順位に従って当選者を確定する拘束名簿式比例

代表制が採用されているのに対し、参議院の比例代表選挙では、政党が提出する候補者名簿には順位がついておらず、個人名での票数の多い順に当選者を確定する非拘束名簿式比例代表制が採用されている。②戸別訪問は公職選挙法により禁止されている。公職選挙法は、選挙の自由と公正を確保する目的から、事前運動や戸別訪問を禁止しており、また、文書の配布などについても制限を設けている。③最高裁判所が定数不均衡問題において選挙を無効としたことはない。最高裁判所は、これまでのところ二度にわたり、公職選挙法の衆議院議員定数分配規定を法の下の平等に違反するとして違憲と判断したが、選挙を無効にした場合の不都合を考慮して、選挙自体は有効と判断した。

問7 [20] ⑥

A：日本国憲法は、原則として代表民主制を採用しているが、代表民主制を補完するものとして最高裁判所裁判官の国民審査(第79条)、地方特別法の住民投票(第95条)、憲法改正の国民投票(第96条)の三つの直接民主制的な制度を採用している。したがって、Aには「地方特別法」が入る。

B：憲法改正は、衆議院と参議院のそれぞれの総議員の3分の2以上の賛成で国会が発議する。したがって、Bには「3分の2以上」が入る。

C：憲法改正の発議後、国民投票における過半数の賛成によって国民の承認を経る。なお、国民投票法は、この国民の承認を有効投票総数の過半数と定めている。したがって、Cには「有効投票総数」が入る。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問8 [21] ③

刑事事件の裁判は、被疑者を検察官が起訴することによって開始される。検察官は、被疑者を起訴するかどうかを自由に判断できるが、起訴すべき事件が不起訴となってしまうおそれもある。そこで、有権者の中からくじで選ばれた11名の検察審査員によって組織された検察審査会が、検察官の不起訴処分の当否を審査する制度が設けられている。

①法律の制定・改廃を求める直接請求の制度はない。なお、地方自治法には、有権者が一定数の署名を集めて条例の制定・改廃を首長に対して直接請求することができる制度が設けられている。②民事事件には、裁判員制度は導入されていない。2009年から、地方裁判所における殺人や強盗致死など一定の重大犯罪の刑事案件に関する裁判で、有権者から無作為に選ばれた裁判員が裁判官とともに合議体を構成して(原則として裁判官3名と裁判員6名で構成

される)，有罪・無罪の認定や量刑を行う裁判員制度が導入されている。④「両院協議会」を公聴会に替えれば正しい記述となる。なお、両院協議会とは、衆議院の議決と参議院の議決が異なった場合に、衆議院と参議院が協議をするために開かれる会議のことである。

## 第4問 科学技術の発達と生命

### 【出題のねらい】

本問は、バイオテクノロジーの進展と生命倫理、臓器移植、遺伝子組み換え作物をはじめとする食品の安全性をめぐる問題などについて基本事項を確認することを目的としている。また、思想史にかかる問題や図表問題も出題した。

### 【設問別解説】

問1 [22] ④

正しい学問の方法として、イギリス経験論の哲学者ベーコン(1561～1626)が感性的経験を通じて集めたデータから一般的な知識を導出する帰納法を唱えたのに対し、大陸合理論の哲学者デカルト(1596～1650)は、明晰判断明原理から理性による推論を通じて結論を導出する演绎法を唱えた。

①「繊細の精神」の働きを重視したのは、フランスのモラリストの一人パスカル(1623～62)である。②感性的な経験を通じて得られた素材に理性が先天的に有する悟性の形式を適用することで、客観的に妥当する法則を定立することができると唱えたのは、ドイツ観念論の哲学者カント(1724～1804)である。カントのこの考えを知らなくても、デカルトは感性的な経験より理性に基づく推論を重視していたということから、この選択肢はデカルトではないと判断できる。⑧これはフランクフルト学派の哲学者ホルクハイマー(1895～1973)とアドルノの考え方。彼らは、『啓蒙の弁証法』を著し、近代理性は、野蛮から人類を解放してきたかにみえたが、外的自然と同時に感情や衝動など人間の内的自然をも支配するための道具となってしまっているとし、近代理性を「道具的理性」と呼んで批判した。

問2 [23] ②

「プラス面が多い」と「どちらかというとプラス面が多い」と答えた人の割合の合計は、2004年は59.3%，2007年は60.5%，2010年は53.5%，といずれの調査においても5割を上回っている。

①「プラス面が多い」と答えた人の割合は、調査年ごとに減少しているし、また、「マイナス面が多い」と答えた人の割合は、2004年に比べ2007年の方が0.2ポイント増えているので、「減っている」とい

う記述は誤りである。③「プラス面が多い」と「どちらかというとプラス面が多い」と答えた人の合計の割合は、男性は5割を上回っている(65.1%)が、女性は43.5%と、5割を下回っている。④「両方同じくらいである」と答えた人の割合は、50歳代では29.0%，60歳代では34.0%で、若い人ほどその割合が「高い」という記述は誤りである。

問3 [24] ③

現行の臓器移植法によると、その第6条で「脳死した者の身体とは、その身体から移植術に使用されるための臓器が摘出されることとなる者であって脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に停止するに至ったと判定されたものの身体をいう」と明記されている。

①臓器移植法は1997年に制定され、臓器摘出の条件として、本人の書面による意思表示と遺族がいる場合その遺族の同意が必要であった。しかし、2009年に同法は改正され、第6条で「医師は、次の各号のいずれかに該当する場合には、移植術に使用されるための臓器を、死体(脳死した者の身体を含む。以下同じ。)から摘出することができる。一 死亡した者が生存中に当該臓器を移植術に使用されるために提供する意思を書面により表示している場合であって、その旨の告知を受けた遺族が当該臓器の摘出を拒まないとき又は遺族がいないとき。二 死亡した者が生存中に当該臓器を移植術に使用されるために提供する意思を書面により表示している場合及び当該意思がないことを表示している場合以外の場合であって、遺族が当該臓器の摘出について書面により承諾しているとき」と定めている。したがって、遺族が臓器移植を拒否している場合や遺族の承諾が得られない場合は、臓器を摘出することはできない。②1997年制定の臓器移植法の下では、厚生労働省の「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)で「臓器移植に関する法律における臓器提供に係る意思表示の有効性について、年齢等により画一的に判断することは難しいと考えるが、民法上の遺言可能年齢等を参考として、法の運用に当たっては、15歳以上の者の意思表示を有効なものとして取り扱うこと」と定められていた。しかし、2009年の同法改正に伴い、臓器提供者の生前の意思表示がなくても遺族の承諾または遺族が拒否しなければ臓器摘出が可能となったことを受けて、事实上、15歳未満であっても、家族・遺族の書面による承諾があれば、脳死判定を行い脳死者から臓器を摘出することが可能となった。④2009年の改正臓器移植法の第6条で「移植術に使用されるための臓器

を死亡した後に提供する意思を書面により表示している者又は表示しようとする者は、その意思の表示に併せて、親族に対し当該臓器を優先的に提供する意思を書面により表示することができる」と規定され、親族への優先提供を意思表示することが認められるようになった。

問4 [25] ②

遺伝子組み換え作物は遺伝子組み換え技術を用いて作られた農作物で、アレルギーを引き起こす可能性など人体への影響や環境への悪影響を懸念する声が上がっているが、日本では一定の条件の下でその輸入が認められている。

①牛海绵状脳症(BSE)の発生などを背景に、牛肉に個体識別番号を付けることにより、肉牛の出生から消費者に提供されるまでの履歴を追跡できるように、牛トレーサビリティ法が制定(2003年)されている。米及び米加工品に関しても、問題発生時に流通ルートを特定できるように、生産から販売、提供までの各段階の取引記録を作成、保存することを特定の事業者に義務づける米トレーサビリティ法が制定(2008年)されている。③2011年に富山県などの焼肉店で起きた集団食中毒事件を契機に、2012年7月から焼肉店などで生食用として牛の生レバーを提供することが禁止されることになった。④食品衛生法に基づき、原材料にアレルギー物質(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かなど)を含む加工食品には、その旨を表示することが義務づけられている。

問5 [26] ②

「リビング・ウィル」は、インフォームド・コンセント(医師による十分な説明に基づく同意)の誤り。リビング・ウィルとは、終末期の患者が本人の意思確認ができない状況における治療方針などの希望をあらかじめ文書で伝えておくなど、生前における意思表示を言う。

①ES細胞(ヒト胚性幹細胞)は、病気や事故で失った組織や臓器を再生する万能細胞として、その研究が進められ、利用が期待されている。しかし、通常、受精卵を破壊して作られるため倫理的な問題があると指摘されている。③出生前診断とは、胎児に遺伝性の疾患の可能性があるかどうかなどを知るために妊娠中に行われる検査のことである。その可能性が高いと判断された妊婦やその家族にとって、心の準備ができるなどのメリットがある。しかし、人工妊娠中絶を選択する場合には、命の選別につながるのではないかなどの倫理的な問題が指摘されている。④代理出産とは、不妊に悩む依頼者が別の女性に依頼しその女性(代理母)の子宮を借りて子どもを

産んでもらうことである。アメリカではビジネスとして普及しているが、日本ではそれを禁止する法律はないものの、日本産科婦人科学会は会告で禁止している。ビジネスとして依頼者と出産者と契約を交わしたもの、その子の親権をめぐって両者間でトラブルになることがあり、そのあり方について是非が問われている。

## 第5問 日本経済の現状と課題

### 【出題のねらい】

本問は、日本経済の現状と課題を主題として、企業の社会的責任(CSR)、株式会社制度、市場原理と市場の失敗、財政状況、GDP・GNIなどについて出題した。

### 【設問別解説】

#### 問1 [27] ②

私企業の最大の目的は利潤の追求にある。しかし、企業も社会の一員である以上、一定の社会的役割を果たすことが期待されている。この企業が負うべき社会的責任をCSRといい、以下のようなものがある。

A：コンプライアンス(法令遵守)は、法令や社会規範の遵守を言う。したがって、Aが該当する。企業がコンプライアンスを重んじることは、社会の一員として当然のことであるが、現実にはインサイダー取引、偽装表示、粉飾決算、贈収賄事件など様々な不祥事が起きている。

B：ゼロエミッションは、最終的に処分地に入る廃棄物をゼロにしようとする理念や生産の方式を言う。生産工程で出た廃棄物を別の生産物の原料として使用することで、環境保護に役立てようとするものである。したがって、Bが該当する。

C：フィランソロピーは、様々な社会的貢献活動や慈善の寄付行為を言う。したがって、Cが該当する。阪神淡路大震災や東日本大震災などではこうした社会的慈善活動が数多くみられた。なお、芸術・文化活動への支援はメセナと呼ばれる。

以上のことから、最も適当な組合せは②となる。

なお、イはディスクロージャーについて説明したものである。

#### 問2 [28] ②

独占禁止法は1997年に改正され、それまで禁止されていた持株会社の設立が、原則として認められるようになった。

①従来、会社を設立する際には、株式会社は1000万円の資本金を必要としたが(最低資本金制度)、2006年に施行された会社法はこの最低資本金制度を

廃止した。したがって、選択肢の記述は不適当である。③「円高」が進行すれば、外国人投資家は日本企業の株式を購入するのに以前よりも多くの資金を要することになり、購入しにくくなる。例を挙げて説明しよう。1ドル=200円から100円へと円高が進行した状況の下で、株式一単位当たり10万円で取引されている株を購入する場合を想定する。1ドル=200円であれば、500ドルの資金で株式一単位を購入できたが、1ドル=100円になると1000ドルかかることになる。このように、「購入しやすい環境をもたらす」という記述は、誤りである。④株主総会での議決の方式は、現在でも1株1票制が採用されており、その点でこの選択肢は誤りである。そもそも、この文章は論理的に成り立たないことに注意してもらいたい。1株1票制では、大株主は株主総会で大きな影響力を発揮することができるが、1人1票制では、株主は議決権においてすべて対等となり、大株主の影響力は低下する。したがって、「有利となり」という記述は誤り。

#### 問3 [29] ②

道路などの公共財は、対価を支払わない人の利用を排除できない非排他性という性質をもつ。そのため、生産者はその利用者から対価をとることが困難なので、市場に委ねていたのでは社会的に望ましい水準よりも過少に供給されることになる。したがって、「社会的に望ましい水準よりも過剰に供給される」という記述は不適当である。

①消費者や企業が多数存在する完全競争市場においては、価格の自動調節機能を通じて、資源が最適に配分される(資源の最適配分)。アダム・スミス(1723~90)はこの価格の働きを神の「みえざる手」と表現した。⑧公害のような外部不経済の発生も、市場の失敗の一つである。公害の場合、発生源である汚染者が、公害防止費用や被害救済・原状回復費用(外部費用)を負担するという原則(PPP)を導入すれば、外部費用が内部化され、汚染物質の排出の抑制が期待できる。④少数の企業が市場を支配する寡占市場では、価格先導者(プライスリーダー)の設定した価格に他の企業が追随して形成される管理価格が成立する場合がある。管理価格が成立すると、生産性が上昇するなどして生産費が減少しても、価格が下がりにくくなる(価格の下方硬直化)。

#### 問4 [30] ⑥

A：国債は、建設国債と赤字国債(特例国債)に大別される。財政法は、公共事業費などの財源にあてる建設国債の発行を認めているが、歳入不足を補てんするための赤字国債の発行を認めていない。した

がって、Aには「赤字国債」が入る。

B：赤字国債は、高度経済成長期の1965年度に一度発行された後、第一次石油危機後の1975年度に再び発行されてからは、90年度から93年度の間を除き、今日に至るまで継続的に発行されている。したがって、Bには「第一次石油危機」が入る。湾岸戦争は1991年に勃発した戦争である。

C：現在、債務残高がGDPに占める比率をG7（日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ）で比較してみると、日本は2012年末で219%に達しており、2位のイタリアの128%を大幅に上回っている（財務省Webページ）。したがって、Cには「最も高い」が入る。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問5 [31] ④

国内総生産(GDP)や国民総所得(GNI)は、市場で取引される財やサービスの付加価値の総額を算出したものであるから、公害防除費用も市場で取引されているものであればこれに算入される。したがって、「算入されない」という記述は不適当である。

①日本企業が輸出によって得た所得は、日本国内で生産された付加価値であるとともに、日本国民（居住者）が生産した付加価値でもある。したがって、輸出はGDPにもGNIにも算入される。②GNIあるいはGNP（国民総生産）は、GDPに、国民が海外に資本や労働などの生産要素を提供して得た所得（海外からの所得）を加え、外国人（非居住者）が国内で活動して得た所得（海外に対する所得）を差し引くことによって算出される。すなわち、 $GNI = GDP + (\text{海外からの所得} - \text{海外に対する所得})$ という関係が成り立つ。これは、 $GNI = GDP + \text{海外からの純所得}$ とも表現できる。③GDPやGNIには、家事労働・余暇時間など、市場で取引されない財やサービスの価値は算入されない。なお、GDPやGNIのこのようないくつかの欠点を補うために、国民純福祉(NNW)などの指標が考案されたことがある。

## 第6問 国際経済の動向

【出題のねらい】

本問では、世界経済の動向やEUなどの地域的経済統合、日本の国際収支の現状、WTO（世界貿易機関）などに関する問題を出題した。この分野は、苦手とする人の多い分野である。センター試験を直前に控えた現在、本問を通じて今一度自分の知識や情報を確認してほしい。

【設問別解説】

問1 [32] ②

アメリカが「これまでどの国ともFTA（自由貿易協定）を締結していない」という記述は誤り。1990年代前半に、アメリカはカナダ、メキシコとの間でNAFTA（北米自由貿易協定）を発足させ、その後、イスラエル、ヨルダン、近年では、2007年に韓国とのFTAに署名する（2012年発効）など活発な動きをみせている。また、2009年にTPP（環太平洋経済連携協定）締結に向けての交渉に参加を表明したのもその一環だと言えよう。ちなみに、「光栄ある孤立」をかつて外交政策に掲げていたのは、アメリカではなくイギリスで、その点も誤り。

①中国の国家統計局の発表によると、2010年の中国の名目国内総生産(GDP)は39兆7983億元（5兆8786億ドル）となり、日本の5兆4742億ドルを超え、世界第2位の経済大国となった。ちなみに、外貨準備高は2006年に日本を抜いて世界第1位になっている。③アメリカのサブプライム・ローン問題以降の世界同時株安の影響で、2008年9月にアメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズが破たんし（リーマンショック）、各国の金融機関に多額の損失を与えるなど世界的な金融危機が発生した。これを受けて、同年11月にアメリカのワシントンでG20による金融サミットが開催された。④1995年に、自由貿易市場を実現するために、域内の関税を撤廃し、域外共通関税の設定を目指したMERCOSUR（メルコスール、南米南部共同市場）が、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの4か国との間で発足し、後にペネズエラもこれに加盟した。

問2 [33] ③

1987年に発効した单一欧州議定書に規定された目標に従って、EC（欧州共同体）は、1993年1月にモノ・サービスをはじめ、労働力や資本の域内移動の自由化を実現した。なお、EUの発足は1993年11月である。

①ユーロ導入は、EU加盟のための必要条件とはなっていない。EUの加盟27か国の中でも、イギリス、スウェーデン、デンマークをはじめ10か国は、2012年9月現在、ユーロを導入していない。②ECB（欧州中央銀行）は、ユーロ圏諸国の金融政策を担う中央銀行として1998年に設立され、ユーロを発行する発券銀行の役割を担っている。本部はドイツのフランクフルトに置かれている。④ギリシャ、アイルランド、ポルトガルが財政危機に陥っており、EUやIMF（国際通貨基金）からの金融支援を受けている。スペインも、公的資金による大手銀行救済を機にEUに対し支援を求めており、11月にも支援が実施される予定である（2012年9月現在）。また、2011

年11月には、財政赤字の拡大に苦しむイタリアの国債金利が7%台にまで上昇し、自力で資金を調達することが困難な状況に陥っている。ちなみに、ユーロ圏内において極めて財政状況が悪化しているポルトガル、アイルランド、イタリア、ギリシャ、スペインの5か国を、その頭文字をとってPIIGSと呼ぶ。

問3 [34] ③

経常収支を構成する項目は、貿易収支・サービス収支、所得収支、経常移転収支である。

A：モノの輸出入にかかる貨幣の受け取り・支払いに関しては、貿易収支に計上される。問題文の中で、輸入や輸出について触れられているので、それがヒントになる。2011年に日本は、1993年に現行の国際収支統計が採用されて以来、初めて貿易収支が赤字となった。ただし、旧統計の下では幾度か赤字になったことはある。

B：福島第一原子力発電所の事故やその後の原子力発電所の運転停止によって輸入が増えるとあるので、原子力発電に用いられるウランではないことは容易に判断できるだろう。一部の原子力発電所の稼働が再開されているが、それでも事故以前の電力供給は見込めないと判断から、火力発電による電力供給のために、現在、液化天然ガスの輸入を増やしている。

C：空欄の前に、「外国証券や海外子会社などからの利子・配当のやり取りを含む」とあるので、所得収支があてはまる。2011年に貿易収支が赤字となったにもかかわらず、経常収支の黒字を維持できた要因は、所得収支が黒字であったからである。ちなみに、投資収支とは、居住者と非居住者との間で行われた金融資産・負債の取引を計上する項目のことである。

以上のことから、最も適当な組合せは③となる。

問4 [35] ②

イギリスの経済学者ケインズ(1883～1946)は、著『雇用・利子及び貨幣の一般理論』の中で、不況時には、政府が公共事業などの財政支出を増やすなど、積極的な経済政策を行うことで有効需要を創出し、完全雇用の実現を図るべきだと説いた。

①アダム・スミスは、自由放任主義(レッセ・フェール)を唱え、市場には自動調整力が備わっているのだから、政府は極力介入すべきではないと説いた。したがって、「政府が…価格の管理や調整を行う」ことの「重要性を指摘した」という記述は誤り。③ドイツの歴史学派のリスト(1789～1846)は、経済発展が遅れている国では競争力の弱い幼稚産業を保護・育成するために、関税の賦課や輸入数量制限などを行う必要があると説いた。④イギリスの経済学者マルサス(1766～1834)は、人口が幾何級数的に増加するのに対して、食料は算術級数的にしか増加しないため、食料不足に陥ると説いた。ちなみに、消費者の消費行動が企業の宣伝・広告などに大きく依存している(依存効果)と論じたのは、アメリカの経済学者ガルブレイス(1908～2006)である。

問5 [36] ①

GATT(関税と貿易に関する一般協定)・WTO(世界貿易機関)は、ある国に与えた有利な貿易条件を、他のすべての加盟国にも適用させるという最惠国待遇の原則を採用してきた。ただし、GATT・WTOは、開発途上国の輸入に対する一般特惠関税制度や一定の条件の下での関税同盟、自由貿易協定の締結など、いくつかこれについての例外を認めてきた。

②GATT(関税と貿易に関する一般協定)のウルグアイ・ラウンド(1986～94)での合意により、WTOの設置が決まった。③WTOは、GATTに比べ、パネル(小委員会)と上級委員会の二審制を採用しているほか、パネルの設置を容易にするなど、貿易紛争処理機能が強化されている。④WTOに、2001年に中国、2007年にベトナム、2012年にロシアが正式加盟した。

# 倫 理

## 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	①	2	
	問2	2	②	3	
	問3	3	②	3	
第1問 自己採点小計			(8)		
第2問	問1	4	②	2	
	問2	5	③	2	
	問3	6	④	3	
	問4	7	①	3	
	問5	8	④	3	
	問6	9	①	3	
	問7	10	②	3	
	問8	11	③	2	
	問9	12	④	3	
第2問 自己採点小計			(24)		
第3問	問1	13	④	3	
	問2	14	⑧	3	
	問3	15	④	2	
	問4	16	②	3	
	問5	17	③	3	
	問6	18	④	2	
	問7	19	②	3	
	問8	20	⑦	2	
	問9	21	①	3	
第3問 自己採点小計			(24)		
第4問	問1	22	①	3	
	問2	23	⑤	3	
	問3	24	④	3	
	問4	25	③	2	
	問5	26	④	2	
	問6	27	③	2	
	問7	28	②	3	
	問8	29	③	3	
	問9	30	③	3	
第4問 自己採点小計			(24)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	31	④	3	
	問2	32	③	3	
	問3	33	⑤	2	
	問4	34	②	2	
	問5	35	④	3	
	問6	36	①	3	
	問7	37	①	2	
	問8	38	④	2	
第5問 自己採点小計			(20)		
自己採点合計			(100)		

## 【解説】

### 第1問 青年期の特質

#### 【出題のねらい】

本問は、青年期の心理的特質をテーマとする本文のもとに、アイデンティティの確立、性差をめぐる問題、青年期の悩みについての図の読み取り問題を出題した。

#### 【設問別解説】

##### 問1 1 ①

精神分析学者のエリクソン(1902~94)は、人間の一生を「変化していく主体の発達」と捉え、その変化を八つの段階に分けたライフサイクル論を提唱した。それぞれの段階は、達成されるべき発達課題と結び付けて特徴づけられており、青年期の課題は「アイデンティティ(自我同一性)の確立」であるとされている。アイデンティティの確立とは、親や教師から相対的に独立した自分を見いだすことであり、それは同時に、家庭や学校の外、つまり社会の中で自分が担うべき役割についての自覚を伴う。そこで、自分を見いだそうとする試行錯誤は、将来の職業のための訓練と結び付くことが期待される。したがって、社会の側は、青年の試行錯誤を、社会の将来的な担い手の育成に不可欠の過程として認める必要がある。それゆえ、青年には大人に求められる社会的な責任や義務が免除されるのであり、エリクソンは、もともと金融機関の預金の払い戻し猶予など、金銭債務の支払いを一時的に猶予することを意味する「モラトリアム」という用語を転用し、これを心理・社会的モラトリアムと名づけた。

②「他人指向型」とは、社会学者のリースマン(1909~2002)が、現代社会に特徴的な大衆の心理的

類型としたもの。③「人間は、自我の発達段階に応じて固有の課題をもっている」という部分は、ライフサイクル論に関する正しい記述であるが、「自分の人生の歩みを肯定し、多面的な自我を統合していくこと」は、最後の段階である老年期の課題。④青年を「境界人」(周辺人、マージナル・マン)と特徴づけたのは心理学者のレヴィン(1890~1947)である。

#### 問2 [2] ②

「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」というのは、フランスの作家ボーヴォワール(1908~86)の言葉。この言葉は、「女性」とは現にどのような存在であり、どのような存在であるべきかという観念は、歴史的に形成され、社会の中で共有されることになった人為的なものであって、生まれながらの生物学的な特徴に基づくものではない、ということを意味している。彼女は、このように歴史的・社会的に形成された性差(ジェンダー)を批判したのであって、「積極的に受け入れる」ことを主張したわけではないから、この選択肢の記述は誤り。

①イギリスの思想家で代表的な功利主義者であったJ.S.ミル(1806~73)は、質的功利主義の立場から人類全体の福利の向上を目指し、下院議員として女性参政権の実現を訴えた。引用文の「人類の半分の人々」とは男性、「もう半分の人々」は女性を指している。③「元始、女性は実に太陽であつた」とは、大正・昭和期に女性解放運動家として活躍した平塚らいてう(1886~1971)の言葉。雑誌『青鞆』の創刊の辞の冒頭に掲げられた。④与謝野晶子(1878~1942)は明治の歌人。選択肢の言葉は、平塚らいてうとの間に起きた「母性保護論争」において、与謝野晶子が自らの立場を述べたもの。平塚らいてうが、女性が母親になることは、女性が社会的に承認されるために重要なことであるとしたのに対して、与謝野晶子は、女性を母性と同一視する観点を批判し、まずは社会的に自立した存在となることが重要だとした。

#### 問3 [3] ②

アがアメリカ、イが日本、ウがイギリス、エが韓国、オがフランス。Aさんの発言から、アメリカ、イギリス、日本はそれぞれ、ア、イ、ウのいずれか、韓国とフランスはエ、オのいずれかであることが分かる。Bさんは「フランスやイギリスでは、『悩みや心配ごとはない』と回答した人の割合が、その他の国と比べて大きい」と言っていることから、「悩みや心配ごとはない」の上位二つの国であ

るウとオがそれぞれイギリスかフランスのいずれかであることが分かる。そしてウは「お金のこと」が「他のどの悩みよりも大きな割合を示して」いる(Aさん)ことから、ウはイギリス、残ったオがフランスであるということが分かる。また、エとオが韓国かフランスのいずれかであったことから、エが韓国であることも分かる。残りはアとイで、それぞれアメリカか日本のかどかとなる。Cさんは、「日本の青年の悩みを上位から順に並べたとき、『勉強』も『進学』も上から3番目まで入っていません」と発言している。アの悩みの1位から3位は「お金のこと」「勉強のこと」「就職のこと」、イの方は「お金のこと」「就職のこと」「仕事のこと」となっていることから、アがアメリカ、イが日本であることが分かる。

## 第2問 源流思想総合

### 【出題のねらい】

私たちにとって、哲学や宗教がどのような意味をもつのかを考える本文をもとにしながら、古代の西洋・中東・インド・中国の哲学や宗教に関わる内容を総合的に扱った問題である。本文の趣旨読取り問題のほか、2012年度の本試験で見られた二つの資料文を比較しながら内容を読み取る設問も出題した。

### 【設問別解説】

#### 問1 [4] ②

古代ローマ帝国に支配されたユダヤ人の中から、この世の終わりが間近に迫っており(終末思想)，その時に救世主(メシア)が現れてユダヤ人を異民族の支配から解放し、神の国が実現されるという信仰が生まれた。イエス(前4?~30?)は「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と述べ、神の子としての自覚をもち、人々は彼がメシアであると信じた。「キリスト」は、メシアの原義である「油を注がれた者」という意味を、ギリシア語で表した言葉に由来する。ただし、イエスの説いた神の国は、神の裁きによって実現されるユダヤ教の神の国ではなく、悔い改めることによって人々の心の中に生まれると説かれた。

①ユダヤ教の神は「裁きの神」であるのに対し、キリスト教の神は「裁きの神」であると同時に「愛の神」とされている。したがって、無償・無差別の愛を注ぐのはキリスト教の神である。また、ユダヤ教では、神との契約によって救いを約束されたのは、ユダヤ民族のみだとされる(選民思想)。③唯一神であるアッラーを全知全能の偉大な存在であるとする選択肢の前半は正しい。しかし、そのようなア

ッラーの偉大さは他の何ものにも比較できないので、画像や彫像のような偶像に表わすことはできないとされ、偶像崇拜は禁止される。したがって、後半は誤り。④この選択肢は、仏教が批判したバラモン教の考え方である。バラモン教から出たウパニシャッド哲学によれば、自己の本質であるアートマン(我)と宇宙の根源であるプラフマン(梵)は、もともと一つのものであり(梵我一如)，その真理を自覚すれば、輪廻を絶って一切の苦しみから解放され解脱できるとされる。

問2 [5] ⑧

アリストテレス(前384～前322)は、師のプラトン(前427～前347)が個々の事物から独立した普遍的なイデアを真の実在だと考えたことを批判し、事物の本質である形相(エイドス)は個々の事物に内在し、素材にあたる質料(ヒュレー)とともに事物を現実化させると考えた。

①プラトンは、魂を理性・気概・欲望の三つの部分に分け、それぞれの徳を知恵・勇気・節制だと考えたうえで、理性が気概と欲望を統御して魂全体の調和が生まれるとき、正義が実現されると主張した。国家も、これに対応して統治者(理性)・防衛者(気概)・生産者(欲望)という三つの階級から構成されると考え、イデアを認識する知恵の徳を身につけた哲学者が国家を統治するとき(哲人政治)、理想国家が実現すると説いた。②前半は正しいが、エピクロス(前341?～前270?)は、眞の快樂を一時的・肉体的なものではなく永続的・精神的なものと考え、これを実現する魂の平静(アタラクシア)を賢者の理想としたので、後半は誤り。④ゼノン(前335?～前263?)は、自然全体が理性(ロゴス)の支配する世界であり、自然に反した欲望・快樂などを克服して(禁欲主義)、自然と一致した魂の状態、すなわち不動心(アパティア)を実現すべきだと考えた。このような考えは、ポリスの枠に縛られない世界市民(コスモポリース)としての生き方を示したものであり、のちの自然法思想の源流の一つとなった。

問3 [6] ④

ギリシア神話は、ホメロス(紀元前8世紀ごろ)の『イリアス』『オデュッセイア』などによって伝えられ、ゼウスを最高神とするオリュンポスの神々が活躍する物語である。その中では、自然現象をはじめとする様々な物事が、神々の働きによって説明された。これに対して、イオニア地方(現在のトルコ)に現れた自然哲学者は神話的世界觀を排し、自然の秩序は人間のロゴス(理性)によって捉えることができると考えた。彼らが探究した万物の根源(アルケー)

などに関する説は、今日の自然科学から見れば素朴なものだが、自らの理性によって世界を捉えようとする姿勢は哲学の出発点として評価される。

なお、誤った選択肢に関して、aについては上述のようにギリシア神話は多数の人格神に対する信仰を内容としているから、自然物崇拜や唯一神への信仰といった趣旨の語句は該当しない。また、bについてはミュトス(神話)やノモス(法・慣習)は該当しない。

問4 [7] ①

老子(生没年不詳)は「大道廢れて仁義あり」と述べ、本来の道が失われたから、儒学の説くような人為的な人倫である仁や義が現れるのだと批判した。老子の考える本来の道とは、万物の存在を成り立たせているが、それ自体を対象として捉えることのできない無(無名)というべきものであり、理想の人間の生き方は、このようなものとしての道に従う無為自然にあるとされた。

②荀子(前298?～前235?)は性悪説をとり、社会の秩序を保つためには教育によって人々に礼を身につけさせる必要があると主張した(礼治主義)。③孔子の教えは、四書五經(『論語』『孟子』『大学』『中庸』と『詩經』『書經』『易經』『春秋』『礼記』)などによって体系化された学問としての展開のほかに、祖先祭祀や葬送儀礼に関する一種の民間信仰のかたちをとて民衆に受け入れられていった。④墨子(前470頃～前390頃)は兼愛交利を説き、無差別・平等の博愛によって互いの利益を図るべきだと主張した。

問5 [8] ④

イエスに関する資料(「ヨハネによる福音書」19章の一部、新共同訳『聖書』日本聖書協会から引用)は、イエスに反発したユダヤ教の指導者が、彼をローマに対する反逆者として告発し、これを受けたローマの属州総督がイエスを尋問し拘束しようとしている場面である。このあと、イエスは十字架上で処刑される。

ソクラテスに関する資料(田中美知太郎訳『ソクラテスの弁明』から抜粋—『プラトン全集』1、岩波書店から引用)は、ソクラテスが、裁判でアテネの人々を前にして行った弁明の一部である。ソクラテスは、青年を惑わし國家の認める神を認めなかつたという罪で死刑判決を受け、このあと自ら毒杯を仰いで死んだ。

どちらも、死を前にした一場面というだけでなく、それぞれの信仰や哲学を象徴する重要な内容を表している。

イエスは「わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い」と述べ、ソクラテスは「この諸君は、眞実によって裁かれ、劣悪と不正の刑を負わされて、ここから出でていくのだ」と述べて、どちらも自分を告発したり裁いたりした人々が不正であり罪があると考えている。しかし、ピラトの尋問に対し「答えようとされなかった」イエスも、「わたしも、この裁定に服すが」と述べたソクラテスも、どちらも不当な死刑に対して抵抗しようとしている。なぜなら、イエスは死の直前に、「父よ、わたしの靈を御手に委ねます」と述べて、すべてを神の心のままに委ねようとして、ソクラテスは逃亡という不正を犯すよりも、国法に従って死ぬことが正義であるという信念に従おうとしたからである。

①上に述べたように、イエスは律法を字義通り守ることに重点をおくユダヤ教の指導者を批判していたし、ソクラテスは引用の冒頭で、死をまぬかれるよりも不正をまぬかれるほうが難しいと述べて、不正を避けるために死を選ぶ意思を表明している。②前半は正しいが、イエスは「わたしに対して何の権限もないはずだ」と述べ、属州総督やユダヤ教指導者の権限を否定しているので、後半は誤り。③冒頭にあるように、ユダヤ教の指導者はイエスが律法に背いたとして告発したので、前半は正しい。ちなみに、彼らの告発はもう一つ、イエスが「ユダヤ人の王」と自称してローマの支配を否定したという点であった。しかし後半は、ソクラテスに関する資料文からは読み取ることができず(ソクラテスが「神の子」と自称した事実もない)、むしろイエスの資料文の中に「神の子」という言葉が見えるので誤り。なお、ソクラテスの罪状とされたのは、アテネのボリスが公認したギリシアの神々以外に、「デーモンの声」と称して他の神を信仰したという告発である。

#### 問6 [9] ①

ブッダ(前463?～前383?)の教えをまとめた四法印によれば、人生は苦に満ちている(一切皆苦)<sup>しほう</sup>が、あらゆる現象は変化していく常なるものはなく(諸行無常)<sup>いっこうむじょう</sup>、不变の実体としての我も存在しない(諸法無我)<sup>しょほうむが</sup>といふ真理を自覚すれば、私たちは永遠の安らぎの境地(涅槃寂靜)<sup>ねはんじやくじょう</sup>に至ることができる。この選択肢は一切皆苦についての記述にあたる。仏教では、生・老・病・死の四苦に、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦を合わせて四苦八苦と言ふ。

②ブッダの説く四諦<sup>しあい</sup>は、生きることは苦である(苦諦)<sup>くとう</sup>、苦の原因は煩惱にある(集諦)<sup>じゅうとう</sup>、煩惱を滅す

ことによって苦をなくすことができる(滅諦)<sup>めつとう</sup>、そのための修行法は八正道である(道諦)<sup>どうとう</sup>という四つの真理からなる。したがって、煩惱を肯定しているこの選択肢は誤り。無為自然は[7]①の解説でも触れた道家の老子の考えである。④六信五行はイスラーム教の宗教的な義務であり、アッラー・天使・聖典・預言者・来世・天命を信じることと、信仰告白・巡礼・礼拝・断食・喜捨を行うことである。④縁起の法は仏教の根本的な教えの一つであり、バーモン教の教えではない。

#### 問7 [10] ②

ソフィストは確かに弁論術を教えたが、それは政治的集会で人々を一方的に説得するための技術だった。問答を通じて真理を探究する方法(問答法)は、ソクラテスのとったものである。また、ソクラテスは自分が知者でないことを自覚している点で他者よりも優っていると考えていたので(無知の知)，後半も誤りである。

①上述のように、ソフィストにとっては他人を説得する雄弁が重要であった。しかしソクラテスにとっての徳(アレーテー)は知であり(知徳合一)，よく生きることは自分の魂を優れたものにすることであって(魂への配慮)，徳があることが幸福なことであった(福德一致)。③ソフィストのプロタゴラス(前494?～前424?)は「人間は万物の尺度である」と述べて、相対主義の立場をとった。これに対してソクラテスは、魂を優れたものにするためには、何が善であるかを知ることが大切だと説いた。④ソフィストは、ギリシアの民主制の中で必要とされた弁論術や政治・法律などの知識を青年たちに教え、彼らを金銭と地位の得られる政治的指導者にする職業的教師であった。これに対してソクラテスは、金銭ができるだけ多く自分のものにしたいというようなことにはばかり気を遣う人や、評判や地位のことは気にしても思慮や眞実のことは気にかけない人を批判した。

#### 問8 [11] ③

王陽明(1472～1528)は、朱子の性即理に反対して、人間の生まれながらの心がそのまま理であると考え(心即理)，生まれながらにそなわっている良知をきわめて生きること(致良知)を目指した。このため、実行することのできない知は眞の知ではないと主張し、知行合一を説いた。しかし、このような主観的な性格をもつ学問は、國家の公認の学問としてはふさわしくなかった。中国の歴代王朝ばかりでなく、朝鮮王朝(1392～1910)や江戸幕府(1603～1867)も公認の官学としたのは、朱子学である。

①孟子(前372?～前289?)は、力によって民を統治する霸道を否定し、為政者自身が徳を高めて民を安んじる王道を政治の理想とした。不徳の者が出て王朝は、天に見放されて天の命が革まり、他の血統の王朝に交替する(姓が易わる)とする考え(易姓革命)を説いた。

②イスラーム教では、『クルアーン』などをもとにして、経済活動や家族制度など日常生活の規範を示した法体系がシャリーアと呼ばれ、信者の全生活を律する。④カースト制は、バラモン(司祭者)・クシャトリア(武士・貴族)・ヴァイシャ(庶民)・シュードラ(隸属民)という四つの階級を基本とする厳格な身分制度で、今日のインドにおけるヒンドゥー教にも受け継がれている。ただし、「カースト」はポルトガル語を語源とするヨーロッパ人の呼び方である。

#### 問9 [12] ④

本文最終段落の冒頭に「哲学と宗教は異なる方法をとることもあるが、ともに、自然科学など他の領域では解明できない、人間をめぐる諸問題について考察するという重要な役割を果たしていることが分かる」と述べられている。したがって、④が正解。

①上述の引用にあるように、哲学と宗教には自然科学とは異なる面があるので誤り。②前半は、確かに本文第4段落で一般論として紹介されているが、これに対する問題文の評価は、本文最終段落にあるように「哲学と宗教は、どちらも人間にとて優劣なく有用なものである」という両者に対する肯定であるから誤り。③哲学に関しては、本文第2段落で「『理性によって』」ということが哲学の特徴の一つだと言えそうである」と述べられているので誤り。

### 第3問 日本思想の特質

#### 【出題のねらい】

本問は、川端康成がノーベル文学賞受賞に際して道元の歌を取り上げたことに言及した本文をもとに、日本思想の特質について、古代思想から近代思想まで幅広く問うた。『正法眼藏』の「現成公案」の巻から引用した問5の読解問題はやや難しく感じたかもしれないが、仏教や道元の思想をしっかり理解していれば正解できるので、表面的な難しさに惑わされないようにしよう。また、問7の日本の文化や美意識に関する問題は、受験生がおろそかにしがちなテーマである。しかし、本文でも述べたように、日本思想においてはしばしば芸術を通じて思想が語られる。日本思想にとって芸術は重要な分野であるから、これを機会にこの分野もぬかりなく復習しておこう。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [13] ④

徳富蘇峰(1863～1957)は、民友社を設立して、日本初の総合雑誌である『国民之友』を発刊し、民衆の立場で西洋文化を受容し、下からの日本の近代化を推進しなければならないと主張した(平民政義)。しかし、後には国家に最高の価値をおく国家主義を唱えた。

①鬼周造(1888～1941)についての説明である。彼はヨーロッパに長期滞在してハイデッガーに師事し現象学を学ぶ一方で、『いき』の構造』を著し、日本の江戸時代の遊廓における美意識である「いき(粹)」を手がかりに、日本文化を支える日本人の意識を解明しようとした。安部磯雄(1865～1949)は、日本社会主義運動の先駆者であり、キリスト教的な人道主義の立場から社会主義を活発に宣伝した人物である。彼はヨーロッパではなく、アメリカに留学している。②植村正久(1858～1925)についての説明である。彼は東京神学社(現・東京神学大学)を設立するなど伝道者の育成や神学研究、伝道への活動を通して日本の教会形成に尽力した。新島襄(1843～1890)は、同志社英学校(現・同志社大学)を設立し、キリスト教に基づく教育を実践したことで知られている。なお、徳富蘇峰や安部磯雄は、新島の門下生である。③中村正直(1832～1891)についての説明である。彼は昌平坂学問所の教授であったが、洋学を志してイギリスに留学。帰国後は、明治時代初期に設立された日本最初の近代的啓蒙学術団体である明六社に参加するとともに、個人主義道徳を強調し、スマイルズ(1812～1904)の『西國立志編』やJ.S.ミルの『自由之理』を翻訳出版した。また、キリスト教解禁にも影響を与えた。同じく明六社の同人であった加藤弘之(1836～1916)は、当初は天賦人権論者であったが、後に『人権新説』を出版し、ドイツ流の国家主義と進化論の立場から天賦人権論や民権論、キリスト教を批判したことで知られる。

##### 問2 [14] ⑧

ア・イ・ウは、いずれも間違った記述を含んでいる。したがって、⑧が正解となる。ぜひとも「三つのうちの一つぐらいは正文があるのではないか」といった思い込みを捨てて解答してほしい。

ア：『代表的日本人(Japan and The Japanese)』は、『余は如何にして基督信徒となりし乎(How I Became a Christian)』とともに、日露戦争に際して非戦論を唱えたことや、日本(Japan)とイエス(Jesus)という「二つのJ」を信奉し、無教会主義の立場を主張したことで知られる内村鑑三(1861～

1930)の代表的な著作である。その中で彼は、倒幕・維新に尽力した西郷隆盛(1828~77), 江戸時代中期の大名である上杉鷹山(1751~1822), 二宮尊徳(1787~1856), 中江藤樹(1608~48), 日蓮(1222~82)を取り上げ、日本の思想にも、キリスト教と同じく、損得勘定を考慮しない自己犠牲や勤勉・禁欲の精神があると論じている。こうした本書の内容を知らなくても、二宮尊徳の報徳思想、中江藤樹の「孝」の思想、日蓮の法華經第一の立場を考慮すれば、「日本の思想は…損得勘定を受け入れない自己犠牲や勤勉・禁欲の精神を欠いている」とは言えないことや、内村が「武士道に接木されたるキリスト教」と述べたことから、記述内容は間違っていると判断できるだろう。イ：国際連盟の事務次長としても活躍した新渡戸稻造(1862~1933)は、『武士道(Bushido)』において、武士道がキリスト教を受け入れる素地となると説いている。また、彼はキリスト者であったことからも、「日本人がキリスト教を受け入れる必要はない」と論じたとする記述内容は間違っていると判断できるだろう。ウ：「アジアは一つ(Asia is one.)」という言葉で始まる『東洋の理想(The Ideals of the East)』は、『茶の本(The Book of Tea)』とともに、日本美術の復興と美術家の養成に力を尽くした岡倉天心(1863~1913)の代表的な著作である。その中で彼は、インド・中国などアジアで発生した思想・宗教などが日本に一緒に流れ込み、それらが日本的なものに変化していくと論じており、「仏教や儒学の伝統を排して、日本固有の芸術や精神文化を確立すべきである」とは訴えてはいないので、記述内容は間違っている。そもそも「国粹主義者」と称される明治期の思想家は、単純にエスノセントリズム(自民族中心主義)を唱える思想家ではなく、コスマポリタニストあるいは多文化主義者であることも少なくないので注意してほしい。岡倉天心はその代表的な人物である。

問3 [15] ④

日本神話に登場する天照大神は、『古事記』や『日本書紀』すなわち紀記によれば太陽を神格化した神である。高天原(天津神と呼ばれる神々の住む世界)を主宰し、皇室の祖神(皇祖神)の一柱とされる。ただし、日本の神々(八百万の神)は祀り祀られる神であり、天照大神もユダヤ・キリスト教やイスラーム教に見られるような「すべてを創造した全知全能」の唯一絶対神とは考えられていない。

なお、①②③の記述はいずれも正しい。

問4 [16] ②

「世間虚偽、唯仏是真(世間は虚偽なり、唯仏のみ

是れ真なり)」という言葉は、聖徳太子(574~622)の遺言とも言われ、太子の死後、妃の橘 大郎女が、天寿国における聖徳太子の往生のさまを縫い取りさせた現存する最古の日本刺繡である天寿国曼荼羅に見られる。この言葉から、聖徳太子が仏教の現世利益的側面のみならず、魂の救済を目指した宗教的側面に目を向けていたことが分かると言われている。

①聖徳太子は、官吏の道徳的心得を記した十七条憲法において、「篤く三宝を敬へ」と説いているが、その三宝とは仏・法・僧である。経蔵(ブッダの教え)・律蔵(仏教教団の戒律)・論蔵(仏法の教義についての聖賢の議論や所説を集録した聖典類)のいわゆる三蔵ではない。③誰もが凡夫(欲望や執着に囚われている存在)であるとする「我必ず聖に非ず、彼必ず愚に非ず、共に是凡夫ならんのみ」とは、十七条憲法に見られる教えであるが、身分貧富に関わりなく、庶民教育や各種学芸の総合的教育を目的にした私立学校である綜芸種智院を設立したのは、聖徳太子ではなく空海(774~835)である。④聖徳太子によって著されたとされる『三經義疏』は、法華經・勝鬘經・維摩經の三經の注釈書の総称であり、無量壽經・觀無量壽經・阿彌陀經のいわゆる淨土三部經の注釈書の総称ではない。また、「煩惱にまみれ自力で悟れない人こそ阿彌陀仏に救われる」という記述は、親鸞(1173~1262)の悪人正機説を想定した記述であり、聖徳太子の教えとして適当でない。

問5 [17] ③

道元(1200~53)の主著である『正法眼藏』「現成公案」の卷からの出題である。『正法眼藏』は必ずしも読みやすいものではないが、出題部分に関しては、落ち着いて資料文を読み、各選択肢の論理を丁寧に追っていけば解答できるだろう。ちなみに、引用部分に先行して、「仏道をならふというは、自己をならふ也。自己をならふというは、自己をわするるなり。自己をわするるというは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるとは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり」とあり、仏道をならうために身心脱落する(身も心も一切の束縛から離脱する)べきことを勧めている。出題箇所はこれを補完して、具体的なたとえを用い、身心脱落せず「身心を乱想して万法を弁背する」過ちを諫める内容になっている。

①資料文の前半部分で、舟に乗っていながら、自分が舟に乗っていることを忘れて目をめぐらして岸を眺めると、岸が自ら動いているように見間違え、舟そのものに視点を移せば、自分の乗っている舟が

進んでいることが分かるという意味のことが述べられている。したがって、「目をめぐらして岸を眺めた場合、「きしのうつる」と見間違えるのであって「自分が動いていると見間違える」のではないから①は正解とならない。また、諸法無我・諸行無常を説く仏教の基本的な考え方からすれば、「万物は恒常的な存在である」という主張も不適切である。②「自分は動かないで岸が動いていると正しく見える」という記述も、「自らは恒常的な存在である」という主張も不適切であるため正解とならない。④「舟そのものに視点を移せば」、舟ともども自分も動いており「動いているのは岸でも自分でもなく舟だけ」とは言えない。また、「自己と万物と仏法は一体ではないと考えるのが正しい」という部分も、万物も自己も不二一体の大連関の中にあるとする道元の考え方方にそぐわない。したがって、「舟そのものに視点を移せば」、自己は「舟とともに」移動しており、身心を乱して、「自らを恒常的な存在である」と思うことは間違いであって、そう考えてはならないとする③が正解となる。道元は、こうしたたとえを用いて、万物も自己も不二一体の大連関の中にあり、その真実の姿を見誤らないようにすべきことを説いている。

問6 [18] ④

荷田春満(1669～1736)、賀茂真淵(1697～1769)、本居宣長(1730～1801)とともに国学四大人とされる平田篤胤(1776～1843)は、儒学や仏教などの影響を受ける以前の日本人固有の精神に立ち返ろうとする復古神道を唱えたことで知られる。彼は、その主著である『靈能真柱』において、死後の靈魂は大國主神の主宰する幽冥界へ赴き、そこで審判を受け、現世に残された親類縁者を守りつづけると論じている。

①『都鄙問答』は心学を説いた石田梅岩(1685～1744)、②『弁道』は古文辞学を提唱した荻生徂徠(1666～1728)、③『古事記伝』は本居宣長の著作であるから正解とならない。

問7 [19] ②

平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した歌僧である西行(1118～90)は、六家集の一つに数えられる『山家集』を残した。なお、この西行に憧れていたのが、江戸時代前期の俳諧師で、紀行文『奥の細道』などによって知られる松尾芭蕉(1644～94)である。

①室町時代に能楽を大成した世阿弥(1363?～1443?)の秘伝書は『風姿花伝』である。『葉隱』は、江戸時代の武士である山本常朝(1659～1719)の

口述による武士の心得を論じた書物である。また、世阿弥が追求した美意識は「わび」ではなく、『新古今和歌集』の歌風に基づくとされる「幽玄」である。「わび」とは、物質的な不足を心の充足によって補い、満たす精神のことであり、茶道などにおいて重んじられる美意識である。③龍安寺の石庭など、池や滝などの水を用いず、石や砂などによって山水の風景を表現する枯山水は、室町時代以前から作庭の技法として用いられていたが、特に室町時代の禅宗寺院で「悟り」を表現する手段として多く作庭されるようになった。人為的に作庭する以上、「自然物を人間が配置しなおすことなく自然を表現する」という表現は不適当である。④一般に「わび」の美を追求する茶道においては、仏像などを用いて「茶室を荘嚴する」とは考えられない。また、村田珠光(1422～1502)は「わび茶」の創始者と目されている室町時代中期の茶人でかつ僧侶であり、そのわび茶を大成したのが千利休(1522～91)である。なお、行脚僧で、今日の人を魅了している慈愛に満ちた微笑をたたえた木彫りの仏像(「円空仏」)を、生涯に12万体も彫ったと伝えられているのは、江戸時代前期の円空(1632～95)である。

問8 [20] ⑦

a 「福岡藩に仕えた医師で『養生訓』の著者」であり、「朱子学の窮理の精神に基づいて…実証的な博物学の書である『大和本草』を著した」ことで知られているのは貝原益軒(1630～1714)である。杉田玄白(1733～1817)は、前野良沢(1723～1803)らとともに『ターヘル・アナトミア』を和訳し『解体新書』として刊行した若狭国小浜藩の藩医である。

b 新井白石(1657～1725)の著作で、「鎖国下の貴重な西洋理解の書」となったのは、キリスト教布教のために来日したイタリア人宣教師シドッチを審問した内容をまとめた『西洋紀聞』である。その中で白石は、諸外国の歴史・地理・風俗やキリスト教の大意と、それに対する批判などを記している。『蘭学事始』は、杉田玄白が晩年、蘭学草創の当時を回想して記し、大槻玄沢(1757～1827)に送った手記である。c 木下順庵(1621～98)の門下生で、將軍吉宗の「享保の改革」を補佐し、元禄赤穂事件(江戸時代中期に発生した赤穂浪士による吉良義央およびその家の殺害事件)を義挙だとしたのは室鳩巣(1658～1734)である。これを知らなくても、熊沢蕃山(1619～91)は、江戸時代初期、中江藤樹(1608～48)の門下に入り陽明学を学んだ人物であるから、空欄には室鳩巣しか入らない。したがって、⑦が正解。

問9 [21] ①

本文と矛盾のない①が正解となる。川端康成(1899～1972)の作品や講演は、意識的にも無意識的にも、「人は自然を生かし自然によって生かされ生きる」ということがモチーフにあり、それは自然から逸脱した文明に生きる西洋人には理解できないものであった。それゆえ、川端のノーベル賞受賞に際しての「講演を聴いた西洋人の中には、日本文化と西洋文明との間に横たわる『黒々としたみぞ』を感じとる者も多かった」と言われるのである。

本文第2段落の最後の川端のノーベル賞受賞に際しての「講演を聴いた西洋人の中には、日本文化と西洋文明との間に横たわる『黒々としたみぞ』を感じとる者も多かったと言われている」という部分に注目しよう。そうすると、「川端の作品や講演を深く理解することができた」とする②や④は正解にならないことが直ぐに分かるだろう。ちなみに、②は、本文第4段落を考慮すると「常に倫理的に生きようとする日本人」という記述が不適切であり、本文には、美や倫理に「必ず普遍的なものが含まれる」と論じた部分はない。④そもそも本文は、西洋文明が自然からの逸脱を警告しているという趣旨では書かれていません。③は本文第3段落を見ると、川端の講演は「自然と感應するにしえから変わらない日本人の生き様」を「道元に託して」語っているが、川端が作品や講演で、「仏教者の目を通じて見いだされる日本の自然の美しさや日本人の立ち居振る舞いの美しさ」を「常に」取り上げたわけではない。日本の自然の美しさは仏教伝来以前から存在するもので、ことさら「仏教者の目を通じて見いだされる」と限定する必要もない。また、本文第4段落を見ると、西洋人が川端の作品や講演を理解できなかつたのは、「仏教という共通基盤」を欠いていたと言うよりも、「肝心なところで『宗教』や倫理の規制を逸脱し、『美しく』<sup>華</sup>のある生き方を求める」ような、言語化できない生き方に対する理解の共通基盤を欠いていたためであるから、③も正解とならない。

#### 第4問 西洋の近現代思想

##### 【出題のねらい】

本問では、「公共における倫理」をテーマに西洋の近現代思想を総合的に扱った。設問では、カント、ロールズ、ベンサム、マルクス、サルトルなどの思想を取り上げるとともに、資料文や本文の趣旨を読み取る読解問題も出題した。これを機会に、西洋の近現代思想についての理解をさらに深めておこう。

【設問別解説】

問1 [22] ①

カント(1724～1804)は、人間の認識能力の吟味を通して、経験論と合理論との批判的総合を試みたことで知られる。彼は、経験論が理性の働きを過小に評価していることや、合理論が理性の能力を過大に評価する状況を克服するために、両者を批判・総合して理性の能力を吟味するという批判主義(批判哲学)の立場を主張した。カントによれば、人間の科学的な認識は、感性が受け取る素材と、理性のもつ理解の形式(カテゴリー)の協働によって成り立つ。つまり、人間の科学的な認識は、感覚的な経験なしに成立せず、また、経験によって得られた素材を能動的に秩序づける理性がそなわっていなければ、素材は混沌として無秩序であり、認識とはならないのである。

②カントは、各人が自らの理性によって打ち立てた道徳法則に自ら従う(実践理性の命令に従う)ところに人間の眞の自由があると説いている。彼によれば、各人の理性の命令である道徳法則は定言命法(無条件の命令)として人間に「為すべし」と呼びかけるものであり、その命令は、誰に対しても正しいこととして通用するものである。そして、この定言命法は、仮言命法(もし～ならば…せよ、という条件つきの命令)との間に一線を画するものである。したがって、「外部の力によって課せられる命令」を定言命法と呼んだというのは誤りである。また、外部の命令に従う他律的存在に人間の眞の自由があるとする点で誤りである。③「幸福を求めるのではなく、幸福に値するものとなれ」とカントは主張した。つまり、彼は、行為の結果がどのようなものであれ、道徳法則の命じるところに従うという義務の念から生じた行為だけが眞に道徳的価値をもつと考え、動機の善さ、すなわち行為の源泉としての意志の善さ(善意志)だけが善という性質をもつと主張した(動機主義)。このようにカントは、幸福になることを人生の目的とする幸福主義を斥け、幸福に値する生き方をすることに価値をおく人格主義の倫理を説いたのである。なお彼は、道徳法則に自律的に従って行為する自由な主体を人格と呼び、人格としての人間は、それ自身が絶対的な価値をもつ存在であると説いている。そして、人格としての人間は、目的として尊重されなくてはならないのであって、決して単なる手段としてのみ扱われてはならないとカントは言う。彼にとって、人間が追求しなければならないのは、幸福それ自体ではなく、幸福に値する人格の完成であった。④ドイツ観念論の完成者と言

われるヘーゲル(1770～1831)の思想を想定した記述である。ヘーゲルは、カントと同様に、自由の実現は理性の働きと深く関わるものであると考えていた。しかし、ヘーゲルは、カントの説く自由(自ら打ち立てた道徳法則に主体的に従う自律としての自由)を個人の内面にとどまる主観的自由であると批判し、自由は個人の内面の主観的なあり方にとどまらず、現実社会の客観的な法や制度に現れる人倫の問題としても捉えたのである。ヘーゲルによれば、人倫は、人間が生活するうえで行為の規範となる法と道徳とを総合したものである。そしてヘーゲルは、法の客觀性と道徳の主觀性をともに生かしながら総合した人倫としての共同体において、個人的自由と社会的自由がともに実現されると説いた。

問2 [23] ⑤

[a] には、社会契約説が入る。ホップズ(1588～1679)、ロック(1632～1704)、ルソー(1712～78)らに代表される社会契約説とは、政治社会の成立を、自由で平等な個人相互の自発的な契約(合意)に求め、それによって政治権力の正統性を説明しようとする理論の総称である。アメリカの政治学者ロールズ(1921～2002)は、近代の社会契約説の方法を用いながら「公正としての正義」を提唱した。「公正としての正義」は、自由で平等な契約当事者が公正な社会制度の基本ルールを相互に承認し合うという意味で、社会正義を中心においた構想である。なお、選択肢中にある社会進化論は、イギリスの社会学者スペンサー(1820～1903)などによって提唱された考え方で、ダーウィン(1809～82)の生物進化論(生存競争、自然選択の考え方)を人間社会に適用しようとするものである。

[b] には、無知のヴェールが入る。無知のヴェールは、自由で平等な契約当事者が、社会契約を締結する前に、自分がどのような社会的地位や具体的な状況(人種、性別、資産など)の下にあるかについて知らない状態を言う。ロールズによれば、こうした条件のもとでは、特定の個人のみに都合のよい選択をすることができないため、結果として全員が受け入れざるをえないルール(正義の原理)が採択されることになる。ここにいう正義の原理は二つあり、一つ目は、自由の権利は誰にでも平等に与えられるべきであるというもの(第一原理)である。そして二つ目の正義の原理は、社会的・経済的不平等は、公正な競争や参加の機会が誰に対しても平等に保障されたうえで生じたものに限られ、そして、社会的に最も不遇な人々の境遇を改善するものである限りにおいて認められるというもの(第二原理)である。な

お、選択肢中にある存在忘却は、実存主義の哲学者ハイデッガー(1889～1976)の用語で、日常的な生活中に没個性的な「ひと(ダス・マン)」として埋没して、自己の固有性を忘れていることをさす。

[c] には、社会的・経済的不平等が入る。[b] の解説にもあるように、ロールズは、「社会的・経済的不平等は、最も不遇な人々の境遇を改善するものである限りにおいて認められる」とする正義の原理を提唱している。つまり、社会的・経済的不平等は、地位や職務につく機会が公平であり、社会的に最も不遇な人々の境遇を改善する限りにおいて容認されると主張している。このような考えは、福祉政策を基礎づける価値原理に一つの理論的な拠り所を与えたものと言える。

以上により、適当な組合せは⑤となり、これが正解となる。

問3 [24] ④

ア：カルヴァン(1509～64)は、フランスに生まれスイスで活躍した宗教改革者として知られる。彼によれば、神は絶対的な存在であって、すべての存在は神の摂理によって導かれている。そして、各人の功績や価値に関わりなく、人間の救いはあらかじめ神の意志によって決められている(预定説)。また、カルヴァンは、世俗の職業生活は神の栄光を実現するための場であり、各人が神の道具として禁欲的に職業労働にはげむことが、神の栄光をこの世に実現することにつながるとした。したがって、アとBの記述が結び付く。イ：カッシーラー(1874～1945)は、人間の理性の特徴は物質ではなく抽象的なものに向かうことにあると指摘したことで知られる。彼によれば、人間は与えられた現実の世界を、言語・神話・宗教・芸術といった象徴(シンボル)の世界へと作り変えていく。カッシーラーは、このような観点から人間を「シンボルを操る動物」と捉えた。したがって、イとAの記述が結び付く。ウ：パスカル(1623～62)は、人間を偉大さと悲惨さとをあわせもつ存在として考察したことで知られる。彼によれば、人間は、自然のうちで最も弱い一茎の葦にすぎないが、自らについて考え、その弱さや悲惨さを自覚できるところに偉大さがある。こうした観点から、パスカルは人間を「考える葦」と呼んだのである。したがって、ウとDの記述が結び付く。エ：ピコ・デラ・ミランドラ(1463～94)は、ルネサンス期に演説草稿『人間の尊厳について』において、人間の尊厳は、動物や植物と異なり自分のあり方を自由に選ぶことができるところにあると主張したことで知られる。彼によれば、神は人間を「天上的でも地

上のでもない存在、可死的でも不可死的でもない存在」として創造し、どのような存在になるか、つまり神に近い存在となるか、あるいは堕落して下等な禽獣となるかは自分の自由意志により決定される。したがって、エとCの記述が結び付く。

以上のことから、適当な組合せは④となり、これが正解となる。

問4 [25] ③

ハーバーマス(1929～)は、フランクフルト学派第二世代を代表する人物である。彼は、効率を重視する知識・情報が人間の日常生活を支配していく事態(システム合理性による生活世界の植民地化)を批判した。ハーバーマスによれば、人間の理性は、孤立した自我の単なる道具ではなく、他者とのコミュニケーションを通じて相互理解を深め、合意を形成していく働きである。彼は、こうした立場から、対話的理性の復権とその可能性に期待を寄せたのである。

①リオタール(1924～98)は、モダニズム(近代主義)を批判する運動であるポストモダニズムを展開したフランスの哲学者。彼によれば、近代とは、理性・進歩・真理を信奉し、「真理と正義」に向かって人間も社会も進歩すると信じていた時代であった。リオタールは、こうした信念を「大きな物語」と呼ぶとともに、現代を「大きな物語」がもはや成立しなくなったポストモダンの時代であると特徴づけた。②フッサー(1859～1938)は、現象学を提唱したドイツの哲学者である。彼の現象学は、意識の働きを、常に何かに向かう志向性と捉え、意識が志向する対象についての先入観を排除するという方法をとる。つまり、「世界は、自分の意識の外に、それ自体で実在する」という考え方(自然的態度)を変更し、その思い込みをいったん停止して(エポケー：判断停止)，純粹に意識の中に現れた現象をそのまま記述すること(「事象そのものへ」)が重視される。

④ソシュール(1857～1913)は、構造主義言語学の祖とも呼ばれるスイスの言語学者。彼は、言語活動を、個々の具体的な発話行為(パロール)と、言語共同体に蓄積された言語習慣の体系(言語体系：ラング)によって成り立つものであるとし、話す主体としての私たちは、知らないうちに、一種の社会的構造としての言語体系に組み込まれていると考えた。

こうしたソシュールの言語学は、レビュイ・ストロース(1908～2009)の構造主義的な思想に大きな影響を与えた。

問5 [26] ④

資料文はアーレント(1906～75)著『過去と未来の

間』(引田隆也・齋藤純一訳、みすず書房)からの引用である。資料文の最初の一文で、「嘘を語る者は、彼の話に耳を傾ける人々の利益や快楽に添うように、あるいは彼らのたんなる期待に添うように、自由に彼の『真実』を作り変えるので、おそらく彼のほうが真理を語る者よりもはるかに説得力に富む」と述べられている。④の「本当らしく聞こえる嘘の情報は、人々の期待に添うように語られるため、人々に受け入れられやすい」という記述は、この部分の内容に合致する。なお、資料文は、「あらゆる出来事に顕著な性格の一つ、つまり予期せぬことという要素が丁寧にも消し去られているため、彼の説明のほうがいわばより論理的に聞こえるのである」と述べており、「嘘を語る者」が情報操作を行うこと、すなわち「事実を歪めてしまうこと」について言及している。アーレントは、真実を語ることが政治的徳の一つとみなされない状況(事実や歴史を歪曲し、意見の大衆操作を行う政治状況)に警鐘を鳴らしているのである。

①資料文の最初の一文で、「嘘を語る者は、彼の話に耳を傾ける人々の利益や快楽に添うように、…おそらく彼のほうが真理を語る者よりもはるかに説得力に富む」と述べられている。この部分から、「嘘を語ることには、真実を語ることに比べ、説得力がない」とする記述は資料文の内容に反すると判断できる。②資料文の最後の一文で、「リアリティも、利益や快楽ばかりでなく、常識の推理の健全さに事あるごとに逆らうのである」と述べられている。つまり、リアリティ(真実性)が利益・快楽の実現の妨げとなることや、理性的に常識を疑うことの妨げとなることについて述べられている。しかし、リアリティが「常識の推理の健全さを重視することによって生まれる」といった説明はされていない。むしろ資料文は、嘘を語ることによって生まれるリアリティについて述べている。③資料文の半ばで、「予期せぬことという要素が丁寧にも消し去られているため、彼の説明のほうがいわばより論理的に聞こえるのである」と述べられている。つまり、嘘の情報というものは、「予期せぬ要素」を多く盛り込むのではなく、むしろ丁寧に消し去ることによって、論理的なものとなると説明されているのである。

問6 [27] ③

ベンサム(1748～1832)は、快楽を求める苦痛を避けるのは、人間の自然的本性に根ざす傾向であり、快楽と幸福は一致すると考えた。そして彼は、幸福とは快楽の増大あるいは苦痛の減少であるとし、幸福

を実現するのに有効か否かという功利(有用性)の観点から、すべての行為の善悪を判断すべきであると説いた。このように、善悪の基準を行為の功利性におく考え方を**功利主義**と言う。しかし各人が、それぞれに自分の幸福だけを追求すれば社会は混乱してしまう。そこでベンサムは、諸個人の幸福の総計が最も大きくなる行為が最善の行為であると考え、「**最大多数の最大幸福**」の実現こそ、近代市民社会にふさわしい道徳と立法の原理であると説く。そして彼は、快樂の強さ・持続性・確実性など七つの基準を立て、これらを尺度に**快樂計算**が可能であると考えた。したがって、人間の幸福を「快樂と苦痛の量によって測定することができる」と捉えたとする③の記述が、ベンサムの思想内容と合致し、正解となる。

①J.S.ミルについての記述である。ミルは、ベンサムの思想を受け継ぎながらも、それを修正して独自の思想へと発展させたイギリスの哲学者である。ミルは、他者のために尽くす利他的な行為の中にある精神的快樂を重視し、「人からしてほしいと思うことを、人にもまたそのようにしなさい。自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」というイエスの教え(イエスの「**黄金律**」)の中に、すべての人の幸福を目指す功利主義の理想があると考えた。②ミルについての記述である。ミルは、『**自由論**』の中で、言論の自由をはじめ社会生活における個人の自由の重要性について論じ、個人の自由が不可侵であることを明らかにするとともに、個人の自由に対する制約は、その人の行為が他人に対して危害を及ぼすことを防止する場合に限られるべきであると主張した(他者危害の原則)。④ベンサムは、上で述べたように、「**最大多数の最大幸福**」の実現こそ、近代市民社会にふさわしい道徳と立法の原理であると説いた。したがって、「**プラグマティズムの格率**」の実現こそが、道徳と立法の原理であると説いたとする記述は誤り。なお、知識を行為や結果の関係から捉え、実際的效果を重視する「**プラグマティズムの格率**」を提唱した人物としてパース(1839~1914)がいる。プラグマティズムは、パースの提唱にはじまり、科学的認識によって現実社会の理解を深めることにより、環境を改善して人間生活の様々な問題を解決していくとする技術的、実践的な哲学思想のことである。

#### 問7 [28] ②

社会主義の思想家マルクス(1818~83)は、歴史の発展の原動力を精神的なものに求めるヘーゲルの観念論的歴史観を批判し、それを物質的な**生産力**を求

める**唯物史観**の立場をとった。マルクスによれば、それぞれの社会には生産力の発達段階に応じた**生産関係**(生産手段の所有関係)があり、それが土台(下部構造)となって政治・法律・学問・文化・宗教といった人間の精神的な活動(上部構造)を規定する。すなわち、「人間の意識がその存在を規定するのではなく、人間の社会的存在がその意識を規定する」のである。したがって、「**生産関係**」が「政治や法律・学問などの人間の精神的な活動によって規定される」とする②の記述は誤り。

①マルクスによれば、元来、人間は対象に働きかけ自然を作り変えていくこと(労働)に、根本的な喜びを見いだす存在である。また、人間は労働を通して他者と関わり、協力して人間らしい社会的な結び付きを作り出す存在(類的<sup>たぐい</sup>存在)である。ところが、創造的な喜びや、他者との結び付きをもたらすべき労働が、資本主義社会においては単なる生活の手段になりきがり、非人間的で苦痛なものになっている。マルクスは、その原因は労働者が作った生産物が、工場や原料などの生産手段を所有する資本家のものになり、労働者が働けば働くほど資本家に富が集中して、労働者はますます貧しくなるという資本主義の矛盾にあると考えた。③マルクスによれば、資本主義社会では、本来は労働者のものであるべき生産物が、労働者から引き離されて資本家の手に渡るという、生産物からの疎外<sup>しおい</sup>が起こっている。④マルクスの説く唯物史観によれば、資本主義のもたらす矛盾はやがて階級闘争を引き起こし、革命を通じて生産手段の私有を廃した社会主義社会が実現し、その後に階級のない**共産主義社会**が実現する。共産主義社会は生産手段を社会全体で共有すること(社会的<sup>しゃかい</sup>所有)を前提とする社会であり、そこでは階級闘争はなくなり、人間性も回復され、人間は自己のあるべき姿を実現することができるという。

#### 問8 [29] ③

サルトル(1905~80)によれば、人間はペーパーナイフのように人間が製作したものとは違い、あらかじめ本質が決まっているわけではなく、自己の自由な選択を通じて自分自身を作りあげていく存在である(「**実存は本質に先立つ**」)。そして彼は、人間は社会的現実に拘束されながら、同時にその現実を作り変えていく存在であるがゆえに、その人間の自由な働きかけには、自己のみならず、全人類に対する責任が伴うと考えた。この観点からサルトルは、人間が自己を社会に関わらせていくこと、すなわち**社会参加**(アンガージュマン)の大切さを説いた。

①ハイデッガーの思想についての記述である。ハ

イデッガーは、人間は自分の存在の終わりである死を自覚できる存在であるとして、これを「死への存在」と名づけた。そして彼は、「死への存在」であることから目をそらし、世間に埋没して、うわさ話や好奇心で不安をまぎらわす人間を「ひと(世人、ダス・マン)」と呼び、それは自己を喪失した非本来的なあり方であるとした。ハイデッガーは、誰もが避けることのできない私の死という現実を直視し、それを積極的に引き受けることによって、本来の自己に立ち返ることができると説いた。<sup>②</sup>レヴィナス(1906～95)の思想についての記述である。レヴィナスは、第二次世界大戦中にナチスによるユダヤ人虐殺によって家族を失った経験を背景として、「他者」についての思想を説いている。レヴィナスによれば、「他者」の最も基本的な性格は、「私」とは根本的には同じではあり得ないということ(他性)であり、また「他者」は「私」の自己意識の中に取りこむことができないがゆえに圧倒的な重みをもつ存在である。このような観点から、彼は、自我を中心にしてすべてを説明しようとする思考(全体性)を生み出した近代哲学を批判し、倫理は自我からではなく、「私」が「他者」の重みに対する責任を引き受けざるをえないところから始まると言いた。<sup>④</sup>「本来の自己を見失って絶望する人間は、信仰への決断によって真の実存を回復できる」とする後半部分の記述は、キルケゴー(1813～55)の思想についての記述である。キルケゴーは、個性的な本来の自己を見失い、平均化・画一化され、大衆の一員になりきがっている当時の人々のあり方を批判した。彼によれば、本来の自己を見失って絶望する人間は、理性によっては根拠づけられることのない信仰への決断、すなわち単独者として神の前に立つことによって、主体的な自己の存在(実存)を回復できる。

問9 [30] ③

本文第3段落は、「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」と述べている。すなわち「公共性と国家を同一視する考え方」に基づいて形成されるあり方と、「市民の側から自発的・理性的に公共性が形成される」あり方について取り上げている。また最終段落は、「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」と述べている。以上のことから、③の選択肢の記述が本文の趣旨に合致し、正解となる。

①前半部分の「公的な空間では公共の倫理が求められる」とする記述は、第2段落の「社会の一員として生きていくためには『公共の倫理』に従うこと

が求められる」とする記述に照らし、適当である。しかし、後半部分の「公共の倫理は場面を問わず通用するので、私たちは、時代や文化の差異を意識せずに画一的にその倫理を貫くことが望ましい」という記述は、第3段落の「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」とする記述や、最終段落の「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」とする記述に反する。<sup>②</sup>第3段落は、公共の倫理を支えるために、公共性と国家を同一視する考え方があるとしている。しかし本文は、國家が「個々人に優越するもの」と位置づけているわけではないし、「人々が公共のために力を尽くすことができるような社会制度を優先的に整える」必要性を説いているわけでもない。最終段落の「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」とする記述からも分かるように、本文は、「国家」よりもむしろ「私たち」がなすべきことについて述べている。したがって、この選択肢は本文の趣旨に合致するとは言えない。<sup>④</sup>前半部分の「公共性の内容として何が正しいかをめぐっては様々な見解があり得る」という記述は、第3段落の「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」という記述に照らし、適当である。しかし、後半部分の「公共性の内容を確定する責任は、社会生活のルールである法を定める国家だけが負うべきである」という記述は、最終段落の「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」という記述に反する。

## 第5問 国際化と倫理的課題

### 【出題のねらい】

本問は、「国際化と倫理的課題」をテーマに取り上げ、異文化理解、平和への課題、人権の国際化などについて、基本的な知識・理解を試すことをねらいとしている。資料文の読解問題や本文(会話文)の趣旨理解を前提とした空所補充問題など、受験生の思考力・応用力を試す問題もあわせて出題した。

### 【設問別解説】

問1 [31] ④

インド出身のイギリスの経済学者であるセン(1933～)は、各人が自ら価値があると認める生き方をするための選択の幅のことを潜在能力(ケイパビリティ)と呼び、その拡張を図ることが開発途上国の支援に有効であるとして、ケイパビリティ(潜在能力)アプローチを提唱したことで知られる。彼はまた、新古典派の経済学者たちが経済活動を分析するうえで前提

してきた利己的な人間像に疑問を投げかけ、人間が、自分自身の利害に限定されない目標を追求することは、珍しいことでも、また特に不合理なことでもないとして、資料文にあるような主張を展開する。「『他者がしたいようにさせよ』というあなたの判断には、何ら特殊なところも、愚かなことも、不合理なところもない。…他者の願望や目標に配慮することを、合理性に反するとみなす必要はない」というセンの主張に合致するのは④の内容であり、これが正解となる。

①②⑧は、いずれも、自己の価値観や利益に沿う限りにおいて他者の求めに応じようとする判断や行為の意義を説いている点で、センの主張と合致しない。なお、資料文は、アルマティア・セン著 池本幸生訳『正義のアイディア』(明石書店)から抜粋した(ただし、出題の都合上、一部の表現を若干変更してある)。

#### 問2 [32] ③

アのロックは、17世紀イギリスの哲学者で、経験論者、社会契約論者として知られる。彼は、Bで述べられているように、世俗的な目的をもつ国家と、魂の救済のための自由で自発的な結社である教会とを区別し、為政者が信仰に干渉しないという政教分离の観点から、宗教的寛容について論じた。なお、仮にこの点について知らなかったとしても、冒頭の「イギリスの名誉革命を理論的に正当化する内容を含む『統治二論』を著した」という記述から、Bがロックについての説明であると分かるだろう。

イのヒューム(1711~76)は、18世紀イギリスの哲学者で、『人性論(人間本性論)』において、Aのように、共感は人間本性、つまり人間の自然に根差す原理であり、道徳的判断においても大きな影響を及ぼすと説いている。こうしたヒュームの共感論は、各人が公平な第三者の共感を得られる範囲で行動するなら、利己的行為も是認されるというアダム・スマス(1723~90)の思想にも影響を与えた。

ウのヴォルテール(1694~1778)は、18世紀フランスの啓蒙主義を代表する思想家で、『寛容論』において、Cのように、人間界における見解の多様性と、その多様性への寛大さを求める「自然の教え」について説き、宗教的な狂信を批判した。

エのモンテニュ(1533~92)は、16世紀フランスの思想家で、人間の心理や社会のあり方を冷静に觀察し、人間の真の生き方を探究した代表的なモラリストである。彼は、Dのように、不寛容の原因を、自己反省の欠如に由来する偏見や独断にあるとし、「ク・セ・ジュ(私は何を知っているのか)」といふ

言葉で言い表される懐疑主義の立場から、謙虚に自己の内面を吟味しつつ、独断と偏見を排して、様々な価値観や思想を受け入れていくべきことを説いた。

以上より、正しい組合せは、⑧の ア—B  
イ—A ウ—C エ—D である。

#### 問3 [33] ⑥

[a]には、「人間の安全保障」が入る。人間の安全保障とは、軍備や軍事同盟などによる従来の「國家の安全保障」に対比される概念であり、文中にもあるように、「人間自身に内在する強さと希望に抱って立ち、死活的かつ広範な脅威から人々を守る」ことを内実とする新たな安全保障觀である。人間の安全保障をめぐる具体的な課題は、人権侵害・貧困・難民・環境破壊など、個々の人間を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的に捉えたうえで、その脅威を取り除き、すべての人々が生存、生活および尊厳を確保するための基本的な条件を得られるようなシステムを構築することにある。なお、集団安全保障とは、対立する国家をも含めた国際組織を作り、相互に平和と安全を守るルールを定め、加盟国の一つがそのルールを破った場合には、残りの全加盟国が共同で制裁することで平和を維持するという安全保障の方式であるが、文脈上、[a]には当てはまらない。

[b]には、エンパワーメント(能力強化)が入る。エンパワーメントとは、各人が自らの生活と人生を決定する権利と能力を備え、自らを取り巻く政治的・経済的な状況をコントロールできるようにしていくことを言う。人間の安全保障を推進していくうえでは、単に各人を保護するだけでなく、エンパワーメントを図る政策を立案・実施していかなければならない。なお、リヴィングウィルとは「生前の意思表示」のこと、ナショナリズムとは「国家主義」のことであるから、いずれも[b]には当てはまらない。

#### 問4 [34] ②

サイード(1935~2003)は、近代の西洋が、東洋をエキゾティックで後進的な他者と見なすことで自らの文化的アイデンティティを形成してきたことを指摘し、その思考様式をオリエンタリズムと呼んで批判した。したがって、正解は②となる。

①「野生の思考」とは、文化人類学者のレヴィ=ストロースが、未開社会に見られる思考の特徴に着目して名づけた言葉。レヴィ=ストロースは、未開社会の思考には、文明社会とは異なった独自の分類の論理や類推の方法があるとし、それを「野生の思

考」と呼んだ。⑧差異の原理とは、社会学者のボーデリヤール(1929~2007)が説いた、商品が他者との差異を示す「記号」として現れるという現代消費社会の原理。④エスノセントリズムとは、自民族の文化や価値観を優れたものとし、他民族の文化に対して否定的・抑圧的に振舞う、自文化・自民族中心主義のこと。

問5 [35] ④

子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)は、18歳未満の子ども(児童)を大人による保護の対象と見るだけではなく、意見表明権、表現の自由、思想・良心・宗教の自由、結社・集会の自由など、様々な権利・自由を享受する権利主体であると捉えている。したがって、④が正解となる。

①難民条約(難民の地位に関する条約)は、難民の一般的義務として「その国の法令を遵守する義務及び公の秩序を維持するための措置に従う義務」について規定する。しかし、難民が他国に受け入れられる要件として、その国の言語に習熟し、文化や生活習慣に同化していることを求めているわけではない。②外国人に国政レベルの選挙権を認めているのは、ニュージーランドなど少數の国にとどまり、「日本をはじめとする多くの先進国が、国政選挙の選挙権を外国人に認めている」という記述は誤りである。③日本は、現在のところ死刑廃止条約(死刑の廃止を目指す市民的及び政治的権利に関する国際規約の第二選択議定書)を批准しておらず、「刑法を改正して死刑を廃止」したという事実もない。

問6 [36] ①

本問は、Yの一つ前の発言内容がヒントになる。相手方のZが「その場の空気を読んで自制」することや、多数派が少數派に対して「寛容」になることを主張しようとするのに対して、Yは、あくまでも少數派が声を上げる機会を保障しつつ、たとえ面倒だとしても、「その声にしっかり耳を傾け、話し合っていくこと」の意義を強調している。こうしたYの主張に合致するものは、価値観や考え方を異なる者の間で「積極的に対話する努力が必要になる」とする①しかない。

②声を上げなくてもお互いのことを理解し合えるという可能性を「価値観や考え方の相違を超えて、どんな場合にも人類に普遍的に当てはまる美德」とする趣旨は、それまでのYの発言中には見当たらぬし、「わざわざ対話する必要なんかない」という発言も、対話を重視するYの立場と相容れない。③声を上げなくてもお互いのことを理解し合えるという可能性を「あくまでも、一人ひとりの良心に基づ

くもの」とする趣旨は、それまでのYの発言中には見当たらぬし、「対話があったかどうかではなく、良心に恥じないように行動すればそれでいい」という発言も、対話を重視するYの立場と相容れない。④声を上げなくてもお互いのことを理解し合えるという可能性を「古来、多くの人々によって信じられてきたことだ」とする趣旨は、それまでのYの発言中には見当たらぬし、「以心伝心で他者の気持ちを察するように心がけたい」という発言も、やはり、対話を重視するYの基本的な立場にそぐわない。

問7 [37] ①

対人地雷全面禁止条約(オタワ条約)は、NGO(非政府組織)の連合体である地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)が、対人地雷の全面禁止に積極的な国々(有志国)と協力し、全面禁止に消極的であった国々に対して働きかけ、ついに条約の調印にこぎつけるというプロセス(オタワ・プロセス)を経て成立した。地雷禁止国際キャンペーンは、こうした条約成立への貢献が評価され、1997年にノーベル平和賞を受賞している。

②バグウォッシュ会議(核兵器と戦争の廃絶を目指す科学者の会議)とは、世界の科学者が核兵器の廃絶や軍縮について討議し提言すること目的とする会議であり、核兵器の廃絶を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言に呼応して、1957年に第1回会議が開かれた。したがって、「テロ行為に反対する国々によって冷戦期に創設され、冷戦終結後の現在もテロの撲滅を目指す国際的活動を続けている」という記述は誤りである。③核抑止論とは、相手国に対し破滅的な損害を与えるだけの核兵器を相互に保有することが、かえって戦争の勃発を抑制し、平和を維持することにつながるという考え方を言う。つまり、核抑止論とは、核兵器を保有することにより、敵の攻撃を思いとどらせようとする考え方のこと。したがって、④「核兵器を『持たず、作らず、使わせず』という核抑止論」という説明は誤りである。日本は、核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則を「國是」として堅持することを国会で決議している(1971年)。④「集団殺害犯罪、戦争犯罪、人道に対する犯罪などについて、個人の刑事責任を追及する役割を担っている」のは、国際人道法に反する個人の重大な犯罪を裁くために設置された国際刑事裁判所(ICC)である。国際司法裁判所(ICJ)は、個人の犯罪について裁くのではなく、国際法を適用して国家間の紛争を解決するために設置された国際連合の主要機関の一つ。

問8 [38] ④

日本では、1992年にPKO協力法が制定され、この法律に基づいて、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)に対して初めて自衛隊が派遣された。現在でも、国連南スーダン派遣団(UNMISS)をはじめとして、自衛隊の海外派遣が継続中である。

①国際連合は加盟国に割り当てられる分担金を活動資金源の一つとしているが、すべての国連加盟国において同額の分担金を負担しているわけではない。各国の支払い能力(国民所得の大小)に応じて分担率が算定されることになっている。ちなみに2012年の日本の分担率は12.5%で、22%のアメリカに次いで第2位である。②2011年における日本の政府開

発援助(ODA)の総額(支出純額ベース)は、アメリカ・ドイツ・イギリス・フランスに次いで世界第5位である。したがって「主要先進国の中で最も大きい」とする記述は誤り。また、これまでの日本のODAは、円借款しゃっかん(有償資金協力)の割合が比較的高く、「開発途上国への援助資金をすべて無償で供与している」という記述も誤り。③ユニセフ(UNICEF：国際連合児童基金)は国際連合の機関(補助機関)であり、主として開発途上国や被災地の児童の保健・教育・福祉に関わる援助を行っている。したがって、日本のNGOであるとする説明は誤り。

## ＝＝＝ 政治・経済 ＝＝＝

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1 ①	3		
	問2	2 ③	3		
	問3	3 ②	2		
	問4	4 ①	2		
	問5	5 ②	2		
	問6	6 ⑤	3		
	問7	7 ①	2		
	問8	8 ④	2		
	問9	9 ⑥	3		
	問10	10 ②	2		
第1問 自己採点小計		(24)			
第2問	問1	11 ④	2		
	問2	12 ①	3		
	問3	13 ④	3		
	問4	14 ②	2		
	問5	15 ③	3		
	問6	16 ②	3		
	問7	17 ②	3		
第2問 自己採点小計		(19)			
第3問	問1	18 ②	3		
	問2	19 ④	3		
	問3	20 ②	3		
	問4	21 ③	3		
	問5	22 ④	2		
	問6	23 ③	3		
	問7	24 ③	2		
第3問 自己採点小計		(19)			
第4問	問1	25 ④	3		
	問2	26 ②	3		
	問3	27 ②	3		
	問4	28 ②	2		
	問5	29 ⑥	3		
	問6	30 ④	2		
	問7	31 ①	3		
第4問 自己採点小計		(19)			

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	32 ②	2		
	問2	33 ②	3		
	問3	34 ②	3		
	問4	35 ③	3		
	問5	36 ④	3		
	問6	37 ③	2		
	問7	38 ①	3		
第5問 自己採点小計				(19)	
自己採点合計				(100)	

### 【解説】

#### 第1問 戦後の国際社会の動向

##### 【出題のねらい】

本問は、戦後の国際社会の動向について政治・経済の両面から出題し、この分野の基本的な知識・理解とその応用力を試すことをねらいとしている。具体的には、冷戦期や冷戦後の国際社会の動向や戦後日本の外交、貿易理論や国際収支、戦後国際経済体制や地域的経済統合などについて出題した。

##### 【設問別解説】

問1 1 ①

比較生産費説は、イギリス古典派の経済学者リカード(1772～1823)が自由貿易を擁護する学説として唱えた。これは、各国が他国に比べて生産費が相対的に安い財の生産に特化してそれを輸出し、その他の財は輸入することで、各国が利益を得るという説である。以下、この設問の例に沿って考えてみる。

最初に、Aに入る条件を確定しよう。まず、 $x$ が20の場合を考える。M国は、機械生産ではN国の0.9倍の労働が必要だが( $18 \div 20 = 0.9$ )、服地生産ではN国の約0.67倍の労働で済む( $16 \div 24 \approx 0.67$ )。すなわち、M国は機械・服地とともにN国よりも少ない労働で生産できるが、服地のほうは相対的により少ない労働で済む。したがってこの場合、M国は服地に比較優位をもつ。同様に考えると、N国は、服地生産ではM国の1.5倍の労働が必要だが( $24 \div 16 = 1.5$ )、機械生産ではM国の約1.11倍の労働で済む( $20 \div 18 \approx 1.11$ )。すなわち、N国は機械・服地とともにM国よりも多くの労働が生産に必要だが、機械のほうは相対的に少ない労働で済む。したがって、N国は機械に比較優位をもつ。次に、 $x$ が28の場合を考えてみる。M国は、機械生産ではN国の約0.64倍の労働で済むが( $18 \div 28 \approx 0.64$ )、服地生産ではN国

の約0.67倍の労働が必要となる( $16 \div 24 = 0.67$ )。すなわち、機械のほうが相対的により少ない労働で済むことになるので、M国は機械に比較優位をもつ。他方、N国は、服地生産ではM国の1.5倍の労働で済むが( $24 \div 16 = 1.5$ )、機械生産ではM国の約1.56倍の労働が必要となる( $28 \div 18 = 1.56$ )。すなわち、服地生産のほうが相対的により少ない労働で済むことになるので、N国は服地に比較優位をもつ。以上から、「M国は服地に、N国は機械に、それぞれ比較優位をもつ」条件は、 $x$ が28ではなく20のときとなる。

次いで、[イ]に入る数値を確定しよう。「各國が比較優位にある製品の生産に特化した」という設問の指示により、M国は服地に、N国は機械に、それぞれ生産を特化する。そして、「各国内の労働者はこの二つの産業で全員が雇用される」という設問の条件から、M国では34人が服地生産に従事し( $16 + 18 = 34$ )、N国では44人が機械生産に従事する( $24 + 20 = 44$ )。M国では16人で服地1単位の生産が可能なのだから、34人では2.125単位の服地の生産が可能となる( $34 \div 16 = 2.125$ )。同様に、N国では20人で機械1単位の生産が可能なのだから、44人では2.2単位の機械の生産が可能となる( $44 \div 20 = 2.2$ )。特化前には、M国・N国それぞれで1単位の機械を生産し、「両国を合わせた生産量」は2単位だった。これが2.2単位へと増加したのであるから、特化前よりも1.1倍増加したことになる( $2.2 \div 2 = 1.1$ )。

以上から、適当な組合せは①となる。

#### 問2 [2] ⑧

まず、アメリカは巨額の貿易赤字を抱えており、日米間の貿易摩擦はもちろん、輸出で著しい経済発展を遂げている中国との間でもより深刻な摩擦が生じている。したがって、この図の中で二国に対してともに輸入超過となっているAがアメリカであるとわかる。次に、日本の貿易相手国第一位は現在、輸出・輸入ともに中国となっており、アメリカはこれに次ぐ第2位となっている。図をみると、Bはアメリカ向けの輸出よりもC向けの輸出のほうが多いが、Cはアメリカ向けの輸出よりもB向けの輸出のほうが少ない。この点から日本はBだとわかり、残るCが中国だと確定する。

以上から、適当な組合せは③となる。

#### 問3 [3] ②

日本は長い間、貿易収支の大幅な黒字を続けてきた。しかし2011年には、東日本大震災の影響などによって、輸出が低迷するとともに火力発電の燃料に

用いる天然ガスなどの輸入が増加したことから、貿易収支は数十年ぶりに赤字を記録した。

①日本の所得収支は、積極的な対外投資に伴う投資収益の受取りなどによって、大幅な黒字が続いている。したがって、「赤字基調」としているこの選択肢は不適当。③日本企業の海外進出が進めば、投資資金が海外へと流出することになるのだから、投資収支は黒字ではなく赤字となるはずなので、この選択肢は不適当。事実としても、日本の投資収支は赤字が続いている。④外国人観光客の交通費や宿泊費などは、経常移転収支ではなくサービス収支に計上されるので、この選択肢は前半と後半が結びついておらず不適当。

#### 問4 [4] ①

1985年にソ連の最高指導者となったゴルバチョフ(1931～)は、停滞していたソ連経済の建て直しを図って、ペレストロイカと呼ばれる改革やグラスノスチ(情報公開)を推進した。また、彼がアメリカとの協調を旨とする外交(新思考外交)を進めたことも押さえておこう。

②東西ドイツの統一是1990年、ソ連解体は1991年のことであるから、この選択肢は時間的な前後関係が誤っており不適当。③ソ連と東欧社会主义国などによる軍事同盟であったワルシャワ条約機構は、冷戦崩壊に伴って、1991年に解体している。なお、これに対抗していたアメリカと西欧諸国との軍事同盟であるNATO(北大西洋条約機構)は現存しており、かつて社会主义国であった中東欧諸国の中からもこれに加盟する国がいくつも現れている。④かつて社会主义国であったEU加盟国の中、たとえばチェコやハンガリーなどは共通通貨ユーロを導入していないが、スロバキアやエストニアはユーロを導入している。したがって、「いずれも…導入していない」とする記述は不適当。

#### 問5 [5] ②

イギリスはNATOに一貫して加盟し続けており、この「軍事機構から脱退した」という事実はない。なお、独自外交路線を進めたフランスは、1966年にNATOの軍事機構(軍事委員会)から脱退したことがあるが、2009年に全面復帰した。

①核抑止論とは、敵対する国を壊滅することができるだけの核兵器を互いにもつことで、むしろ核兵器の使用が抑制されるとする考え方である。すなわち、自国が核兵器を先制使用したならば、相手側からの報復攻撃によって自国の壊滅を招くため、結果的に双方とも核兵器の先制使用はできなくなる、というものである。こうした核抑止論に基づいて、米

ソの核軍拡競争は進んでいった。③中国とソ連は当初、社会主義国として友好関係にあったが、フルンチヨフ(1894~1971)のスターリン批判(1956年)を契機に社会主義建設のあり方をめぐる路線や外交方針、領有権問題などをめぐって対立が深まり(中ソ対立)，1969年には両国の国境警備隊が衝突するまでに至った(珍宝島事件／ダマンスキー島事件)。④たとえば、1961年には第一回非同盟諸国首脳会議が25か国の参加によって開催され、冷戦への不関与などの方針が掲げられた。

問6 [6] ⑤

GATT(関税と貿易に関する一般協定)やWTO(世界貿易機関)では、貿易自由化を促進するための多角的貿易交渉(ラウンド)を随時開催してきた。Aのケネディ・ラウンドは、1964年から67年にかけて開催されたもので、関税の引下げについて、それまでの個別商品別とは異なり、一括引下げ方式が初めて採用された。したがって、これはウと結びつく。

Bのウルグアイ・ラウンドは、1986年から開催されたもので、サービス貿易のルール作りなどが話し合われるとともに、GATTをWTOへと発展的に改組させることが合意された。したがって、これはアと結びつく。

Cのドーハ・ラウンド(ドーハ開発アジェンダ)は、WTO発足後初のラウンドで、2002年から交渉が開始された。しかし、難航に次ぐ難航を重ね、ついに2011年には包括合意が断念された。したがって、これはイと結びつく。

以上から、適当な組合せは⑤となる。

問7 [7] ①

1944年に連合国は、ブレトンウッズ会議を開催し、ここで第二次世界大戦後の国際経済体制のあり方について協議し、IMF(国際通貨基金)とIBRD(国際復興開発銀行)の創設を決定した(ブレトンウッズ協定)。

②当初のIMF体制は、アメリカ政府が金とドルとの交換を保証するというものであり、アメリカ以外の各国通貨(たとえば円)はドルを仲立ちにして間接的に金と結びつけられていた。したがって、アメリカ以外の各政府は、自国通貨と金との交換を保証していたわけではない。③IMF体制では、当初からアメリカのドルが基軸通貨とされた。基軸通貨としての価値を、上述のような金との交換によって保証していたわけである。④IDA(国際開発協会)は、開発途上国、なかでも返済能力の低い比較的貧しい国に対して、IBRDよりも緩やかな条件で資金融資を行っている機関である。したがって、これを

先進国向けとしているこの選択肢は不適当。

問8 [8] ④

EU(欧州連合)は、すでに市場統合を完成させており、財やサービス、労働力や資金などの移動は完全に自由化されており、域外に対する関税率も共通化されている。

①NAFTA(北米自由貿易協定)では、労働力移動の自由化は行われていない。②APEC(アジア太平洋経済協力会議)は、アジア諸国や環太平洋諸国が参加しており、ASEAN諸国もこれに参加している。③日本は、2002年にシンガポールとの間でEPA(経済連携協定)を締結して以降、いくつもの国や地域との間でもこれを締結してきている。たとえば、2004年には中米のメキシコと、2009年には欧洲のイスラエルと、経済連携協定を締結した。したがって、「相手国は…アジア諸国に限られている」とするこの選択肢は不適当。

問9 [9] ⑥

まず、アから考えてみよう。 $\alpha$ にあるINF(中距離核戦力)全廃条約は1987年に、第一次戦略兵器削減条約は1991年に、いずれも米ソ間で結ばれた条約であるから、C「二国間で締結された条約」であり、A「国連総会で採択された条約」ではない。これに対し $\beta$ にある条約は、いずれも日本を含む複数の国々が締結している条約であるから、C「多国間で締結された条約」である。そして、 $\alpha \cdot \beta$ とともに、すべてすでに発効している条約であって、B「現在のところ発効していない条約」は含まれていない。以上のことから、アはCのみと結びつくことがわかる。

次に、イについて考えてみる。 $\alpha$ にあるINF(中距離核戦力)全廃条約は、上で解説したように米ソ間で締結された核軍縮条約であるから、これはA「国連総会で採択された条約」ではない。また、 $\beta$ にある条約は、いずれもB「現在のところ発効していない条約」である。したがって、イはAではなくBと結びつく。

最後にウについて考えてみる。 $\beta$ にあるABM(対弾道ミサイル)制限条約は、1972年に米ソ間で結ばれた条約であるから、C「多国間で締結された条約」ではない。また、CFE(欧洲通常戦力)条約は、1990年にNATO加盟国とワルシャワ条約機構加盟国との間で結ばれた条約であるから、いずれも、A「国連総会以外で採択された条約」である。これに対し、 $\alpha$ の条約はいずれも日本を含む複数の国が締結しているものであるから、C「二国間で締結された条約」ではないし、 $\alpha$ のうちの包括的核実験

禁止条約は発効していないので、B「すでに発効した条約」でもない。これらはいずれも、A「国連総会で採択された条約」である。したがって、ウはAのみと結びつく。

以上から、適当な組合せは⑥となる。

問10 [10] ②

日本政府は、ODA大綱において「ODAを通じて開発途上国の安定と発展に積極的に貢献する」としているように、「ODAを積極的に供与する方針を掲げている」という点は適当である。しかし、2010年の供与額(支出純額)をみると、DAC(開発援助委員会)加盟23か国の中で第5位と、比較的上位にあるので、「供与額は…最下位に近い」という記述は不適当。なお、ODAの国際的な目標値は対GNP(国民総所得)比0.7%となっているが、この比率でみると日本は0.20%であり、DAC加盟23か国の中で第20位にとどまっている(以上の数値は、外務省編『政府開発援助(ODA)白書』平成23年版による)。

①連合国と日本との講和条約であるサンフランシスコ平和条約(1951年調印)にソ連は調印しなかった。そのため、日本はソ連との講和ができず、ソ連は日本の国連加盟に反対の姿勢をとることになった。しかし、1956年に日ソ共同宣言が調印されて日ソ間の国交が回復したため、同年、日本の国連加盟が実現した。③自衛隊法は、自衛隊の任務の一つとして、「国際連合を中心とした国際平和のための取組への寄与その他の国際協力の推進を通じて我が国を含む国際社会の平和及び安全の維持に資する活動」(第3条2項)を掲げている。④竹島は島根県に属する島嶼だが、韓国も領有権を主張しており、日韓間で対立が続いている。またいわゆる北方四島は北海道に属する島嶼だが、ロシアも領有権を主張しており、日ロ間で対立が続いている。この他、沖縄県に属する尖閣諸島についても、中国が領有権を主張しており、日中間で対立が生じている。

## 第2問 金融のしくみと金融政策

### 【出題のねらい】

経済活動が円滑に行われるためには、決済や資金の融通が滞りなく行われる必要がある。金融システムは、このような資金の取引を担い、国民経済の安定と成長を支えるという重要な役割を果たしている。本問は、この金融システムの仕組みや金融システムを管理する中央銀行の金融政策を中心に出題した。各設問の復習を行い、金融システムについて理解を深めておこう。

### 【設問別解説】

問1 [11] ④

銀行は、受け入れた預金が引き出される場合に備えて、預金の一部を支払準備として残し、残りを貸し出すが、この貸出しによって、預金通貨が創造される。たとえば、A銀行に100万円が預け入れられ(本源的預金)，支払準備率(預金準備率ともいう)が20%だとすれば、A銀行は20万円を支払準備として残し、残りの80万円を貸し出す。そして、80万円の融資を受けた企業がその80万円をB銀行に預金すれば、新たに80万円の預金通貨が生み出されたことになる。さらにB銀行が80万円のうち16万円を支払準備として残し、残りの64万円を別の企業に貸し出し、この企業も64万円をC銀行に預金すれば、新たに64万円の預金通貨が生み出される。このように預金と貸出しの繰り返しにより、銀行が最初に受け入れた預金額以上の預金通貨を銀行全体で生み出すことを信用創造といふ。信用創造によって生み出される預金総額は、次の計算式によって算出することができる。

$$\text{預金総額} = \text{本源的預金} \div \text{支払準備率}$$

したがって、本源的預金が100万円で支払準備率が20%ならば、預金総額は500万円となる(100万円 ÷ 0.2)。ただし、設問では銀行全体の貸出金の増加額が求められていることに注意が必要である。本源的預金を元に新たに生み出される預金総額(信用創造額)は貸出総額に等しいので、預金総額から最初に受け入れた本源的預金(100万円)を差し引いた400万円が貸出総額、すなわち信用創造によって作り出される銀行全体の貸出金の増加額となる。

問2 [12] ①

企業は銀行に保有する当座預金の口座を通じて、取引先との間で資金の受払いを行っている。当座預金を保有する企業は小切手を振り出すことができ、この小切手が企業の決済の手段として用いられる。

②金はかつて普遍的価値をもつ世界貨幣として、世界中で本位貨幣として用いられていた。すなわち、政府が保有する金の量(金準備量)に応じて兌換銀行券(兌換紙幣)を発行する金本位制が広く採用されていた。しかし、1930年代の世界大恐慌をきっかけに、世界各国は金本位制を維持することが困難になり、管理通貨制へと移行した。③地方銀行が特定の地域内だけで通用する銀行券を発行することは、国家主権の一つである通貨発行権を侵害することになる。また、このように地域ごとに異なる現金通貨が流通すると国民経済全体での通貨管理が困難になり、金融政策を適切に運営することができなくな

る。こうした事態を避けるために、日本銀行法によって、日本銀行が法貨(法定通貨)である日本銀行券を発行する唯一の発券銀行であると定められている。このように、地方銀行が銀行券を発行することは法律上認められていない。特定の地域や商店街などで一定の商品やサービスに交換できる地域通貨(エコマネーなど)と混同しないこと。④EU(欧州連合)では加盟国間での経済や通貨の統合が進められており、加盟国のうち共通通貨ユーロを導入した国ではユーロが法貨となっている。このように、ユーロは国民経済を超えて流通している。

#### 問3 [13] ④

企業の利益は売上から人件費などのコストや税金を差し引いて算出されるが、この利益の一部は企業の所有者である株主に分配され、その残りは内部留保金として企業内に蓄積される。この内部留保金は、減価償却積立金とともに設備投資に用いられる。このような企業が自ら工面し保有する資金によって投資資金を賄うことを自己金融(内部金融)と呼ぶ。

①銀行は預金者から受け入れた預金を企業に貸し出す。この場合に、銀行は預金者に対して債務を負う一方で、企業に対して債権を保有する。つまり、資金の供給者である預金者と資金の需要者である企業との間には直接的な債権債務関係は存在しない。言い換えれば、資金の供給者と需要者の間では直接的な金融取引がなされておらず、両者は金融仲介者である銀行を経由して間接的に結びついているのである。そのため、銀行の融資を通じて企業が資金を調達することを間接金融と呼ぶ。②企業が株式を発行して資金を調達することを直接金融という。この場合、企業は株式市場で株式を発行し、それを投資家に売却することで資金を入手するのであり、資金の供給者(投資家)と需要者(企業)の間で直接に金融取引が行われる。その際、株式取引の円滑化を図るために、株式は通常、証券会社を通して売買されるが、証券会社は①の間接金融における銀行と同じ意味で金融取引の仲介を行っているわけではない。③社債は、企業が一定の期間、投資家(社債の購入者)から資金を借り入れるために発行される。社債を購入した投資家は、公社債市場で社債を売却することもできるが、満期日まで保有していれば、企業から社債の額面額と利子を受け取ることができる(これを償還という)。つまり、社債の発行による資金調達の場合、企業は利子を支払わねばならない。

#### 問4 [14] ②

インターネットを利用すれば、パソコンや携帯電

話を使って、いつでもどこでもさまざまな金融取引ができる。しかも、株式や外国為替などの取引手数料は割安で、保険などの申込みでも保険料の割引が受けられる場合が多い。このように、インターネット経由の金融取引には利便性と格安さがあるため、個人の利用が増えている。

①ネットバンキングを行う金融機関に支店の設置は義務づけられてはいない。ネット上でしか営業していない金融機関も多くみられ、トラブルに対してもメールなどをを利用して対処している。③楽天市場やYahoo!ショッピングストアなどネット上のショッピングモールには多くのネットショップが出店している。これらの店を訪れて商品を購入する電子商取引は、企業だけでなく、個人も盛んに利用している。その決済では、宅配業者から商品を受け取るときに現金を支払う代金引換やATMからの銀行口座への振込み、クレジットカードによる支払いといった従来からみられる支払い方法だけでなく、近年はSuicaやnanaco、WAONといった電子マネーを利用した支払いも増加している。④外資系の金融機関も日本の金融機関と同様の業務を行うことができる。ただし、外資系の銀行は銀行間での取引が主体で、個人を相手にした預貯金の受け入れや融資を行うことは少ない。しかし、外資系の保険会社はさまざまな個人向けの商品を売り出して活発に活動している。

#### 問5 [15] ③

中央銀行である日本銀行は、金融政策を通じて物価や景気の安定を図っている。日本の金融政策の主要な手段としては、公定歩合操作、公開市場操作、預金準備率操作の三つが挙げられるが、近年ではこのうち公開市場操作が主要な政策手段となっており、この政策により金融機関同士が短期資金を融通しあう短期金融市場(コール市場)の金利である無担保コール翌日物金利(コールレート)を誘導している。日本銀行は、景気後退期には市中銀行から国債などを購入して(買いオペレーション、または資金供給オペレーションという)、市中銀行の資金量を増大させることで金融を緩和する。反対に景気が過熱しているときは、市中銀行に国債を売却して(売りオペレーション、または資金吸収オペレーションという)、市中銀行の資金量を減少させることで金融を引き締める。すなわち、日本銀行は、公開市場操作で市中銀行の資金量を調整することによって短期金融市場での資金の需給に影響を及ぼし、これを通じて市場金利(コールレート)を政策方針に沿って誘導して、ひいては市中銀行が企業に資金を貸し出

す際の金利に影響を及ぼすという形で景気の調整を行っているのである。

①ゼロ金利政策は、景気を金融面から下支えするために、これまでに三回(1999～2000年, 2001～2006年, 2010年～現在)実施されている(2012年9月現在)。しかし、この場合の金利は公定歩合(日本銀行が市中銀行に資金を貸し出す際の利子率)ではない。近年の金融政策では公定歩合操作は政策手段として用いられておらず、先に述べたように日本銀行は短期金融市場の無担保コール翌日物金利(コールレート)を政策金利として誘導しており、これを実質的にゼロとする政策がゼロ金利政策である。②日本銀行は、経済政策の効果が高まるように、自らが実施する金融政策と政府が実施する財政政策との整合性に配慮している。しかし、金融政策に対する政治的な圧力を排除するために、中央銀行は政府から独立して政策を実施することが原則とされており、1998年に施行された改正日本銀行法でも、政府代表委員制度(日本銀行の最高意思決定機関である日本銀行政策委員会に財務省などの代表が出席し議決権行使する制度)の廃止など日本銀行の政府からの独立性が強化された。したがって、日本銀行が、財務省の指揮監督の下に金融政策を実施するようなことはない。④今日では、預金(支払)準備率操作は主要な金融政策手段として機能しておらず、実際、日本銀行は1991年10月以降、預金準備率操作を実施していない。

#### 問6 [16] ②

日本銀行は、「銀行の銀行」、「政府の銀行」、「唯一の発券銀行」、金融政策の実施といった役割を担っている。日本銀行は市中銀行に資金を貸し出したり、市中銀行の預金の一部を預金準備として預かたりする「銀行の銀行」という役割を果たす際に、市中銀行が日本銀行に開設している口座を利用して資金の受払いを行う。

①日本銀行は「唯一の発券銀行」として、日本銀行券を発行し、国民経済に流通させていている。しかし、硬貨の製造および発行の権限は、日本銀行ではなく、政府に帰属している。なお、銀行券と硬貨を合わせて現金通貨という。③日本銀行は、政府や市中銀行、外国の中央銀行との間で資金の取引を行うが、個人や事業会社とは取引を行わない。したがって、事業会社に資金を貸し出すことはない。④財政赤字を補填するために国債を発行するのは政府であり、日本銀行が国債を発行することはない。ただし、国債の発行や償還、利払いなどにかかる事務手続きは、日本銀行の各支店や代理店(民間金融機

関)が窓口となって行っている。なお、政府は日本銀行に口座を開設しており、その口座を利用して税金などの国庫金の保管や出納業務がなされる。このような役割を「政府の銀行」という。

#### 問7 [17] ②

護送船団方式とは、金融機関の保護・育成を通じて金融の安定を図ることを目的として、政府がかつて行っていた金融行政のことである。現在でも金融機関は政府の監督・管理の下にあるものの、金融自由化の進展によって護送船団方式という保護的な金融行政は影を潜めている。

①1996年に「日本版金融ビッグバン」と呼ばれる大規模な金融制度改革の構想が打ち出され、1998年の金融システム改革法に基づき改革が進められた。具体的には、金融機関の競争を促進することで金融サービスの質的向上を図ること、金融取引の自由化や新しい金融商品の導入を認めることで投資家の選択肢を拡大すること、公正で透明な取引の枠組みやルールの整備を進めることなどの措置が実施された。②1949年に制定された外国為替及び外国貿易管理法では外国為替取引は一部の銀行などを除き「原則禁止」であったが、1997年の改正では法律の名称が外国為替及び外国貿易法に変更されるとともに、外国為替公認銀行制度と両替商制度が廃止されて、外国為替取引の大幅な自由化が進められた。④1997年の独占禁止法改正による持株会社設立の解禁を受けて金融機関の合併・再編成が進み、2000年代に入ると三大メガバンク(みずほフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ、三菱UFJフィナンシャルグループ)が誕生した。

### 第3問 今日の日本経済

#### 【出題のねらい】

本問は、1980年代から現在までの日本経済について、基本的な知識の有無や理解の程度を幅広く試すものである。この分野では、時事的な内容について問われることもあるので、教科書の内容理解にとどまらず、普段から資料集や新聞などにも目を通して、知識の更新を心がけてほしい。

#### 【設問別解説】

#### 問1 [18] ②

輸出自主規制とは、輸入国の要請により輸出国自らが輸出数量や価格などを規制することをいう。日本では、繊維、鉄鋼、自動車などの対米輸出に対して、輸出入取引法などにより実施された。このうち、1980年代に対米輸出自主規制が実施された品目は自動車である。

①「牛肉・オレンジの輸入制限」は誤り。牛肉・オレンジに関しては、1988年にアメリカとの間で輸入自由化の合意が成立し、1991年から輸入自由化がスタートした。これらは、日本の農産物輸入障壁の象徴として、20年以上にわたりアメリカが自由化を強く求めてきた品目であった。③「輸出拡大や規制強化」は誤り。1986年に発表された前川レポートは、貿易摩擦を解消する方策として、内需拡大や規制緩和を提言した。④「初めて」は誤り。日米貿易摩擦の対象品目は、1950年代半ばからの繊維に始まり、1960～70年代の鉄鋼・カラーテレビ、1980年代の自動車・半導体というように、日本の産業構造の高度化を反映して変化してきた。

問2 [19] ④

円高とは、円の対外的価値が高くなることであり、1ドル=200円から1ドル=100円へと為替相場が変化した場合、それは円高・ドル安を意味する。円高・ドル安が進むと、ドル建て預金を円に換算した時に為替差損が発生する。たとえば、残高が1万ドルの預金を円に換金する場合、1ドル=200円の時は200万円(200円×1万)であるが、為替相場が1ドル=100円になると100万円(100円×1万)になる。

①「円高・ドル安」は誤り。アメリカの金利が日本より高ければ、アメリカ向けの投資が増えドル需要が増加するので、ドル高・円安となる。②「円高・ドル安」は誤り。日本がインフレーションになると、安価な外国商品の輸入が増え割高な国産品の輸出が減少し、貿易収支が悪化してドルに対する需要が増えるので、ドル高・円安となる。③「ドル建て価格が下落……輸出が増加」は誤り。円高・ドル安が進むと、日本製品のドル建て価格が上昇するため、輸出量は減少する。

問3 [20] ②

バブル経済期の日本において、さまざまな商品の需要が拡大したことは確かであるが、円高により輸入品価格が下落したため、地価や株価などを除き、一般の消費財の物価はおおむね安定していた。また、「狂乱物価」は、第一次石油危機(1973年)により生じた物価の高騰を指す用語である。

①バブル経済期には、地価・株価の高騰により、土地や株式などを保有している国民と保有していない国民の資産格差は拡大した。③バブル経済期の低金利によるカネ余り(余剰資金の発生)という状況の中で、企業は余剰資金を土地や株式などの資産に投資して値上がり益(キャピタルゲイン)の獲得を図った。このような企業の財務手法を「財テク」というが、この時期は個人も資産への投資を活発に行い、

この個人投資家の投資行動も財テクと呼ばれた。④バブル経済期には、家計所得の上昇や労働時間の短縮などを背景にリゾート地などで余暇を過ごす国民が増えたことやリゾート法の後押しもあって、企業はスキー場やゴルフ場の建設などに対する投資を増加させた。

問4 [21] ③

日本は、第二次世界大戦後、均衡財政を維持してきたが、「昭和40年不況」と呼ばれる景気の悪化に対処するため、1965年度の補正予算で戦後初めて赤字国債を発行した。また、1966年には建設国債が発行され、これについては今日に至るまで毎年発行されている。なお、赤字国債は、1965年度に発行された後、しばらく発行されなかったが、第一次石油危機後の1975年度から1989年度までの間と1994年度以降、現在(2012年度)に至るまで継続発行されている。

①1998年の実質経済成長率はマイナスであった。②消費税は1989年に導入された。当初税率は3%であったが、1997年に5%に引き上げられた。④1990年代後半には、山一証券、北海道拓殖銀行、日本長期信用銀行、日本債券信用銀行などが相次いで経営破綻した。

問5 [22] ④

コメに関しては、GATTのウルグアイ・ラウンドの合意に基づき1995年から部分開放(ミニマム・アクセス)が始まり、さらに1999年にはコメの関税化が実施された。

①「農業所得の向上による他産業との所得格差の是正」を基本理念として掲げたのは、1961年に制定された農業基本法である。この農業基本法は1999年に廃止され、食料・農業・農村基本法(新農業基本法)が制定された。同法は、食料の安定供給の確保、国土保全など農業の多面的な機能の発揮、農業の持続的発展、農村の振興を基本理念として掲げている。②「10%」は誤り。現在、日本の総就業人口に占める農業就業人口の割合は4%ほど(2009年度で3.7%)である。③「70%」は誤り。現在日本の供給熱量自給率(カロリーベースでみた食料自給率)はおよそ40%で、先進国中最低水準である。

問6 [23] ③

戦後最長の景気拡大(2002年1月～2008年2月の73か月)は、デフレーションが発生する中での景気拡大であった。ちなみに、スタグフレーションは、第一次石油危機後の不況下のインフレを示す用語である。

①実質経済成長率の伸びが鈍かったこと、②輸出

が景気拡大の要因の一つであったこと、④格差拡大や貧困層の増加が社会問題化したことは、いずれも2002年から08年にかけての景気拡大の特徴として正しい。

#### 問7 [24] ⑧

完全失業率はマイナスになることはないので、図中Aが完全失業率を示すグラフであることが確定できる。次に、バブル経済崩壊後、地価は下落傾向が続いたことを知っていれば、2011年まで継続してマイナスを示している図中Cが市街地価格上昇率を示すグラフであることが判断できるだろう。最後に、残った図中Bのグラフは、プラスを記録する年もマイナスを記録する年もあるが、とくに2008年から2009年にかけて大幅に落ち込んでいるのは、リーマンショック(2008年)による世界同時不況の影響を受けた結果と考えられることから、雇用者報酬増加率を示すグラフであると推測できる。

以上から、適当な組合せは⑧となる。

### 第4問 日本の地方自治

#### 【出題のねらい】

本問は、日本の地方自治制度および地方自治の現状と課題に関わる諸問題について、基本的な知識を問うものである。地方自治に関して網羅的に出題しているので、これを機に、見落としがないよう十分理解を深めておいてもらいたい。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [25] ④

構造改革特別区域法に基づき、ある地域が政府から構造改革特区の認定を受けると、その地域に限定して規制が緩和されるため、これをを利用して地域の特徴を生かした独自の取組みを実施している地方自治体も少なくない。たとえば、大阪市のビジネス人材育成特区や群馬県太田市の外国語教育特区などがあった。

①道州制は、全国を10程度の道や州に分けて国の権限を大幅に移譲し、地方のニーズにあった効率的な行政運営をめざそうとするものであり、導入を求める声もあるが、現在のところ導入されていない。

②「平成の大合併」では、一定期間内に合併した地方自治体に財政上の優遇措置が講じられたこともあり、市町村の数は、1999年3月の3,232から、2010年3月末には1,727まで大きく減少した。③地方自治法が改正されて、地方自治体に行政監察官の設置が義務づけられたという事実はない。行政監察官(オングズマン)は、行政の活動が適正に行われているかどうかを国民・住民の代理人として監視・調査

し、是正勧告などを行う権限を有する機関で、1809年にスウェーデンで始まった。日本では、国政レベルにおいては採用されていないが、地方自治体レベルで、神奈川県川崎市など条例を制定して導入する地方自治体が増える傾向にある。

##### 問2 [26] ②

地方自治体は、固定資産税や住民税など地方税法に定めのある地方税のほか、地方税法に定めのない法定外税を総務大臣の同意を条件に新設することができる。法定外税は、使途が限定されない法定外普通税が従来から認められていたが、それに加えて、使途が限定される法定外目的税の新設が地方分権一括法によって認められるようになった。

①使途を限定しない一般財源として国から地方自治体に交付されるのは、地方交付税交付金である。地方自治体間の財政格差の是正を目的として、所得税・法人税・酒税の一定割合とたばこ税・消費税の一部が交付される。②使途を限定した特定財源として国から地方自治体に交付されるのは、国庫支出金である。国が地方自治体を財政的に統制する手段となりやすい。③もともと固定資産税は地方税なので、国税である固定資産税が地方税に移譲されたというのは誤りである。なお、小泉政権(2001~2006年)は、地方財政の独立性を高めるためとして、国庫補助金(国庫支出金)の削減、地方交付税の見直し、国から地方への税源移譲を一体として行う、「三位一体の改革」を推進した。しかし、地方交付税が大幅に削減されたため、地方交付税に依存していた多くの地方自治体の財政は逼迫するようになり、従来から地方税収入が潤沢にある地方自治体との格差が拡大した。

##### 問3 [27] ②

地方分権一括法は、国と地方の関係を、従来の上下・主従の関係から対等・協力の関係に改めることを目的として、地方自治法など関連する475の法律の改正を一括して行うために1999年に制定された。同法により、事務処理に関する国の関与に不服がある場合、地方自治体は、総務省に創設された国地方係争処理委員会に審査の申立てを行うことができるようになった。

①地方自治体が法令の範囲内で責任をもって処理すべき事務は自治事務である。都市計画の決定や飲食店の営業許可などがこれにあたる。旧来の事務区分では、地方自治体本来の事務である固有事務、自治体の長など執行機関に委任される機関委任事務、地方自治体そのものに委任される団体委任事務の3つに区分されていた。③地方分権一括法により廃止

されたのは機関委任事務である。同法により、地方自治体の事務は自治事務と法定受託事務に再編された(①④の解説を参照)。④本来は国が実施すべきであるが、適正な処理を確保するため、地方自治体に処理を委ねることが適当な事務は法定受託事務である。国政選挙の事務やパスポートの交付などがこれにあたる。

問4 [28] ②

住民は、有権者の50分の1以上の署名をもって、首長に条例の制定を請求することができるが、この請求が行われた場合、首長は議会に付議し、その結果を公表しなければならない(地方自治法第74条)。したがって、法定数以上の署名を付して議会に対して条例の制定が請求されても、条例の制定そのものは議会の権限であるから、「議会はその条例を制定しなければならない」わけではない。

①地方自治体の議会は首長に対する不信任決議権を有し、また、首長は議会の解散権を有する。地方自治体の議会が首長に対する不信任決議を行った場合、首長は10日以内に議会を解散することができる(地方自治法第178条)。③地方自治体の首長は、条例の制定・改廃または予算の議決について異議がある場合、拒否権を行使して再議に付すことができる。ただし、この場合、議会が出席議員の3分の2以上の多数で再可決すれば議案は成立する(地方自治法第176条)。④住民は、有権者の3分の1以上の署名をもって、選挙管理委員会に議会の解散を請求することができるが、この請求が行われた場合、住民投票に付され過半数の同意があれば議会は解散しなければならない(地方自治法第76条・第78条)。

問5 [29] ⑥

まず、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」を考えてみよう。これには一定の経費が必要であるが、人口が多くなるほど1人当たりの額は少なくなるから、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」の割合は、地方自治体の規模が大きくなるほど小さくなると推測できる。したがって、AかBがこれに当たるはずである。

次に、「農林水産業費」を考えてみよう。大都市部であればあるほど農林水産業は盛んではない。反対に、規模が小さな町村では一般に農林水産業が盛んで、しかも過疎化が進み人口が少ないと考えられるので、「農林水産業費」の割合は地方自治体の規模が小さくなるほど大きくなると推測できる。以上から、やはりAかBがこれに当たると判断できるが、Aは大都市部でも一定の割合を占めているのに對し、Bは大都市部ではごくわずかの割合しか占め

ていない。大都市部では農林水産業が盛んではない一方、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」はいずれの地方自治体も一定額が必要であることを考えれば、Aが「事務管理・庁舎管理費等の総務費」であり、Bが「農林水産業費」であると判断できる。

最後に「教育費」は、いずれの地方自治体の児童・生徒も一定水準の教育を受けているはずであるから、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」や「農林水産業費」に比べて、地方自治体の規模による割合の差異は小さいと推測できる。したがって、Cが「教育費」であると判断できる。

以上から、正しいものは⑥となる。

問6 [30] ④

在日米軍基地の整理縮小(沖縄県)や、原子力発電所建設の是非(新潟県巻町)など、国の重要政策に関わる問題が住民投票の対象となつたことがある。

①住民投票条例に基づく住民投票は、日本国憲法や地方自治法上の制度ではなく、投票結果に法的拘束力はない。②住民投票条例に基づく住民投票は、公職選挙法の拘束を受けないため、20歳未満の未成年者や外国人などにも投票権を認めることができる。③在日米軍基地の整理縮小をめぐり、沖縄県で1996年に実施された住民投票が、都道府県レベルではこれまでのところ唯一の住民投票である。

問7 [31] ①

「フランスの政治家トクヴィル」をイギリスの政治学者ブライスに直せば正しくなる。ブライス(1838~1922)は、主著『近代民主政治』において、「地方自治は、民主主義の源泉であるばかりでなく、民主主義の学校である」と述べたことで知られる。この言葉は、地方自治は、住民が地域の政治に参画することを通じて、民主主義を運営していく方法や能力を身につける重要な場である、との考え方を示したものである。なお、フランスの政治家・歴史家であるトクヴィル(1805~59)も、主著『アメリカのデモクラシー』で「地域自治の制度が自由にとってもつ意味は、学問に対する小学校のそれに当たる」と述べて、地方自治の重要性を指摘している。

②アメリカのニューエングラムでは、建国期にタウンミーティングと呼ばれる直接民主主義的制度が発達した。タウンミーティングは、地方自治の最小単位であるタウンの全住民が参加する、タウンの最高意思決定機関であった。③スイスは、独自の憲法を有する多数のカントン(州)によって構成される連邦国家である。④单一国家であったベルギーは、南北の言語的対立から政情不安定となっていたため、1993年に憲法を改正し、オランダ語、フランス

語、ドイツ語の三つの言語共同体などからなる連邦国家に移行した。

## 第5問 現代の民主政治の課題

### 【出題のねらい】

本問では、現代の民主政治における課題について出題した。現代国家の特徴である行政国家化現象に関して、その具体的な現象や官僚制、行政を民主化するための具体的な仕組みを、また国民の政治参加に関わる問題として、政治的無関心や世論、NPO法について問うた。いずれの事項も学習が手薄になりがちだが、点数の取りこぼしをなくすためにはきちんと押さえておきたい。

### 【設問別解説】

#### 問1 [32] ②

行政国家化の現象の一つに、議員提出法案よりも内閣提出法案の方が可決される割合が高いことが挙げられる。その他に知っておきたい行政国家化の現象としては、委任立法の増大(①の解説を参照)、行政指導や許認可権限の拡大などがある。

①行政権の肥大化が進むと、法律によって大枠を定め、より詳細な内容については政令や省令など行政機関が制定する命令に委ねる委任立法が増加する。②行政指導とは、行政機関が一定の政策目的を達成するために、企業や地方自治体などに作為または不作為を求める事をいい、指導、勧告、助言という形で行われる。法律上従う義務はないが、行政機関がもつ許認可権限などを背景にして行われるので、指導を受けた側は事実上服従を強いられる。こうした行政指導が恣意的に行われないように1993年に、行政手続法が制定され、行政指導の手続きが定められるなどの透明化が図られたが、行政指導が禁止されたわけではない。③官僚から国会議員への転身は、現在でも多くみられる。

#### 問2 [33] ②

天下り(退職した公務員が勤務していた官庁と関係の深い私企業、特殊法人、団体などに再就職すること)は、国家公務員法などで規制されてはいるが、全面的に禁止されているわけではない。

①行政組織はその職務権限ごとに縦割りとなっており、それぞれの公務員(とその所属組織)は、自らの職務権限に横やりが入れられたり、自らの権限を奪われたりすることを警戒して、情報を組織横断的に共有しようしないことが多い。また、自らの職務に關係が薄い事柄については、面倒を避けようとするあまり、協力しようとせず、その結果、有効な対応策を講じることができないという弊害が生じる

こともある。②深刻化する財政赤字を背景として、公務員給与の引き下げが実施されたことがある(2002年の国家公務員給与の引下げ)。③行政機関の肥大化に伴って公務員の数は一般に増加していくが、今日の日本では行政改革の一環として公務員数の抑制が行われている。

#### 問3 [34] ②

情報公開法(1999年制定)は、日本国籍をもたない者や未成年者にも情報の開示を請求できる権利を認めている。また、個人だけでなく企業などの法人も情報の開示請求ができる。

①独立行政法人は、行政の効率化を目的として2001年から導入された制度である。②パブリックコメント(意見公募手続)制度とは、国の行政機関が政令や省令などで規制を新設したり改廃したりする場合に、事前にその案を公開して国民の意見を求める制度のこと。同制度は行政手続法の改正(2005年)により国の制度として導入されたので、「国レベルではまだ導入されていない」というのは誤り。③行政委員会は、国だけでなく地方自治体にも設置されている。たとえば、国には公正取引委員会や国家公安委員会などが、また地方自治体には選挙管理委員会や教育委員会などがそれぞれ設置されている。したがって、「地方レベルでは設置されていない」というのは誤り。

#### 問4 [35] ③

選挙は通常、地域ごとに選挙区を設けて議員を選ぶ仕組みとなっている。そのため、地域の利益を議員や政党を通して政治に反映させることは比較的容易だが、特定の職業や団体の利益を政治に反映させることは難しい。こうした背景から、特定の職業や団体の利益を政治に反映させようとして議会や行政機関などに直接働きかけるのが圧力団体である。したがって、圧力団体は、選挙で反映されない利益を政治に反映させる役割を果たしてもいることができる。

①圧力団体は、国民全体の利益ではなく、特定職業・団体の特殊利益を実現しようとして活動するが、政権の獲得はめざさない。したがって、「政権獲得をめざす」というのは誤り。②日本経済団体連合会(日本経団連)は財界の圧力団体であって、消費者の圧力団体ではない。日本における消費者の圧力団体としては、主婦連合会(主婦連)や消費者機構日本などがある。③圧力団体は19世紀末ごろにアメリカで出現し、その後、各国に広がった。アメリカでは、圧力団体の代理人として活動するロビイストと呼ばれる人々が、法律の規制の下で活動している。

問5 [36] ④

特定の支持政党をもたない人々を無党派層といふ。現在、こうした人々は増加する傾向にあるので、「減少する傾向にある」というのは誤りである。

①2003年の公職選挙法改正により期日前投票制度が新設された。従来からある不在者投票制度に比べ手続が簡略化されるなど投票をしやすい仕組みになっている。投票率の向上を目的とした改正としては、これに先立って投票時間の延長も行われている(1997年)。②現代における政治的無関心の特徴は、政治について一定の知識をもちながらも、一票を投じても現実の政治が変わるものではないといった無力感や、政治腐敗などがなくならないことから政治に対する嫌悪感や不信感を抱く結果、政治から身を引くという点にある。また、私生活中心の考え方から政治に関心を寄せなくなるという側面もみられる。③衆議院と参議院いずれの選挙についても、20歳代、30歳代と10歳刻みで投票率を比較すると、ほとんどの場合20歳代が最も低い。

問6 [37] ③

民主政治は世論に基づく政治でなければならないが、それは少数意見を取り入れる必要がないとか、取り入れるべきではない、といった意味ではない。民主政治においては少数意見を尊重しつつ討論を重ね、譲歩が必要な場合には譲歩をしてより良い意見や一致点をめざさなければならない。したがって、マスメディアは少数意見や異論をむしろ積極的に取材・報道して広く国民に知らせ、議論を喚起することが求められる。

①世論調査は、調査の仕方によってはその結果が変わりうる。また、マスメディアや政府も世論調査

を行うが、それぞれ質問の重点の置きどころが異なっていたりするので、調査主体によって異なる結果が出てくることがある。②投票日前にマスメディアが候補者の当落予想などをを行うと、その情報に接した有権者の投票行動が変わることがある。こうした効果をアナウンス(メント)効果と呼ぶ。④新聞社やテレビ局などのマスメディアの大半は民間企業であるが、これらの企業は広告収入に依存しているため報道内容には、広告主(スポンサー)の意向が反映されやすい(たとえば、報道する情報の取捨選択を行ったり取扱いの軽重を決めたりする際にスポンサーに配慮する)。その意味で、マスメディアは事実をそのまま報道しない場合がある。

問7 [38] ①

NPO法(特定非営利活動促進法)は、有給で職員を雇うことを禁じていない。ただし、理事などの役員については報酬を受ける人数に制限がある。

②各種の社会参加を促進するため、こうした活動に取り組む団体が法人格をできるだけ容易に取得できるようにした点がNPO法の特徴の一つである。したがって、NPO法では非営利活動に取り組む団体が法人格を取得することが認められている。③NPO(非営利組織)は介護保険法に基づく介護サービスを提供することもできる。NPOが禁止されているのは、営利(法人の構成員に収益や財産を分配したりすること)を目的とした事業、政治活動や宗教活動などである。④NPOは運営資金に充てるために個人や企業・団体から寄付を受けることができる。また、介護サービスを有料で提供するなど収益事業を行って、その収益を運営資金に充てることもできる。

## 倫理、政治・経済

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	2		
	問2	2	①	2		
	問3	3	④	2		
	問4	4	①	3		
	問5	5	④	3		
	問6	6	②	3		
	問7	7	④	3		
第1問 自己採点小計			(18)			
第2問	問1	8	①	2		
	問2	9	⑤	3		
	問3	10	④	3		
	問4	11	③	2		
	問5	12	③	3		
	問6	13	⑤	2		
	問7	14	③	3		
第2問 自己採点小計			(18)			
第3問	問1	15	①	3		
	問2	16	②	3		
	問3	17	⑧	3		
	問4	18	⑦	2		
	問5	19	④	3		
第3問 自己採点小計			(14)			
第4問	問1	20	①	2		
	問2	21	④	3		
	問3	22	②	2		
	問4	23	⑥	2		
	問5	24	②	3		
	問6	25	②	2		
第4問 自己採点小計			(14)			

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	26	②	3		
	問2	27	④	3		
	問3	28	②	2		
	問4	29	③	3		
	問5	30	④	3		
	問6	31	③	2		
	問7	32	③	2		
第5問 自己採点小計			(18)			
第6問	問1	33	④	3		
	問2	34	②	2		
	問3	35	②	3		
	問4	36	②	2		
	問5	37	⑥	2		
	問6	38	④	3		
	問7	39	①	3		
第6問 自己採点小計			(18)			
自己採点合計			(100)			

### 【解説】

#### 第1問 東西の源流思想と日本の思想

##### 【出題のねらい】

本問では、古代ギリシア哲学、古代中国の思想、古代インドの思想といった東西の源流思想を中心に、古代日本人の宗教観、日本の文化・美意識についても取り上げた。出題の形式面では、本文趣旨読取り問題のほか、2012年度の本試験でも見られた二つの資料文を比較しながら内容を読み取る設問も出題した。

##### 【設問別解説】

###### 問1 1 ③

アリストテレス(前384～前322)は、師のプラトン(前427～前347)が個々の事物から独立した普遍的なイデアを真の実在だと考えたことを批判し、事物の本質である形相(エイドス)は個々の事物に内在し、素材にあたる質料(ヒュレー)とともに事物を現実化させると考えた。

①プラトンは、魂を理性・気概・欲望の三つの部分に分け、それぞれの徳を知恵・勇気・節制だと考えたうえで、理性が気概と欲望を統御して魂全体の調和が生まれるととき、正義が実現されると主張し

た。国家も、これに対応して統治者(理性)・防衛者(気概)・生産者(欲望)という三つの階級から構成されると考え、イデアを認識する知恵の徳を身につけた哲学者が国家を統治するとき(哲人政治)、理想國家が実現すると説いた。②前半は正しいが、エピクロス(前341?～前270?)は、眞の快樂を一時的・肉体的なものではなく永続的・精神的なものと考え、これを実現する魂の平静(アラクシア)を賢者の理想としたので、後半は誤り。④ゼノン(前335?～前263?)は、自然全体が理性(ロゴス)の支配する世界であり、自然に反した欲望・快樂などを克服して(禁欲主義)，自然と一致した魂の状態、すなわち不動心(アパティア)を実現すべきだと考えた。このような考えは、ポリスの枠に縛られない世界市民(コスモポリテス)としての生き方を示したものであり、のちの自然法思想の源流の一つとなった。

#### 問2 [2] ①

老子(生没年不詳)は「大道廢れて仁義あり」と述べ、本来の道が失われたから、儒学の説くような人為的な人倫である仁や義が現れるのだと批判した。老子の考える本来の道とは、万物の存在を成り立たせているが、それ自体を対象として捉えることのできない無(無名)というべきものであり、理想の人間の生き方は、このようなものとしての道に従う無為自然にあるとされた。

②荀子(前298?～前235?)は性惡説をとり、社会の秩序を保つためには教育によって人々に礼を身につけさせる必要があると主張した(礼治主義)。③孔子の教えは、四書五經(『論語』『孟子』『大学』『中庸』)と『詩經』『書經』『易經』『春秋』『礼記』などによって体系化された學問としての展開のほかに、祖先祭祀や葬送儀礼に関する一種の民間信仰のかたちをとて民衆に受け入れられていった。④墨子(前470頃～前390頃)は兼愛交利を説き、無差別・平等の博愛によって互いの利益を図るべきだと主張した。

#### 問3 [3] ④

イエスに関する資料(「ヨハネによる福音書」19章の一部、新共同訳『聖書』日本聖書協会から引用)は、イエスに反発したユダヤ教の指導者が、彼をローマに対する反逆者として告発し、これを受けたローマの属州総督がイエスを尋問し拘束しようとしている場面である。このあと、イエスは十字架上で処刑される。

ソクラテスに関する資料(田中美知太郎訳『ソクラテスの弁明』から抜粋—『プラトン全集』1、岩波書店から引用)は、ソクラテスが、裁判でアテネ

の人々を前にして行った弁明の一節である。ソクラテスは、青年を惑わし國家の認める神を認めなかつたという罪で死刑判決を受け、このあと自ら毒杯を仰いで死んだ。

どちらも、死を前にした一場面というだけでなく、それぞれの信仰や哲学を象徴する重要な内容を表している。

イエスは「わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い」と述べ、ソクラテスは「この諸君は、眞実によって裁かれ、劣悪と不正の刑を負わされて、ここから出でていくのだ」と述べて、どちらも自分を告発したり裁いたりした人々が不正であり罪があると考えている。しかし、ピラトの尋問に対して「答えようとされなかった」イエスも、「わたしも、この裁定に服すが」と述べたソクラテスも、どちらも不当な死刑に対して抵抗しようとしている。なぜなら、イエスは死の直前に、「父よ、わたしの靈を御手に委ねます」と述べて、すべてを神の心のままに委ねようとし、ソクラテスは逃亡という不正を犯すよりも、国法に従って死ぬことが正義であるという信念に従おうとしたからである。

①上に述べたように、イエスは律法を字義通り守ることに重点をおくユダヤ教の指導者を批判していましたし、ソクラテスは引用の冒頭で、死をまぬかれるよりも不正をまぬかれるほうが難しいと述べて、不正を避けるために死を選ぶ意思を表明している。②前半は正しいが、イエスは「わたしに対して何の権限もないはずだ」と述べ、属州総督やユダヤ教指導者の権限を否定しているので、後半は誤り。③冒頭にあるように、ユダヤ教の指導者はイエスが律法に背いたとして告発したので、前半は正しい。ちなみに、彼らの告発はもう一つ、イエスが「ユダヤ人の王」と自称してローマの支配を否定したという点であった。しかし後半は、ソクラテスに関する資料文からは読み取ることができず(ソクラテスが「神の子」と自称した事実もない)、むしろイエスの資料文の中に「神の子」という言葉が見えるので誤り。なお、ソクラテスの罪状とされたのは、アテネのボリスが公認したギリシアの神々以外に、「デーモンの声」と称して他の神を信仰したという告発である。

#### 問4 [4] ①

ブッダ(前463?～前383?)の教えをまとめた四法印によれば、人生は苦に満ちている(一切皆苦)が、あらゆる現象は変化していく常なるものではなく(諸行無常)、不变の実体としての我也存在しない(諸法無我)という真理を自覚すれば、私たちは永遠の

安らぎの境地(涅槃寂靜)に至ることができる。この選択肢は一切皆苦についての記述にあたる。仏教では、生・老・病・死の四苦に、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦を合わせて四苦八苦と言う。

②ブッダの説く四諦は、生きることは苦である(苦諦)，苦の原因は煩惱にある(集諦)，煩惱を滅することによって苦をなくすことができる(滅諦)，そのための修行法は八正道である(道諦)という四つの真理からなる。したがって、煩惱を肯定しているこの選択肢は誤り。無為自然は②①の解説でも触れた道家の老子の考えである。③六信五行はイスラーム教の宗教的な義務であり、アッラー・天使・聖典・預言者・来世・天命を信じることと、信仰告白・巡礼・礼拝・断食・喜捨を行うことである。④縁起の法は仏教の根本的な教えの一つであり、バーラモン教の教えではない。

問5 ⑤ ④

日本神話に登場する天照大神は、『古事記』や『日本書紀』すなわち記紀によれば太陽を神格化した神である。高天原(天津神と呼ばれる神々の住む世界)を主宰し、皇室の祖神(皇祖神)の一柱とされる。ただし、日本の神々(八百万の神)は祀り祀られる神であり、天照大神もユダヤ・キリスト教やイスラーム教に見られるような「すべてを創造した全知全能」の唯一絶対神とは考えられていない。

なお、①②③の記述はいずれも正しい。

問6 ⑥ ②

平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した歌僧である西行(1118~90)は、六家集の一つに数えられる『山家集』を残した。なお、この西行に憧れていたのが、江戸時代前期の俳諧師で、紀行文『奥の細道』などによって知られる松尾芭蕉(1644~94)である。

①室町時代に能楽を大成した世阿弥(1363?~1443?)の秘伝書は『風姿花伝』である。『葉隠』は、江戸時代の武士である山本常朝(1659~1719)の口述による武士の心得を論じた書物である。また、世阿弥が追求した美意識は「わび」ではなく、『新古今和歌集』の歌風に基づくとされる「幽玄」である。「わび」とは、物質的な不足を心の充足によって補い、満たす精神のことであり、茶道などにおいて重んじられる美意識である。③龍安寺の石庭など、池や滝などの水を用いず、石や砂などによって山水の風景を表現する枯山水は、室町時代以前から作庭の技法として用いられ、特に室町時代の禅宗寺院で「悟り」を表現する手段として多く作庭され

た。人為的に作庭する以上、「自然物を人間が配置しなおすことなく自然を表現する」ことは不可能である。④一般に「わび」の美を追求する茶道においては、仏像等を用いて「茶室を莊嚴する」とは考えられない。また、村田珠光(1422~1502)は「わび茶」の創始者と目されている室町時代中期の茶人でかつ僧侶であり、そのわび茶を大成したのが千利休(1522~91)である。なお、江戸時代の行脚僧で、今日の人をも魅了している慈愛に満ちた微笑をたたえた木彫りの仏像(「円空仏」)を、生涯に12万体も彫ったと伝えられているのは、江戸時代前期の行脚僧である円空(1632~95)である。

問7 ⑦ ④

本文最終段落の冒頭に「哲学と宗教は異なる方法をとることもあるが、ともに、自然科学など他の領域では解明できない、人間をめぐる諸問題について考察するという重要な役割を果たしていることが分かる」と述べられている。

①上述の引用にあるように、自然科学とは異なる面があることが強調されている。②前半は、確かに本文第4段落で一般論として紹介されているが、これに対する問題文の評価は、本文最終段落にあるように「哲学と宗教は、どちらも人間にとって優劣なく有用なものである」という両者に対する肯定である。③哲学に関しては、本文第2段落で「『理性によって』ということが哲学の特徴の一つだと言えそうである」と述べられている。

## 第2問 西洋の近現代思想と現代の倫理的課題

### 【出題のねらい】

本問では、カント、ロック、ヒューム、サルトル、ロールズなど西洋の近現代思想を総合的に取り上げるとともに、「人間の安全保障」についての設問も出題した。これを機会に、これらの思想家についての理解を深めておこう。また、資料文読解問題や本文趣旨読み取りも出題したので、こうした形式の設問にも習熟しておこう。

### 【設問別解説】

問1 ⑧ ①

カント(1724~1804)は、人間の認識能力の吟味を通して、経験論と合理論との批判的総合を試みたことで知られる。彼は、経験論が理性の働きを過小に評価していることや、合理論が理性の能力を過大に評価する状況を克服するために、両者を批判・総合して理性の能力を吟味するという批判主義(批判哲学)の立場を主張した。カントによれば、人間の科学的な認識は、感性が受け取る素材と、理性のもつ

理解の形式(カテゴリー)の協働によって成り立つ。つまり、人間の科学的な認識は、感覚的な経験なしに成立せず、また、経験によって得られた素材を能動的に秩序づける理性がそなわっていなければ、素材は混沌として無秩序であり、認識とはならないのである。

②カントは、各人が自らの理性によって打ち立てた道徳法則に自ら従う(実践理性の命令に従う)ところに人間の真の自由があると説いている。彼によれば、各人の理性の命令である道徳法則は定言命法(無条件の命令)として人間に「為すべし」と呼びかけるものであり、その命令は、誰に対しても正しいこととして通用するものである。そして、この定言命法は、仮言命法(もし～ならば…せよ、という条件つきの命令)との間に一線を画するものである。したがって、「外部の力によって課せられる命令」を定言命法と呼んだというのは誤りである。また、外部の命令に従う他律的存在に人間の真の自由があるとする点でも誤りである。③「幸福を求めるのではなく、幸福に値するものとなれ」とカントは主張した。つまり、彼は、行為の結果がどのようなものであれ、道徳法則の命じるところに従うという義務の念から生じた行為だけが真に道徳的価値をもつと考え、動機の善さ、すなわち行為の源泉としての意志の善さ(善意志)だけが善という性質をもつと主張した(動機主義)。このようにカントは、幸福になることを人生の目的とする幸福主義を斥け、幸福に値する生き方をすることに価値をおく人格主義の倫理を説いたのである。なお彼は、道徳法則に自律的に従って行為する自由な主体を人格と呼び、人格としての人間は、それ自身が絶対的な価値をもつ存在であると説いている。そして、人格としての人間は、目的として尊重されなくてはならないのであって、決して単なる手段としてのみ扱われてはならないとカントは言う。彼にとって、人間が追求しなければならないのは、幸福それ自体ではなく、幸福に値する人格の完成であった。④ドイツ観念論の完成者と言われるヘーゲル(1770～1831)の思想を想定した記述である。ヘーゲルは、カントと同様に、自由の実現は理性の働きと深く関わるものであると考えていた。しかし、ヘーゲルは、カントの説く自由(自ら打ち立てた道徳法則に主体的に従う自律としての自由)を個人の内面にとどまる主観的自由であると批判し、自由は個人の内面の主観的なあり方にとどまらず、現実社会の客觀的な法や制度に現れる人倫の問題としても捉えたのである。ヘーゲルによれば、人倫は、人間が生活するうえで行為の規範となる法

と道徳とを総合したものである。そしてヘーゲルは、法の客觀性と道徳の主觀性をともに生かしながら総合した人倫としての共同体において、個人的自由と社会的自由がともに実現されると説いた。

問2 9 ⑥

[a]には、社会契約説が入る。霍ップズ(1588～1679)、ロック(1632～1704)、ルソー(1712～78)らに代表される社会契約説とは、政治社会の成立を、自由で平等な個人相互の自発的な契約(合意)に求め、それによって政治権力の正統性を説明しようとする理論の総称である。アメリカの政治哲学者ロールズ(1921～2002)は、近代の社会契約説の方法を用いながら「公正としての正義」を提唱した。「公正としての正義」は、自由で平等な契約当事者が公正な社会制度の基本ルールを相互に承認し合うという意味で、社会正義を中心においた構想である。なお、選択肢中にある社会進化論は、イギリスの社会学者スペンサー(1820～1903)などによって提唱された考え方で、ダーウィン(1809～82)の生物進化論(生存競争、自然選択の考え方)を人間社会に適用しようとするものである。

[b]には、無知のヴェールが入る。無知のヴェールは、自由で平等な契約当事者が、社会契約を締結する前に、自分がどのような社会的地位や具体的な状況(人種、性別、資産など)の下にあるかについて知らない状態を言う。ロールズによれば、こうした条件のもとでは、特定の個人のみに都合のよい選択をすることができないため、結果として全員が受け入れざるを得ないルール(正義の原理)が採択されることになる。ここにいう正義の原理は二つあり、一つ目は、自由の権利は誰にでも平等に与えられるべきであるというもの(第一原理)である。そして二つ目の正義の原理は、社会的・経済的不平等は、公正な競争や参加の機会が誰に対しても平等に保障されたうえで生じたものに限られ、そして、社会的に最も不遇な人々の境遇を改善するものである限りにおいて認められるというもの(第二原理)である。なお、選択肢中にある存在忘却は、実存主義の哲学者ハイデッガー(1889～1976)の用語で、日常的な生活に没個性的な「ひと(ダス・マン)」として埋没して、自己の固有性を忘れていることをさす。

[c]には、社会的・経済的不平等が入る。[b]の解説にもあるように、ロールズは、「社会的・経済的不平等は、最も不遇な人々の境遇を改善するものである限りにおいて認められる」とする正義の原理を提唱している。つまり、社会的・経済的不平等は、地位や職務につく機会が公平であり、社会的に

最も不遇な人々の境遇を改善する限りにおいて容認されると主張している。このような考えは、福祉政策を基礎づける価値原理に一つの理論的な拠り所を与えたものと言える。

以上により、適当な組合せは⑥となり、これが正解となる。

問3 [10] ④

資料文はアーレント(1906~75)著『過去と未来の間』(引田隆也・齋藤純一訳、みすず書房)からの引用である。資料文の最初の一文で、「嘘を語る者は、彼の話に耳を傾ける人々の利益や快樂に添うように、あるいは彼らのたんなる期待に添うように、自由に彼の『真実』を作り変えるので、おそらく彼のほうが真理を語る者よりもはるかに説得力に富む」と述べられている。④の「本当らしく聞こえる嘘の情報は、人々の期待に添うように語られるため、人々に受け入れられやすい」という記述は、この部分の内容に合致する。なお、資料文は、「あらゆる出来事に顕著な性格の一つ、つまり予期せぬことという要素が丁寧にも消し去られているため、彼の説明のほうがいわばより論理的に聞こえるのである」と述べており、「嘘を語る者」が情報操作を行うこと、すなわち「事実を歪めてしまうこと」について言及している。アーレントは、真実を語ることが政治的徳の一つとみなされない状況(事実や歴史を歪曲し、意見の大衆操作を行う政治状況)に警鐘を鳴らしているのである。

①資料文の最初の一文で、「嘘を語る者は、彼の話に耳を傾ける人々の利益や快樂に添うように、…おそらく彼のほうが真理を語る者よりもはるかに説得力に富む」と述べられている。この部分から、「嘘を語ることには、真実を語ることに比べ、説得力がない」とする記述は資料文の内容に反すると判断できる。②資料文の最後の一文で、「リアリティも、利益や快樂ばかりでなく、常識の推理の健全さに事あるごとに逆らうのである」と述べられている。つまり、リアリティ(真実性)が利益・快樂の実現の妨げとなることや、理性的に常識を疑うことの妨げとなることについて述べられている。しかし、リアリティが「常識の推理の健全さを重視することによって生まれる」といった説明はされていない。むしろ資料文は、嘘を語ることによって生まれるリアリティについて述べている。③資料文の半ばで、「予期せぬことという要素が丁寧にも消し去られているため、彼の説明のほうがいわばより論理的に聞こえるのである」と述べられている。つまり、嘘の情報というものは、「予期せぬ要素」を多く盛り込

むのではなく、むしろ丁寧に消し去ることによって、論理的なものとなると説明されているのである。

問4 [11] ③

アのロックは、17世紀イギリスの哲学者で、経験論者、社会契約論者として知られる。彼は、Bで述べられているように、世俗的な目的をもつ国家と、魂の救済のための自由で自発的な結社である教会とを区別し、為政者が信仰に干渉しないという政教分離の観点から、宗教的寛容について論じた。なお、仮にこの点について知らなかったとしても、冒頭の「イギリスの名誉革命を理論的に正当化する内容を含む『統治二論』を著した」という記述から、Bがロックについての説明であると分かるだろう。

イのヒューム(1711~76)は、18世紀イギリスの哲学者で、『人性論(人間本性論)』において、Aのように、共感は人間本性、つまり人間の自然に根差す原理であり、道徳的判断においても大きな影響を及ぼすと説いている。こうしたヒュームの共感論は、各人が公平な第三者の共感を得られる範囲で行動するなら、利己的行為も是認されるというアダム・スマス(1723~90)の思想にも影響を与えた。

ウのヴォルテール(1694~1778)は、18世紀フランスの啓蒙主義を代表する思想家で、『寛容論』において、Cのように、人間界における見解の多様性と、その多様性への寛大さを求める「自然の教え」について説き、宗教的な狂信を批判した。

エのモンテニュ(1533~92)は、16世紀フランスの思想家で、人間の心理や社会のあり方を冷静に観察し、人間の真の生き方を探究した代表的なモラリストである。彼は、Dのように、不寛容の原因を、自己反省の欠如に由来する偏見や独断にあるとし、「ク・セ・ジュ(私は何を知っているのか)」という言葉で言い表される懐疑主義の立場から、謙虚に自己の内面を吟味しつつ、独断と偏見を排して、様々な価値観や思想を受け入れていくべきことを説いた。

以上より、正しい組合せは、③の ア—B イ—A ウ—C エ—D である。

問5 [12] ③

サルトル(1905~80)によれば、人間はペーパーナイフのように人間が製作したものとは違い、あらかじめ本質が決まっているわけではなく、自己の自由な選択を通じて自分自身を作りあげていく存在である(『実存は本質に先立つ』)。そして彼は、人間は社会的現実に拘束されながら、同時にその現実を作り変えていく存在であるがゆえに、その人間の自由な

働きかけには、自己のみならず、全人類に対する責任が伴うと考えた。この観点からサルトルは、人間が自己を社会に関わらせていくこと、すなわち社会参加(アンガージュマン)の大切さを説いた。

①ハイデッガーの思想についての記述である。ハイデッガーは、人間は自分の存在の終わりである死を自覚できる存在であるとして、これを「死への存在」と名づけた。そして彼は、「死への存在」であることから目をそらし、世間に埋没して、うわき話や好奇心で不安をまぎらわす人間を「ひと(世人、ダス・マン)」と呼び、それは自己を喪失した非本来的なあり方であるとした。ハイデッガーは、誰もが避けることのできない私の死という現実を直視し、それを積極的に引き受けることによって、本来の自己に立ち返ることができると説いた。②レヴィナス(1906～95)の思想についての記述である。レヴィナスは、第二次世界大戦中にナチスによるユダヤ人虐殺によって家族を失った経験を背景として、「他者」についての思想を説いている。レヴィナスによれば、「他者」の最も基本的な性格は、「私」とは根本的には同じではあり得ないということ(他性)であり、また「他者」は「私」の自己意識の中に取りこむことができないがゆえに圧倒的な重みをもつ存在である。このような観点から、彼は、自我を中心にしてすべてを説明しようとする思考(全体性)を生み出した近代哲学を批判し、倫理は自我からではなく、「私」が「他者」の重みに対する責任を引き受けざるをえないと説いた。④「本来の自己を見失って絶望する人間は、信仰への決断によって真の実存を回復できる」とする後半部分の記述は、キルケゴール(1813～55)の思想についての記述である。キルケゴールは、個性的な本来の自己を見失い、平均化・画一化され、大衆の一員になりきがっている当時の人々のあり方を批判した。彼によれば、本来の自己を見失って絶望する人間は、理性によっては根拠づけられることのない信仰への決断、すなわち単独者として神の前に立つことによって、主体的な自己の存在(実存)を回復できる。

問6 [13] ⑤

[A]には、「人間の安全保障」が入る。人間の安全保障とは、軍備や軍事同盟などによる従来の「国家の安全保障」に対比される概念であり、文中にもあるように、「人間自身に内在する強さと希望に抱って立ち、死活的かつ広範な脅威から人々を守る」ことを内実とする新たな安全保障觀である。人間の安全保障をめぐる具体的な課題は、人権侵害・貧困・難民・環境破壊など、個々の人間を脅かすあら

ゆる種類の脅威を包括的に捉えたうえで、その脅威を取り除き、すべての人々が生存、生活および尊厳を確保するための基本的な条件を得られるようなシステムを構築することにある。なお、集団安全保障とは、対立する国家をも含めた国際組織を作り、相互に平和と安全を守るルールを定め、加盟国の一つがそのルールを破った場合には、残りの全加盟国が共同で制裁することで平和を維持するという安全保障の方式であるが、文脈上、[A]には当てはまらない。

[B]には、エンパワーメント(能力強化)が入る。エンパワーメントとは、各人が自らの生活と人生を決定する権利と能力を備え、自らを取り巻く政治的・経済的な状況をコントロールできるようしていくことを言う。人間の安全保障を推進していくうえでは、単に各人を保護するだけでなく、エンパワーメントを図る政策を立案・実施していかなければならない。なお、リヴィングウィルとは「生前の意思表示」のこと、ナショナリズムとは「国家主義」のことであるから、いずれも[B]には当てはまらない。

問7 [14] ⑧

本文第3段落は、「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」と述べている。すなわち「公共性と国家を同一視する考え方」に基づいて形成されるあり方と、「市民の側から自発的・理性的に公共性が形成される」あり方について取り上げている。また最終段落は、「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」と述べている。以上のことから、⑧の選択肢の記述が本文の趣旨に合致し、正解となる。

①前半部分の「公的な空間では公共の倫理が求められる」とする記述は、第2段落の「社会の一員として生きていくためには『公共の倫理』に従うことが求められる」とする記述に照らし、適当である。しかし、後半部分の「公共の倫理は場面を問わず通用するので、私たちは、時代や文化の差異を意識せずに画一的にその倫理を貫くことが望ましい」という記述は、第3段落の「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」とする記述や、最終段落の「るべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」とする記述に反する。②第3段落は、公共の倫理を支えるために、公共性と国家を同一視する考え方があるとしている。しかし本文は、国家が「個々人に優越するもの」と位置づけているわけではないし、「人々が公共のために力を尽くすことができるような社会制度

を優先的に整える」必要性を説いているわけでもない。最終段落の「あるべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」とする記述からも分かるように、本文は、「国家」よりもむしろ「私たち」がなすべきことについて述べている。したがって、この選択肢は本文の趣旨に合致するとは言えない。<sup>④</sup>前半部分の「公共性の内容として何が正しいかをめぐっては様々な見解があり得る」という記述は、第3段落の「公共の倫理の形成のあり方は一様ではない」という記述に照らし、適当である。しかし、後半部分の「公共性の内容を確定する責任は、社会生活のルールである法を定める国家だけが負うべきである」という記述は、最終段落の「あるべき公共性の内容を主体的に探し続けていく責任が、私たちに課せられている」という記述に反する。

### 第3問 倫理難題

#### 【出題のねらい】

本問では、青年期についてのエリクソンの考え方、ボーヴォワールなど女性の社会的地位や役割を論じた思想家、貝原益軒など江戸時代の儒学者、内村鑑三など明治期の思想家、日本の国際貢献について出題した。これを機会に、「倫理」の幅広い知識を習得しておこう。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [15] ①

精神分析学者のエリクソン(1902~94)は、人間の一生を「変化していく主体の発達」と捉え、その変化を八つの段階に分けたライフサイクル論を提唱した。それぞれの段階は、達成されるべき発達課題と結び付けて特徴づけられており、青年期の課題は「アイデンティティ(自我同一性)の確立」であるとされている。アイデンティティの確立とは、親や教師から相対的に独立した自分を見いだすことであり、それは同時に、家庭や学校の外、つまり社会の中で自分が担うべき役割についての自覚を伴う。そこで、自分を見いだそうとする試行錯誤は、将来の職業のための訓練と結び付くことが期待される。したがって、社会の側は、青年の試行錯誤を、社会の将来的な担い手の育成に不可欠の過程として認める必要がある。それゆえ、青年には大人に求められる社会的な責任や義務が免除されるのであり、エリクソンは、もともと金融機関の預金の払い戻し猶予など、金銭債務の支払いを一時的に猶予することを意味する「モラトリアム」という用語を転用し、これを心理・社会的モラトリアムと名づけた。

②「他人指向型」とは、社会学者のリースマン(1909~2002)が、現代社会に特徴的な大衆の心理的類型としたもの。<sup>⑧</sup>「人間は、自我の発達段階に応じて固有の課題をもっている」という部分は、ライフサイクル論に関する正しい記述であるが、「自分の人生の歩みを肯定し、多面的な自我を統合していくこと」は、最後の段階である老年期の課題。<sup>④</sup>青年を「境界人」(周辺人、マージナル・マン)と特徴づけたのは心理学者のレヴィン(1890~1947)である。

##### 問2 [16] ②

「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」というのは、フランスの作家ボーヴォワール(1908~86)の言葉。この言葉は、「女性」とは現にどのような存在であり、どのような存在であるべきかという観念は、歴史的に形成され、社会の中で共有されることになった人為的なものであって、生まれながらの生物学的な特徴に基づくものではない、ということを意味している。彼女は、このように歴史的・社会的に形成された性差(ジェンダー)を批判したのであって、「積極的に受け入れる」ことを主張したわけではないから、この選択肢の記述は誤り。

①イギリスの思想家で代表的な功利主義者であったJ.S.ミル(1806~73)は、質的功利主義の立場から人類全体の福利の向上を目指し、下院議員として女性参政権の実現を訴えた。引用文の「人類の半分の人々」とは男性、「もう半分の人々」は女性を指している。<sup>⑨</sup>「元始、女性は実に太陽であつた」とは、大正・昭和期に女性解放運動家として活躍した平塚らいてう(1886~1971)の言葉。雑誌『青鞆』の創刊の辞の冒頭に掲げられた。<sup>④</sup>与謝野晶子(1878~1942)は明治の歌人。選択肢の言葉は、平塚らいてうとの間に起きた「母性保護論争」において、与謝野晶子が自らの立場を述べたもの。平塚らいてうが、女性が母親になることは、女性が社会的に承認されるために重要なことであるとしたのに対して、与謝野晶子は、女性を母性と同一視する観点を批判し、まずは社会的に自立した存在となることが重要だとした。

##### 問3 [17] ⑧

ア・イ・ウは、いずれも間違った記述を含んでいる。したがって、⑧が正解となる。ぜひとも「三つのうちの一つぐらいは正文があるのでないか」といった思い込みを捨てて解答してほしい。

ア:『代表的日本人(Japan and The Japanese)』は、『余は如何にして基督信徒となりし乎(How I Became a Christian)』とともに、日露戦争に際し

て非戦論を唱えたことや、日本(Japan)とイエス(Jesus)という「二つのJ」を信奉し、無教会主義の立場を主張したことで知られる内村鑑三(1861～1930)の代表的な著作である。その中で彼は、倒幕・維新に尽力した西郷隆盛(1828～77)、江戸時代中期の大名である上杉鷹山(1751～1822)、二宮尊徳(1787～1856)、中江藤樹(1608～48)、日蓮(1222～82)を取り上げ、日本の思想にも、キリスト教と同じく、損得勘定を考慮しない自己犠牲や勤勉・禁欲の精神があると論じている。こうした本書の内容を知らないとしても、二宮尊徳の報徳思想、中江藤樹の「孝」の思想、日蓮の法華経第一の立場を考慮すれば、「日本の思想は…損得勘定を受け入れない自己犠牲や勤勉・禁欲の精神を欠いている」とは言えないことや、内村が「武士道に接木されたるキリスト教」と述べたことから、記述内容は間違っていると判断できるだろう。

イ：国際連盟の事務次長としても活躍した新渡戸稻造(1862～1933)は、『武士道(Bushido)』において、武士道がキリスト教を受け入れる素地となると説いている。また、彼はキリスト者であったことからも、「日本人がキリスト教を受け入れる必要はない」と論じたとする記述内容は間違っていると判断できるだろう。

ウ：「アジアは一つ(Asia is one.)」という言葉で始まる『東洋の理想(The Ideals of the East)』は、『茶の本(The Book of Tea)』とともに、日本美術の復興と美術家の養成に力を尽くした岡倉天心(1863～1913)の代表的な著作である。その中で彼は、インド・中国などアジアで発生した思想・宗教などが日本に一緒に流れ込み、それらが日本的なものに変化していったと論じており、「仏教や儒学の伝統を排して、日本固有の芸術や精神文化を確立すべきである」とは訴えてはいないので、記述内容は間違っている。そもそも「国粹主義者」と称される明治期の思想家は、単純にエスノセントリズム(自民族中心主義)を唱える思想家ではなく、コスモポリタニストあるいは多文化主義者であることも少なくないので注意してほしい。岡倉天心はその代表的な人物である。

問4 [18] ⑦

a 「福岡藩に仕えた医師で『養生訓』の著者であり、「朱子学の窮理の精神に基づいて…実証的な博物学の書である『大和本草』を著した」ことで知られているのは貝原益軒(1630～1714)である。杉田玄白(1733～1817)は、前野良沢(1723～1803)らとともに『ターヘル・アナトミア』を和訳し『解体新

書』として刊行した若狭国小浜藩の藩医である。

b 新井白石(1657～1725)の著作で、「鎖国下の貴重な西洋理解の書」となったのは、キリスト教布教のために来日したイタリア人宣教師シドッチを審問した内容をまとめた『西洋紀聞』である。その中で白石は、諸外国の歴史・地理・風俗やキリスト教の大意と、それに対する批判などを記している。『蘭学事始』は、杉田玄白が晩年、蘭学草創の当時を回想して記し、大槻玄沢(1757～1827)に送った手記である。

c 木下順庵(1621～98)の門下生で、將軍吉宗の「享保の改革」を補佐し、元禄赤穂事件(江戸時代中期に発生した赤穂浪士による吉良義央およびその家人の殺害事件)を義挙だとしたのは室鳩巣(1658～1734)である。これを知らないとも、熊沢蕃山(1619～91)は、江戸時代初期、中江藤樹の門下に入り陽明学を学んだ人物であるから、空欄には室鳩巣しか入らない。したがって、⑦が正解。

問5 [19] ④

日本では、1992年にPKO協力法が制定され、この法律に基づいて、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)に対して初めて自衛隊が派遣された。現在でも、国連南スーダン派遣団(UNMISS)をはじめとして、自衛隊の海外派遣が継続中である。

①国際連合は加盟国に割り当てられる分担金を活動資金源の一つとしているが、すべての国連加盟国において同額の分担金を負担しているわけではない。各国の支払い能力(国民所得の大小)に応じて分担率が算定されることになっている。ちなみに2012年の日本の分担率は12.5%で、22%のアメリカに次いで第2位である。②2011年における日本の政府開発援助(ODA)の総額(支出純額ベース)は、アメリカ・ドイツ・イギリス・フランスに次いで世界第5位である。したがって「主要先進国の中で最も大きい」とする記述は誤り。また、これまでの日本のODAは、円借款(有償資金協力)の割合が比較的高く、「開発途上国への援助資金をすべて無償で供与している」という記述も誤り。③ユニセフ(UNICEF：国際連合児童基金)は国際連合の機関(補助機関)であり、主として開発途上国や被災地の児童の保健・教育・福祉に関わる援助を行っている。したがって、日本のNGOであるとする説明は誤り。

#### 第4問 国際社会の動向と日本の課題

##### 【出題のねらい】

本問では、リカードの比較生産費説の考え方、企業

の資金調達、冷戦期における国際政治の動向、軍縮条約、日本における行政国家化現象や金融制度改革など、幅広い分野から出題した。これを機会に、それぞれの分野における基本的な知識を再確認しておこう。

#### 【設問別解説】

問1 [20] ①

比較生産費説は、イギリス古典派の経済学者リカード(1772～1823)が自由貿易を擁護する学説として唱えた。これは、各国が他国に比べて生産費が相対的に安い財の生産に特化してそれを輸出し、その他の財は輸入することで、各国が利益を得るという説である。以下、この設問の例に沿って考えてみる。

最初に、[ア]に入る条件を確定しよう。まず、 $x$ が20の場合を考える。M国は、機械生産ではN国との0.9倍の労働が必要だが( $18 \div 20 = 0.9$ )、服地生産ではN国の約0.67倍の労働で済む( $16 \div 24 \approx 0.67$ )。すなわち、M国は機械・服地ともにN国よりも少ない労働で生産できるが、服地のほうが相対的により少ない労働で済む。したがってこの場合、M国は服地に比較優位をもつ。同様に考えると、N国は、服地生産ではM国の1.5倍の労働が必要だが( $24 \div 16 = 1.5$ )、機械生産ではM国の約1.11倍の労働で済む( $20 \div 18 \approx 1.11$ )。すなわち、N国は機械・服地とともにM国よりも多くの労働が生産に必要だが、機械のほうが相対的に少ない労働で済む。したがって、N国は機械に比較優位をもつ。次に、 $x$ が28の場合を考えてみる。M国は、機械生産ではN国の約0.64倍の労働で済むが( $18 \div 28 \approx 0.64$ )、服地生産ではN国の約0.67倍の労働が必要となる( $16 \div 24 \approx 0.67$ )。すなわち、機械のほうが相対的により少ない労働で済むことになるので、M国は機械に比較優位をもつ。他方、N国は、服地生産ではM国の1.5倍の労働で済むが( $24 \div 16 = 1.5$ )、機械生産ではM国の約1.56倍の労働が必要となる( $28 \div 18 \approx 1.56$ )。すなわち、服地生産のほうが相対的により少ない労働で済むことになるので、N国は服地に比較優位をもつ。以上から、「M国は服地に、N国は機械に、それぞれ比較優位をもつ」条件は、 $x$ が28ではなく20のときとなる。

次いで、[イ]に入る数値を確定しよう。「各国が比較優位にある製品の生産に特化した」という設問の指示により、M国は服地に、N国は機械に、それぞれ生産を特化する。そして、「各国内の労働者はこの二つの産業で全員が雇用される」という設問の条件から、M国では34人が服地生産に従事し( $16 + 18 = 34$ )、N国では44人が機械生産に従事する( $24 + 20 = 44$ )。M国では16人で服地1単位の生産が

可能なのだから、34人では $2.125$ 単位の服地の生産が可能となる( $34 \div 16 = 2.125$ )。同様に、N国では20人で機械1単位の生産が可能なのだから、44人では $2.2$ 単位の機械の生産が可能となる( $44 \div 20 = 2.2$ )。特化前には、M国・N国それぞれで1単位の機械を生産し、「両国を合わせた生産量」は2単位だった。これが $2.2$ 単位へと増加したのであるから、特化前よりも1.1倍増加したことになる( $2.2 \div 2 = 1.1$ )。

以上から、適当な組合せは①となる。

問2 [21] ④

企業の利益は売上から人件費などのコストや税金を差し引いて算出されるが、この利益の一部は企業の所有者である株主に分配され、その残りは内部留保金として企業内に蓄積される。この内部留保金は、減価償却積立金とともに設備投資に用いられる。このような企業が自ら工面し保有する資金によって投資資金を賄うことを自己金融(内部金融)と呼ぶ。

①銀行は預金者から受け入れた預金を企業に貸し出す。この場合に、銀行は預金者に対して債務を負う一方で、企業に対して債権を保有する。つまり、資金の供給者である預金者と資金の需要者である企業との間には直接的な債権債務関係は存在しない。言い換れば、資金の供給者と需要者の間では直接的な金融取引がなされておらず、両者は金融仲介者である銀行を経由して間接的に結びついているのである。そのため、銀行の融資を通じて企業が資金を調達することを間接金融と呼ぶ。②企業が株式を発行して資金を調達することを直接金融という。この場合、企業は株式市場で株式を発行し、それを投資家に売却することで資金を入手するのであり、資金の供給者(投資家)と需要者(企業)の間で直接に金融取引が行われる。その際、株式取引の円滑化を図るために、株式は通常、証券会社を通して売買されるが、証券会社は①の間接金融における銀行と同じ意味で金融取引の仲介を行っているわけではない。③社債は、企業が一定の期間、投資家(社債の購入者)から資金を借り入れるために発行される。社債を購入した投資家は、公社債市場で社債を売却することもできるが、満期日まで保有していれば、企業から社債の額面額と利子を受け取ることができる(これを償還という)。つまり、社債の発行による資金調達の場合、企業は利子を支払わなければならない。

問3 [22] ②

イギリスはNATOに一貫して加盟し続けており、この「軍事機構から脱退した」という事実はない。

なお、独自外交路線を進めたフランスは、1966年にNATOの軍事機構(軍事委員会)から脱退したことがあるが、2009年に全面復帰した。

①核抑止論とは、敵対する国を壊滅することができるだけの核兵器を互いにもつことで、むしろ核兵器の使用が抑制されるとする考え方である。すなわち、自国が核兵器を先制使用したならば、相手側からの報復攻撃によって自国の壊滅を招くため、結果的に双方とも核兵器の先制使用はできなくなる、というものである。こうした核抑止論に基づいて、米ソの核軍拡競争は進んでいった。③中国とソ連は当初、社会主義国として友好関係にあったが、フルンチヨフ(1894~1971)のスターリン批判(1956年)を契機に社会主義建設のあり方をめぐる路線や外交方針、領有権問題などをめぐって対立が深まり(中ソ対立)、1969年には両国の国境警備隊が衝突するまでに至った(珍宝島事件／ダマンスキー島事件)。④たとえば、1961年には第一回非同盟諸国首脳会議が25か国の参加によって開催され、冷戦への不関与などの方針が掲げられた。

問4 [23] ⑥

まず、アから考えてみよう。 $\alpha$ にあるINF(中距離核戦力)全廃条約は1987年に、第一次戦略兵器削減条約は1991年に、いずれも米ソ間で結ばれた条約であるから、C「二国間で締結された条約」であり、A「国連総会で採択された条約」ではない。これに対し $\beta$ にある条約は、いずれも日本を含む複数の国々が締結している条約であるから、C「多国間で締結された条約」である。そして、 $\alpha \cdot \beta$ とともに、すべてすでに発効している条約であって、B「現在のところ発効していない条約」は含まれていない。以上のことから、アはCのみと結びつくことがわかる。

次に、イについて考えてみる。 $\alpha$ にあるINF(中距離核戦力)全廃条約は、上で解説したように米ソ間で締結された核軍縮条約であるから、これはA「国連総会で採択された条約」ではない。また、 $\beta$ にある条約は、いずれもB「現在のところ発効していない条約」である。したがって、これはAではなくBと結びつく。

最後にウについて考えてみる。 $\beta$ にあるABM(対弾道ミサイル)制限条約は、1972年に米ソ間で結ばれた条約であるから、C「多国間で締結された条約」ではない。また、CFE(欧州通常戦力)条約は、1990年にNATO加盟国とワルシャワ条約機構加盟国との間で結ばれた条約であるから、いずれも、A「国連総会以外で採択された条約」である。これに

対し、 $\alpha$ の条約はいずれも日本を含む複数の国が締結しているものであるから、C「二国間で締結された条約」ではないし、 $\alpha$ のうちの包括的核実験禁止条約は発効していないので、B「すでに発効した条約」でもない。これらはいずれも、A「国連総会で採択された条約」である。したがって、ウはAのみと結びつく。

以上から、適当な組合せは⑥となる。

問5 [24] ②

行政国家化の現象の一つに、議員提出法案よりも内閣提出法案の方が可決される割合が高いことが挙げられる。その他に知っておきたい行政国家化の現象としては、委任立法の増大(①の解説を参照)、行政指導や許認可権限の拡大などがある。

①行政権の肥大化が進むと、法律によって大枠を定め、より詳細な内容については政令や省令など行政機関が制定する命令に委ねる委任立法が増加する。②行政指導とは、行政機関が一定の政策目的を達成するために、企業や地方自治体などに作為または不作為を求める事をいい、指導、勧告、助言という形で行われる。法律上従う義務はないが、行政機関がもつ許認可権限などを背景にして行われるので、指導を受けた側は事実上服従を強いられる。こうした行政指導が恣意的に行われないように1993年に、行政手続法が制定され、行政指導の手続きが定められるなどの透明化が図られたが、行政指導が禁止されたわけではない。③官僚から国会議員への転身は、現在でも多くみられる。

問6 [25] ②

護送船団方式とは、金融機関の保護・育成を通じて金融の安定を図ることを目的として政府がかつて行っていた金融行政のことである。現在でも金融機関は政府の監督・管理の下にあるものの、金融自由化の進展によって護送船団方式という保護的な金融行政は影を潜めている。

①1996年に「日本版金融ビッグバン」と呼ばれる大規模な金融制度改革の構想が打ち出され、1998年の金融システム改革法に基づき改革が進められた。具体的には、金融機関の競争を促進することで金融サービスの質的向上を図ること、金融取引の自由化や新しい金融商品の導入を認めることで投資家の選択肢を拡大すること、公正で透明な取引の枠組みやルールの整備を進めることなどの措置が実施された。③1949年に制定された外国為替及び外国貿易管理法では外国為替取引は一部の銀行などを除き「原則禁止」であったが、1997年の改正では法律の名称が外国為替及び外国貿易法に変更されるとともに、

外国為替公認銀行制度と両替商制度が廃止されて、  
外国為替取引の大幅な自由化が進められた。④1997年  
年の独占禁止法改正による持株会社設立の解禁を受  
けて金融機関の合併・再編成が進み、2000年代に入  
ると三大メガバンク(みずほフィナンシャルグループ、  
三井住友フィナンシャルグループ、三菱UFJ  
フィナンシャルグループ)が誕生した。

## 第5問 今日の日本経済

### 【出題のねらい】

本問は、1980年代から現在までの日本経済について、基本的な知識の有無や理解の程度を幅広く試すものである。この分野では、時事的な内容について問われることもあるので、教科書の内容理解にとどまらず、普段から資料集や新聞などにも目を通し、知識の更新を心がけてほしい。

### 【設問別解説】

#### 問1 [26] ②

輸出自主規制とは、輸入国の要請により輸出国自らが輸出数量や価格などを規制することをいう。日本では、繊維、鉄鋼、自動車などの対米輸出に対して、輸出入取引法などにより実施された。このうち、1980年代に対米輸出自主規制が実施された品目は自動車である。

①「牛肉・オレンジの輸入制限」は誤り。牛肉・オレンジに関しては、1988年にアメリカとの間で輸入自由化の合意が成立し、1991年から輸入自由化がスタートした。これらは、日本の農産物輸入障壁の象徴として、20年以上にわたりアメリカが自由化を強く求めてきた品目であった。③「輸出拡大や規制強化」は誤り。1986年に発表された前川レポートは、貿易摩擦を解消する方策として、内需拡大や規制緩和を提言した。④「初めて」は誤り。日米貿易摩擦の対象品目は、1950年代半ばからの繊維に始まり、1960～70年代の鉄鋼・カラーテレビ、1980年代の自動車・半導体というように、日本の産業構造の高度化を反映して変化してきた。

#### 問2 [27] ④

円高とは、円の対外的価値が高くなることであり、1ドル=200円から1ドル=100円へと為替相場が変化した場合、それは円高・ドル安を意味する。円高・ドル安が進むと、ドル建て預金を円に換算した時に為替差損が発生する。たとえば、残高が1万ドルの預金を円に換算する場合、1ドル=200円の時は200万円(200円×1万)であるが、為替相場が1ドル=100円になると100万円(100円×1万)になる。

①「円高・ドル安」は誤り。アメリカの金利が日

本より高ければ、アメリカ向けの投資が増えドル需要が増加するので、ドル高・円安となる。②「円高・ドル安」は誤り。日本がインフレーションになると、安価な外国商品の輸入が増え割高な国産品の輸出が減少し、貿易収支が悪化してドルに対する需要が増えるので、ドル高・円安となる。③「ドル建て価格が下落……輸出が増加」は誤り。円高・ドル安が進むと、日本製品のドル建て価格が上昇するため、輸出量は減少する。

#### 問3 [28] ②

バブル経済期の日本において、さまざまな商品の需要が拡大したことは確かであるが、円高により輸入品価格が下落したため、地価や株価などを除き、一般的の消費財の物価はおおむね安定していた。また、「狂乱物価」は、第一次石油危機(1973年)により生じた物価の高騰を指す用語である。

①バブル経済期には、地価・株価の高騰により、土地や株式などを保有している国民と保有していない国民の資産格差は拡大した。③バブル経済期の低金利によるカネ余り(余剰資金の発生)という状況の中で、企業は余剰資金を土地や株式などの資産に投資して値上がり益(キャピタルゲイン)の獲得を図った。このような企業の財務手法を「財テク」というが、この時期は個人も資産への投資を活発に行い、この個人投資家の投資行動も財テクと呼ばれた。④バブル経済期には、家計所得の上昇や労働時間の短縮などを背景にリゾート地などで余暇を過ごす国民が増えたことやリゾート法の後押しもあって、企業はスキー場やゴルフ場の建設などに対する投資を増加させた。

#### 問4 [29] ③

日本は、第二次世界大戦後、均衡財政を維持してきたが、「昭和40年不況」と呼ばれる景気の悪化に対処するため、1965年度の補正予算で戦後初めて赤字国債を発行した。また、1966年には建設国債が発行され、これについては今日に至るまで毎年発行されている。なお、赤字国債は、1965年度に発行された後、しばらく発行されなかったが、第一次石油危機後の1975年度から1989年度までの間と1994年度以降、現在(2012年度)に至るまで継続発行されている。

①1998年の実質経済成長率はマイナスであった。  
②消費税は1989年に導入された。当初税率は3%であったが、1997年に5%に引き上げられた。④1990年代後半には、山一証券、北海道拓殖銀行、日本長期信用銀行、日本債券信用銀行などが相次いで経営破綻した。

問5 [30] ④

コメに関しては、GATT のウルグアイ・ラウンドの合意に基づき1995年から部分開放(ミニマム・アクセス)が始まり、さらに1999年にはコメの関税化が実施された。

①「農業所得の向上による他産業との所得格差は是正」を基本理念として掲げたのは、1961年に制定された農業基本法である。この農業基本法は1999年に廃止され、食料・農業・農村基本法(新農業基本法)が制定された。同法は、食料の安定供給の確保、国土保全など農業の多面的な機能の發揮、農業の持続的発展、農村の振興を基本理念として掲げている。②「10%」は誤り。現在、日本の総就業人口に占める農業就業人口の割合は4%ほど(2009年度で3.7%)である。③「70%」は誤り。現在日本の供給熱量自給率(カロリーベースでみた食料自給率)はおよそ40%で、先進国中最低水準である。

問6 [31] ③

戦後最長の景気拡大(2002年1月～2008年2月の73か月)は、デフレーションが発生する中での景気拡大であった。ちなみに、スタグフレーションは、第一次石油危機後の不況下のインフレを示す用語である。

①実質経済成長率の伸びが鈍かったこと、②輸出が景気拡大の要因の一つであったこと、④格差拡大や貧困層の増加が社会問題化したことは、いずれも2002年から2008年にかけての景気拡大の特徴として正しい。

問7 [32] ③

完全失業率はマイナスになることはないので、図中Aが完全失業率を示すグラフであることが確定できる。次に、バブル経済崩壊後、地価は下落傾向が続いたことを知っていれば、2011年まで継続してマイナスを示している図中Cが市街地価格上昇率を示すグラフであることが判断できるだろう。最後に、残った図中Bのグラフは、プラスを記録する年もマイナスを記録する年もあるが、とくに2008年から2009年にかけて大幅に落ち込んでいるのは、リーマンショック(2008年)による世界同時不況の影響を受けた結果と考えられることから、雇用者報酬増加率を示すグラフであると推測できる。

以上から、適当な組合せは③となる。

## 第6問 日本の地方自治

### 【出題のねらい】

本問は、日本の地方自治制度および地方自治の現状と課題に関する諸問題について、基本的な知識を問う

ものである。地方自治に関して網羅的に出題しているので、これを機に、見落としがないよう十分理解を深めておいてもらいたい。

### 【設問別解説】

問1 [33] ④

構造改革特別区域法に基づき、ある地域が政府から構造改革特区の認定を受けると、その地域に限定して規制が緩和されるため、これをを利用して地域の特徴を生かした独自の取組みを実施している地方自治体も少なくない。たとえば、大阪市のビジネス人材育成特区や群馬県太田市の外国語教育特区などがある。

①道州制は、全国を10程度の道や州に分けて国の権限を大幅に移譲し、地方のニーズにあった効率的な行政運営をめざそうとするものであり、導入を求める声もあるが、現在のところ導入されていない。

②「平成の大合併」では、一定期間内に合併した地方自治体に財政上の優遇措置が講じられたこともあり、市町村の数は、1999年3月の3,232から、2010年3月末には1,727まで大きく減少した。③地方自治法が改正されて、地方自治体に行政監察官の設置が義務づけられたという事実はない。行政監察官(オンブズマン)は、行政の活動が適正に行われているかどうかを国民・住民の代理人として監視・調査し、是正勧告などを実行する権限を有する機関で、1809年にスウェーデンで始まった。日本では、国政レベルにおいては採用されていないが、地方自治体レベルでは、神奈川県川崎市などが導入している。

問2 [34] ②

地方自治体は、固定資産税や住民税など地方税法に定めのある地方税のほか、地方税法に定めのない法定外税を総務大臣の同意を条件に新設することができる。法定外税は、使途が限定されない法定外普通税が従来から認められていたが、それに加えて、使途が限定される法定外目的税の新設が地方分権一括法によって認められるようになった。

①使途を限定しない一般財源として国から地方自治体に交付されるのは、地方交付税交付金である。地方自治体間の財政格差の是正を目的として、所得税・法人税・酒税の一定割合とたばこ税・消費税の一部が交付される。③使途を限定した特定財源として国から地方自治体に交付されるのは、国庫支出金である。国が地方自治体を財政的に統制する手段となりやすい。④もともと固定資産税は地方税なので、国税である固定資産税が地方税に移譲されたというの誤りである。なお、小泉政権(2001～2006年)は、地方財政の独立性を高めるためとして、国

庫補助金(国庫支出金)の削減、地方交付税の見直し、国から地方への税源移譲を一体として行う、「三位一体の改革」を推進した。しかし、地方交付税が大幅に削減されたため、地方交付税に依存していた多くの地方自治体の財政は逼迫するようになり、從来から地方税収入が潤沢にある地方自治体との格差が拡大した。

問3 [35] ②

地方分権一括法は、国と地方の関係を、從来の上下・主従の関係から対等・協力の関係に改めることを目的として、地方自治法など関連する475の法律の改正を一括して行うために1999年に制定された。同法により、事務処理に関する國の関与に不服がある場合、地方自治体は、総務省に創設された**国地方係争処理委員会**に審査の申立てを行うことができるようになった。

①地方自治体が法令の範囲内で責任をもって処理すべき事務は**自治事務**である。都市計画の決定や飲食店の営業許可などがこれにあたる。旧來の事務区分では、地方自治体本来の事務である**固有事務**、自治体の長など執行機関に委任される**機関委任事務**、地方自治体そのものに委任される**団体委任事務**の3つに区分されていた。③地方分権一括法により廃止されたのは**機関委任事務**である。同法により、地方自治体の事務は**自治事務**と**法定受託事務**に再編された(①④の解説を参照)。④本来は國が実施すべきであるが、適正な処理を確保するため、地方自治体に処理を委ねることが適當な事務は**法定受託事務**である。國政選挙の事務やパスポートの交付などがこれにあたる。

問4 [36] ②

住民は、**有権者の50分の1以上の署名をもって、首長に条例の制定を請求する**ことができるが、この請求が行われた場合、首長は**議会に付議し、その結果を公表しなければならない**(地方自治法第74条)。したがって、法定数以上の署名を付して議会に対して条例の制定が請求されても、条例の制定そのものは議会の権限であるから、「議会はその条例を制定しなければならない」わけではない。

①地方自治体の議会は首長に対する不信任決議権を有し、また、首長は議会の解散権を有する。地方自治体の議会が首長に対する不信任決議を行った場合、首長は10日以内に議会を解散することができる(地方自治法第178条)。③地方自治体の首長は、条例の制定・改廃または予算の議決について異議がある場合、**拒否権**を行使して**再議に付す**ことができる。ただし、この場合、議会が出席議員の3分の2

以上の多数で再可決すれば議案は成立する(地方自治法第176条)。④住民は、**有権者の3分の1以上の署名をもって、選挙管理委員会に議会の解散を請求する**ことができるが、この請求が行われた場合、住民投票に付され過半数の同意があれば議会は解散しなければならない(地方自治法第76条・第78条)。

問5 [37] ⑥

まず、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」を考えてみよう。これには一定の経費が必要であるが、人口が多ければその1人当たりの額は少なくなるから、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」の割合は、地方自治体の規模が大きくなるほど小さくなると推測できる。したがって、AかBがこれに当たるはずである。

次に、「農林水産業費」を考えてみよう。大都市部であればあるほど農林水産業は盛んではない。反対に、規模が小さな町村では一般に農林水産業が盛んで、しかも過疎化が進み人口が少ないと考えられるので、「農林水産業費」の割合は地方自治体の規模が小さくなるほど大きくなると推測できる。以上から、やはりAかBがこれに当たると判断できるが、Aは大都市部でも一定の割合を占めているのに對し、Bは大都市部ではごくわずかの割合しか占めていない。大都市部では農林水産業が盛んではない一方、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」はいずれの地方自治体も一定額が必要であることを考えれば、Aが「事務管理・庁舎管理費等の総務費」であり、Bが「農林水産業費」であると判断できる。

最後に「教育費」は、いずれの地方自治体の児童・生徒も一定水準の教育を受けているはずであるから、「事務管理・庁舎管理費等の総務費」や「農林水産業費」に比べて、地方自治体の規模による割合の差異は小さいと推測できる。したがって、Cが「教育費」であると判断できる。

以上から、正しいものは⑥となる。

問6 [38] ④

在日米軍基地の整理縮小(沖縄県)や、原子力発電所建設の是非(新潟県巻町)など、國の重要政策に関わる問題が住民投票の対象となつたことがある。

①住民投票条例に基づく住民投票は、日本国憲法や地方自治法上の制度ではなく、投票結果に法的拘束力はない。②住民投票条例に基づく住民投票は、公職選挙法の拘束を受けないため、20歳未満の未成年者や外国人などにも投票権を認めることができる。⑧在日米軍基地の整理縮小をめぐり、沖縄県で1996年に実施された住民投票が、都道府県レベルではこれまでのところ唯一の住民投票である。

問7 [39] ①

「フランスの政治家トクヴィル」をイギリスの政治学者ブライスに直せば正しくなる。ブライス(1838~1922)は、主著『近代民主政治』において、「地方自治は、民主主義の源泉であるばかりでなく、民主主義の学校である」と述べたことで知られる。この言葉は、地方自治は、住民が地域の政治に参画することを通じて、民主主義を運営していく方法や能力を身につける重要な場である、との考えを示したものである。なお、フランスの政治家・歴史家であるトクヴィル(1805~59)も、主著『アメリカのデモクラシー』において、「地域自治の制度が自由にとってもつ意味は、学問に対する小学校のそれに当

たる」と述べて、地方自治の重要性を指摘している。

②アメリカのニューイングランドでは、建国期にタウンミーティングと呼ばれる直接民主主義的制度が発達した。タウンミーティングは、地方自治の最小単位であるタウンの全住民が参加する、タウンの最高意思決定機関であった。③スイスは、独自の憲法を有する多数のカントン(州)によって構成される連邦国家である。④单一国家であったベルギーは、南北の言語的対立から政情不安定となっていたため、1993年に憲法を改正し、オランダ語、フランス語、ドイツ語の三つの言語共同体などからなる連邦国家に移行した。

© Kawaijuku 2012 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)